

# 説明ターゲット

次の原稿破損

5年 9月 3日

主務者又は

撮影立会者

加部東保夫



アジア歴史資料センター

新 二 閣 決行指 決裁指定 保存期限

房官臣大		課局務主		大臣	件名	番受	受領
了結	領受	出提	領受				
五月	大正 年 五月 七日	大正 年 月 日	大正 年 月 日		現役陸軍將校同相當官、國際馬術競	壹第 一六六 號	
(裁決)行決		帶 連		政務	二 閣スル規定送付、件	應名	馬 政 課
覽 回 後		長 局					
長 局		長 局		參事官	馬 政 課	馬 政 課	
長 課		長 課		筆記者	審案	馬 政 課	

政務次官 回付決裁 前 連帶 後 課名 恩 決行(決裁)後 回覽 課名

是 中 一 五 号 是 中 一 六 号

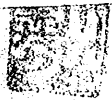
其 一 二 三 之 欠

附 第 二 案 連 帶

二

保存期限  
決裁指定

大官房	主務局課
受領 大正 五月 六月七日	受領 大正 五月 六月七日
提出	提出
番號	番號
(裁決)行 覽回	
局長	局長
課長	課長



主務課長

高級副官



主務課員  
主務技師

主務副官  
官房主計



受領 番號 壹第 一六六號	應名 馬政課
現役陸軍將校同相當官、國際馬術競技 ニ関スル規定送付、件	
事務	參事官
參與官	筆記者 審案

政務次官 回付決裁 前  
參與官 回付決裁 後 連帶  
恩 決行(決裁)後  
回覽課名

陸軍

附第ニ系  
連帶

副官ヨリ各師團參謀長外(配布區分別紙)へ  
 現役陸軍將校同相當官(知事等ノ通リ)ノ國際馬術競  
 技參加ニ関スル規定別冊ノ通定メラレ  
 タルニ付 部送付ス

(教育總監宛ノ分ハ左ノ追書ヲ加フ)

追テ關係兵監茲 函子校ニ對シテハ直接送  
 付濟ニ付申添陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

(配布箇所並部教別紙ノ通リ)

五月七日

現役陸軍將校同相當官ノ國際馬術競<sup>技</sup>參加  
ニ関スル規定ノ研究（一課員ノ作業）

第一條 現役將校同相當官ニシテ本規定ノ定ムル

所ニ依リ本邦代表選手トシテ選定セラレタル

者ハ昭和三年夏季和蘭「アムステルダム」ニ於テ

開催セラルル第九回萬國「オリムピック」馬術競

技ニ出場 ~~ハルニエトヲ得~~ ~~セシムルモノトス~~

第二條 本邦代表選手タルハキ現役陸軍將校同相

當官ノ人選ハ第三條ニ示ス各種豫選競技ノ審

查ニヨリ決定スルモノトス

第三條 豫選競技ノ種類日次參加現役將校同相當官ノ人員尤ノ如シ

種類	陸軍隊選	本邦豫選
日次	五月廿一日ヨリ 二日間	五月二十二日ヨリ 又日間
場所	陸軍騎兵學校	
參加將校	十名以内	三名

第四條 豫選實施ノ爲ノ左記委員ヲ設置ス

左記

陸軍豫選審査委員(以下單ニ審査委員ト称ス)

長

騎兵監

中將

三好

一

委員

騎兵大佐  
同尉官

市瀬源  
吉田真一  
益田真次

前項ノ委員ハ陸軍

擬任大尉

任命

陸軍豫選

ニ

参加セシムルハキ將校同相當官ノ陸軍豫選ノ計

画實施審査並本邦豫選ニ於テル審査業務ノ援

助ニ任スルモノトス

但シ陸軍豫選ニ参加セシムルハキ人選及審査

ノ方法ニ就テハ豫ノ陸軍大臣ノ認可ヲ受クル

ヲ要ス

第五條 本邦豫選ハ法人團帝國馬匹協會ノ定ムル所

ニ依ルモノトス

第六條 各所管長官陸軍大臣直屬ノ各部ハ隸下將校

同相當官中左ノ各號ニ該當スルモノアルトキ

ハ陸軍豫選參加候補名簿(附表第 一様式)ニ依リ昭和

二年中月十日迄ニ審査委員ニ通報スヘシ

一人格高尚身体強健馬術特ニ優秀ナルコト

一馬術技能ハ別冊國際オリムピツク馬術競技

日本代表選手豫選要領ニ示ス馬場馬術綜合



馬術障礙飛越ノ中何レカノ課目ヲ概ネ故障  
ナク遂行シ得ルノ能力アルコト

一 國際競技ニ出場スヘキ適當ナル乘馬ヲ有ス  
ルコト

第七條 審査委員ハ前項所管長官ノ通報ヲ受ケ詮  
衡ノ上陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 陸軍豫選ニ参加セシムヘキ將校ハ其ノ乘  
馬ト共ニ其ノ豫選開始<sup>四二</sup>日前ヨリ其ノ豫選終  
了迄之ヲ騎兵學校ニ派遣シ同校ニ於ケル陸軍

豫選ニ参加セシムルモノトス

右將校ノ騎兵學校派遣期間ニ於ケル取扱ハ豫

選ニ同スル事項ノ外騎兵學校長ノ定ムル所ニ

依ルモノトス

第九條

審査委員ハ前條ノ選考者ニ就テ審査シテ本邦予選ニ参加セシムル者ニ行フ

當官ハ本邦豫選終了後引續キ騎兵學校ニ派遣

シ更ニ本邦豫選ニ出場シ一般民間選手ト合同

競技ノ上審査ヲ受クルモノトス

第十條

本邦豫選ニ於テ日本代表選手トシテ選定

セラレタル將校ノ取扱ニ關スル細部ノ事項ハ  
 追テ指示ス

第十一條 各豫選<sup>又</sup>國際競技ニ出場スヘキ將校ノ乘

馬ハ各自平素ノ騎乘馬(部隊保管馬ヲ意味ス)

ヲ以テスルヲ本則トス但シ民間馬ニシテ其ノ

所有主ヨリ騎乘ヲ依頼セラレタルモノアル時ハ

所管長官ノ認可ヲ受ケ之ヲ使用スルモ妨ケス

又審査委員審査上之ヲ必要ト認ムル時ハ騎兵

學校々馬ヲ貸與スルコトヲ得

第十二條

左

一 官費 官費之必要に於ては、各官費の所屬ノ官制、官制ニ於て是令を遵守し、~~官費~~官費ノ支出に當りては、後令に依りて申請増額ノ要らざらば、

一 陸軍 陸軍ノ官費ノ増額日相考自派遣ノ經費及  
官制ノ遵守ニ當りては、官費ノ増額ノ申請書  
該官費所屬ノ官制、官制ニ於て是令を遵守し、  
官費ノ支出に當りては、後令に依りて申請  
増額ノ要らざらば、

0882

本 部

第十二條 陸軍豫選ニ關スル經費ハ演習費支辨ト

左ノ各號ニ依リ支出スルモノトス

審査委員ニ要スル經費ハ近衛師團ニ於テ支

出スルモノトシ別ニ之ヲ増額ス

陸軍豫選参加ノ為メ將校尙相當官派遣ノ經

費ハ當該將校ノ所屬師團官衙學校令達豫集

内ヨリ支出スルモノトシ別ニ増額ス

本邦豫選派遣ノ為メ参加將校ノ引續キ習志

歸滞在ノ費用ハ騎兵學校ニ於テ支出スルモノ

陸軍省  
演習費  
支辨

0884

土俗  
旅費  
法  
習  
習  
改  
主  
井  
深

イトシ別キ之ヲ増額ス

國際馬術競技陸軍豫選參加候補名簿 第 師團					
兵種	階級	期別	馬術技能上参考トナルハキ第ノ段	選手トシテノ資格	職氏名
騎兵	少佐	22	騎兵学校三年學生終了 騎兵学校馬術教官在任 法シコト二年	豫選要領馬場馬術ノ概 ホ完全ニ実施スルヲ得	騎兵第 聯隊附 何 某
砲兵	大尉	26	野戰砲兵学校砲法學生 卒業馬術研究ニ爲テ 年德國ニ留学セリ	豫選要領障礙飛越ニ 完全ニ實施ト得ルノ能力 有ス	野砲兵学校教官 何 某
輜重兵	中尉	31	---	---	---

備考一、馬術技能上参考事項欄ニハ各自ノ經歷又ハ技能ニシテ参考トナルヘキ事項ヲ具體的ニ明記スコト  
 二、選手トシテノ資格欄ニハ別冊國際オリンピック「豫選要領」ニ示ス馬場馬術綜合馬術障礙飛越等ニ就テ標準ヲ明記スルコト

現役陸軍將校同相席官ノ國際馬術競技參加ニ関スル規定

昭和二十二年五月五日  
 配布數一〇二部 殘三〇部  
 書留 封書 簡 日發送  
 印刷部

一連番號	廳	名	部	數	内	譯
	陸軍省永久保存					
	記室					
	席上配布					
	官房			1	大臣次官 閣官 官主 文書 往復 印刷 繕寫 庶務	
	書記官					
	人事局			1	局長 補任課 恩賞課	
	軍務局			1	局長 軍務課 懲罰課 馬政課 兵務課 防備課	
	整備局			1	局長 動員課 統制課	
	兵器局				局長 給付課 器材課	
	經理局				局長 主計課 少體課 建築課 監査課	
	醫務局				局長 管理課 衛生課 衛生管理課	
	法務局				局長 局員	
	國際聯盟					
	新聞班					
	軍事調査班					
一連番號	廳	名	部	數	内	譯
	侍從武官府					
	元帥府				典 閣議官 上原	
	軍事參議院				久松宮 製本官 菊地 白川 香野 鈴木 井上 西岡	
	參謀本部			1	總長 次長 各部長 各課長 官 主任 在外武官 大津 淵田 各課長 各課長 官 主任 在外武官 大津 淵田	
	教育總監部			1	總監 本部長 各課長 官 主任 在外武官 大津 淵田	
	陸軍技術本部				本部 科研 檢査部 工科	
	陸軍航空本部				本部 檢査部 支隊 飛校	
	築城部本部				本部 支隊 (遠征 別動 鎮守)	
	軍馬補充部本部			1	本部 支隊 (白川三 總領 高) 編出所	
	陸軍兵器本廠				本廠 用務所 (高 系 岡) 支隊 (軍 名 小 大) 出張所	
	陸軍造兵廠				長官 東工 火工 名工 大工 小工 車製	
	陸軍經理學校					
	陸軍軍醫學校					
	憲兵司令部				司令部 團長司令部 各隊 分隊	
	東京警備司令部					





8880

昭和二年三月

國際「オリムピツク」馬術競技  
日本代表選手豫選要領

社團  
法人

帝國馬匹協會

國際「オリムピック」馬術競技選手豫選要領

目次

總則

第一、綜合馬術競技審査要領……………三

其一、通則……………五

其二、第一次調教程度審査……………六

(一) 要則……………六

(二) 馬場運動實施要領……………七

其三、第二次持久力審査……………七

其四、第三次障礙飛越能力審査……………七

其五、全部ニ對スル採點上ノ特種條件……………七

純馬術競技審査要領……………七

其一、通則……………七

其二、馬術運動實施要領……………七

第三、

其三、採點要領……………	三五
大障礙飛越審査要領……………	三五
其一、通則……………	三五
其二、障礙ノ一例……………	三六

二

# 國際「オリムピック」馬術競技日本代表選手豫選要領

## 總 則

### 一、目的

昭和三年夏期和蘭「アムステルダム」ニ於テ開催セラルヘキ第九回「萬國」オリムピック「馬術競技」參加ノ爲メ其資格ヲ審査豫選スルニ在リ

二、參加者ノ資格ハ馬術ヲ職業トセザル者タルヘシ

三、參加者ノ馬匹ハ制限ヲ設ケス又一人ノ騎乗頭數ニ關シテハ各競技細部ノ規定ニヨル

四、審査ノ項目ヲ分チテ左ノ三トシ「オリムピック」本競技ニ準據シ實施スルモノトス

第一、綜合馬術競技

第二、純馬術競技

第三、大障礙飛越競技

其各項目細部ニ關シテハ別ニ示ス所ニヨル

五、審査ノ期日ハ昭和二年四月十一日豫選競技科目（持久力審査ヲ除ク）全部ヲ同四月十三日綜合馬術競技中持久力審査ヲ習志野陸軍騎兵學校及其附近ニ於テ行フ

三

六、參加ヲ希望スル者ハ昭和二年四月五日迄ニ東京市芝區日蔭町一丁目一番地帝國馬

匹協會ヘ左ノ件ヲ具備シ申込ムモノトス

一、參加者ノ氏名

二、參加者ノ所屬乘馬團體

三、參加者ノ住所

四、參加スル競技ノ種類

五、馬匹ノ名

六、馬匹ノ毛色、年齢、性

七、馬匹ノ産地及血統(父母明瞭ナルモノハ之ヲ記ス)

八、馬匹ノ所有主

注意一馬毎ニ一葉ヲ用フヘシ

七、參加者ノ服装、馬装ニ就テハ各競技細部規定ニヨル

八、參加者ノ馬匹ハ四月七日ヨリ陸軍騎兵學校々厩ニ繋留ヲ依托スルヲ得

依托希望者ハ馬匹到着時日ノ豫定及日々馬匹ニ飼與スヘキ糧秣ノ品種及數量ノ一

日分ヲ記入シ到着ノ二日前迄陸軍騎兵學校ニ申込ムヲ要ス

但馬飼料ハ自辨トス

- 九、馬匹附添人ハ各自ニ於テ傭入ル、モノトス
- 十、參加ニ要スル人馬一切ノ費用ハ自辨トス
- 十一、馬匹ノ損傷ニ關シテハ帝國馬匹協會及陸軍騎兵學校ハ其責ニ任セス
- 十二、審査ハ帝國馬匹協會々頭ノ委任スル委員ニ據リ行フ
- 十三、參加者ハ審査ノ決定ニ對シ不服ヲ唱フルヲ得ス
- 十四、各競技審査ノ際其實施ノ順序ハ抽籤ニヨル
- 十五、參加申込者ハ審査實施要領ニ就キテ委員ト打合セノ爲メ綜合競技出場ノ者ハ四月十一日午後一時其他ノ者ハ四月八日午後一時半習志野陸軍騎兵學校内社團法人帝國馬匹協會出張所ニ集合スヘキモノトス
- 十六、本規定ノ變更ハ委員協議ノ後委員長ノ判決ニヨリナスコトアリ
- 但一種審査開始後ハ之ヲ終ル迄變更セサルモノトス

### 第一、綜合技術競技審査要領

#### 其一、通 則

- 一、參加者ハ一人一馬ニ限リ同馬ニヨリ全競技ニ從フモノトス  
但申込ニ方リテハ豫備馬一ヲ加ヘ申込ムヲ得

二、綜合馬術競技ハ左ノ三種ニ就キ審査ス

一、第一次調教程度ノ審査

二、第二次持久力ノ審査

三、第三次障礙飛越能力ノ審査

三、參加者ハ受檢ノ爲メ運動ヲ發起シタル後ハ審査委員長ノ許可アルニアラサレハ中止又ハ審査ヲ拒ムヲ得ス

審査委員長ハ人馬ノ故障ニヨリ中止ノ已ムナキモノニ對スル判決權ヲ審査委員ニ委任シアリ

四、參加者ハ持久力審査及障礙飛越能力審査受檢直後審査委員長、委員ノ馬檢査ヲ受クヘキモノトス

五、服裝ハ現役將校ニアリテハ略裝トシ紳士ニアリテハ乗馬服ヲ着用スヘキモノトス

六、馬裝ハ調教程度ノ審査ノ場合ノミ大小勒ヲ用フヘキモ他ノ審査ノ場合ハ任意トス

其二、第一次調教程度審査

(一) 要 則

一、該審査ハ馬體ノ柔軟ノ程度及騎手ノ扶助ニ從順ノ程度ヲ檢スルヲ目的トス



- 二、運動ハ別ニ示ス所ニヨルヘク誤リタルモノ制限時間内ニ終ラサルモノハ棄權トス
- 三、審査委員ハ所要ニヨリ特ニ運動ノ順序ヲ變更スルコトアルヘシ
- 四、受檢者ハ敬禮ヲ終リテ後十分以内ニ所定ノ運動ヲ完了スヘシ
- 五、馬場ノ形狀及ヒ各種運動ノ發起、終了ノ點ヲ定ムルコト附圖第一ノ如シ
- 六、運動要領次ノ如シ

(二) 馬場運動實施要領

- 一、出入口ヨリ審査席ニ向ヒ任意ノ步度ニテ入場ス
- 二、中央縱蹄跡上G點ニテ審査席ニ面シ停止シ敬禮ス
- 三、常歩ノ運動
  - (一) 韁ヲ長ク緩メタル儘分解、右手前蹄跡ニ入ル
  - (二) A點ヨリ馬ヲ收縮セシメツ、中央縱蹄跡線上ニ回轉直行進ス
  - (三) D點ヨリB點ヘ、B點ヨリG點ヘ「腰ヲ内ヘ」ニシツ、往復手前變換ヲナス
  - (四) G點ニテ停止、馬ヲ真直ニ駐立セシメ不動
  - (五) 常歩ニ發進、右手前ニ入ル
  - (六) F點ニテ半卷(半徑三米)
  - (七) M點ニテ半卷、右手前ニテ行進

## 四、速歩運動

(一) F 點ヨリ輕速歩ニ移リM 點迄續行ス(以下速歩運動トナル)

馬場一週半上ニ於テ伸暢速歩ト短縮速歩ノ轉移ヲ行フモノニシテ即チ

(二) M 點ヨリF 點迄尋常速歩

(三) F 點ヨリH 點迄伸暢速歩(輕速歩ヲ探ルヘシ)

(四) H 點ヨリB 點迄短縮速歩(前軀起揚ヲ求ムルモノトス)

(五) B 點ヨリA 點迄尋常速歩

(六) A ニ到ラントスルトキ中央縱蹄跡線へ回轉シ次テD 點ヨリE 點へE 點ヨリG 點へ腰ヲ内ヘニシツ、手前變換ヲ行フ

(七) G 點ニテ停、止不動

(八) 常歩ニテ前進ヲ起シ右手前ニ入り次ニ速歩トナル而テB 點ヨリ右駢歩ニ出發ス(以下駢歩ノ運動トナル)

## 五、駢歩ノ運動

(一) A 點ヨリ中央縱蹄跡線上へ回轉ス

(二) 同線上D 點ヨリ右へ卷乘(半徑三米)ヲナシ同卷乘終ラハ速歩トナリ同線上中央點ニ達シタルトキ左駢歩ニ出發ス

- (三) 同線上G點ヨリ左へ巻乘(半徑三米)終リテ左手前蹄跡ニ入ル  
 (四) H點ニテ常歩  
 (五) E點ニ於テ左駈歩ニ出發  
 (六) A點ニ到リ停止、次テ左駈歩ニ出發  
 (七) B點ニ到リ停止、次テ四歩後退、次テ左駈歩ニ出發  
 (八) M點ヨリ半卷、左駈歩ノ儘トス  
 (九) B點ニ於テ常歩トナル  
 (一〇) F點ニテ常歩ヨリ右駈歩ニ出發  
 (一一) K點ニ到リ停止、次テ右駈歩ニ出發  
 (一二) H點ニ到リ停止、次テ四歩後退次テ右駈歩ニ出發  
 (一三) M點ヨリ駈歩ヲ伸暢シA點ニ到ル  
 (一四) A點ヨリ歩度ヲ短縮シH點ニ到ル  
 (一五) H點ヨリ再ヒ歩度ヲ伸暢シF點ニ到ル  
 (一六) F點ヨリ再ヒ歩度ヲ短縮シH點ニ到ル  
 (一七) H點ニテ半卷、右駈歩ノ儘トス  
 (一八) E點ニ到リ常歩トナル  
 (一九) K點ヨリ駈歩ニ出發

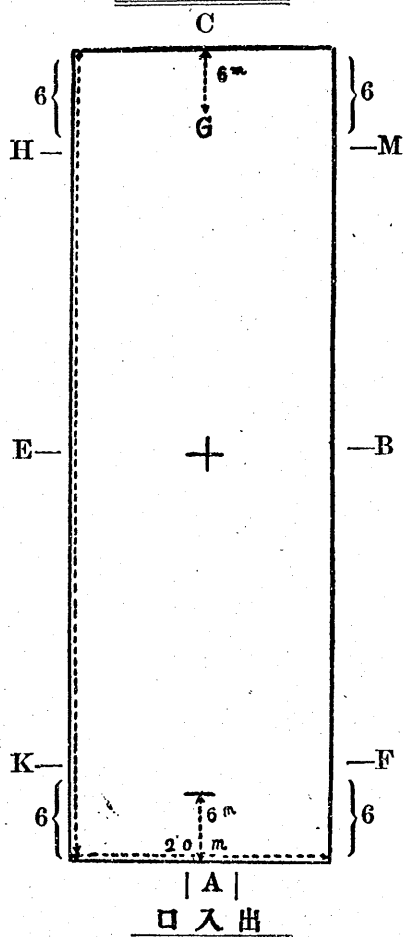
8680

六、(三〇)A 點ヨリ審査席ニ面シ駈歩ノ儘ニテ回轉  
中央縱跡線上中央點ニテ停止、不動、次テ鞭ヲ長ク緩ム、敬禮ス

(終リ)(退場任意歩度)

一〇

審査席



其三 採點要領附表第一ノ如シ  
 附圖第一、綜合馬術競技中第一次調教競技用馬場

## 其三、第二次持久力審査

一三

一、軍馬又ハ野外用馬トシテ持久力ノ程度ヲ檢シ併テ騎手ノ生地ニ於ケル乘御、誘導法ヲ檢スルヲ目的トス

二、當審査ハ總距離約三十六杆ヲ左ノ順序ノ如ク分割騎乗セシムルモノニシテ路上、小徑、障礙飛越場及生地ノ障礙ヲ有スル不齊地ヲ二時間三分二十六秒ニテ通過セシム

一、路上行進 約七杆 速度一分間二四〇米

二、障礙飛越場ノ飛越 約四杆、速度一分間五〇〇米飛越回数十二個

三、路上行進 約十五杆 速度 二四〇米

四、不齊地騎乗 約八杆 速度 四五〇米

五、平坦地行進 約二杆隨意歩度速度 三三〇米 以上

三、以上ノ所要時間ヲ計算スレハ次ノ如シ

(一)ト(二) 路上行進 一時間三十一分四十秒

(二) 四杆障礙飛越場 八分

(三) 八杆ノ不齊地騎乗 十七分四十六秒

(四) 二杆隨意歩度行進 六分

- 四、採點上五秒ノ遲著毎ニ半點ヲ減シ障礙飛越場ノ通過ノ際早著セハ五秒毎ニ二十分  
ノ一點ヲ増加ス又不齊地騎乘ニ於テ早著セハ五秒毎ニ半點ヲ増加ス此二早著ノ場  
合ハ増加點數ノ制限十點迄トス
- 五、不齊地騎乘及障礙飛越場通過ノ際騎手落馬セハ十點ヲ減シ馬匹ノ顛例ニヨル騎手  
ノ落馬ハ五點ヲ減ス、又障礙、不齊地上ノ自然障礙等ニテ停止、接近ヲ拒絶シ又ハ  
避ケタル時ハ第一回目三點ヲ減シ同障礙ニ對シ第二回目再ヒスルトキハ六點ヲ減  
シ三回ナルトキハ棄權ニシテ本審査參加資格ヲ失フ
- 六、本審査ニ於ケル通路及速度ハ共ニ遵守スヘキモノニシテ障礙飛越場ノ障礙ハ生籬  
三段横木、横木ト生籬、「バンケット」壕等ニシテ高一米一〇幅三米五〇ヲ最大限  
トナス
- 七、不齊地騎乘ノ通過路及障礙飛越場ノ經路ハ審査ニ先タチ現場ニテ指示スヘク其集  
合日次及時刻ハ參加申入者ト委員トノ打合セノ日ニ確示ス
- 其四、第三次障礙飛越能力審査
- 一、本審査ハ多大ナル勞作ノ後軍馬トシテ最モ緊要ナル馬ノ柔軟性、肺力、筋力及悍  
威ノ餘力ヲ審査スルヲ目的トス
- 二、障礙ノ數ハ十二個ニシテ大ナル厚サニアラサル障礙ヲ用ヒ袖ヲ附ス其種類ハ一米

一〇以上一米一五ニシテ飛越ノ爲メノ速度ハ一分間三七五米以内タルヘシ  
三、減點要領次ノ如シ

- 1. 制限時間ヨリ遲著スルコト二秒毎ニ半點ヲ減ス
  - 2. 騎手ノ落馬 十點減
  - 3. 馬ノ顛倒及騎手ノ落馬 五點減
  - 4. 停止、接近拒絶、忌避 一回 三點減
  - 5. 右 二回目ナルトキ 六點減
  - 6. 右 三回目ナルトキ 棄權
  - 7. 障碍ヲ墜スモノ(前肢ニヨル) 四點減  
(據ニ肢ヲ墜スモノ)(後肢ニヨル) 二點減
  - 8. 經路ヲ違フモノ 二點減
- 四、障碍ノ袖、(同目的ノ裝飾樹木モ同シ)ヲ倒スモノハ忌違ト見做ス從テ(4)(5)(6)ニ準シ減點ス
- 五、此時騎手ハ障碍ノ直前ヨリ飛越ヲ再行スベキモノトス  
二段飛越三段飛越等ニ方リテハ一個毎ニ採點ス、又其二段目、三段目等ノモノニ對シ停止、拒絶、忌避等ヲナストキハ其動作ヲナセル障碍前ヨリ再行スヘク既に飛越セル障碍ヲ再ヒ飛越セシメテ復行スルヲ得サルモノトス

一四



六、審査場ヨリ奔逸セルモノハ棄權トス

其五、全部ニ對スル採點上ノ特種條件

一、各次審査上ノ滿點ヲ二十點トス而テ其要求ノ難易ヨリ之ニ係數ヲ設クルコト次ノ如シ

第一次調教程度審査

十五倍

第二次持久力審査

三十五倍

A. 不齊地騎乘

二十五倍

B. 障碍飛越場ノ飛越

十倍

C. 路上行進

十五倍

第三次障碍飛越能力審査

二、各次審査ニ方リテハ採點ノ便宜上左ノ如ク點數ヲ増加シ後其得點ヲ括弧内ノ如ク除算シ第一次ノ係數ヲ乘算シ眞得點トス

第一次調教程度審査

三百點

(十五分)

第二次持久力審査

二百點

(十分)

一五

B. 障碍飛越場ノ飛越

二百點

(十分)

C. 路上行進

二百點

(十分)

第三次障碍飛越能力審査

二百點

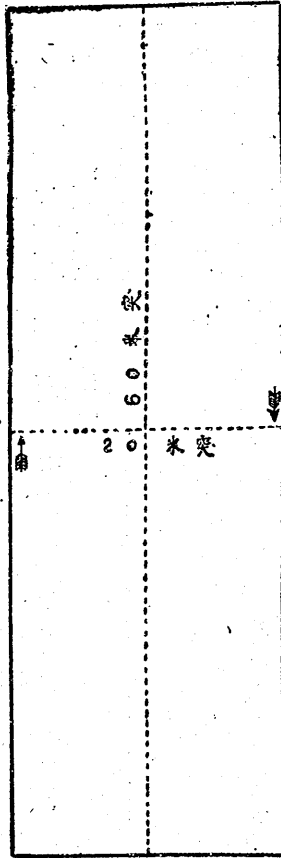
(十分)

第二、純馬術競技審査要領

其 一、通 則

- 一、一人ノ參加申込頭數ハ制限セス
- 二、騎手ハ各個ニ運動ヲ行フモノニシテ別ニ示ス實施要領ニヨルヘシ
- 三、審査委員ハ運動ノ順序ヲ變更スル權利ヲ有スルモノトス
- 四、受檢者ハ敬禮後十二分以内ニ運動ヲ完了スヘシ完了シ得サルモノハ棄權トス
- 五、馬場ノ形狀附圖ノ如ク縱六〇米横二〇米ニシテ中央點ハ兩蹄跡側ニ標示ス各種運動ハ本文及圖示スル所ニ從ヒ嚴守實施スヘキモノナリ
- 六、馬動ハ埒馬場ヲ用ユルモ場合ニヨリ覆馬場ニ於テ實施スルコトアリ
- 七、同點者アルトキハ審査委員ハ一二運動ヲ課シ之ヲ檢定ス
- 八、本規定ニ含まレサル高等馬術ノ諸運動例ヘハバ「ツサアジユ」「ピアツフエ」「スベン歩法」等ハ實演スヘカラス

審査席



左駢歩出發

- 1. 速歩ヨリ
- 2. 常歩ヨリ
- 3. 駐立ヨリ
- 4. 後退ヨリ

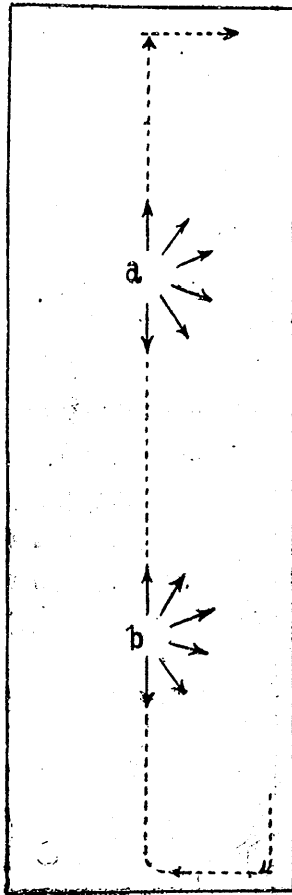
右駢歩出發

- 1. 速歩ヨリ
- 2. 常歩ヨリ
- 3. 駐立ヨリ
- 4. 後退ヨリ

出入口

九、實施要領次ノ如シ  
 其二、馬場運動實施要領  
 一、出入口ヨリ審査席ニ向ヒ駢歩ニテ入場シ審査席ニ面シ停止不動敬禮ス(附圖第二圖)  
 第二圖 純馬術競技馬場ノ圖

審 査 席



三、速歩ノ運動

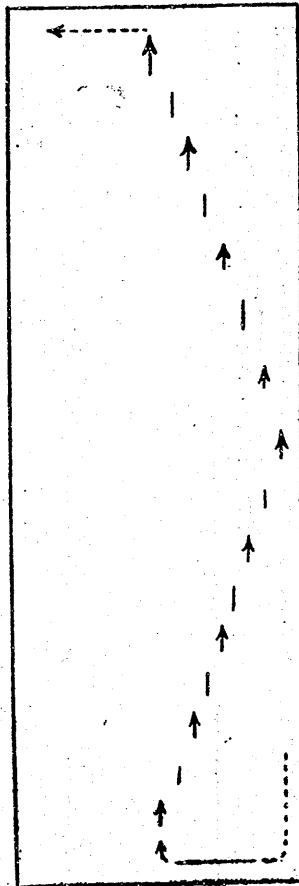
(1) 馬場一週半上ニ於テ速歩ノ伸縮ヲ行フモノニシテ十分ニ收縮セル短縮速歩ヨ

第二、常歩運動

- (1) 自由ナル常歩ニテ分解、輕ハ長ク緩ム右手前蹄跡ニ入ル
- (2) 審査席ノ反對側蹄跡中央ヨリ回轉、審査席ニ對シ行進、同時馬ヲ收縮ス
- (3) 中央縱蹄跡上ノ中央点ヲ數歩過キタル後右へ後肢旋回、(第三圖 a)引續キ數歩前進シ左へ後肢旋回(第三圖 b)次テ短縮速歩ニ發進右手前ニ入ル

第三圖 中央縱蹄跡上ノ後肢旋回

審 査 席



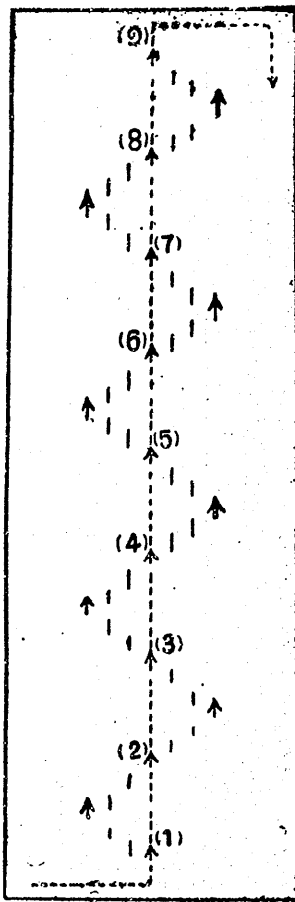
(2) リ伸暢速歩ヘノ迅速ナル移行及其反對ヲ實施ス  
 審査席ニ對シ横蹄跡中央ヨリ回轉シ次テ右横歩ニ移リ縦蹄跡ノ中央頂點トス  
 ル往復手前變換ヲ行ヒ反對横蹄跡ノ中央到ル(第四圖)

第四圖 速歩間横歩ヲ以テスル往復手前變換

(3) 左手前ニ入り一方側縦蹄跡上ニ於テ輕速歩ヲ執ル  
 (4) 再ヒ審査席ニ對シ横蹄跡ノ中央ヨリ回轉シ横歩ヲ以テスル八段山形乗ヲ行フ  
 (此時騎手ハ中央縦蹄跡上ニ九回位置スルコト、ナル)(第五圖)

第五圖 速歩間横歩ヲ以テスル八段山形乘

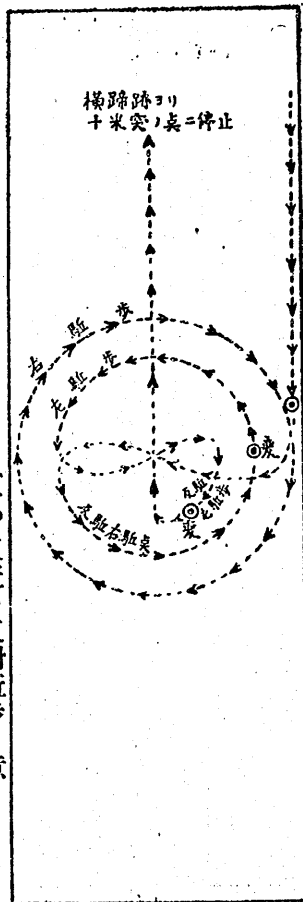
審査席



四、駈歩ノ運動

- (5) 終ツテ右手前ニ入り横蹄跡上ニ停止、不動
- (6) 短縮速歩ニ出發、(此時步調ハ努メテ高揚、彈發アリ收縮十分ナルヘシ)
- 駈歩運動ハ皆特ニ壁(縦來ノ蹄跡)ヨリ二步内方ニ蹄跡ヲ作リタル上ニテ實施スルモノトス
- (1) 速歩、常歩、駐立及後退ヨリ駈歩ニ發進ヲナス而テ其手前ハ交錯發進スヘキモノトス(例ヘハ最初左手前ノ駈歩ニ速歩ヨリ出發セハ次ノ常歩ヨリノ發進)

席 査 審



(2) ハ右駢歩次ノ駐立ヨリハ左駢歩ノ如シ  
 馬場ノ中央ニ右午前右駢歩ノ大輪乗ヲナス、一回輪線ノ行進ヲ終ラハ輪乗ノ  
 手前變フー此時反對駢歩トナルー踏歩ヲ變換シ左駢歩トナルー輪乗ノ手前ヲ  
 變フー反對駢歩トナルー次テ踏歩ヲ變換ス(第六圖)

第六圖 駢歩間輪乗上ノ諸運動

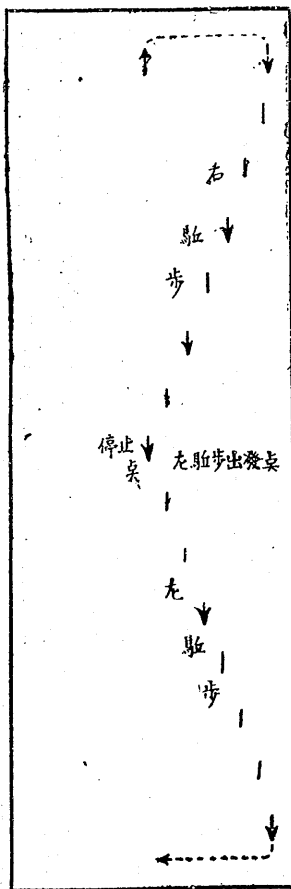
註  
 一、反駢ハ反對駢歩ノ意  
 二、變ハ踏歩變換点  
 三、

輪乗ニ入ル

席 査 審

(5)

横跡上ノ中央ニテ踏歩ヲ變換ス  
蛇乘ニ在リテハ正駢歩ノ場合其踏歩變換ハ浪形ノ中央線上ノ點ニテ行フヘク



(4)

審査席ニ向ヒ回轉シ中央縱跡上ヲ行進横跡ヨリ約十米ノ點ニ到ラハ停止  
不動、次テ六步後退右手前駢歩ニ發進、右手前ニ入ル  
次テ右横歩ヲナシツ、往復手前變換、其頂點ニ到ラハ停止、不動、更ニ左駢  
歩ニ出發、左横歩ヲナシツ、往復手前變換ノ殘部ヲ行進シ、反對駢歩トナリ  
跡跡ニ入り直ニ其儘ニテ隅角通過ヲ行フ(第七圖)

第七圖

駢歩間横歩ヲ以テスル往復手前變換

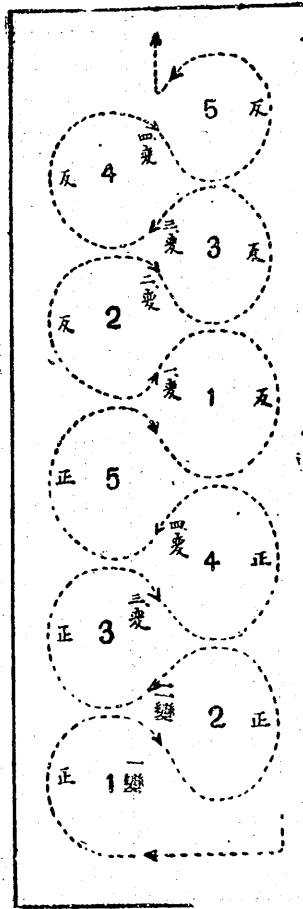
(3)

審査席ニ向ヒ回轉シ中央縱跡上ヲ行進横跡ヨリ約十米ノ點ニ到ラハ停止  
不動、次テ六步後退右手前駢歩ニ發進、右手前ニ入ル

三三



席 査 審



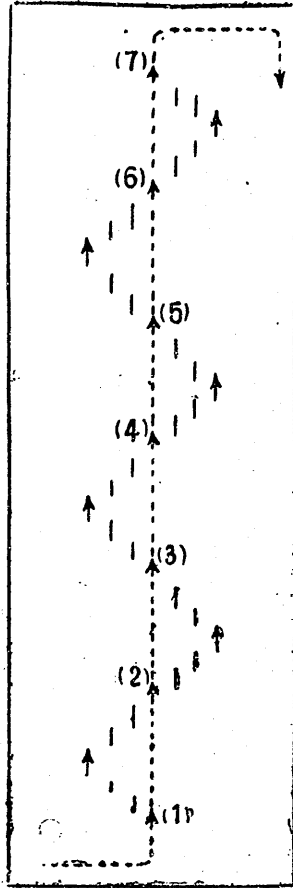
第八圖 駢歩間蛇乘  
 (第八圖)  
 反對駢歩ヲ以テスル蛇乗ノ際ハ其踏歩變換ハ各浪形上ニテ行フモノトス

(7) 終ラハ跡跡ニ入ル其手前ハ任意トス

註  
 一、正ハ正駢歩  
 二、反ハ反對駢歩  
 三、三、四、變ハ駢歩變換ノ  
 指定回次ナリ

二三

審査席



第九圖 駢歩間横歩ヲ以テスル六段山形乘

(8) 一方縦蹄跡上ニテ駢歩伸暢シ、次ノ横蹄跡上ニテ駢歩ヲ短縮ス、次テ他方縦蹄跡ノ四分ノ三丈ケ駢歩ヲ伸暢シタル後停止、六歩後退ス、續イテ再ヒ伸暢駢歩ニ出發シ次ノ縦蹄跡ノ四分ノ三ノ點迄續行ス、次テ短縮ノ駢歩ニ移リ審査席ニ對シテ中央縦蹄跡線上ニ入り此線ヲ中心トシ左右六完歩毎ノ横歩六段山形乗ヲ行ヒ各頂點ニ於テ踏歩變換ヲナス但最初最終ノ二斜線ノミ三完歩トス(第九圖)

二四

(9) 右手前ニテ蹄跡ニ入り縦蹄跡上ヨリ馬場ノ中央ヘ回轉、不動、六歩後退次テ

左駈歩ニ出發、左手前蹄跡ニ入ル

(10) 縦蹄跡ニ於テ四歩毎、二歩毎、二歩毎及毎歩ノ駈歩踏歩變換ヲ左ノ如ク實施ス

(a) 一方縦蹄跡ニテ四歩毎ノ踏歩變換 四回

(b) 次ノ縦蹄跡ニテ三歩毎ノ踏歩變換 六回

(c) 次ノ縦蹄跡ニテ二歩毎ノ踏歩變換 八回

(d) 次ノ縦蹄跡ニテ歩毎ノ踏歩變換 十六回

(11) 審査席ニ面シ中央縦蹄跡線上ニ回轉、常歩ニ移リ轡ヲ緩メ頭ヲ延ハサシメツ、中央點ニ停止、敬禮。

(終リ) (退場任意歩度)

其三、採點要領附表第二ノ如シ

### 第三、大障碍飛越審査要領

其一、通 則

一、一人參加申込頭數ハ制限セス

二、障碍ノ數ハ約十六個トシ其高サ一米二五ヨリ一米六〇ニ至リ幅ハ壕ノ三米ヲ最大トス

三、飛越ノ爲メノ速度ハ一分四〇〇米ト定メ測秒ス、但速度ノ速キモ得點ニ加算スルコトナク之ニ反シ遲著一秒毎ニ四分ノ一點(〇、二五)ヲ減ス

四、減點要領

綜合競技ノ障碍減點要領ニ準スル外次ノ規定ニヨル複障碍ニ對シ缺點ヲ犯シタルトキハ重キ缺點ノミヲ採リ減點ス

其二、障碍ノ種類及配置

障碍ノ種類ハ概不附表第三ノ如シ其配置ト豫選當時之ヲ示シ其種類亦臨時變更スルコトアルヘシ

綜合馬術競技中第一次調教競技採點表

審査委員

記名

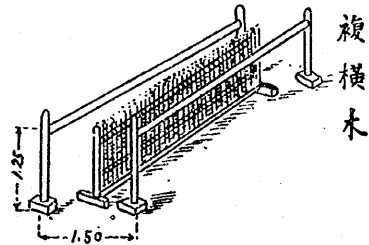
運順 動序	運 動 の 種 目	規 準 點	得 點	所見ノ摘要
1	隨意歩度ニテスル入場、G點ニ於ケル停止、敬禮	3		
2	韁ヲ長クシ分解、右手前蹄跡ニ入ル	4		
3	A點ヨリ收縮シツツ行フ回轉及行進	6		
4	腰ヲ内ヘ ヲナシツツ往復手前變換	D點ヨリB點迄	8	
		B點ヨリG點迄	8	
5	G點ニ於ケル停止、眞直ナル不動	4		
6	發進(常歩)、右手前ニ入ル	2		
7	F點ニ於ケル半卷(半徑三米)	5		
8	M點ニ於ケル半卷(半徑三米)	5		
9	受験馬ノ常歩 歩法、歩様、歩度、歩調	5		
10	F點ヨリ輕速歩ニ移ル	6		
	M點ヨリF點迄ノ尋常速歩	6		
	F點ヨリH點迄ノ伸暢速歩(輕速歩ヲ採ルモノトス)	12		
	H點ヨリB點迄ノ短縮速歩(馬ハ前軀起揚ヲナスヘシ)	12		
	B點ヨリA點迄ノ尋常速歩	6		
11	中央縱蹄跡ヘノ回轉及行進	4		
	腰ヲ内ニシツツ往復手前變換	D點ヨリE點迄	12	
		E點ヨリG點迄	12	
12	G點ニテ停止、不動、	4+4		
13	常歩ニ發進、右手前行進	3		
14	速歩ニ移行	4		
15	受験馬ノ速歩 歩法、歩様、歩度、歩調	5		
16	B點ヨリ速歩ヨリスル右駢歩ノ出發	5		
17	A點ヨリ中央縱蹄跡ヘ回轉行進	2		
18	D點ニ於ケル(同線上ノ)右ヘ卷乘(半徑三米)	5		
19	同卷乘終リテ速歩ニ移リ同線上中央點ニ達シタルトキ左駢歩ニ出發ス	4+4		
20	G點ニ於ケル(同線上ノ)左ヘ卷乘、左手前蹄跡ニ入ル	5		
21	H點ニテ駢歩ヨリ常歩ニ移ル	4		
22	E點ニテ常歩ヨリ左駢歩ニ發ス	6		
23	A點ニ到リ停止、次テ駐立ヨリスル左駢歩ノ出發	5+6		
24	B點ニ到リ停止、次テ四歩後退、次テ左駢歩ノ出發	5+8+6		
25	M點ヨリ半卷 左駢歩ノ儘	5		
26	B點ニテ常歩	3		
27	F點ニテ常歩ヨリ右駢歩ニ出發	6		
28	K點ニ到リ停止、次テ駐立ヨリスル右駢歩ノ出發	5+6		
29	H點ニ到リ停止、次テ四歩後退、次テ右駢歩ノ出發	5+8+6		
30	M點ヨリ駢歩ヲ伸暢シ A點ニ到ル	4		
31	A點ヨリ歩度ヲ短縮シH點ニ到ル	4		
32	H點ヨリ再ヒ歩度ヲ伸暢シ F點ニ到ル	4		
33	F點ヨリ再ヒ歩度ヲ短縮シH點ニ到ル	4		
34	H點ニテ半卷 右駢歩ノ儘	5		
35	E點ニ到リ常歩	3		
36	K點ニテ駢歩ニ出發	6		
37	A點ヨリ駢歩ノ儘ニテ中央線上ヘ回轉行進 審査席ニ面ス	2		
38	中央縱蹄跡線上中央點ニ停止、不動、韁ヲ長ク緩ム、敬禮	4		
39	受験馬ノ駢歩ノ歩法、歩様、歩度、歩調	5		
40	態度、姿勢、騎座、御法	10		
合 計 點		300		

# 純調教競技採點表

審査委員

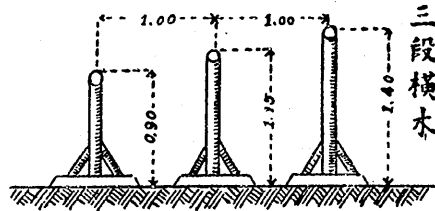
運順 動序	運 動 目	規 準 點	得 點	所見ノ摘要	
1	駢步入場、審査席ニ面シ停止、不動、敬禮	4			
2	自由ナル常歩	5			
3	回轉行進ト其收縮常歩	6			
4	後肢旋回 { 右へ 左へ	5 5			
5	受験馬ノ常歩ノ歩法、歩様、歩度、歩調	5			
6	短縮速歩(收縮、弾發性、歩調良好ナルヘシ)	5			
7	速歩ノ伸暢及短縮	5+5			
8	二蹄跡ヲ以テスル往復手前變換	10			
9	縦蹄跡上ノ輕速歩	5			
10	横歩ヲ以テスル山形乘(八段)	12			
11	停止、不動、短縮速歩	5+5			
12	受験馬ノ速歩ノ歩法、歩様、歩度、歩調	5			
内側蹄跡上	13	速歩ヨリ駢歩ヘ發進	4+4		
	14	常歩ヨリ駢歩	4+4		
	15	駐立ヨリ駢歩	5+5		
	16	後退ヨリ駢歩	7+7		
17	兩手前輪乘變換、反對駢歩、踏歩變換	5+5+5+5			
18	停止、後退、右駢歩ノ發進	10			
19	往復手前變換、頂點ニ於ケル停止	10			
20	蛇乘、正駢歩四回轉、反對駢歩ニテ四回轉	10+15			
21	駢歩ノ伸暢及短縮、停止、後退、伸暢駢歩	10			
22	横歩ヲ以テスル三完歩及六完歩ノ山形乘(六段)	18			
23	停止、不動、後退、駢歩ノ出發	7			
24	受験馬ノ駢歩ノ歩法、歩様、歩度、歩調	5			
内側蹄跡上	25	四歩毎ノ駢歩踏歩變換 四回	10		
	26	三歩毎ノ駢歩踏歩變換 六回	12		
	27	二歩毎ノ駢歩踏歩變換 八回	16		
	28	歩毎ノ駢歩踏歩變換 十六回	20		
29	敬禮、姿勢、態度、騎座、御法	10			
合 計 點		300			

0917

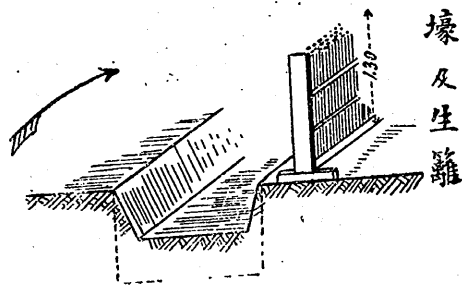


複横木

附表第三 其一

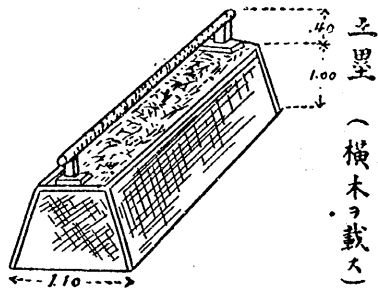


三段横木

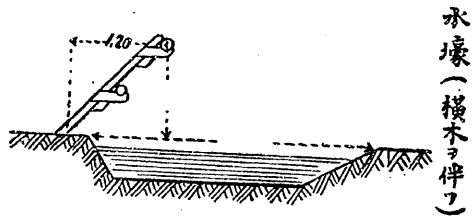
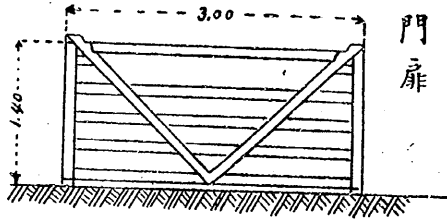


壕及生籬

8160

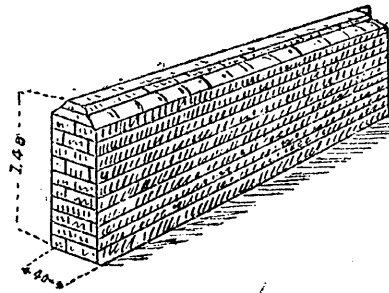


附表第三 其二



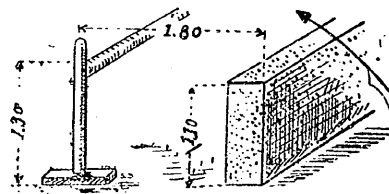
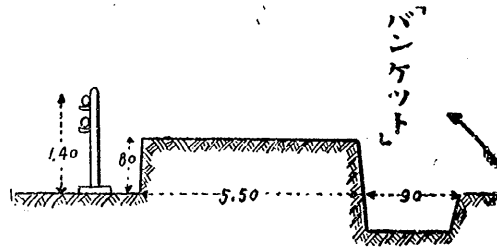


6160



土壁  
又ハ  
煉瓦壁

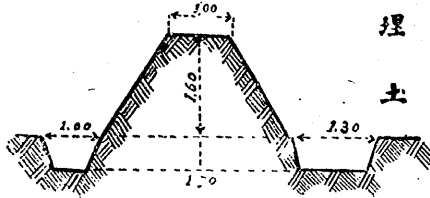
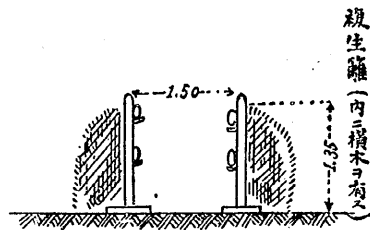
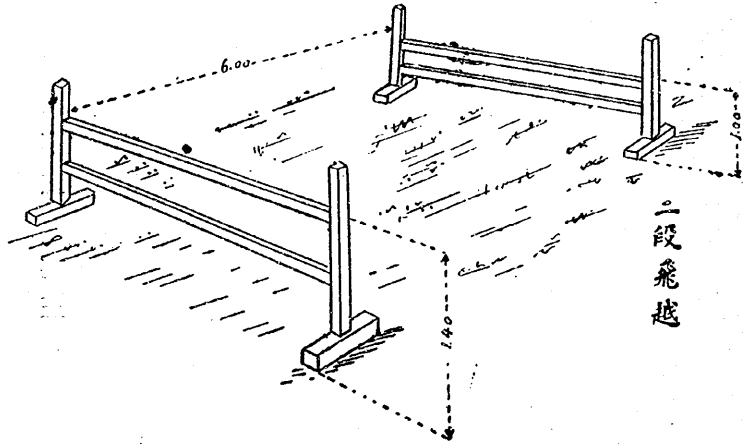
附表第三 其三



生籬  
又ハ  
煉瓦下  
横木

0920

附表第三 其四



0922

陸軍省  
獨雜第 四九 號  
一六六 號 三二

獨雜第 四九 號

オリムピック馬術競技後遺選手將校報告送附ノ件

昭和參年七月廿參日

獨逸國駐在員 殿

大村有隣

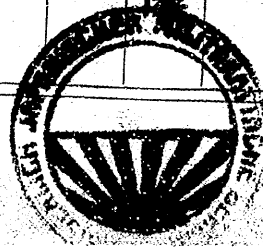
陸軍省軍務局長 殿

首題ノ報告別冊ノ通り遊玩騎兵中佐ヨリ小官死提呈  
相成タルニ依リ送附ス

別紙  
八月五日 郵政

3. 8. 18  
70  
陸軍省

陸軍省  
3. 8. 18  
郵政



0922

馬政課長 殿

本件関係書類の  
送付は用務にお  
ききり  
九月三日

0922

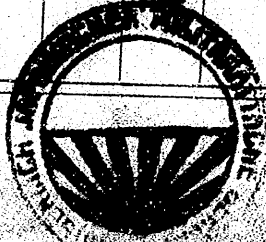
寄附品目録

本館関係書類、資料等  
 保管中経過年月、古く  
 経過即古く  
 九月三十日  
 菅野

小宮元健

大村有隣

送附品



0923

次官

壹一六六二二

電報譯

月

日

午

陸軍省  
3. 8. 14  
午後 8. 14  
陸軍省

次官宛

發信者

遊佐中佐報告

再次、貴電拝受一同感銘、至り、不堪

成績良好、至り、汗顔、至り、トス、遊佐ハ十日

岡田ハ十一日、城戸ハ八日、十日、十一日、吉田ハ

十二日出場、全般順調、ユキナリ、純馬術

競技、至り、馬、歩、様、資、格、上、得、息、多、カ、リ、シ、モ

騎手、取、術、極、メ、巧、妙、ナ、リ、ト、一、般、好、評、ヲ、博

セリ、綜、合、競、技、長、取、持、ス、カ、共、得、一、多

陸軍省  
3. 8. 14  
70  
軍事課

陸軍省  
3. 8. 14  
29  
軍事課

第

號

0924

開

決行指定

決裁指定

三年

保存期限

注意

(本審案用紙八三年以内保存ノモノニ使用スルモノトス)

政務次官  
回付 決裁前連帶  
課名 (署名)

決行(決裁)後  
回覽課名

8. 6  
70  
課

8. 6  
3. 8. 6  
課

大臣		件名		受番
大臣		大島騎兵少佐ヲ和蘭へ派遣ノ件		領和 第166号
局長	次官	政務次官	起元廳(課)名	帝國馬匹協會
主務局長	高級副官	參與官	書記官	
			主務副官	
			主務課員	
			審案書記者	
主務局長		主務副官		
主務課長		主務課員		
連帶局長		書記官		
連帶局長		審案書記者		
決行後回覽局長		決行後回覽課名		
決行後回覽局長		決行後回覽課名		
大臣官房		大臣官房		
領受		領受		
大正 年 月 日		大正 年 月 日		
大正 年 月 日		大正 年 月 日		
提		提		
大正 年 月 日		大正 年 月 日		
出		出		
大正 年 月 日		大正 年 月 日		
提		提		
大正 年 月 日		大正 年 月 日		
領		領		
大正 年 月 日		大正 年 月 日		
受		受		
大正 年 月 日		大正 年 月 日		
領		領		
大正 年 月 日		大正 年 月 日		
受		受		
大正 年 月 日		大正 年 月 日		
領		領		
大正 年 月 日		大正 年 月 日		
受		受		
大正 年 月 日		大正 年 月 日		

副官ヨリ帝國馬匹協會々頭伯爵松平頼壽へ  
 七月三十一日帝馬發第三六六號ヲ以テ請願ニ係ル  
 首題ノ件承認セラレ別紙ノ通通牒致シ  
 置キタルニ付承知アリ度

三七六一

昭和參年八月拾參日



(別紙)

副官ヨリ在獨大村少將へ電報

大島騎兵少佐ヲ「オリムピツク」委員トスルノ件ハ  
馬匹協會側ヨリ願出ニ依リ許可セラレタルニ付遊佐  
中佐へ傳へラレ度尚大島少佐へハ別ニ電報セリ

副官ヨリ在佛中岡大佐へ電報

帝國馬匹協會ヨリ大島騎兵少佐ヲ「オリムピツク」委  
員トシテ参列方願出テ許可セラレニ付本人へ傳  
へラレ度所要經費七百圓限り協會ヨリ直接  
送付スル事

陸軍





副官が在独大村に在り、電報

大島騎兵少佐ヲ、オリンピック委員トスルノ件ハ馬匹  
協會側ヨリ願出ニ依リ、~~許~~可セラレタルニ付、遊佐中  
佐、傳ハレ及高木大島少佐ハ別ニ電報セリ

副官が在佛中岡大佐ハ電報

午前十時迄

帝國馬匹協會が大島騎兵少佐ヲ、オリンピック  
委員トシテ参列方預出ヲ許可セラレシニ付、本人ハ傳  
ハレ及沙要経費セる糸限リ、協會ヨリ直接  
送付スル旨

陸二五五

午前十時迄

馬匹協會、  
課長秘書  
手紙の宛先

001 1号L 馬

0929

馬匹協会一ノ調査ノ細部ノ整理ニ関シ馬政

課ニ規程中

至急ニ妥メテ之ヲ以テ一宗ノ實ニ至テ不而致考テセト

至急



第一六六號

八月一日

社団法人帝國馬匹協會

帝馬發第三六六號

昭和三年七月卅日

社団法人帝國馬匹協會

會頭 伯爵 松平 頼壽



陸軍大臣 白川 義則 殿

拜啓益々御清昌奉賀候陳者來月和蘭「アムステルダム」ニ開催セラルル「オリムピック」馬術競技ノ日本委員トシテ在巴里陸軍騎兵少佐大島忠殿ヲ御依頼致度候ニ付御承認ノ上可然御取計相成度此段及申請候 敬 具  
追テ本文ニ要スル旅費ハ本協會ニ於テ負擔可致候

1860

七月三十一日  
軍事課御

七月三十一日

大島騎兵少  
次官  
帝國馬匹協  
員トシテ和法  
旅費ハセリ  
ラハレ度  
副官ヨリ  
お記 ぬせ  
ラハレ度



左記各旨ニ依リ急電報ヲ以テ決行方取計  
ヲハレ度

副官ヨリ在獨逸大使館附武官大村少將ハ

大島騎兵少佐ヲオリムピックニ委負トスルコトニ衆  
セラル

承認

次官ヨリ在佛國大使館附武官中岡大佐ハ

帝國馬匹協會ヨリ大島騎兵少佐ヲオリムピックニ委  
負トシテ和蘭ニ派遣スルコトヲ願出アリ承認セラル  
旅費ハセツの内限協會員擔トス

七月三日

馬政



1860  
軍事課御中

0932



二年  
一五五  
九

七月十四日



陸軍  
3. 8. 3  
海軍課

電報譯

七月

午前午後

九時十五分

分發

第

號

陸軍次官宛

發信者

柏林大使館附武官

在知蘭遊佐中佐ヨリヲオリムヒツク馬術  
競技日本委員トシテ在巴里大島騎兵少  
佐ヲ任命トアリ度旨小官宛申出アリ  
可也謹議アリ度

3. 7. 24  
70  
軍課

陸

軍

0932-2

分



昭和三年  
七月二十一日  
午後三時



大塚製本納

電報譯

七月二十一日 午前午後 三時四分 著

陸軍大臣宛 發信者 遊佐 中佐

人馬無事 元氣ニテ 和蘭ニ移レリ  
今迄 坂戸 吉田 兩名 プリッセル 倫敦  
ノ 障礙 競技ニ 出場シ 共ニ 善戰 駢  
半ノ 伎倆 優秀ナルヲ 示セリ 各人豫  
備馬ナカリシ者 入者 率少ナヤノ 已  
ニヤヲ 遺憾トス

ニハ號





政官より在伯林 獨逸大使館附世官大村

電報樂

遊佐中佐ハ、大會參加ヲ賀シ選年  
ノ奮勵努力ヲ望ム、陸軍次官

注意

八月四日午前中ニ發信セラレ度

八月四日

一、つめは...  
二、...  
三、...

# 説明ターゲット

次の原稿破損

5年 9月 3日

主務者又は

撮影立会者

加部東保夫



アジア歴史資料センター

9360

一、河津村の六月八日午後二時  
 二、河津村の六月八日午後二時  
 三、河津村の六月八日午後二時  
 四、河津村の六月八日午後二時  
 五、河津村の六月八日午後二時  
 六、河津村の六月八日午後二時  
 七、河津村の六月八日午後二時  
 八、河津村の六月八日午後二時  
 九、河津村の六月八日午後二時  
 十、河津村の六月八日午後二時

河津保

昭和二年

壹一六六

自耳義、フランス市ニ於テ、國際馬術競技會、

本邦將校參加件

昭和三年五月十七日 在佛 陸軍騎兵中佐 相佐幸平

陸軍大臣 白川義則 殿

騎手ニ競技參加ノ慣レシムル馬込ヲ訓練スル目的ニテ

坂戸隊兵外佐及吉田隊兵大尉ヲ、フランス市ニ於テ

國際馬術競技會(大障礙馬場)ニ於テ、五月十日ヨリ

五月十七日迄、參加致サセム事及報告候也

追テ、坂戸隊兵外佐、新ニ購買ノアイリスボーイ

等ニテ、吉田大尉、幸来川、久山等ニテ參加致

ス同報告ニ不日當人等ヨリ提出スベシト奉

申候也



保存期限	決裁指定	決行指定
------	------	------

政務次官  
參與官  
回付  
決裁前  
課名  
馬場保

決行(決裁)後  
課名  
續任



大臣 委員	政務 次官	高級 副官	書記官	審案 筆記者
主務 局長	主務 副官	主務 課長	主務 課員	主務 課員
事務 局長	事務 課長	事務 課長	事務 課員	事務 課員
局長	局長	局長	局長	局長

件名  
遊依中依外二名、歸朝経路ニ関スル件

番號  
壹第一六六號

受領  
二年

提出  
昭和三年七月九日

受領  
昭和三年七月九日

結了  
昭和三年七月九日

軍事  
令第七〇號

遊依中依

教育総監部  
傳達ノ事ナリ

依之

審案  
筆記者



8860

教育総監部本府中佐(一)重録  
傳達、異ケリ

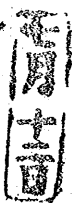
軍事課  


副官より佛國大使館附武官へ電報

岩田大尉、印度洋經由ハ差支ヘナキモ遊佐城  
戸内右ハ訓令期日内ニ歸朝スル様傳ヘラレ度

二三七

午後四時三十分



0940



教育部  
領 教水第一三三七號

電報譯

月 日 午前午後

時 分 著

第

陸軍省宛 發信者

遊佐中佐

教育部總監部(遊佐城戸書田三名)

内地帰着致度御詮議願  
ハ文給旅費ニテ印度洋經由十月九日



大坂 陸軍省

陸軍

0941

御意  
七月五  
補佐課



甲

0941

御意承知の度

七月五

軍

事

課



補佐課 御中

天皇陛下御覽  
第一六六  
三

帝皇發第八七號

昭和三年三月八日

社団法人 帝國馬匹協會々頭伯爵 松平 頼

陸軍大臣 白川 義則 殿

國際「オリムピック」馬術選手派遣ノ件

拜啓陳者豫テ御厚配ヲ蒙リ居候第九回國際「オリムピック」競技馬術選手派遣ノ  
機愈々遊佐、岡田、吉田ノ三選手ハ來ル三月十五日午後八時四十分東京驛發西伯  
利鐵道ニヨリ渡歐、先地到着馬匹調教恢復ニ努メ本競技ニ出場可致候間茲段御報

申上候

敬具

追テ先發選手タル城戸少佐及出場馬ハ無事先地到着目下佛國「サンゼル、アン  
、レエ」(巴里西方約三十吉米)ニ滞在罷在候間茲ニ申添候

社団法人 帝國馬匹協會



保存期限		決裁指定		執行指定		閣	
受領番		件名		大臣 次官 政務次官 高級副官 主務副官 官房主計 主務課員 主務技師 審案 筆記者			
昭和二年		遊佐騎共中佐外二名海外出張件					
第一六六號							
廳名							
軍務局軍事課							
大正		大正		軍事課第三二號			
三月八日		三月八日		局長			
局長		局長		連帶			
決裁後		決裁後		局長			
局長		局長		局長			
局長		局長		局長			

政務次官  
 參與官  
 回付決裁  
 後連帶  
 馬政

決行(決裁)後  
 回覽課名

軍務局

大馬より外務大臣、通條 (陸善)

右記ノ者今般馬事研究法和蘭國ニ於ケル  
オリンピックニ大倉本邦馬術選手トシテ競  
競技ニ参加ノ為同國及佛國へ差遣スルニ付  
到着ノ上ハ便宜ヲ與ヘラル、標出先帝園宮  
憲ノ可忍通達方而計相成度  
トテ右諸及ハ三月中旬西比利ヲ經テ渡歐ノ  
豫定ニ付申係ノ

左記

陸軍騎兵中佐 藤佐 幸平

陸軍騎兵少佐 岡田 小七

陸軍騎兵大尉吉田稔友

陸軍第九七八號 三月九日

大馬子 遊佐中佐外三名、刻令

(別紙ノ通)

陸軍第九七八號

六

三月十日

別有之教者陸軍監部本部長、佛國在勤

帝國大使館附設及、通條  
左記ノ者今般海外、出張命令外、通刻令  
カウレタルニ付承知相成度

左記

陸軍第九八五號

三月十二日

右記三名トス

陸軍

陸軍騎兵中佐遊佐幸平ニ與フル訓令

今般海外ハ差遣ニ就テハ左ノ通心得ヘシ

一、差遣ノ目的ハ和蘭及佛國ニ於テ馬事研究ニ從  
事シ且和蘭ニ於テ「オリムピック」大會本邦馬術  
選手トシテ該競技ニ参加スルニ在リ

二、差遣期限ハ往復ヲ合シ約五ヶ月半トシ往復共  
西比利ヲ經由スヘシ

三、軍事上機密ニ屬スル事項ヲ調査スルニ當リテ  
ハ周到ナル注意ヲ以テ事ニ從ヒ苟クモ當該團  
軍機ヲ漏洩シ國交上ノ支障ヲ誘致スルカ如

陸

軍

キコトアルヘカラス

四、調査又ハ諸視察ニ関シテハ諸事當該國在  
勤帝國大公使館附武官ニ稟議シ彼我法  
令ヲ遵守シ帝國軍人ノ體面ヲ重シ其ノ目  
的ヲ貫徹スルヲ要ス

五、調査シタル事項ハ歸朝後一箇月以内ニ其ノ詳  
細ヲ筆記報告スヘシ

陸軍騎兵大尉吉田重友ニ與フル訓令

今般海外へ差遣ニ就テハ左ノ通心得ニシ

一、差遣ノ目的ハ和蘭及佛國ニ於テ馬事研究ニ從事シ且和蘭ニ於テ「オリンピック」大會本邦馬術選手トシテ該競技ニ参加スルニ在リ

二、差遣期限ハ往復ヲ合シ約五ヶ月半トシ往復共西比利ヲ經由スヘシ

三、軍事上機密ニ屬スル事項ヲ調査スルニ當リテハ周到ナル注意ヲ以テ事ニ從ヒ苟クモ當該國ノ軍機ヲ漏洩シ國交上ノ支障ヲ誘致スルカ如キ事ト

陸

軍



アルヘカラス

四、調査又ハ諸視察ニ関シテハ諸事當該國在  
勤帝國大(公)使館附出官ニ稟議シ彼我ノ法  
令ヲ遵守シ帝國軍人ノ體面ヲ重シシ其ノ目的  
ヲ貫徹スルヲ要ス

五、調査シタル事項ハ歸朝後一箇月以内ニ其ノ詳  
細ヲ筆記報告スヘシ

陸軍騎兵少佐岡田小七ニ與ハル訓令

今般海外ハ差遣ニ就テハ左ノ通心得ヘシ

一、差遣ノ目的ハ和蘭及佛國ニ於テ馬事研究ニ從事シ且和蘭ニ於テ「オリニピック」大會本邦馬術選手トシテ該競技ニ参加スルニ在リ

二、差遣期限ハ往復ヲ合シ約六ヶ月半トシ往路ハ西比利、歸路ハ印度洋ヲ經由スヘシ

三、軍事上機密ニ屬スル事項ヲ調査スルニ當リテハ周到ナル注意ヲ以テ事ニ從ヒ苟クモ當該國ノ軍機ヲ漏洩シ國交上ノ支障ヲ誘致スルカ

空

軍

如キコトアルヘカラス

四、調査又ハ諸視察ニ関シテハ諸事當該國在勤帝國大公使館附武官ニ稟議シ彼我ノ法令ヲ遵守シ帝國軍人ノ體面ヲ重シシ其ノ目的ヲ貫徹スルヲ要ス

五、調査シタル事項ハ歸朝後一箇月以内ニ其ノ詳細ヲ筆記報告スヘシ

房官臣大		課局務主			大臣		保存期限		決裁指定		執行指定	
了結	領受	出提	領受	號番	局長	主務	次官	政務	次官	件名	番號	受領
大正	大正	南和	大正							海外差遣將校ノ旅費ニ関スル件	帝第一六六号	
年	年	南和	年									
月	三月	南和	月									
日	七日	南和	日									
(裁決)行決		帶連			局長		高級		參與官		廳名	
覽回後					局長		副官				帝國馬匹協會	
長局					長課		主務		參與官			
長局					長課		副官		參與官			
長課					長課		主務課員		參與官			
長課					長課		主務技師		參與官			
長課					長課		官房主計		筆記者		審案	
長課					長課		主務課員					
長課					長課		主務技師					
長課					長課		官房主計					
長課					長課		主務課員					
長課					長課		主務技師					

陸 軍

副官ヨリ帝國馬匹協會々頭へ

昭和三年度ニ於テ「オリムピック」馬術競技  
選手タル將校四名ノ海外差遣ニ関スル  
陸軍支出旅費額ハ計壹万圓トシ各人  
ニ對シ卽千五百圓宛支給スルコトニ定メ  
ラレタルニ付通牒ス  
追テ帝馬發第六回辨請願ニ関シテハ右  
ニ依リ承知アリ度

陸軍第九五〇號三月八日



馬政發第五號

將校海外差遣ノ件

昭和參年貳月廿七日

陸軍省軍務局馬政課長市瀬源助

軍中課長古庄幹郎 啟

「オリムピツク」馬術選手タル將校左記ニ依リ海外  
差遣ノ詮議アリ度

左記

一所屬

陸軍騎兵學校

經路	期	間	官	氏	名
往西伯利經由	自四月一日	五月半	陸軍騎兵中佐	遊佐	章平
往西伯利經由	自四月一日	六月半	同	少佐	岡田小七

2.29  
2x3  
陸軍省  
3.2.29  
午前  
主計課

主計課  
28/2  
共見兼知之  
進テ者課  
通一引

七 平

外



9960

主計課

28/2



平

共見兼知之度  
追て者課に総額  
直引を以て  
和田申出

<p>往西伯利亞由</p>	<p>自四月一日 至九月十日 五月半</p>	<p>陸軍時兵大村 吉田重友</p>
<p>二 各人ニ對スル訓令中差違目的ニ關スル事項 ハ先發城戸少佐ニ對スルモノニ同シクセラレ度 意見</p>		
<p>但シ岡田少佐ハ歸路馬匹ノ輸送ニ任スル事 ナリ</p>		
<p>三 本件ハ四月一日發令直ニ出發シ得ル採取計 アリ度</p>		



和

「オリムピック」馬術參加將校ノ旅費ニ関スル件

昭和三年二月至七月  
馬政課

意見

三年度本件旅費トシテ陸軍ヨリ壹万圓ヲ支出セラレ度

参考

一、帝國馬匹協會ノ負擔力ハ各方面ノ努力ニ依リ漸次増大シタルノミナラス將校旅費額ノ査定ノ爲禱算ノ減少ヲ求メタルモ又一面當初ノ見込ヲ超過シテ實行上經費ヲ要スルニ至リタルモノアル爲高陸軍ノ援助ヲ俟ツニアラサレハ遂行

尾

尾

シ得サル状態ニ在リ

二一般國際競技參加者ノ經費ノ一部ハ有志ノ寄附ヲ募集充當スル慣例ナルニ拘ラス馬術選手ハ陸軍將校ナルカ爲ニ一切民間ノ寄附ヲ受ケサル點ハ十分酌量セサルヘカラス

又本件成立ノ當初各方面ノ出資不確實ナルニ方リ陸軍カ馬事振興ノ見地ヨリ本擧ノ成立ニ援助ヲ與フル決意ヲ示シタル爲發奮スルニ至リタルモノ少カラス之カ爲陸軍ノ負擔額ハ豫期ノ最高限ニ比シ大ニ減少スルニ至リタルモ陸軍ノ態度ニ對スル信頼ハ至大ナルヲ以テ極端ナル陸

軍員擔ノ低下ハ其ノ經過ニ觀テ部外者ノ出資退  
避ヲ来タスナキヲ保セサルノミナラス全般的ニ觀ル  
モ將來ノ爲得策ニ在ラス

三、帝國馬匹協會ノ收支概算ニ就テ更ニ零碎ノ查  
定ヲ加ヘムトセハ敢テ不可能ニアラサルヘシト雖モ  
事關將來ニ屬スルモノ少シトセサルノミナラス法人ノ  
豫算ニ臨ムニ陸軍部内ト同等ノ眼ヲ以テスルハ必  
スシモ要當ナラサルヲ以テ寧ロ大所ヨリ遠觀シ本  
件遂行ヲ害セサル具込程度ヲ標準トシテ陸軍  
支出額ヲ決定スルニ如カス

陸  
軍

昭和三年

陸軍省 第六四號

第六四號

原書類ハ左記同覽中

陸軍省 陸軍大臣 白川義則 殿

昭和三年二月二十五日

陸軍大臣 白川義則 殿

國際「オリンピック」競技馬術選手派遣時期繰上ケ

並派遣費補助儀申請

謹啓時下益々御清昌奉賀候陳者豫ニ御厚配ラ蒙リ居候國際「オリンピック」馬術選手派遣ニ關シテハ先發名城戸少佐及出場馬ノ豫定ノ通り去月二十九日無事馬耳塞到着目下該地ニ於テ滞在専心馬匹体力恢復ニ努メ居候而シテ後發選手タル遊佐中佐外二名ノ諸氏ハ來ル五月一日内地出發渡歐ノ豫定ニ御座候處馬ノ調教恢復並競技出場ノ準備上可成早ク渡歐セ



之レハ必要有之候間豫定ヲ早シ來ル四月百右後發選手ヲ  
 派遣致度候間右御派遣方御認可相成度御願申上候  
 本派遣費ニ關シテハ昨年以來銳意政府ニ請願シ又關係  
 方面ニ助成方出願申居候處別記ノ如ク補助又ハ寄附ヲ受  
 ケテト相成候モ尚金壹万參仟五百圓餘ノ不足相生居  
 候間此際特別ノ御詮議ヲ以テ前記ノ金額御補助支出被  
 成度此段奉願候 敬具

昭和三年八月ニ於ケル  
第九回國際オリンピック馬術競技日本選手派遣費調書

第九回國際カハムピョク馬術選手派遣費収支二覽表

總費 金六万八千八百十四圓四十五錢也

内 譯

昭和三年度 金壹万九千三百九十五圓貳拾錢

昭和三年度 金四万九千四百十九圓貳拾五錢

昭和二年 度 自昭和二年十二月 至昭和三年三月

収 入

電 分	金 冊 額	摘 要
陸 軍 省	三、三〇〇.〇〇〇	先發選手城戸少佐の旅費
農 林 省	二、〇〇〇.〇〇〇	出場馬ニ対スル補助
帝國競馬協會	一〇、〇〇〇.〇〇〇	派遣費ニ対スル助成等附
借 入 金	四、〇九五.二〇〇	本年度派遣費不足分借入

支		出		入	
部	分	金	円	金	円
計		一九、三九五	二〇〇		
選手旅費		三、三〇〇	〇〇〇		
出場馬旅費滞費		八、三八五	二五〇		
口舟人旅費及保費		六、七〇九	九五〇		
通信費		一、〇〇〇	〇〇〇		
計		一九、三九五	二〇〇		
文部省		二〇、〇〇〇	〇〇〇		
帝國競馬協會		二〇、〇〇〇	〇〇〇		

昭和三年度

至

昭和三年四月  
同 十月

摘 要

派遣費ニ対スル補助  
派遣費ニ対スル助成寄附

城戸少佐ノ分

馬匹四頭船賃、馬糧其他

口舟人(傭外人)ニ含ムル三名分 傭外人ノ保費  
料ヲ除ク

通信並雜費



支		出	
電	入	金	田
先發選手名滞在費	二、六九三	〇〇〇	〇〇〇
馬正滞在費	二、八四〇	〇〇〇	〇〇〇
口下人滞在費	四、二七二	〇〇〇	〇〇〇
三選手旅費及滞在費	一五、八七二	二五〇	〇
一選手歸還(船旅費)	二、〇〇五	〇	〇
馬正歸還旅費	七、九六〇	〇	〇
口下人歸還旅費	二、三三七	〇	〇
雜費	五、二〇〇	〇	〇
口下人留定手當	六六〇	〇	〇
計	五三、五一四	四五〇	四五〇

不足金

一三、五一四  
四五〇

陸軍省へ補助支出申請

摘要

通信費、練習用具費其他

交際費	九〇〇	〇〇〇	〇〇〇
備外人(使役)費	一、六八〇	〇〇〇	〇〇〇
大工・印字・競技監督費	三、〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
費分擔金	四、〇九五	二〇〇	〇〇〇
前年度借入金返却	五三、五一四	四五〇	
計			

備考

借入金ハ兩年度ニ亘リ決算ノ為メ支出合計兩年度分ヨリ  
借入金ヲ控除シタルモノ總額派遣費トス

第九回國際オリンピック馬術競技選手派遣費調書

總額 金六萬八千八百拾四圓四拾五錢也

支出區分

昭和二年度 金壹萬九千參百九拾五圓貳拾錢也  
 昭和三年度 金四萬九千四百拾九圓貳拾五錢也

内譯

其一、出場馬匹(往路)

昭和二年十二月十九日内地出發、先發選手一名  
 口付三名(内一名ハ歸國外人ヲ備用ス)

派遣 人馬 數	選手 一名	馬匹 四頭	口付人 三名
海上輸送	出發	橫馬	滋塞
	到着	昭和二年	耳
	出發日	昭和三年	十一月十九日
	到着日	昭和三年	一月十九日
滯在及陸上輸送	日數	二十四日	間
	馬匹體力	自昭和三年一月十九日	馬
	復滞在	至四月一日	塞
	汽車	馬	塞
	輸送日數	一日	間
	馬匹調教	自四月三日	巴
	滞在	至六月十五日	里
	汽車	馬	里
	輸送日數	一日	間
	競技地滞在	自六月十七日	ハルテス
	至八月十日	ハルテス	
		ハルテス	

其八一 昭和二年十月十九日出発セシ選手一名、口付人三名馬匹四頭ニ要セシ昭和二年度支出額

人馬遣	選手	馬匹		口付人
		頭	匹	
數	一	四	三	三
支度料		一三六五円五二馬匹預之 馬糧其他雜費 四九〇円五〇馬具附屬品 四四五〇馬具運賃 一八四三 貳糧代 二四五二 青刈大豆運賃 一九四八 馬丁手當	三五〇〇(一名分) 外手當 二、〇〇〇円〇〇 一〇八円〇〇 口付人三名傷害保険料	
汽車、車馬賃		五〇〇円〇〇(二頭分) 五七六二(一名分)間 一、五〇六〇(四頭分) 津田沼、東横濱間	九〇円〇〇 凡七十一(一名分)間 六八円〇〇(三名分) 津田沼、横濱間 三四四三 口付人一名上京旅費	
船賃		八〇〇円〇〇 二頭分 横濱、上野間	七〇〇円二六 横濱、上野間	
日當			三八五円〇〇 船中四十二日 (一日、四月〇〇) 凡七十一(一名分)間 マセト滞在六十二日 (一日、三月五〇)	
宿泊料		三二五円〇〇(二頭分) 凡七十一(一名分)間 (一日、五月〇〇)	七二四円五〇 マセト滞在六十二日 (一日、一月五〇)	
一人二頭當				
計		八三八五円二五	四七〇九円九五 外手當 二、〇〇〇円〇〇	三三〇〇円〇〇

合計 一八、三九五円二〇

其、一、先發選手一名、口付人三名、馬匹四頭ニ取ルベキ昭和三年度支出額（滞在費）

人付口 名ニ	匹馬 頭四	手選 名一	八馬 小費	數	支度料	汽車賃	船賃	日當	宿泊料	一人(頭)當	計
								七九〇円〇〇	一九〇三元〇〇	二六九三元〇〇	二六九三元〇〇
								四九八円〇〇	一六三八円〇〇	二一三六円〇〇	四二七三円〇〇
									旅行 計四百三十日(二日為)	七二〇円〇〇	二八四〇円〇〇
合計								九、八〇五円〇〇			

其二、後發選手(往復)

昭和三年四月一日東京駅発西伯利亞鉄道ヨリ  
 アムステルダムニ至ルモノ

選手名	派遣者数	往路			滞			復路		
		出発	到着	日数	滞	在	日数	出発	到着	日数
東京	東	四月一日	四月十六日	十六日間	在	在	十六日間	四月十七日	四月廿七日	十日
里巴	巴	四月十四日	四月廿五日	十二日間	在	在	十二日間	四月廿九日	五月八日	九日間
日一月	四	四月十六日	五月一日	十六日間	在	在	十六日間	五月九日	五月十九日	十日
日六十四	四	四月十六日	五月十日	二十五日間	在	在	二十五日間	五月十九日	六月八日	二十日間
間日六十	十	四月十六日	五月廿六日	四十日間	在	在	四十日間	五月廿九日	六月十九日	二十日間

其二、旅行計畫ニヨル経費

選手名	支度料	汽車賃	日當	宿泊料	一人當	計
東京	三、五〇〇.〇〇	一、五二〇.〇〇	一、〇四九.五〇	二、三七一.四二五	五、三九〇.七五	一、五八七.二二五
里巴						
日一月						
日六十四						
間日六十						

合計

一、五八七.二二五

其ノ三 出場馬(復路)

競技終了後、セントウロヨリ汽船ヨリ内地へ  
歸還スルモノニシテ監督トシテ乗手一名ヲ附ス

派遣人馬		陸上輸送		海上輸送	
口付人	馬匹	選手	出発	到着	日數
二名	四頭	一名	ムゲルテスマ	ポワトア	ムゲルテスマ
			八月二十一日	八月二十五日	五日間
			横濱	横濱	五日間
			八月二十六日	八月三十日	五日間
			横濱	横濱	五日間

其ノ三 旅行計畫ニヨル経費

人馬	選手	馬匹	口付人	船賃	日當	宿泊料	一人(頭)當	計
數馬	一名	四頭	二名	八〇円	六〇〇円	一、二〇〇円	二、〇〇〇円	六、〇〇〇円
糧		五五〇〇 雜費 五〇〇〇		一、一〇〇円 (馬相共)	自アオカ 至エトワ (一日一〇〇円) 至横濱 (一日一〇〇円)	自アオカ 至エトワ (一日一〇〇円) 至横濱 (一日一〇〇円)	一九九〇円	七、九六〇円
汽車車馬賃		三〇〇円 内地	五五〇〇 内地	二、四〇〇円	自アオカ 至エトワ (一日一〇〇円) 至横濱 (一日一〇〇円)	自アオカ 至エトワ (一日一〇〇円) 至横濱 (一日一〇〇円)	二、六八〇円	二、三三七円
合計				八〇〇円	二、四〇〇円	七、〇〇〇円	二、六八〇円	二、三三七円

其ノ四 其ノ一乃至其ノ三以外ノ經費

昭和二年度支出額 一、〇〇〇円〇〇  
昭和三年度經費 一、四四〇円〇〇

種目	通信費	練習用具 及運搬費	練習場 使用費	厩舎借入 使用費	馬糞費	豫備費	計
金額	一、〇〇〇円〇〇	一、四四〇円〇〇	八〇〇円〇〇	二〇〇円〇〇	八〇〇円〇〇	一、〇〇〇円〇〇	六、二〇〇円〇〇
口付人留守宅手當(二名分)	六六〇円〇〇						
交際費	九〇〇円〇〇						
傭外人二名(使役)	一、六〇〇円〇〇						
オリムピア競技監督旅費分担金	三、〇〇〇円〇〇						
合計	一、六、四四〇円〇〇						

(通信費) 一、〇〇〇円〇〇ハ昭和二年度  
ニ於テ支給済

備考

本計算ハ陸軍出張旅費ニ依リテ計算スルモノニレテ選手ハ佐官ノ額

ヲ口付人ハ下キ給與額ニヨリ口付人ニ限リ留守宅手當及傷害保険

料ヲ給ス

外國旅費ハ旅行間選手ハ日當一〇円〇〇 宿泊料二四円〇〇 口付人ハ日當四円〇〇  
宿泊料一四円〇〇 一地滞在ノ場合ハ選手ハ宿泊料一三円二五 日當五円五〇  
口付人ハ宿泊料一四円五〇 日當三円五〇ヲ給與スルモノトス



第九回國際オリンピック馬術選手派遣各選手費用調

氏名	金額
遊佐中佐	五、二九〇・七五
岡田少佐	六、〇三四・七五
城戸少佐	七、二五四・〇〇
吉田大尉	五、二九〇・七五
合計	二、三八七〇・二五

摘要

往復共西伯利亞鐵道ヲ經由ス  
 往路ハ西伯利亞鐵道經由  
 復路ハ船ヲ印度洋經由  
 往路ハ船ヲ印度洋經由  
 復路ハ西伯利亞鐵道經由  
 往復共西伯利亞鐵道ヲ經由ス

四月一日迄  
 一八、〇〇〇円  
 五月一日迄  
 一六、三〇〇円  
 文部省一文已出  
 トロワ...

壹號一三六 號共一四

昭和二年十一月二十九日

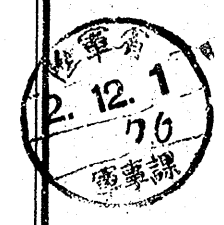
陸軍大臣 白川義則 殿

陸軍大臣 白川義則 殿

陸軍大臣 白川義則 殿

國際カギムピック馬術選手先發並馬匹口府人派遣ノ件

科啓陳者國際カギムピック馬術選手派遣ニ關シ軍務御多用中ニ  
拍々種々御配慮御願申候處今般陸普第五三三七號ヲ以テ  
選手並軍馬ノ參加ニ付キ御通牒ニ接シ御厚志ノ程御禮申上  
候就テハ口府人トシテ左記ノ二名ヲ選定ニ尚過般宮内省御買上  
馬輸送ノ為ソ本邦へ渡來セシ英國人ヲツヅテ歸路臨時傭入シ  
先發選手城戸少佐ト共ニ馬匹四頭未ル十二月十九日横濱解纜  
ノ白山丸ニテ出發セシムルニトテ致候間此段御報申上候 敬具



社團 存目 馬 上 易 事

左記

豫備役陸軍騎兵特務曹長

坂本貞雄

外 壹 名

陸軍第二五六號 其二三

陸軍第二五六號

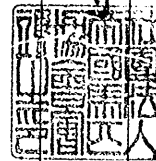
陸軍省 2.11.26 午前9時 官房往復

陸軍省 2.11.26 馬政課

陸軍省第二五六號 其二三

昭和二年十一月二十五日

社団法人帝國馬匹協會會頭伯爵松平賴壽



陸軍大臣 白川義則殿

國際オリムピック馬術競技參加選手派遣祝賀會

兼送別會ニ告辞ヲ與ヘラレ度件申請

并落愈御清穆奉賀候陳者明年八月和蘭ニ於ケル國際オリムピック馬術競技ニ本邦代表選手派遣ノ件ハ其後貴省ノ特別ナル御援助ニ依リ愈實現ノ運ト相成四選手ノ公表ヲ見来ル十二月十九日横濱解纜ノ白山丸ニテ先發スベキ選手陸軍騎兵少佐城戸俊三氏派遣ノコトニ發表セラレ候ニ就テハ該選手派遣ヲ祝賀ス

社団法人帝國馬匹協會

ルト俱ニ其ノ行ヲ盛ニセハカ為左記次第書ニヨリ祝賀會兼送別會  
開催可仕候ニ付テ御多用ノ折柄誠ニ恐縮至極ニ存候ハ共該  
選手激勵ノ為當日御臨席ノ上告辞ヲ與ヘラレ度此段及申請候也

記

馬術選手派遣祝賀會兼送別會次第(豫定)

十二月十一日(日曜)於日本青年館會館

午後二時開會

- 一 松平伯爵開會ノ挨拶
- 一 文部大臣告辞(御内諾濟)
- 一 陸軍大臣告辞
- 一 外務大臣祝辞(御内意伺中)
- 一 農林大臣祝辞(御内諾濟)

一、大日本体育協會長  
國際オリムピオン委員 岸 博士 祝辭

一、來賓演說(清浦子爵、豫定)

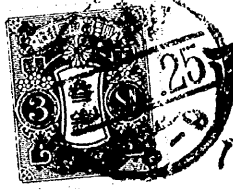
一、選手總代答辭

一、記念寫真撮影及餘興西洋奇術曲藝  
自午後三時  
至午後四時半

一、開 宴 午後四時半

右畢ニ馬ニ関スル有益ノ活動寫真映寫

6260



麴町區永田町

陸軍省

陸軍大臣 白川義則閣下

0860



昭和二年十一月二十五日

東京市京橋區銀座參丁目拾七番地

社團  
法人 帝國馬匹協會

電話京橋(56)七五六二番



1860

開

決行指定

決裁指定

十年

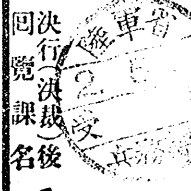
保存期限

保存期限

大臣		事務局		主任		件名	受領番号
知		局長		馬政			
了結	領受	出提	領受	號番		國際オリンピック馬術競技参加陸軍代表選手ノ件	起元廳(課)名
大正	大正	大正	大正	馬政 壹五第一六六号			
年	年	年	年			陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省	
月	月	月	月				陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省
日	日	日	日			陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省	
(裁決)行決				帶連			
長局		長局					
長課		長課					

政務次官回付

決裁前後連帶



陸軍省第七〇號

副官ヨリ帝國馬匹協會ニ長ハ

首題ノ件凡記ノ通り決定セラレ候ニ就キ此段及  
通牒候也

凡記

二二七

五月廿八日

純馬場馬術競技

陸軍騎兵中佐遊佐孝平

同 少佐 岡田カ七

綜合馬術競技

同 少佐 城戸俊三

大障礙飛越競技 同 大尉 吉田重友

追而右人員中ニ豫備ノ要員一カヲ合ミアルモノニシテ本年十月

馬匹祭送ノ直前ニ於テ更ニ審査委員ラシテ一般検査及所望ノ

審査ヲ行ヒテ派道選手ニカ同馬匹四頭ヲ確定スル等就キ尚不知相成

秘

老一六六

國馬第二一號

國際「オリンピック」馬術競技出場選手

陸軍豫選審査報告

昭和貳年五月廿七日

陸軍豫選審査委員長三好一

陸軍大臣白川義則 殿

國馬第二一號ノ審査規定ニ基キ豫備員一名ヲ含ミ左記四名ヲ選手トシテ選定ニ付報告ス

追テ四名ヲ選定シタルハ左ノ理由ニ依ル

本審査ハ昨年五月接手セル競技規定ニ依リテ實施シタルモノナルモ最近(五月二十四日審査

8860

第二日)入手シタル本年四月八九日頃巴里ニ  
 於テ開催セル國際馬術委員會ノ決定シタ  
 ル競技規定概要ニ依レハ其要求程度精向  
 上セラレ方法モ亦變更セラレタルモノアリ殊ニ  
 大障礙飛越及綜合馬術競技ニ於テ其顯著  
 ナルヲ見ル爲ニ本審査ハ精不備ノ點アルヲ免  
 レサルノ憾アリ故ニ本審査ノ結果差當リ概ネ  
 各國選手ト伍シテ競技スル資格アルヘント認メ  
 ラルル者四名ヲ採用シ置キ更ニ此内ヨリ一名  
 ヲ省キテ三名ノ本選手ヲ決定スルハ舊規定ニ  
 改正ヲ加ヘ「オリムピック」ト競技ト同一ノモノニ就

キ再審査ヲ行ヒタル上ニ於テスルヲ至當ト認

メタルヲ以テナリ

而シテ此再審査ノ實施ハ概ネ馬匹ノ本邦出發

前ニ於ケル一般検査ト同時期ニ於テスルヲ適當

トス

左記

純馬術競技

陸軍騎兵中佐遊佐幸平

陸軍騎兵少佐岡田小七

綜合馬術競技

陸軍騎兵少佐城戸俊三

大障礙飛越競技

陸軍騎兵大尉吉田重友

陸軍

保存期限 **十年** 決裁指定 **陸軍** 決行指定

大正 十年		決行指定		決裁指定		保存期限	
房官臣大		課 局 務 主		大臣		件 番	
了結	領受	出提	領受	號番	受領		受領
大正 年 月 日	大正 年 月 日	大正 年 月 日	大正 年 月 日	馬政會第四號九	壹第 六六 號其九		應名
(裁決)行決		帶		連	國際馬術競技陸軍豫選審查委員代行八件		豫選審查委員長
局長		局長		局長	高級副官	參事官	參事官
長課		長課		主務課員	主務副官	參事官	參事官
長課		長課		主務技師	官房主計	參事官	審案

政務次官回付決裁(前)連帶  
參與官(後)課名

決行(決裁)後  
回覽課名

指令案

五月十八日附國馬第七號申請ノ通認可ス

陸軍省 陸普第 二一三 號 五月廿一日





蓋一久久 九

國馬第七號

國際馬術競技陸軍豫選審査委員代行八件

昭和二年五月十八日 陸軍豫選審査委員長三好一

陸軍大臣白川義則 敬

首題ノ件左記ノ通代行<sup>命</sup>課<sup>機</sup>度ニ就キ認可

相成度

左記

委員長代理

騎兵監部附少將小坂五

理由 五月廿五日ハ檢閲出張ノ為メ不在ニ付

委員 益田騎兵大佐代理ヲ騎兵監部員騎兵少佐野澤北地ニ

理由 益田騎兵大佐病氣ニ就キ

馬政第四號九



陸軍



閱 決行指定 決裁指定 保存期限

大 臣		事務局長		事務課		主務課	
局長	主務	局長	主務	課長	主務	課長	主務
次官	高級	副官	高級	主務副官	主務副官	主務副官	主務副官
政務	政務	參與官	參與官	書記官	書記官	書記官	書記官
審査委員長		審査委員		審査委員		審査委員	

壹第 第一六六號 其八

起元應(課名)

國際馬術競技參加陸軍豫選審査要領並隊

審査委員長

審査委員

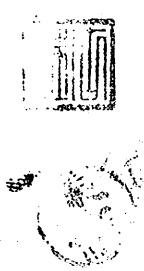
審査委員

審査委員

政務次官 參與官 回付 決裁後(連帶)課名

決行(決裁)後 回覽(課名)

馬政審第四號

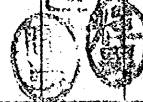
審

長

指令案

五月十七日附國馬第二號申請ノ通認可ス

陸軍省陸普第二〇七五號五月十九日





陸軍第一六六八

國馬第二蹄

國際馬術競技參加陸軍像選審査要領  
並豫選參加將校ノ件

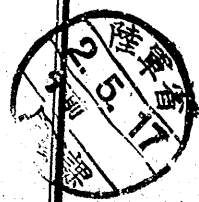
昭和二年五月十七日 審査委員長 三好

陸軍大臣 白川義則 敬

首題ノ件別紙ノ通認可相成度

五月十七日

陸軍第四



陸軍

國際馬術競技陸軍豫選參加候補者豫選

競技審査要領

一、豫選競技審査ハ別冊國際「オリンピック」馬術  
 競技日本代表選手豫選要領ニ準シ昭和二年  
 五月二十二日及同二十四日陸軍騎兵學校ニ於テ之ヲ  
 行フ

三、審査實施ノ日時及課目順序左ノ如シ

五月二十二日午前九時三十分

綜合馬術、馬場馬術

純馬場馬術

同

午後一時

総合馬術ノ野外新案

総合馬術ノ障碍飛越

大障碍飛越

五月二十四日

五月二十二日ニ同シ

以上両日ニ於テ天候其他ノ關係ニ依リ要スレハ開始時刻、課目、順序等ヲ變更スルコトアルヘシ

(大塚マカハシ)

0994

昭和二年三月

國際「オリムピツク」馬術競技  
日本代表選手豫選要領

社團  
法人

帝國馬匹協會

國際「オリムピック」馬術競技選手豫選要領

總 目 次

第一、綜合馬術競技審査要領……………三

    其一、通 則……………五

    其二、第一次調教程度審査……………六

        (一)要 則……………六

        (二)馬場運動實施要領……………七

        其三、第二次持久力審査……………七

        其四、第三次障礙飛越能力審査……………七

        其五、全部ニ對スル探點上ノ特種條件……………七

        純馬術競技審査要領……………七

        其一、通 則……………七

        其二、馬術運動實施要領……………七

第三、

其三、探點要領……………二五

大障礙飛越審査要領……………二五

其一、通則……………二五

其二、障礙ノ一例……………二六

二



# 國際「オリムピック」馬術競技日本代表選手豫選要領

## 總 則

### 一、目的

昭和三年夏期和蘭「アムステルダム」ニ於テ開催セラルヘキ第九回「萬國」オリムピック「馬術競技」參加ノ爲メ其資格ヲ審査豫選スルニ在リ

二、參加者ノ資格ハ馬術ヲ職業トセザル者タルヘシ

三、參加者ノ馬匹ハ制限ヲ設ケス又一人ノ騎乘頭數ニ關シテハ各競技細部ノ規定ニヨル

四、審査ノ項目ヲ分チテ左ノ三トシ「オリムピック」本競技ニ準據シ實施スルモノトス

第一、綜合馬術競技

第二、純馬術競技

第三、大障礙飛越競技

其各項目細部ニ關シテハ別ニ示ス所ニヨル

五、審査ノ期日ハ昭和二年四月十一日豫選競技科目「持久力審査」ヲ除ク（全部ヲ同四月

十三日綜合馬術競技中持久力審査ヲ習志野陸軍騎兵學校及其附近ニ於テ行フ

三

本豫選競技ハ都合ニ依リ五月三十一日ヨリ三日  
間ニ夜更セラレタリ

## 六、

參加ヲ希望スル者ハ昭和二年四月五日迄ニ東京市芝區日蔭町一丁目一番地帝國馬  
 匹協會ヘ左ノ件ヲ具備シ申込ムモノトス

一、參加者ノ氏名

二、參加者ノ所屬乘馬團體

三、參加者ノ住所

四、參加スル競技ノ種類

五、馬匹ノ名

六、馬匹ノ毛色、年齢、性

七、馬匹ノ産地及血統(父母明瞭ナルモノハ之ヲ記ス)

八、馬匹ノ所有主

注意一馬毎ニ一葉ヲ用フヘシ

## 七、

參加者ノ服装、馬装ニ就テハ各競技細部規定ニヨル

## 八、

參加者ノ馬匹ハ四月七日ヨリ陸軍騎兵學校々厩ニ繋留ヲ依托スルヲ得  
 依托希望者ハ馬匹到着時日ノ豫定及日々馬匹ニ飼與スヘキ糧秣ノ品種及數量ノ一  
 日分ヲ記入シ到着ノ二日前迄陸軍騎兵學校ニ申込ムヲ要ス  
 但馬飼料ハ自辨トス

- 九、馬匹附添人ハ各自ニ於テ傭人ル、モノトス
- 十、參加ニ要スル人馬一切ノ費用ハ自辨トス
- 十一、馬匹ノ損傷ニ關シテハ帝國馬匹協會及陸軍騎兵學校ハ其責ニ任セス
- 十二、審査ハ帝國馬匹協會々頭ノ委任スル委員ニ據リ行フ
- 十三、參加者ハ審査ノ決定ニ對シ不服ヲ唱フルヲ得ス
- 十四、各競技審査ノ際其實施ノ順序ハ抽籤ニヨル
- 十五、參加申込者ハ審査實施要領ニ就キテ委員ト打合セノ爲メ綜合競技出場ノ者ハ四月十一日午後一時其他ノ者ハ四月八日午後一時半習志野陸軍騎兵學校内社團法人帝國馬匹協會出張所ニ集合スベキトス
- 十六、本規定ノ變更ハ委員協議ノ後委員長ノ判決ニヨリナスコトアリ
- 但一種審査開始後ハ之ヲ終ル迄變更セサルモノトス

### 第一、綜合技術競技審査要領

#### 其一、通則

- 一、參加者ハ一人一馬ニ限リ同馬ニヨリ全競技ニ從フモノトス
- 但申込ニ方リテハ豫備馬一ヲ加ヘ申込ムヲ得

二、綜合馬術競技ハ左ノ三種ニ就キ審査ス

一、第一次調教程度ノ審査

二、第二次持久力ノ審査

三、第三次障礙飛越能力ノ審査

三、參加者ハ受檢ノ爲メ運動ヲ發起シタル後ハ審査委員長ノ許可アルニアラサレハ中止又ハ審査ヲ拒ムヲ得ス

審査委員長ハ人馬ノ故障ニヨリ中止ノ已ムナキモノニ對スル判決權ヲ審査委員ニ委任シアリ

四、參加者ハ持久力審査及障礙飛越能力審査受檢直後審査委員長、委員ノ馬検査ヲ受クヘキモノトス

五、服裝ハ現役將校ニアリテハ略裝トシ紳士ニアリテハ乗馬服ヲ着用スヘキモノトス

### 其二、第一次調教程度審査

#### (一) 要 則

一、該審査ハ馬体ノ柔軟ノ程度及騎手ノ扶助ニ從順ノ程度ヲ檢スルヲ目的トス

- 二、運動ハ別ニ示ス所ニヨルヘク誤リタルモノ制限時間内ニ終ラサルモノハ棄權トス
- 三、審査委員ハ所要ニヨリ特ニ運動ノ順序ヲ變更スルコトアルヘシ
- 四、受檢者ハ敬禮ヲ終リテ後十分以内ニ所定ノ運動ヲ完了スヘシ
- 五、馬場ノ形状及ヒ各種運動ノ發起、終了ノ點ヲ定ムルコト附圖第一ノ如シ
- 六、運動要領次ノ如シ

(二) 馬場運動實施要領

- 一、出入口ヨリ審査席ニ向ヒ任意ノ步度ニテ入場ス
- 二、中央縱跡跡上G點ニテ審査席ニ面シ停止シ敬禮ス
- 三、常歩ノ運動
  - (一) 輒ヲ長ク緩メタル儘分解、右手前蹄跡ニ入ル
  - (二) A點ヨリ馬ヲ收縮セシメツ、中央縱跡跡線上ニ回轉直行進ス
  - (三) D點ヨリB點ヘ、B點ヨリG點ヘ「腰ヲ内ヘ」ニシツ、往復手前變換ヲナス
  - (四) G點ニテ停止、馬ヲ真直ニ駐立セシメ不動
  - (五) 常歩ニ發進、右手前ニ入ル
  - (六) F點ニテ半卷(半徑三米)
  - (七) M點ニテ半卷、右手前ニテ行進

四、速歩運動

(八) F 點ヨリ輕速歩ニ移リ M 點迄續行ス(以下速歩運動トナル)

(二) M 點ヨリ F 點迄尋常速歩

(三) F 點ヨリ H 點迄伸暢速歩(輕速歩ヲ採ルヘシ)

(三) H 點ヨリ B 點迄短縮速歩(前軀起揚ヲ求ムルモノトス)

(四) B 點ヨリ A 點迄尋常速歩

(五) A ニ到ラントスルトキ中央縱跡線ヘ回轉シ次テ D 點ヨリ E 點ヘ E 點ヨリ

G 點ヘ腰ヲ内ヘニシツ、手前變換ヲ行フ

(六) G 點ニテ停、止不動

(七) 常歩ニテ前進ヲ起シ右手前ニ入り次ニ速歩トナル而テ B 點ヨリ右駢歩ニ出發

ス(以下駢歩ノ運動トナル)

五、駢歩ノ運動

(二) A 點ヨリ中央縱跡線上ヘ回轉ス

(三) 同線上 D 點ヨリ右ヘ卷乘(半徑三米)ヲナシ同卷乘終ラハ速歩トナリ同線上中

央點ニ達シタルトキ左駢歩ニ出發ス

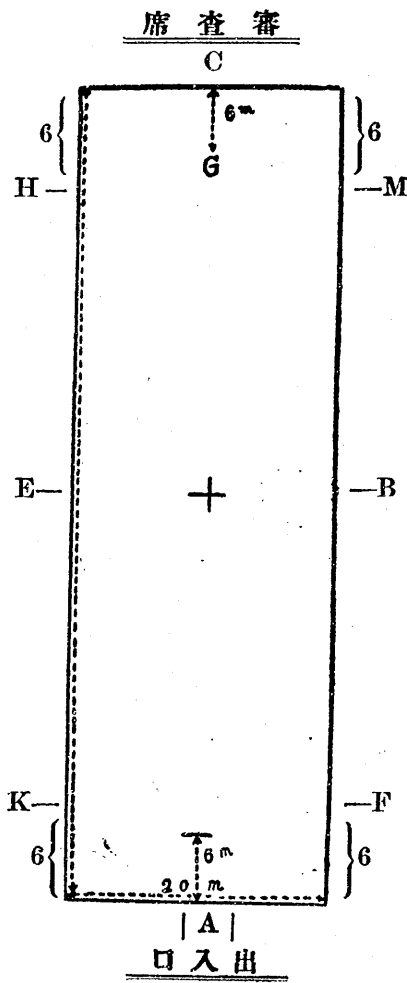
- (三) 同線上G點ヨリ左へ巻乘(半徑三米)終リテ左手前蹄跡ニ入ル
- (四) H點ニテ常歩
- (五) E點ニ於テ左駢歩ニ出發
- (六) A點ニ到リ停止、次テ左駢歩ニ出發
- (七) B點ニ到リ停止、次テ四歩後退、次テ左駢歩ニ出發
- (八) M點ヨリ半卷、左駢歩ノ儘トス
- (九) B點ニ於テ常歩トナル
- (一〇) F點ニテ常歩ヨリ右駢歩ニ出發
- (一一) K點ニ到リ停止、次テ右駢歩ニ出發
- (一二) H點ニ到リ停止、次テ四歩後退、次テ右駢歩ニ出發
- (一三) M點ヨリ駢歩ヲ伸暢シA點ニ到ル
- (一四) A點ヨリ歩度ヲ短縮シH點ニ到ル
- (一五) H點ヨリ再ヒ歩度ヲ伸暢シF點ニ到ル
- (一六) F點ヨリ再ヒ歩度ヲ短縮シH點ニ到ル
- (一七) H點ニテ半卷、右駢歩ノ儘トス
- (一八) E點ニ到リ常歩トナル
- (一九) K點ヨリ駢歩ニ出發

1004

六、(三)A 點ヨリ審査席ニ面シ駐歩ノ儘ニテ回轉  
中央縱跡跡線上中央點ニテ停止、不動、次テ韃ヲ長ク緩ム、敬禮ス  
(終リ)(退場任意歩度)

一〇





共三 採點要領附表第一ノ如シ  
 附圖第一、綜合馬術競技中第一次調教競技用馬場

二

其三、第二次持久力審査

一、軍馬又ハ野外用馬トシテ持久力ノ程度ヲ檢シ併テ騎手ノ生地ニ於ケル乘御、誘導法ヲ檢スルヲ目的トス

二、當審査ハ總距離約三十六桿ヲ左ノ順序ノ如ク分割騎乗セシムルモノニシテ路上、小徑、障礙飛越場及生地ノ障礙ヲ有スル不齊地ヲ二時間三分二十六秒ニテ通過セシム

一、路上行進 約七桿 速度一分間二四〇米

二、障礙飛越場ノ飛越 約四桿、速度一分間五〇〇米飛越回數十二個

三、路上行進 約十五桿 速度 二四〇米

四、不齊地騎乘 約八桿 速度 四五〇米

五、平坦地行進 約二桿隨意步度速度 三三〇米 以上

三、以上ノ所要時間ヲ計算スレハ次ノ如シ

(一)ト(二) 路上行進 一時間三十一分四十秒

(二) 四桿障礙飛越場 八分

(三) 八桿ノ不齊地騎乘 十七分四十六秒

(四) 二桿隨意步度行進 六分

- 四、採點上五秒ノ遲著毎ニ半點ヲ減シ障礙飛越場ノ通過ノ際早著セハ五秒毎ニ二十分  
ノ一點ヲ増加ス又不齊地騎乘ニ於テ早著セハ五秒毎ニ半點ヲ増加ス此ニ早著ノ場  
合ハ増加點數ノ制限十點迄トス
- 五、不齊地騎乘及障礙飛越場通過ノ際騎手落馬セハ十點ヲ減シ馬匹ノ顛例ニヨル騎手  
ノ落馬ハ五點ヲ減ス、又障礙、不齊地上ノ自然障礙等ニテ停止、接近ヲ拒絶シ又ハ  
避ケタル時ハ第一回目三點ヲ減シ同障礙ニ對シ第二回目再ヒスルトキハ六點ヲ減  
シ三回ナルトキハ棄權ニシテ本審査參加資格ヲ失フ
- 六、本審査ニ於ケル通路及速度ハ共ニ遵守スヘキモノニシテ障礙飛越場ノ障礙ハ生籬  
三段横木、横木ト生籬、「バンケット」壕等ニシテ高一米一〇幅三米五〇ヲ最大限  
トナス
- 七、不齊地騎乘ノ通過路及障礙飛越場ノ經路ハ審査ニ先タチ現場ニテ指示スヘク其集  
合日次及時刻ハ參加申入者ト委員トノ打合セノ日ニ確示ス
- 其四、第三次障礙飛越能力審査
- 一、本審査ハ多大ナル勞作ノ後軍馬トシテ最モ緊要ナル馬ノ柔軟性、肺力、筋力及悍  
威ノ餘力ヲ審査スルヲ目的トス
- 二、障礙ノ數ハ十二個ニシテ大ナル厚サニアラサル障礙ヲ用ヒ袖ヲ附ス其種類ハ一米

三、減點要領次ノ如シ

- 一〇以上一米一五ニシテ飛越ノ爲メノ速度ハ一分間三七五米以内タルヘシ
- 1. 制限時間ヨリ遲著スルコト二秒毎ニ半點ヲ減ス
- 2. 騎手ノ落馬 十點減
- 3. 馬ノ顛倒及騎手ノ落馬 五點減
- 4. 停止、接近拒絶、忌避 一回 三點減
- 5. 右 二回目ナルトキ 六點減
- 6. 右 三回目ナルトキ 棄權
- 7. 障碍ヲ墜スモノ(前肢ニヨル) 四點減  
(壕ニ肢ヲ墜スモノ)後肢ニヨル 二點減
- 8. 經路ヲ違フモノ 二點減
- 四、障碍ノ袖、(同目的ノ裝飾樹木モ同シ)ヲ倒スモノハ忌違ト見做ス從テ(4)(5)(6)ニ準シ減点ス
- 五、此時騎手ハ障碍ノ直前ヨリ飛越ヲ再行スベキモノトス  
二段飛越三段飛越等ニ方リテハ一個毎ニ探点ス、又其二段目、三段目等ノモノニ對シ停止、拒絶、忌避等ヲナストキハ其動作ヲナセル障碍前ヨリ再行スヘク既ニ飛越セル障碍ヲ再ヒ飛越セシメテ復行スルヲ得サルモノトス

一四

六、審査場ヨリ奔逸セルモノハ棄權トス

其五、全部ニ對スル採點上ノ特種條件

一、各次審査上ノ滿點ヲ二十點トス而テ其要求ノ難易ヨリ之ニ係數ヲ設クルコト次ノ如シ

第一次調教程度審査

十五倍

第二次持久力審査

A. 不齊地騎乘

三十五倍

B. 障礙飛越場ノ飛越

二十五倍

C. 路上行進

十倍

第三次障礙飛越能力審査

十五倍

二、各次審査ニ方リテハ採點ノ便宜上左ノ如ク點數ヲ増加シ後其得點ヲ括弧内ノ如ク除算シ第一次ノ係數ヲ乘算シ眞得點トス

第一次調教程度審査

三百點 (十五分)

第二次持久力審査

二百點 (十分)

A. 不齊地騎乘

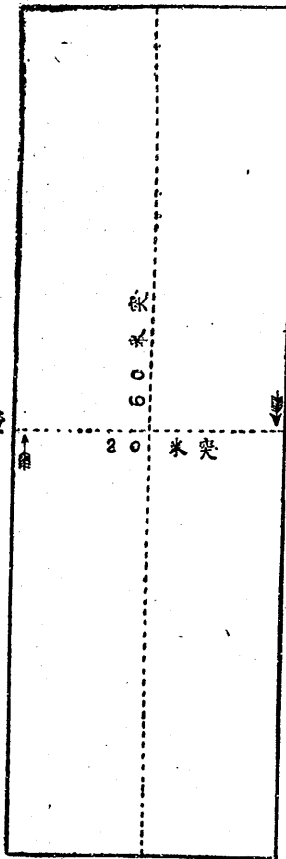
- B. 障碍飛越場ノ飛越 二百點 (十分)
- C. 路上行進 二百點 (十分)
- 第三次障碍飛越能力審査 二百點 (十分)

第二、純馬術競技審査要領

其 一、通 則

- 一、一人ノ参加申込頭數ハ制限セズ
- 二、騎手ハ各個ニ運動ヲ行フモノニシテ別ニ示ス實施要領ニヨルヘシ
- 三、審査委員ハ運動ノ順序ヲ變更スル權利ヲ有スルモノトス
- 四、受檢者ハ敬禮後十二分以内ニ運動ヲ完了スヘシ完了シ得サルモノハ棄權トス
- 五、馬場ノ形狀附圖ノ如ク縦六〇米横二〇米ニシテ中央點ハ兩蹄跡側ニ標示ス各種運動ハ本文及圖示スル所ニ從ヒ嚴守實施スヘキモノナリ
- 六、馬動ハ埒馬場ヲ用ユルモ場合ニヨリ覆馬場ニ於テ實施スルコトアリ
- 七、同點者アルトキハ審査委員ハ一二運動ヲ課シ之ヲ檢定ス
- 八、本規定ニ合マレサル高等馬術ノ諸運動例ヘハバ「ツサアジユ」「ピアツフエ」「スベン歩法」等ハ實演スヘカラス

審査席



左駢歩出發

- 1. 速歩ヨリ
- 2. 常歩ヨリ
- 3. 駐立ヨリ
- 4. 後退ヨリ

右駢歩出發

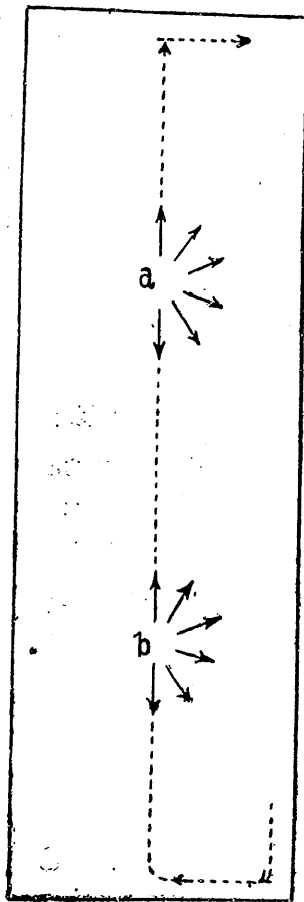
- 1. 速歩ヨリ
- 2. 常歩ヨリ
- 3. 駐立ヨリ
- 4. 後退ヨリ

出入口

一七

九、實施要領次ノ如シ  
 其二 馬場運動實施要領  
 一、出入口ヨリ審査席ニ向ヒ駢歩ニテ入場シ審査席ニ面シ停止不動敬禮ス(附圖第二圖)  
 第二圖 純馬術競技馬場ノ圖

審査席



第二、常歩運動  
 (1) 自由ナル常歩ニテ分解、韁ハ長ク緩ム右手前蹄跡ニ入ル  
 (2) 審査席ノ反對側横蹄跡中央ヨリ回轉、審査席ニ對シ行進、同時馬ヲ收縮ス  
 (3) 中央縱蹄跡上ノ中央点ヲ數步過キタル後右へ後肢旋回、(第二圖 a)引續キ數步前進シ左へ後肢旋回(第三圖 b)次テ短縮速歩ニ發進右手前ニ入ル

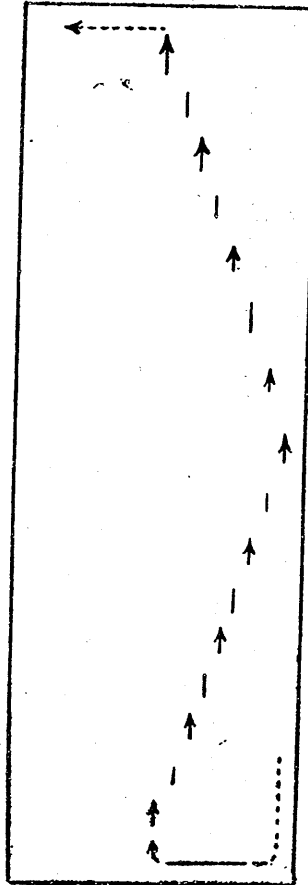
第三圖 中央縱蹄跡線上ノ後肢旋回

三、速歩ノ運動

(1) 馬場一週半上ニ於テ速歩ノ伸縮ヲ行フモノニシテ十分ニ收縮セル短縮速歩ヨ



審 査 席

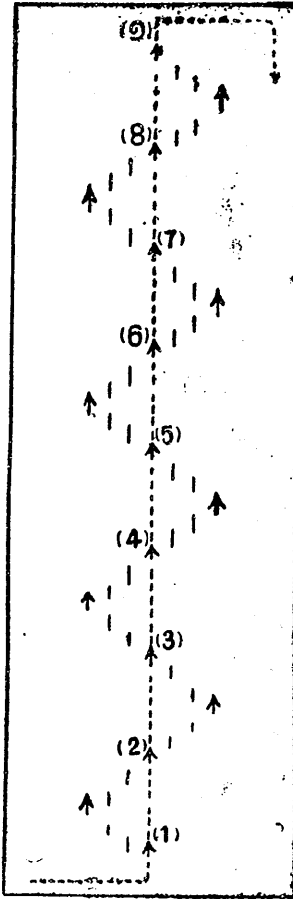


(2) リ伸暢速歩ヘノ迅速ナル移行及其反對ヲ實施ス  
 審査席ニ對シ横跡跡中央ヨリ回轉シ次テ右横歩ニ移リ縦跡跡ノ中央頂點トス  
 ル往復手前變換ヲ行ヒ反對横跡跡ノ中央到ル(第四圖)  
 第四圖 速歩間横歩ヲ以テスル往復手前變換

(3) 左手前ニ入リ一方側縦跡跡上ニ於テ輕速歩ヲ執ル  
 (4) 再ヒ審査席ニ對シ横跡跡ノ中央ヨリ回轉シ横歩ヲ以テスル八段山形乘ヲ行フ  
 (此時騎手ハ中央縦跡跡上ニ九回位置スルコト、ナル)(第五圖)

第五圖 速歩間横歩ヲ以テスル八段山形乘

審査席

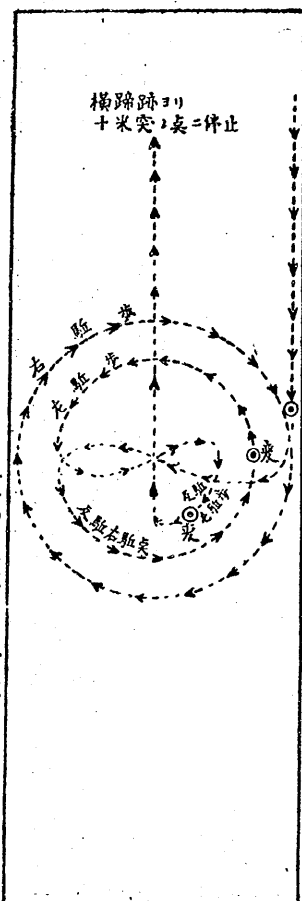


二〇

四、駈歩ノ運動

- (5) 終ッテ右手前ニ入り横蹄跡上ニ停止、不動
- (6) 短縮速歩ニ出發、(此時步調ハ努メテ高揚、彈發アリ收縮十分ナルヘシ)
- 駈歩運動ハ皆特ニ壁(縦來ノ蹄跡)ヨリ二步内方ニ蹄跡ヲ作リタル上ニテ實施スルモノトス
- (1) 速歩、常歩、駐立及後退ヨリ駈歩ニ發進ヲナス而テ其手前ハ交錯發進スヘキモノトス(例ヘハ最初左手前ノ駈歩ニ速歩ヨリ出發セハ次ノ常歩ヨリノ發進)

審査席

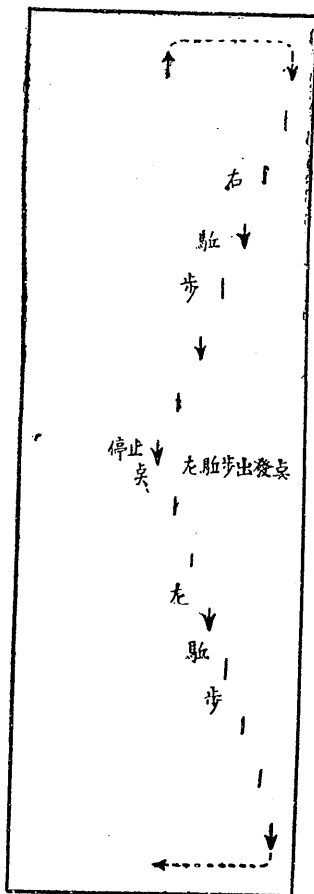


(2) ハ右駢歩次ノ駐立ヨリハ左駢歩ノ如シ  
 馬場ノ中央ニ右午前右駢歩ノ大輪乗ヲナス、一回輪線ノ行進ヲ終ラハ輪乗ノ  
 手前變フー此時反對駢歩トナルー踏歩ヲ變換シ左駢歩トナルー輪乗ノ手前ヲ  
 變フー反對駢歩トナルー次テ踏歩ヲ變換ス(第六圖)

第六圖 駢歩間輪乗上ノ諸運動

註(一)、反駢ハ反對駢歩ノ意  
 (二)、變ハ踏歩變換点  
 一一

審 査 席



(5) (6)

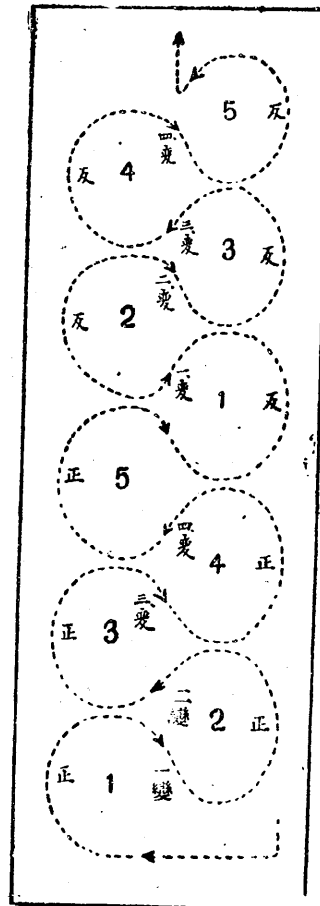
横蹄跡上ノ中央ニテ踏歩ヲ變換ス  
 蛇乘ニ在リテハ正駢歩ノ場合其踏歩變換ハ浪形ノ中央線上ノ點ニテ行フヘク

(3) (4)

審査席ニ向ヒ回轉シ中央縱蹄跡上ヲ行進横蹄跡ヨリ約十米ノ點ニ到ラハ停止  
 不動、次テ六歩後退右手前駢歩ニ發進、右手前ニ入ル  
 次テ右横歩ヲナシツ、往復手前變換、其頂點ニ到ラハ停止、不動、更ニ左駢  
 歩ニ出發、左横歩ヲナシツ、往復手前變換ノ殘部ヲ行進シ、反對駢歩トナリ  
 蹄跡ニ入り直ニ其儘ニテ隅角通過ヲ行フ(第七圖)  
 第七圖 駢歩間横歩ヲ以テスル往復手前變換

二三

席 査 審

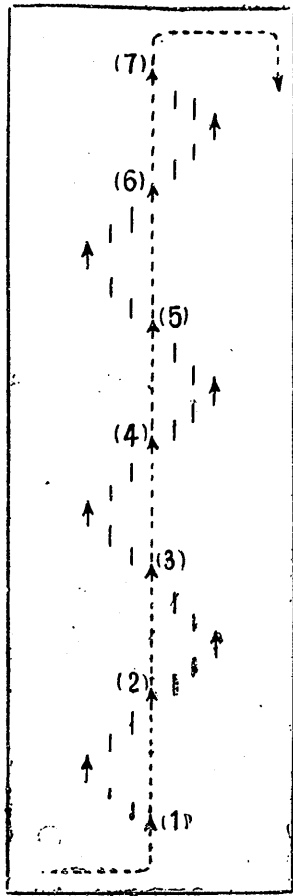


第八圖 駢步間蛇乘  
 (第八圖)  
 反對駢步ヲ以テスル蛇乗ノ際ハ其踏歩變換ハ各浪形上ニテ行フモノトス

(7) 終ラハ踏跡ニ入ル其手前ハ任意トス

註  
 一、正ハ正駢歩  
 二、反ハ反對駢歩  
 三、一變ハ一變ハ駢歩變換ノ  
 指定回次ナリ

審査席



第九圖 駢歩間横歩ヲ以テスル六段山形乗

(8) 一方縦蹄跡上ニテ駢歩伸暢シ、次ノ横蹄跡上ニテ駢歩ヲ短縮ス、次テ他方縦蹄跡ノ四分ノ三丈ケ駢歩ヲ伸暢シタル後停止、六歩後退ス、續イテ再ヒ伸暢駢歩ニ出發シ次ノ縦蹄跡ノ四分ノ三ノ點迄續行ス、次テ短縮ノ駢歩ニ移リ審査席ニ對シテ中央縦蹄跡線上ニ入り此線ヲ中心トシ左右六完歩毎ノ横歩六段山形乗ヲ行ヒ各項點ニ於テ踏歩變換ヲナス但最初最終ノ二斜線ノミ三完歩トス(第九圖)

二四

(9) 右手前ニテ蹄跡ニ入り縦蹄跡上ヨリ馬場ノ中央ヘ回轉、不動、六歩後退次テ

左駟歩ニ出發、左手前蹄跡ニ入ル

(10) 縦蹄跡ニ於テ四歩毎、三歩毎、二歩毎及毎歩ノ駟歩踏歩變換ヲ左ノ如ク實施ス

(a) 一方縦蹄跡ニテ四歩毎ノ踏歩變換 四回

(b) 次ノ縦蹄跡ニテ三歩毎ノ踏歩變換 六回

(c) 次ノ縦蹄跡ニテ二歩毎ノ踏歩變換 八回

(d) 次ノ縦蹄跡ニテ歩毎ノ踏歩變換 十六回

(11) 審査席ニ面シ中央縦蹄跡線上ニ回轉、常歩ニ移リ鞭ヲ緩メ頭ヲ延ハサシメツ

、中央點ニ停止、敬禮。

(終リ) (退場任意歩度)

其三、採點要領附表第二ノ如シ

### 第三、大障礙飛越審査要領

其一、通 則

一、一人參加申込頭數ハ制限セス

二、障碍ノ數ハ約十六個トシ其高サ一米二五ヨリ一米六〇ニ至リ幅ハ壕ノ三米ヲ最大トス 二六

三、飛越ノ爲メノ速度ハ一分四〇〇米ト定メ測秒ス、但速度ノ速キモ得點ニ加算スルコトナク之ニ反シ遲著一秒毎ニ四分ノ一點(〇、二五)ヲ減ス

四、減點要領

綜合競技ノ障碍減點要領ニ準スル外次ノ規定ニヨル複障碍ニ對シ缺點ヲ犯シタルトキハ重キ缺點ノミヲ採リ減點ス

其二、障碍ノ種類及配置

障碍ノ種類ハ概不附表第三ノ如シ其配置ト豫選當時之ヲ示シ其種類亦臨時變更スルコトアルヘシ



綜合馬術競技中第一次調教競技採點表

審査委員

記名

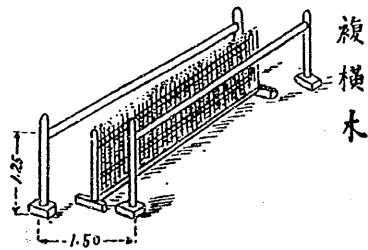
運順 動序	運 動 の 種 目	規 準 點	得 點	所見ノ摘要
1	隨意歩度ニテスル入場、G點ニ於ケル停止、敬禮	3		
2	輕ヲ長クシ分解、右手前蹄跡ニ入ル	4		
3	A點ヨリ收縮シツツ行フ回轉及行進	6		
4	腰ヲ内ヘ ヲナシツツ往復手前變換	D點ヨリB點迄	8	
		B點ヨリG點迄	8	
5	G點ニ於ケル停止、眞直ナル不動	4		
6	發進(常歩)、右手前ニ入ル	2		
7	F點ニ於ケル半卷(半徑三米)	5		
8	M點ニ於ケル半卷(半徑三米)	5		
9	受験馬ノ常歩 歩法、歩様、歩度、歩調	5		
10	F點ヨリ輕速歩ニ移ル	6		
	M點ヨリF點迄ノ尋常速歩	6		
	F點ヨリH點迄ノ伸暢速歩(輕速歩ヲ採ルモノトス)	12		
	H點ヨリB點迄ノ短縮速歩(馬ハ前軀起揚ヲナスヘシ)	12		
	B點ヨリA點迄ノ尋常速歩	6		
11	中央縱蹄跡ヘノ回轉及行進	4		
	腰ヲ内ニシツツ往復手前變換	D點ヨリE點迄	12	
		E點ヨリG點迄	12	
12	G點ニテ停止、不動	4+4		
13	常歩ニ發進、右手前行進	3		
14	速歩ニ移行	4		
15	受験馬ノ速歩 歩法、歩様、歩度、歩調	5		
16	B點ヨリ速歩ヨリスル右駢歩ノ出發	5		
17	A點ヨリ中央縱蹄跡ヘ回轉行進	2		
18	D點ニ於ケル(同線上ノ)右ヘ卷乘(半徑三米)	5		
19	同卷乘終リテ速歩ニ移リ同線上中央點ニ達シタルトキ左駢歩ニ出發ス	4+4		
20	G點ニ於ケル(同線上ノ)左ヘ卷乘、左手前蹄跡ニ入ル	5		
21	H點ニテ駢歩ヨリ常歩ニ移ル	4		
22	E點ニテ常歩ヨリ左駢歩ニ發ス	6		
23	A點ニ到リ停止、次テ駐立ヨリスル左駢歩ノ出發	5+6		
24	B點ニ到リ停止、次テ四歩後退、次テ左駢歩ノ出發	5+8+6		
25	M點ヨリ半卷 左駢歩ノ儘	5		
26	B點ニテ常歩	3		
27	F點ニテ常歩ヨリ右駢歩ニ出發	6		
28	K點ニ到リ停止、次テ駐立ヨリスル右駢歩ノ出發	5+6		
29	H點ニ到リ停止、次テ四歩後退、次テ右駢歩ノ出發	5+8+6		
30	M點ヨリ駢歩ヲ伸暢シA點ニ到ル	4		
31	A點ヨリ歩度ヲ短縮シH點ニ到ル	4		
32	H點ヨリ再ヒ歩度ヲ伸暢シF點ニ到ル	4		
33	F點ヨリ再ヒ歩度ヲ短縮シH點ニ到ル	4		
34	H點ニテ半卷 右駢歩ノ儘	5		
35	E點ニ到リ常歩	3		
36	K點ニテ駢歩ニ出發	6		
37	A點ヨリ駢歩ノ儘ニテ中央線上ヘ回轉行進 審査席ニ面ス	2		
38	中央縱蹄跡線上中央點ニ停止、不動、輕ヲ長ク緩ム、敬禮	4		
39	受験馬ノ駢歩ノ歩法、歩様、歩度、歩調	5		
40	態度、姿勢、騎座、御法	10		
合 計 點		300		

純調教競技採點表

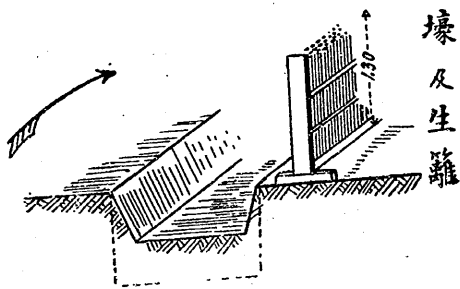
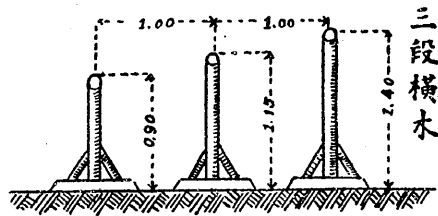
審査委員

運順 動序	運 動 の 種 目	規 準 點	得 點	所見ノ摘要
1	駢步入場、審査席ニ面シ停止、不動、敬禮	4		
2	自由ナル常歩	5		
3	回轉行進ト其收縮常歩	6		
4	後肢旋回	右へ	5	
		左へ	5	
5	受験馬ノ常歩ノ歩法、歩様、歩度、歩調	5		
6	短縮速歩(收縮、弾發性、歩調良好ナルヘシ)	5		
7	速歩ノ伸暢及短縮	5+5		
8	二蹄跡ヲ以テスル往復手前變換	10		
9	縦蹄跡上ノ輕速歩	5		
10	横歩ヲ以テスル山形乘(八段)	12		
11	停止、不動、短縮速歩	5+5		
12	受験馬ノ速歩ノ歩法、歩様、歩度、歩調	5		
内側蹄跡上	13 速歩ヨリ駢歩ヘ發進	4+4		
	14 常歩ヨリ駢歩	4+4		
	15 駐立ヨリ駢歩	5+5		
	16 後退ヨリ駢歩	7+7		
17	兩手前輪乘變換、反對駢歩、踏歩變換	5+5+5+5		
18	停止、後退、右駢歩ノ發進	10		
19	往復手前變換、頂點ニ於ケル停止	10		
20	蛇乘、正駢歩四回轉、反對駢歩ニテ四回轉	10+15		
21	駢歩ノ伸暢及短縮、停止、後退、伸暢駢歩	10		
22	横歩ヲ以テスル三完歩及六完歩ノ山形乘(六段)	18		
23	停止、不動、後退、駢歩ノ出發	7		
24	受験馬ノ駢歩ノ歩法、歩様、歩度、歩調	5		
内側蹄跡上	25 四歩毎ノ駢歩踏歩變換 四回	10		
	26 三歩毎ノ駢歩踏歩變換 六回	12		
	27 二歩毎ノ駢歩踏歩變換 八回	16		
	28 歩毎ノ駢歩踏歩變換 十六回	20		
29	敬禮、姿勢、態度、騎座、御法	10		
合 計 點		300		

1023



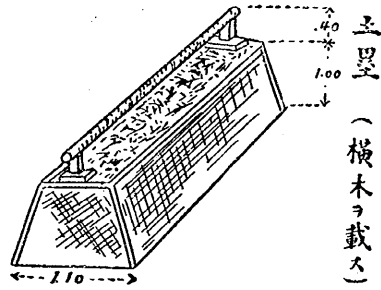
附表第三 其一



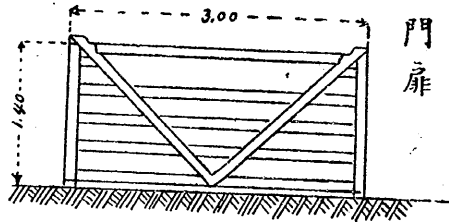
1024

付表第三 其三

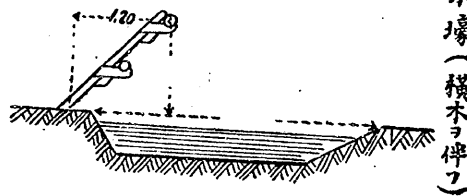
附表第三 其二



土罟 (横木ヲ載ス)

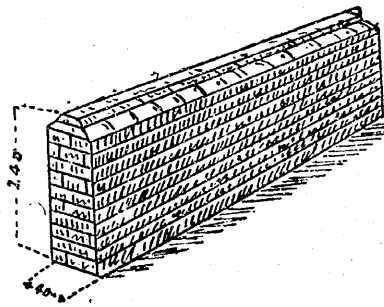


門扉



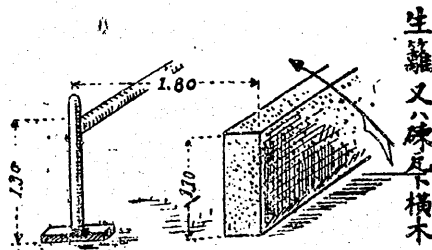
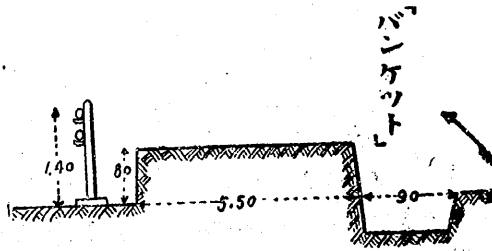
水壕 (横木ヲ俾フ)

1025



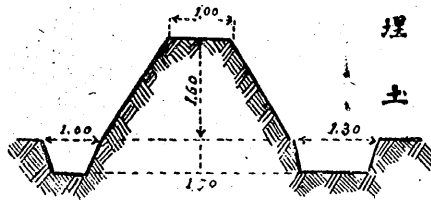
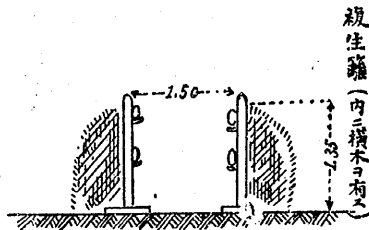
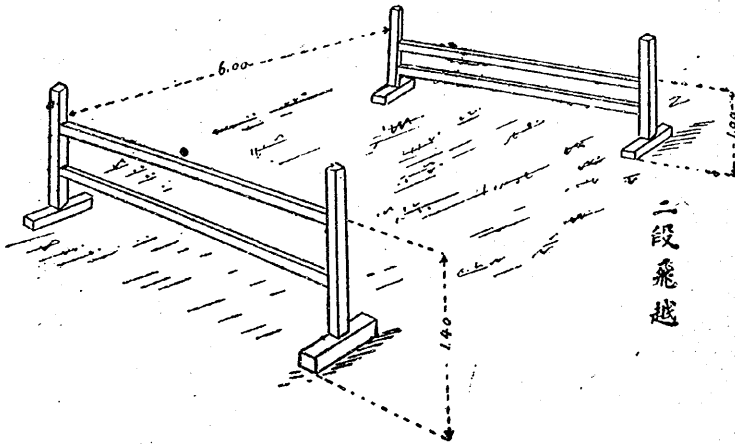
土壁  
又ハ  
煉瓦壁

附表第三 其三



1026

附表第三 其四



國際馬術競技陸軍豫選參加將校名簿	
所屬部隊	官氏名
陸軍騎兵學校教官	騎兵中佐 遊佐 幸平
騎兵第二聯隊附	騎兵少佐 山本 寛
陸軍騎兵學校教官	同 岡田 小七
陸軍騎兵學校附	同 城戸 俊三
騎兵第三聯隊附	同 淺岡 精一
陸軍騎兵學校教官	騎兵大尉 今村 安
同	同 吉田 重友
同	同 尾方 始郎
同	同 遊佐 重一

陸軍

陸軍野戦砲兵中學校教導隊附  
兼同校教官

砲兵中尉 奈良太郎

以上



國際馬術競技陸軍豫選參加候補名簿

陸軍騎兵學校

以下参考

同	同	同	同	騎兵	兵種
同	大尉	同	少佐	中佐	階級
2ヶ	2ヶ	22	21	16	期別
騎兵學校二年學生終了 同校馬術教官トシテ在任スルコト四年	騎兵學校二年學生終了 同校馬術教官トシテ在任スルコト前年三年	騎兵學校二年學生終了 同校馬術教官トシテ在任スルコト前年三年 歐洲ニ派遣セラレシコト一回	騎兵學校二年學生終了 同校馬術教官トシテ在任スルコト七年	騎兵學校二年學生終了 同校馬術教官トシテ在任スルコト七年 歐洲ニ派遣セラレシコト一回	馬術技能上参考トシテ事項
豫選要領ノ馬場馬術及障礙飛越ヲ概不全ニ實施スルコトヲ得	豫選要領ノ馬場馬術及障礙飛越ヲ概不全ニ實施スルコトヲ得	豫選要領ノ馬場馬術及綜合馬術ヲ概不全ニ實施スルコトヲ得	豫選要領ノ馬場馬術及障礙飛越ヲ概不全ニ實施スルコトヲ得	豫選要領ノ馬場馬術及障礙飛越ヲ概不全ニ實施スルコトヲ得	選手トシテ資格
同	同	同	同	陸軍騎兵學校教官	職氏名
吉田重友	今村安	城戸俊三	岡田川七	遊佐幸平	

友 安 三 七 半<sup>信</sup> 名 校

2-6<01

以下参考ノ為ノ添附ス  
審査各々員

同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同
29	29	29	28	27	27
騎兵學校三年學生修了 同校馬術教官トシテ在任スルコト二年	騎兵學校三年學生修了 同校馬術教官トシテ在任スルコト二年	騎兵學校三年學生修了 同校馬術教官トシテ在任スルコト二年	騎兵學校三年學生修了 同校馬術教官トシテ在任スルコト二年	騎兵學校三年學生修了 同校馬術教官トシテ在任スルコト二年	騎兵學校三年學生修了 同校馬術教官トシテ在任スルコト二年
豫選要領、馬場馬術 ハ概不全ニ會得スルコト ハ概不全ニ會得スルコト ハ概不全ニ會得スルコト ハ概不全ニ會得スルコト	豫選要領、馬場馬術 ハ概不全ニ會得スルコト ハ概不全ニ會得スルコト ハ概不全ニ會得スルコト ハ概不全ニ會得スルコト	豫選要領、馬場馬術 ハ概不全ニ會得スルコト ハ概不全ニ會得スルコト ハ概不全ニ會得スルコト ハ概不全ニ會得スルコト	豫選要領、馬場馬術 ハ概不全ニ會得スルコト ハ概不全ニ會得スルコト ハ概不全ニ會得スルコト ハ概不全ニ會得スルコト	豫選要領、馬場馬術 ハ概不全ニ會得スルコト ハ概不全ニ會得スルコト ハ概不全ニ會得スルコト ハ概不全ニ會得スルコト	豫選要領、馬場馬術 ハ概不全ニ會得スルコト ハ概不全ニ會得スルコト ハ概不全ニ會得スルコト ハ概不全ニ會得スルコト
同 印南 清	同 遊 佐 主 一	同 米原 喜 興	同 古澤 末 俊	同 尾 方 始 郎	同 大瀧 清 太 郎

1031

野砲校 甲第二六一號

國際馬術競技陸軍豫選參加候補者ノ件報告

昭和二年五月十一日

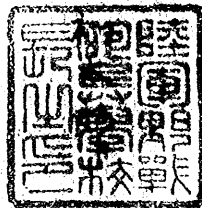
陸軍野砲校校長原口

砲兵監金山久松殿

首題ノ件別紙ノ通り報告ス

監 2.5.14 受付

兵部 受第一五六一號 昭和二年五月十二日



陸軍

國際馬術競技陸軍豫選參加候補名簿 陸軍野戰砲兵學校

砲兵	兵種	階級	期別	馬術技能上考考タルハ キ事項	選手トシテノ資格	職氏名
中尉			30	騎兵學校ニ分遣セラレニ年 學業ノ課程ヲ終了 野戰砲兵學校取法教 官トシテ在任三年	豫選要領綜合 官術院在ニテ之ヲ修得 スルノ能力ヲ有ス	陸軍野戰砲兵學校 教導隊附當同 校教官 奈良良哉 郎

陸軍

國際馬術競技陸軍豫選參加候補名簿 陸軍野戰砲兵學校

兵	種	階級	期別	別	選手トシテノ資格	職氏名
砲	兵	中尉	3	野戰砲兵學校取法教 官トシテ在任三年	豫選要領綜合 野戰砲兵學校在任三年 スルニ能力ヲ有ス	陸軍野戰砲兵學校 教導隊附兼司 校教官 奈良太郎

陸軍

						兵
--	--	--	--	--	--	---

陸軍省 第一六八

陸軍省 陸軍省 陸軍省

陸軍省 陸軍省 陸軍省  
2.516



陸軍現役將校同相當官、國際馬術競技会選参加候補名簿、件

昭和二年五月十四日 近衛師團參謀長猪狩高介

陸軍隊送審査委員吉岡堂輔殿

首題、件同規定第六條ニ依リ別紙ニ通  
標ス

陸軍

<p>國際馬術競技陸軍隊送參加候補名簿</p> <p>近衛師團</p>		
<p>兵種</p>	<p>馬術</p>	<p>馬術</p>
<p>階級</p>	<p>中尉</p>	<p>中尉</p>
<p>期別</p>	<p>34</p>	<p>34</p>
<p>馬術競技上系考トル ハ中事項</p>	<p>陸軍馬兵五種乙種生 卒業序列十九名中第七位 馬術、射、特異、趣味 ト技能ヲ有シ任官以來無 種競技會ニ出場シ受 賞セリト屬、シテ代表 送中名簿採アセト認 ム</p>	<p>馬術、射、特異、趣味 ト技能ヲ有シ任官以來無 種競技會ニ出場シ受 賞セリト屬、シテ代表 送中名簿採アセト認 ム</p>
<p>送中トシノ資格</p>	<p>馬術、射、特異、趣味 ト技能ヲ有シ任官以來無 種競技會ニ出場シ受 賞セリト屬、シテ代表 送中名簿採アセト認 ム</p>	<p>馬術、射、特異、趣味 ト技能ヲ有シ任官以來無 種競技會ニ出場シ受 賞セリト屬、シテ代表 送中名簿採アセト認 ム</p>
<p>職名</p>	<p>近衛騎兵隊 楠美一郎</p>	<p>近衛騎兵隊 松井一麻之助</p>



丙

員	部	主任	高	監	兵

第二師團  
司令部  
仙謀第二五一號

馬監  
2.5.11  
受付

現役將校國際馬術競技參加ニ関スル件通牒

昭和三年五月十日

第二師團參謀長 黒坂靜一

陸軍豫選審査委員長 三好一麩

陸軍第一八八三號現役陸軍將校同相當官ノ國際馬術競技參加ニ関スル規定第六條第三項ノ國際競技ニ出場スルキ適當ナル乘馬ヲ有セサルモ第一、二項該當者トシテ左記ノ者ヲ通報ス

左記

騎兵第三聯隊附 騎兵少佐 山本 寛

丙

兵部	陸軍部	陸軍部	陸軍部	陸軍部	陸軍部

參第五〇二號

國際馬術競技陸軍豫選參加候補者名簿  
提出ノ件

昭和二年五月十三日

第三師團參謀長倉岡直

陸軍豫選審査委員長三好一殿

首題ノ名簿現役陸軍將校同相當官ノ國際馬術競技  
參加ニ関スル規定第六條ニ依リ別紙ノ通提出ス

陸軍部  
2.5.16  
受付

陸軍

國際馬術競技陸軍豫選參加候補名簿

兵種	階級	期別	馬術技能上参考トシテノ事項	選キトシテノ資格	職名
騎兵	少佐	22	騎兵學校馬術教官トシテ在任セシコト一年	豫選要領馬場馬術ヲ完全ニ實施スルヲ得	騎兵
					漢國精一

陸軍



陸軍省 馬政課 第四號

第十二師 團司令部 參第二〇四號

現役陸軍將校同相當官ノ國際馬術競技參加者ノ件通牒

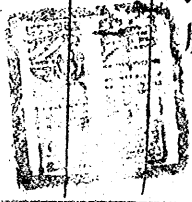
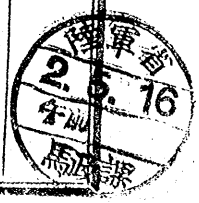
昭和二年五月十四日 第十二師團參謀長 岸 孝

陸軍省副官 中 村 孝太郎 殿

首題ノ件ニ關シ陸軍豫選參加候補名簿別紙ノ通り送付ス



馬政課第四號



陸軍 實

別紙

國際馬術競技陸軍豫選參加候補名簿 第十二師團

兵種	騎兵
階級	大尉
期別	29
馬術技能上参考トシル 中事項	騎兵學校三年學 生終了 陸軍士官學校 馬術教官トシテ 在任セシコト 二年六ヶ月
選手トシテノ資格	豫選要領 障礙飛越ハ概ネ 完全ニ実施スルコト ヲ得
職氏名	騎兵第十一聯隊附 伊藤 力

陸軍部 參謀部 三四〇號

國際馬術競技陸軍豫選參加候補名簿  
提出ノ件 通牒

昭和貳年五月拾貳日 第十六師團參謀長 須田 實

陸軍豫選審査委員長 三好 一 殿

現役陸軍將校同相當官ノ國際馬術競技參加ニ  
關スル規定第六條ニ依ル豫選參加者候補名簿別  
紙ノ通 提出ス

監 5.14 授付

陸軍

國際馬術競技陸軍豫選參加候補名簿

第十六師團

兵種

階級

期別

馬術技能上参考トテノ事項

選手トシテノ資格

職氏名

騎兵

中尉

32

騎兵學校二年學生終了

予選要領、綜合馬術ハ概不完全ニ實施セ得

騎兵第千隊附  
子爵 石井隆臣

陸軍

1043

丙

兵	監	部	陸	軍

參謀本部  
庶日第三四一號ノ二

國際馬術競技參加者ノ件通牒

昭和二年五月十四日

參謀總長 鈴木 莊

審査委員長 三好 一 殿

首題ノ件當所管ニ無之規定第六條ニ依リ通牒ス



陸軍第七印行

陸軍



電報譯

五期

日午前後

時

分著

第

二

號



馬政護長宛

發信者

芳四郎

參謀長

五期オリンピック馬術競技選手候補者  
遠野堂ニナ見込

陸

軍

拜復益々御清榮の段奉賀候陳者五月二日附御照會相成候「オリ  
ンピ」馬術競技豫選選手候補者人員の件乍遺憾當師團内には有資格  
者無之候條左様御了知被下度候也

昭和二年五月十日

第五師團參謀長 松井榮雄

陸軍省軍務局馬政課長 市瀬源助 殿

陸軍

九師參第一百五八號

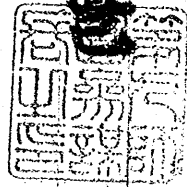
現彼陸軍將校同相當官ノ國際馬術  
競技參加者ニ関スル件通牒

昭和貳年五月拾壹日

第九師團團長平塚道

陸軍省軍務局馬政課長市瀬源助殿

首題ノ件當師團ニハ該當者ナキニ付承知相成度



陸軍省

第九師團

第七師團 北甲第一六六號

馬術競技出場選手候補者ニ関スル件回答

昭和二年五月十三日

第七師團參謀長 嶋本太郎

軍務局馬政課長 市瀬源助殿

五月二日照會ニ依ル「オリンピック」馬術競技出場選手候補適任者當師團ニ無之ニ付回答ス

陸軍

丙

兵	監	附	高	部	陸	軍
---	---	---	---	---	---	---

留參廢第 一 二 五 號

國際馬術競技參加者ニ関スル件通牒

昭和貳年五月拾參日

第十師團留守參謀瀨能興一

審査委員長 三好一殿

五月七日陸普第一八八三號ヲ以テ送付相成シ規定第六條ノ該當者當部ニ無之候

陸軍 2.5.6 受付

陸軍

兵	部	附	高	部	主	任	部	部	部

電報文

昭和貳年五月拾參日

受領時 昭和二年五月十一日午後六時三十分

送出人 上師团长

宛名 騎兵 監

電文

五月七日陸軍第一八八号ニ依リ國際馬術  
 競技ニ参加スルニ該書者ニ師団ニハシ

1050

昭和三年八月和蘭ニ於ケル

第九回國際カリンピック馬術競技日本選手派遣費調書

日付	馬匹	選手	人馬	派遣
三	四	一		數
渡	横	發	海	上
塞	耳	到	輸	送
		着		
		馬		
		出		
		發		
		日		
		到		
		着		
		日		
		日		
		數		
		輸		
		送		
		日		
		數		
		馬		
		匹		
		體		
		順		
		在		
		日		
		數		
		輸		
		送		
		日		
		數		
		馬		
		匹		
		調		
		教		
		在		
		日		
		數		
		輸		
		送		
		日		
		數		
		競		
		技		
		滯		
		在		
		日		
		數		

其ノ一 出場馬匹(往路)

昭和三年十二月下旬内地出張、先登選手一〇五人  
三(内一名ハ歸国外人ヲ使用ス)

昭和三年度國際馬術競技選手派遣費調書

總額 金六万六千壹百貳圓也

支出見分 昭和三年度 金四万五千四百四拾五圓也

昭和三年度 金貳万〇六百五十七圓也



其人 旅行計画ニ要スル諸經費

項目	選手一		馬匹四		口舟人三	
	内地	外地	内地	外地	内地	外地
人数	七〇	七〇	五五	五五	三五	三五
支度料	一三五〇	一三五〇	一〇〇	一〇〇	九〇	九〇
汽車賃	一八〇	一八〇	一〇〇	一〇〇	一五〇	一五〇
馬賃	一八〇	一八〇	一〇〇	一〇〇	一五〇	一五〇
船賃	一〇〇	一〇〇	九五〇	九五〇	六六〇	六六〇
日當	二二五	二二五	一〇〇〇	一〇〇〇	二五〇	二五〇
宿泊料	四八二	四八二	一〇〇五	一〇〇五	二八一	二八一
入込額宛	八九七	八九七	三〇五	三〇五	一〇二	一〇二
合計	四〇一	四〇一	三三六	三三六	二〇〇	二〇〇

備考

合計 金三万二千八百四十圓

(昭和三年度金三万九千六百五十四圓) (昭和三年度金三万九千六百五十四圓)

口舟人多ル 歸國外人ハ往路輸送ニ方リ經驗アル者ヲ  
備入ルモ多ク滞在費及船任員諸手當ヲ合シ金三三圓

其二

選手（往復）

昭和三年五月百東京駅出發西伯利亞  
ニヨリ、アムステルダム、中至ル也

選手	派遣者數	往	還
三井	東京	東京	東京
里巴	着到	着到	着到
日一月五	日一月五	日一月五	日一月五
日六十月五	日六十月五	日六十月五	日六十月五
間日六十	間日六十	間日六十	間日六十
里巴	滞	在	在
(三十日)	自五月廿日 至五月廿日	自六月十六日 至八月十四日	(七十日)
ムデルスム	ムデルスム	ムデルスム	ムデルスム
東京	東京	東京	東京
九月五日	九月五日	九月五日	九月五日
間日六十	間日六十	間日六十	間日六十

其二

旅行計畫ニシテ諸經費

選手	派遣者數	支度料	汽車賃	日當	宿泊料	一名宛	合計
三井	三五〇円	一五二〇円	一三〇〇円	三三〇八円	六三五八円	一九〇七四円	

合計

金壹万九千七拾四圓也

(昭和三年度)

其ノ三 出場馬 (歸路)

競技終了後、アトワリフロリ汽船ヨリ出港ニシテ、  
ハ歸還スルモ、ミナトニシテ、選手一名ヲ附ス

口舟人	馬匹	選手	派遣	
			人数	馬数
二	四	一	出発	汽
ムタルスム			到着	車
ポート			出発	輸
八月二十日			到着	送
到着			日	
五日間			日数	
ポート			出発	船
横濱			到着	舶
八月二十六日			出発	輸
到着			日	
十月十一日			日数	
四十八日				

其ノ三 旅行計画ニヨル諸経費

口舟人	馬匹	選手	派遣	
			人数	馬数
二	四	一	出発	汽
内地	外地	内地	到着	車
五五〇円	五五〇円	八〇四円	出発	輸
一〇四円	三〇〇円	一三〇〇円	到着	送
五五〇円	一〇四円	五三〇円	日	
五五〇円	八〇〇円	一三〇〇円	宿泊料	
二二二円	二二二円	一九三〇円	入込頭宛	
七〇円	二五円	一九三〇円	合	
二二七円	一九七五円	一九三〇円	計	
五七〇円	一五〇円	九四六円		
二二七四円	七、九〇〇円	九四六円		
一一四〇円	六〇〇円			

合計 金 壹万貳千百八十五圓 (昭和三年度)

其ノ四 其ノ一至其三以外ノ諸經費

金額	種目
三〇〇圓	通信費
二〇〇圓	練習用具費
三〇〇圓	練習場使用費
三〇〇圓	廠舎借入使用費
五〇〇圓	馬糞費
五〇〇圓	豫備費
二、〇〇〇圓	合計

合計 金 貳千圓

(昭和三年度金壹千圓 昭和三年度金壹千圓)

200

300

300

3000

500

500

1055-2

14  
1055-2  
1055-2

1055-2  
1055-2

1055-2  
1055-2

1055-2  
1055-2

1055-2  
1055-2

1055-2  
1055-2

1055-2  
1055-2

1055-2  
1055-2

1055-2  
1055-2

1055-2  
1055-2

1055-2  
1055-2

保存期限 十年  
 決裁指定  
 決行指定

政務次官 回付決裁 前 一連帶軍 兵  
 參與官 後 課名

房官臣大	課局務主	大臣	件名	番號	受領	
了結 領受	出提 領受	局長 主務 次官 政務 次官 高級 副官 參與官 主務 副官 官房主計 主務課員 主務技師 審案 筆記者	國際馬術競技陸軍豫選參加者人選要領ノ件	壹第一六六號	廳名 陸軍豫選審査委員長	
大正 年 月 日	大正 年 月 日					局長
大正 年 月 日	大正 年 月 日					主務 局長
大正 年 月 日	大正 年 月 日					次官
(決行)後 回覽		參與官	政務次官 回付決裁 前 一連帶軍 兵 參與官 後 課名 決行(決裁)後 回覽 課名			
局長		高級 副官	廳名 陸軍豫選審査委員長			
局長		主務 副官	廳名 陸軍豫選審査委員長			
局長		官房主計	廳名 陸軍豫選審査委員長			
局長		主務課員	廳名 陸軍豫選審査委員長			
局長		主務技師	廳名 陸軍豫選審査委員長			
局長		審案 筆記者	廳名 陸軍豫選審査委員長			



審案 第七

指令案

五月十四日附國馬第一號由請ノ通  
認可ス

陸軍部第二九八號五月十六日

陸軍部



陸軍省第一六六號

國馬第一號

國際馬術競技陸軍豫選參加者人選要領

ノ件

昭和二年五月十四日 陸軍豫選審事部長三好一

陸軍大臣白川義則敬

首題ノ件陸普第一八三號現役陸軍將校同相  
當官ノ國際馬術競技參加ニ関スル規定第四條  
第三項ニ依リ別紙ノ通り定メタルニ付認可相成  
度

陸軍省  
2. 5. 16  
午前 8 時  
官房在籍  
納見

陸軍省  
2. 5. 16  
午前  
馬政課

陸軍省第一六六號

陸軍



別紙

國際馬術競技陸軍豫選參加者人選要領  
 審査委員ハ全軍參加候補名簿受領後詮衡  
 會議ヲ開キ右名簿騎兵學校又ハ乘馬大會  
 等ニ於ケル馬術成績、考科表其他參考資  
 料ニ據リテ詮衡シ參加資格者十名ヲ決定  
 ス

但シ右詮衡會議ハ五月十六日騎兵監部ニ於テ  
 之ヲ行ヒ其結果ハ陸軍豫選審査方法ト共  
 ニ陸軍大臣ニ報告シ認可ヲ受クルモノトス

陸軍

1060

保存期限  
決裁指定  
執行指定  
開

大臣 大		件名 臺第一六六号 城戸騎兵少佐海外居住ノ件		受領 號領		受領 號領	
主務局長 代		政務次官		大正 年 月 日		大正 年 月 日	
高級副官		參與官		大正 年 月 日		大正 年 月 日	
主務副官 官房御用掛		書記官		大正 年 月 日		大正 年 月 日	
主務課員				大正 年 月 日		大正 年 月 日	
主務課長				大正 年 月 日		大正 年 月 日	
局長				大正 年 月 日		大正 年 月 日	
主務局長				大正 年 月 日		大正 年 月 日	
主務課長				大正 年 月 日		大正 年 月 日	
局長				大正 年 月 日		大正 年 月 日	

政務次官回付 決裁前後連帶馬政

執行(決裁)後  
回覽課名

臺第一六六号  
軍務局軍事課

臺 軍

1061

本ノ

# 説明ターゲット

次の原稿破損

5年9月3日

主務者又は

撮影立会者

加部東保夫



アジア歴史資料センター

1901

本人発令后執行せう

軍  
謀

大馬車外務大臣、直條 (陸善)

左記ノ者今般馬事研究誌和蘭國ニ於ケル「オリンピック」大會馬術選手トシテ該競技ニ参加ノ為同國及佛國ハ差遣スルニ付到着ノ上ハ便宜ヲ興、テ、操出先帝國官憲、可必通達方取計相成度  
リテ日友ハ未ル十月十九日横濱出帆ノ自山丸ニテ印政洋陸由海取可必ニ付申條

左記

陸軍騎兵少佐 城戸 俊三

五二五五

大島より城戸少佐、訓令  
別紙ノ通

三二

別宮より教育総監部本部長、佛国在

訪立園大使殿付成、通牒

左記ノ者人般海外、出張仕命別紙ノ通訓

令セラレタルニ付、承知相成致

左記

陸軍騎兵少佐城戸俊三

五二五五

陸軍

陸軍騎兵少佐 城戸俊三ニ與フル訓令

今般海外ハ差遣ニ就テハ左ノ通心得ハレ

一、差遣ノ目的ハ和蘭及佛國ニ於テ馬事研

究ニ從事シ且和蘭ニ於テ「オリンピック」大會

本邦馬術選手トシテ該競技ニ参加スルニ在リ

二、差遣期限ハ往復ヲ合シ約八箇月トシ往路ハ

印度洋、歸路ハ西比利亞ヲ經由スヘシ

三、軍事上機密ニ屬スル事項ヲ調査スルニ當リ

テハ周到ナル注意ヲ以テ事ニ從ヒ苟モ當談

國ノ軍機ヲ漏洩シ國交上ノ支障ヲ誘致ス

是  
見

ルカ如キコトアルヘカラス

四、調査又ハ諸視察ニ関シテハ諸事當該國在  
勤帝國大(公)使館附武官ニ稟議シ彼我ノ  
法令ヲ遵守シ帝國軍人ノ體面ヲ重シ其ノ  
目的ヲ貫徹スルヲ要ス

五、調査シタル事項ハ歸朝後一箇月以内ニ其  
ノ詳細ヲ筆記報告スヘシ



陸軍騎兵少佐城戸俊三ニ與フル訓令

今般海外ハ差遣ニ就テハ左ノ通心得ヘシ

一、差遣ノ目的ハ和ヲ蘭及佛國ニ於テ馬事研

究ニ從事シ且和ヲ蘭ニ於テ「オリンピック」大會

本邦馬術選手トシテ談競技ニ参加スルニ在リ

二、差遣期限ハ往復ヲ合シ約ハ箇月トシ往路ハ

印度洋、歸路ハ西比利亞ヲ經由スヘシ

三、軍事上機密ニ屬スル事項ヲ調査スルニ當リ

テハ周到ナル注意ヲ以テ事ニ從ヒ苟モ當談

國ノ軍機ヲ漏洩シ國交上ノ支障ヲ誘致ス

ルヨ如キコトアルヘカラス

四、調査又ハ諸視察ニ関シテハ諸事當該國在  
勤帝國大(公)使館附武官ニ稟議シ彼我ノ  
法令ヲ遵守シ帝國軍人ノ體面ヲ重シ其ノ  
目的ヲ貫徹スルヲ要ス

五、調査シタル事項ハ歸朝後一箇月以内ニ其  
ノ詳細ヲ筆記報告スヘシ

帝馬發第二二七號

昭和四年四月八日

社団法人帝國馬匹協會  
會頭 伯爵 松平 賴 壽

陸軍大臣 白川 義 則 殿

第九回國際「オリムピック」馬術選手派遣ニ關スル件

拜啓益々御多祥奉賀候

豫テ御高配ニ預リ候第九回國際「オリムピック」馬術選手派遣ニ關スル

一般狀況並收支決算書別紙ノ通り御報告申上候 敬 具

追テ詳細ナル狀況報告ハ選手ヨリノ提出ヲ待ツテ御報告可申上候

別紙  
常課保管  
四月二十三日  
馬政課  
印者務注



海軍  
4.4.9  
會

昭和二年  
一五五  
四月九日

社団法人 帝國馬匹協會

別紙も添  
あつた



1069

別紙  
甲  
書

島  
政  
保

注意

(本審案用紙八三年以内保存ノモノニ使用スルモノトス)

政務次官回付 決裁前連帶課名 決行(決裁)後回覽課名

保存期限 決裁指定 決行指定 閱

大臣		大臣		大臣	
局長 主務		次官		政務 次官	
課長 主務		高級 副官		參與官	
主務課員		主務副官 官房御用掛		書記官	
		納見		審案 筆記者	
房官臣大		課局務主		件名	
了結 領受		出提 領受		番 號 領	
大正 年 月 日		大正 年 月 日		大正 年 月 日	
大正 年 月 日		大正 年 月 日		大正 年 月 日	
(裁決)行決 覽回後		帶 連		起元應(課)名	
長局		長局		帝國馬匹協會	
長課		長課		國際「オリムピック」馬術競技ニ関スル件	

次官より 帝國馬匹協會の頭、教育總監部

本部部長、陸軍豫選審査委員長三好中將

獨逸<sup>駐在</sup>及佛國<sup>駐在</sup>大使館附武官<sup>第1師団長</sup>

昭和三年和蘭ニ於テ開催セラルルキ國際「オリ

ムピック」馬術競技選手タル陸軍現役將校迄

之ニ伴フ軍馬ノ取扱ニ関シ左記ノ通定メラル

追テ選手決定ニ関スル陸軍豫選審査ハ之

ニ依リ終結セルモノト承知アリ度シ

左記

五三三七

一帝國馬匹協會の頭ノ請願ニ係ル國際「オリム  
ピック」馬術競技ニ於ケル我國代表選手左

1072  
左記の通り

江 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二

1029

京師が徳和の長に連係  
冬 平

記四名ノ者ヲ派遣スルコト及之ニ伴フ陸軍  
騎兵學校保管馬ノ同競技ニ参加スルコ  
トヲ承認ス

選 手

調教競技 陸軍騎兵中佐 遊佐幸平

同 同 少佐 岡田小七

綜合競技 同 少佐 城戸俊三

大障礙越 越競技同 大尉 吉田重友

三選手タル將校ハ帝國馬匹協會ニ頭ノ請願  
ノ計畫ヲ考慮シ陸軍ニ於テ馬事ノ研究  
途ヲオコシビツクシ競技ニ参加セシムル爲メ之ヲ歐

選 手



洲ニ派遣ス

選手タル將校、乘用スルキ陸軍騎兵學校  
 保管馬ハ所要期間之ヲ帝國馬匹協會ヲ  
 シテ使用セシム、其ノ細件ニ関シテハ陸軍騎兵  
 學校長並帝國馬匹協會々頭、協定ニ依ル  
 三本件ニ要スル一切ノ經費ハ帝國馬匹協會ノ  
 負擔トス、但シ選手派遣ニ要スル旅費ノ一  
 部ハ陸軍ニ於テ負擔スルモノトシ其ノ限度  
 ニ関シテハ別ニ之ヲ定ム又軍馬使用期間ニ  
 於ケル給與ニ関シテハ馬糧定量内ニ於テ陸  
 軍騎兵學校長ノ定ムル額ヲ帝國馬匹協會

1075

ニ交付ス

陸  
軍

昭和二年十月二十四日

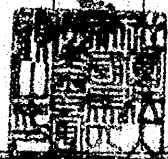
陸軍大臣白川義則殿

常務第二三七號

昭和二年十月二十四日

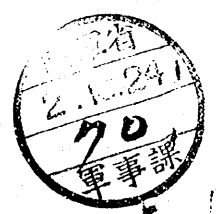
陸軍大臣白川義則殿

社団法人帝國馬匹協會會頭伯爵松平頼



科啓時下益々御清祥奉賀候陳者豫テ帝馬發第ニ九號  
ヲ以テ請願致置候國際「オリンピック」馬術競技代表選手ハ  
陸軍ヨリ選手四名馬四頭御派遣御願致度此段得具意  
候 敬具

追テ右御認可御決定相成候ハ下御手数御通報煩ニ度尚  
遣其他細部ニ關シ種々御指示相仰キ度存居候間亘敷御願  
申上候



社団法人帝國馬匹協會

卷一六六

賽券第一一九號

九月三日

馬政第四號

賽券  
2. 10. 11.  
馬政

2. 1. 3.  
70

國際「オリンピック」馬術選手派遣費補助ニ就キ請願

馬術ハ古來我國ニ於テ最モ重要視シ来リテ其ノ技能見ルヘキ者歎シトセズ 既往ニ於ケル國際「オリンピック」競技ニ既ニ我國ヨリ馬術選手ヲ出場セシメ其ノ技能ヲ十分發揮セシメ技術ノ向上進歩ヲ圖ルト共ニ馬匹改良ノ資料ヲ得ルヲ緊切トセシメ拘テ諸種ノ事情ハ今日ニ至ル迄未ク其ノ實現ヲ見サレハ甚ク遺憾ニ存居候處近時著シク馬匹改良ノ實績舉リ馬術ノ進歩モ特ニ顯著ナル者アルハ世既定評アリ恰カモ明年ハ第九回國際「オリンピック」競技ノ開催セラルルアリ此ノ機ヲ逸セス選手ヲ派遣シ其ノ技能ヲ十分發揮セシムル我カ國威ノ發揚上極メテ必要ニシテ又其ノ馬匹ノ能力ヲ列強諸國ノ出場馬ト對照シテ得失ヲ考察スルハ吾馬ノ生産並育成調教ノ為メ價值アル資料ヲ得ルモノト信シ居候

1078

馬政課

至費員支出

本件ハ主價田分商  
決定ノ書面ニ  
...

心 得 揚 機 評 少 言 ト 術 兵

8401

馬政課 10%

軍事課

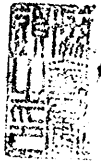
至費支出区分ノ関レ一應兼知シ

本件ノ主領用ノ各員ノ於テ年回ノ都合上至急ニ  
決定ノ旨トシテ早急ニ執行ニ至ル迄ハ  
馬政課

茲ニ本協會ハ昨年四月第三回全國賽馬大會ノ決議ニ基キ明年開  
催セラルキ國際「オリンピック」競技ニ代表馬術選手ヲ派遣スヘク今春以  
来諸種ノ準備ヲナシ過般選手ノ選定ニ就キ軍部ニ於テ豫選ヲ行ハ  
レ選手候補ノ決定ヲ見ルニ至リハ御厚情ノ然ラレル所深ク御禮申上候  
就テ右選手候補ハ現時我國ニ於ケル馬術ノ權威者ニシテ他ニ匹敵スヘキ民  
間選手無之候ニ付我國ヨリ代表馬術選手トシテ參加相成様致度候  
間御派遣方可然御取斗ト被下度願上候

馬術選手ノ派遣ハ他ノ競技ト異リ内地ヨリ採用ノ馬匹ヲ擧行セラルル為メ  
其ノ榮養及體力ノ恢復ニ相當ノ日時ヲ要スル關係上本年十二月月中旬  
選手一名馬匹四頭ヲ先發セシメ先地到着、上其ノ恢復ノ為メニ餘裕  
ヲ與ヘ他ノ選手ハ来年五月ノ候先地ニ派遣シ各自調教ノ恢復ヲ圖リ  
タル後競技ニ出場セシメラルル様特ニ御配慮ヲ煩シ度候





右派遣、經費、別紙調書ノ通本協會ニ於テ負擔可致農林文部  
 兩省ニ於テモ種々御諒解下ニ支々御補助相成等ニ外ニ帝國競馬協  
 會ヨリ既ニ本年補助金ヲ支出スルコト相成居候ニ付國費御多端ノ折  
 柄恐縮ニ存候ヘトモ特別ノ御詮議ヲ以テ貴省ヨリ派遣費ヲ御補  
 助相成様致度此段及請願候也

昭和三年九月二十九日

社団法人帝國馬匹協會 會頭 伯爵 松平頼幸



陸軍大臣 白川義則閣下

昭和三年八月 和蘭ニ於ケル  
第九回國際ヨカリムピヅル馬術競技日本選手送還費調書



昭和三年度國際馬術競技選手派遣費調書

總額

金六万六千壹百貳圓也

昭和三年度 金貳万六千五百五十七圓

支出概分

昭和三年度

金四万五千四百四拾五圓也

内

譯

其人

出場馬匹(往路)

昭和三十二年十二月下旬内地出發、先發選手一百人  
三(内一名、歸國外人ヲ使用ス)

口月人	馬匹	選手	人数	江邊
三	四	一	數	
濱	塞	馬	發到看	海上
	耳	昭和三	發到看	輸送
	五月五日	年	到看日	
	二月一日	昭和三	輸送	
		年	日數	
日九十四	塞	耳	馬匹體順	歐州着後
	(六十日)	四月五日	復滞在	輸送並滞在日數
	里	塞	輸送	
	里	耳	馬匹調教	
	(七十五日)	至四月二日	滞在	
		六月五日	汽車	
ムルスマ	ムルスマ	一	輸送	
	ムルスマ	至	競技滞在	
	(六十日)	八月五日		

其二 旅行計画ニ要スル諸經費

人員	選手一		馬匹四		口千人三		合計
	内地	外地	内地	外地	内地	外地	
人員數	七〇〇		五五〇	五五〇	三五〇		
車馬賃	一三五〇		一〇〇	九〇	九〇		
車賃	一八〇		一八〇	一八〇	一八〇		
取賃	一〇〇〇						
日當	二二五八	六〇			一〇〇〇	二五〇	
宿泊料	四八二四	八〇	一〇〇五		二八一四	四五〇	
入館料	八九七	一七六	三〇五	六〇	四八一四	一〇二〇	
合計	八九三四六		三二二六〇		二〇〇〇		

合計 金三万二千八百四十叁圓 (昭和三年度金五万九千六百五十七圓、三年度金一万九千八百六十四圓)

備考

口千人タル 歸國外人ハ往路輸送ニ方リ經驗アル者ヲ  
備入ルモノニテ滞在費及船任員諸手當ヲ合シ金三千圓

其二 選手（往復）

昭和三年五月一日東京府此野西宿利鉄道  
ニヨリノパスケルケム市至ルモノ

選手	派遣者	数	往	路
三	出	出	出	出
京	着	到	到	到
里	日	一	月	五
日	日	六	十	月
間	日	六	十	日
里	巴	滞	在	路
(三十日)	自五月廿日	至八月廿四日	自六月廿六日	
ムタルスAP	ムタルスAP	ムタルスAP	ムタルスAP	
(七十日)	出	出	出	出
京	着	到	到	到
九	日	一	月	五
日	日	六	十	月
間	日	六	十	日

其二 旅行計畫ニヨル諸経費

選手	派遣者	数	度	料
三	出	出	出	出
三	着	到	到	到
五	日	一	月	五
日	日	六	十	月
間	日	六	十	日
里	巴	滞	在	路
(三十日)	自五月廿日	至八月廿四日	自六月廿六日	
ムタルスAP	ムタルスAP	ムタルスAP	ムタルスAP	
(七十日)	出	出	出	出
京	着	到	到	到
九	日	一	月	五
日	日	六	十	月
間	日	六	十	日

合計 金壹万九千七拾四圓也 (昭和三年度)

其ノ三

出場馬 (歸路)

競技終了後、アムステルダム、プロシヤ、汽船ヨリ地  
ハ歸還スルモ、ミシシッパ、巡行トシテ選手ニ多ク附ス

口馬人	馬匹	選手	汽車輸送		船舶輸送	
			出発	到着	出発	到着
二	四	一	ムタルテスマ	ポートソ	ポートソ	横濱
			出発日 八月二十日	到着日 八月三十日	出発日 八月二十六日	到着日 十月十日
			日数 五日間		日数 四日間	

其ノ三

旅行計畫ニヨル諸經費

口馬人	馬匹	選手	汽車輸送		船舶輸送	
			出発	到着	出発	到着
二	四	一	ムタルテスマ	ポートソ	ポートソ	横濱
			八月二十日	八月三十日	八月二十六日	十月十日
			五日間		四日間	
			汽車賃 八〇〇円	船舶賃 一三〇〇円	汽船賃 一三〇〇円	汽船賃 一三〇〇円
			日當 五三〇円	宿泊料 一三〇円	入込額 一九三〇円	合計 一九三〇円
			二五〇円	七〇円	五七〇円	一一四〇円
			二二二円	二五円	一九七五円	七、九〇〇円
			八〇〇円	(馬糞費)	一五円	六〇円
			五五五円	一〇四円	一九七五円	七、九〇〇円
			五五五円	一〇四円	一九七五円	七、九〇〇円
			五五五円	一〇四円	一九七五円	七、九〇〇円

合計 金 壹万貳千八百八十五圓 (昭和三年度)

其ノ四 其ノ一乃至其三以外ノ諸經費

金額	種目
三〇〇圓	通信費
二〇〇圓	練習用具費
三〇〇圓	練習場使用費
三〇〇圓	廠舎借入使用費
五〇〇圓	馬藥費
二五〇圓	豫備費
二、〇〇〇圓	合計

合計 金 貳千圓

(昭和三年度金壹千圓 昭和三年度金壹千圓)

老 第一六六 二

實錄 二一九號

昭和二年九月二十九日

# 陸軍大臣白川義則殿

社人帝國馬匹協會會頭伯爵松平賴重



拜啓時下益々御隆昌奉賀候陳者昨年四月第三回全國  
 乘馬大會決議ニ基キ昭和三年和蘭ニ於テ開催セルヘキ  
 第九回國際「カリムピック」馬術競技ニ我國ヨリ馬術代表選手  
 派遣致度本協會ニ於テ今春以來諸準備罷在候處選手  
 及馬選定ニ就テハ軍務御多用中ニ拍え過般軍部ニ於テ豫  
 選ヲ行ハレ選手候補者御通報ニ預リ厚ク御禮申上候就テハ  
 右御通牒ヨリ陸軍代表選手ヲ以テ我國馬術代表選手ト決定  
 派遣致度候間御認可相成度候尚選手派遣ニ就テハ各

1089

別冊  
ノニ付  
本紙

老 二 六 二

寫 二 一 九 號

昭和二年九月十九日

# 陸軍大臣白川義則殿

社 團 帝 國 馬 匹 協 會 會 頭 伯 爵 松 平 賴 喜



者 昨 年 四 月 第 三 回 全 國

馬 術 競 技 我 國 馬 術 代 表 選 手

第 九 回 國 際 馬 術 競 技 我 國 馬 術 代 表 選 手

派 遣 致 度 本 協 會 於 今 春 以 來 諸 準 備 罷 在 候 處 選 手

及 馬 選 定 就 軍 務 御 多 用 中 拍 之 過 般 軍 部 於 祿

選 行 候 選 手 候 補 者 御 通 報 預 厚 御 禮 申 上 候 就

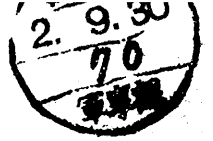
右 御 通 牒 陸 軍 代 表 選 手 以 我 國 馬 術 代 表 選 手 決 定

派 遣 致 度 候 間 御 認 可 相 成 度 候 尚 選 手 派 遣 就 各

1089

別 冊 本

各定頁稼等手キ國



6801  
1089

別冊  
ノ三竹  
本紙  
廉  
葉書  
款トス  
如ク  
因  
矣  
訂  
正  
セ  
レ  
モ



自馬匹ヲ携行ノ為メ其ノ榮養及體力ノ恢復ニ相當時日ヲ要  
 スル關係上本年十月中旬選手一名馬匹四頭ヲ先發セシメ先地  
 ニ於テ榮養及體力ノ恢復ヲ為サシメ競技出場ノ諸準備ヲ整  
 ヘシメ他選手ハ來年五月先地ニ派遣シ各自調教ノ恢復ヲ圖リ  
 後競技ニ出場セラルル様致度候間御承認被成下度候  
 選手派遣ノ經費ハ別紙調書ノ通相當多額ノ金額ヲ要シ候間  
 國費御多端ノ折柄恐縮ニ存候トモ特別ノ御論議ヲ以テ貴省  
 ニリ御補助ヲ仰キ此ノ有意義ニシテ國際的ニ競技ニ我國代表馬  
 術選手ノ派遣ヲ容易ナラシムル様特ニ御配慮煩シ度此段御願申  
 上候敬具

追テ馬匹口戸人トシテ陸軍部内ニ於ケル適任者御選定派遣追ノ儀併セテ  
 御願申上候

昭和三年八月 和蘭ニ於ケル  
第九回國際「オリンピック」馬術競技日本選手派遣費明書

派遣 人馬	選手	馬匹	口人
數	一	四	三
發到者	横馬	塞耳	濱塞
出發日	昭和三年	五月五日	
到着日	昭和三年	二月一日	
輸送日數	四十九日		
馬匹体順復滞在	馬自三月一日至四月六日	塞耳	塞耳
調教	在 四月二日至六月五日	塞耳	塞耳
汽車輸送	在 四月二日至六月五日	塞耳	塞耳
競技滞在	在 六月六日	塞耳	塞耳

其人( 出場馬匹(往路) 昭和三年十二月中旬内地出張、先發選手一〇五人 三(内一名ハ總團外人ヲ使用ス

内 譯

昭和三年度ハロッキ馬術競技選手派遣費調書

總額

金六万六千壹百貳圓也

支出部分

昭和三年度

金四万五千四百拾五圓也

金貳万六千五百五十七圓

其ノ一 旅行計出ニ要スル諸經費

人員	選手		馬正		口斤人	合計	人員	馬	遺	數	處分	支度料	汽車	車馬賃	船賃	日當	宿泊料	入頭(宛)	合計	
	内地	外地	内地	外地																内地
三						合計														
	内地	外地	内地	外地	内地	金	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
						二万二千八百四十	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
						圓	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
						(昭和														
						三年度														
						金														
						七十九万九千六百五十七圓)														
						(口斤人														
						及船任員														
						諸手當														
						ヲ合シ														
						金														
						二千圓)														

備考

口斤人等ノ歸國外人ニ往路輸送ニ方リ經驗アル者ヲ  
備入ルモ滞任員諸手當ヲ合シ金二千圓

其二  
選手（往復）

昭和三年五月一日東京駅出発西伯利亞  
ニヨリノアマスルガムニ至ルモノ

選手	派遣者	数	往出	着到	往	往	往
三	三	三	往出	着到	往	往	往
京	京	京	往出	着到	往	往	往
里	巴	着到	往出	着到	往	往	往
日一月五	日一月五	日一月五	日一月五	日一月五	日一月五	日一月五	日一月五
日六十月五	日六十月五	日六十月五	日六十月五	日六十月五	日六十月五	日六十月五	日六十月五
間日六十	間日六十	間日六十	間日六十	間日六十	間日六十	間日六十	間日六十
里	巴	滞	往	往	往	往	往
(三十日)	至五月七日	至五月七日	至五月七日	至五月七日	至五月七日	至五月七日	至五月七日
ム	ム	ム	ム	ム	ム	ム	ム
(七十日)	自六月十六日	自六月十六日	自六月十六日	自六月十六日	自六月十六日	自六月十六日	自六月十六日
ム	ム	ム	ム	ム	ム	ム	ム
京	京	往出	往出	往出	往出	往出	往出
九	九	九	九	九	九	九	九
日	日	日	日	日	日	日	日
間日六十	間日六十	間日六十	間日六十	間日六十	間日六十	間日六十	間日六十

其二

旅行計畫ニヨル諸経費

選手	派遣者	数	往出	着到	往	往	往
三	三	三	往出	着到	往	往	往
五	五	五	往出	着到	往	往	往
日	日	日	日	日	日	日	日
一五二〇	一五二〇	一五二〇	一五二〇	一五二〇	一五二〇	一五二〇	一五二〇
日	日	日	日	日	日	日	日
三三四〇	三三四〇	三三四〇	三三四〇	三三四〇	三三四〇	三三四〇	三三四〇
日	日	日	日	日	日	日	日
三三四八	三三四八	三三四八	三三四八	三三四八	三三四八	三三四八	三三四八
日	日	日	日	日	日	日	日
六三五八	六三五八	六三五八	六三五八	六三五八	六三五八	六三五八	六三五八
日	日	日	日	日	日	日	日
一九〇七	一九〇七	一九〇七	一九〇七	一九〇七	一九〇七	一九〇七	一九〇七
日	日	日	日	日	日	日	日
計	計	計	計	計	計	計	計

合計 金 壹万九千七百四十四圓也 (昭和三年度)

其ノ三 出場馬 (歸路)

競技終了後、アムステルダム、フレイヨリ汽船ヨリ出港。其ノ地  
ハ歸還スルモ、ミシシッパ州トシテ選手一名ヲ附ス

口 馬 選 手 人 匹 手 數	選 手 數	汽 車 輸 送		船 輸 送	
		出 発 日	到 着 日	出 発 日	到 着 日
二	一	ムタルスムP	八月二十日	八月二十日	八月二十日
		ポートンプ	到着	八月二十日	八月二十日
			五日間		
		ポートンプ	横濱	八月二十日	八月二十日
			到着	十月十日	十月十日
					四日

其ノ三 旅行計畫ニヨル諸經費

口 馬 選 手 人 匹 手 數	選 手 數	區 分		汽 車 賃 金	船 賃	日 當 宿 泊 料	入 入 頭 宛	合 計
		外 地	内 地					
二	一	外 地 五五〇円	内 地 一〇〇円	汽車賃 八〇円	船賃 一三〇円	五三〇円	一九三〇円	一九三〇円
		外 地 五五〇円	内 地 一〇〇円	汽車賃 一〇〇円	船賃 一三〇円	六四	一九三〇円	一九三〇円
		外 地 五五〇円	内 地 一〇〇円	汽車賃 一〇〇円	船賃 一三〇円	七〇円	一九三〇円	一九三〇円
		外 地 五五〇円	内 地 一〇〇円	汽車賃 一〇〇円	船賃 一三〇円	七〇円	一九三〇円	一九三〇円
		外 地 五五〇円	内 地 一〇〇円	汽車賃 一〇〇円	船賃 一三〇円	七〇円	一九三〇円	一九三〇円
		外 地 五五〇円	内 地 一〇〇円	汽車賃 一〇〇円	船賃 一三〇円	七〇円	一九三〇円	一九三〇円
		外 地 五五〇円	内 地 一〇〇円	汽車賃 一〇〇円	船賃 一三〇円	七〇円	一九三〇円	一九三〇円
		外 地 五五〇円	内 地 一〇〇円	汽車賃 一〇〇円	船賃 一三〇円	七〇円	一九三〇円	一九三〇円
		外 地 五五〇円	内 地 一〇〇円	汽車賃 一〇〇円	船賃 一三〇円	七〇円	一九三〇円	一九三〇円

合計 金 壹万貳千八百八十五圓 (昭和三年度)

其ノ四 其ノ一至其三以外ノ諸經費

金額	種目
三〇〇圓	通信費
二〇〇圓	練習用具費
三〇〇圓	練習場使用費
三〇〇圓	廠舎借入使用費
五〇〇圓	馬糞費
五〇〇圓	豫備費
二,〇〇〇圓	合計

合計 金 貳千圓

(昭和三年度 金 壹千圓  
昭和三年度 金 壹千圓)

1097

軍事謀略中一 在野謀

一七年の秋、支那の中央五省に陸

軍を派遣する事ありト曰ふ事

但し其の定数、師を有し陸軍外の旅費  
規程より表に出るに依りて

二、此旅費の所要は陸軍の就るべき

別旅費の新規要求等、要求中

に於て是れ、陸軍の必要に抑

他者所管の陸費を以てし、以て

軍費増進の必要に對して他者より

支拂はるべき



本請願ノ件ハ左ノ通取扱ハレ度意見

左記

昭和二年十月廿六日

馬場政

一、帝國馬匹協會ノ認メタル本邦選手タル陸

現役將校ノ同選手タルコト及之ニ伴テ軍馬カ同協會

ノ事業ニ参加シ國際競技ニ出場スルコトヲ承認スル

コト

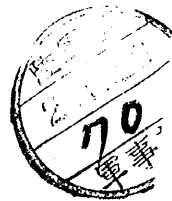
二、前掲ノ選手ハ左ノ四名トシ軍馬ハ其ノ兼馬四頭以内トス

選手 所属 陸軍騎兵學校

(純馬術競技予定) 陸軍騎兵中佐 遊佐幸五

(同 右 予定) 同 少佐 岡田小七

860



660T

主計課債明ニ對シテ  
一、豫選ノ結果全部陸軍將校ニ於テ  
軍援助ヲ請フルコトトシ馬匹協會  
兼、新規事項ヲ含ミ政變ノ結果  
拘テ先ツ陸軍選手ノ出賽ヲ必要  
決テ之ヲ本件成立ヲ見ルハサレ  
同ノ清願者ヨリ夫等取アリタリ  
二、陸軍馬術軍馬ノ調教ノ管理ニ  
備テテ利敵タルコトヲ陸軍ヲ  
允テ本邦馬事ノ振興ニ基テ國内  
依リ國內馬事ニ與ヒ他大ニ關係  
此件、同ノ陸軍軍馬ノ主張ニ由  
馬術協會中研究ノ為ニ由テ同ノ案

70

馬政課

6607

陸軍

力同

承認

以內

佐幸五

田小七

主計課領明ニ對スル答

十月二十六日

馬政課

一 陸軍、結果全部陸軍將校ニ於テ本邦陸軍推テ獲得スル陸軍援助ヲ誘引セシメ下地島國協會、務期シテ敗原中ニ各省隊兼、新規事項ヲ含ミ政變ノ結果其ノ成立ヲ危公ニ至リタル點ニ拘テ先ツ陸軍將校等ノ出發ヲ必要トスルニ至リ此際陸軍將校等ノ決允シテ本件成立ヲ見ルハ此ノ情態ニ隨テ陸軍將校等ノ國ニハ清國政府ニ對テ參照ヲ行ハシ

二 陸軍、馬術軍馬ノ調教ノ管理ニ對テ最適ノ研究ヲ行ハシ又備大ナル利敵ニシテ其ノ陸軍ヲ列強陸軍ノ競争場裡ニ立シ

三 尙未前ノ事項ニシテ其ノ陸軍將校大ナリ

四 又本邦馬術、採興ニ基テ國防狀備ニシテ以テ本件ノ執行ニ依リ國內馬術ニ與ヒ他大ニ腐習ニ直シ陸軍ノ利益ニシテ又此件、固シ陸軍將校ノ主張ニ適應スル途アリ

馬術研究、為私團及佛團等ニ任務ヲ與ヒ之ヲ行ハシ

意見

# 説明ターゲット

次の原稿破損

5年9月3日

主務者又は

撮影立会者

加部東保夫



アジア歴史資料センター

七 万 トス スル 會

1100

本件ニ関シテ諸國保護臣等見 承約致意

一、本件整頓手山均ニ元米協會ニテ其ノ名義

ヲ下シテ協成ニ依リテ其ノ元在ニ同業ヲ知  
於テ更ニ取シ得ルニ至リテ其ノ經過

二、陸軍トシテ多數ノ隊員ヲ制シテ其ノ陸軍ノ

名義ヲナサシムノ事ありヤ

三、陸軍ヲ以テ以テ出均セシムトセハ如何ニ目的  
(名目)ノ下ニナサシムヤ

書 字

26. 10

主 中 保

(綜合馬術競技不足) 陸軍騎兵少佐 城戸俊三

(大障得飛越競技不足) 同 大尉 吉田重友

三、選手以下ノ旅行計画ハ左ノ通トス

往

城戸少佐及重友

二年十月中旬出發(白山丸)マニラ、セブ、及巴里ニ各約二ヶ月  
同場在六月中旬和蘭ニ至リ八月下旬返滯在ス

其他

三年五月上旬出發(西伯利亞)巴里ニ至リ先發者ニ合ス

復

選手一名及軍馬

三年八月下旬「アントワープ」至由船期ニ依リ十月中旬帰任

其他

三年八月下旬和蘭出發西伯利亞由、九月中旬帰任

四、本件所要經費ハ左ノ通リトス

(1) 選手四名ニ對スル陸軍旅費ハ査定額ニ依ル

査定ノ限度ハ三名(先發員ヲ含ム)ニ對スル合計定額ヲ四

名ニ配當セル額ヲ以テ支給ノ高限トシ其ノ二年度ニ屬ス

ルモノハ定額ニ依リ支給シ三年度ニ属スルモノハ高限ノ残額ヲ限度トシ帝國馬匹協會ノ負擔力増加程度ヲ調査シタル上陸軍支給額ヲ減額ス

但シ選手ハ定額ヲ受クルモノトシ定額ト査定額トノ差額ハ帝國馬匹協會ノ負担トス

以上ノ要領ニ依ラントスルハ畢竟本件成立ノ爲ニ陸軍ニ於テ三人分ノ旅費相當額ヲ出費スルモ馬匹協會ニ對スル三年度各者補助及競馬協會助成金ノ成立金額ニ依リテハ陸軍ノ負擔ヲ莫ニ減額スルコトニ關係者間ニ協定セラレアルニ由ルモノトス

(ロ) 軍馬其他本件ニ要スル前掲以外ノ経費ハ凡テ帝國

馬匹協會ノ負擔トス

但軍馬存続ヲ離レタル期間ニ對スル給與定量ニ對  
スル金額ハ適法ノ年級ニ依リ之ヲ帝國馬匹協會ニ  
交付スル方法ト依ル

五、選手ノ事件ニ基ク傷病不慮ニ對シテハ相畜ノ恩典ニ  
浴セシム

但シ選手ニ對シテハ帝國馬匹協會ニ於テ相畜ノ生命  
保險ヲ附スル者

陸軍大臣 宇垣一成殿

六九

昭和三年四月五日

陸軍大臣 宇垣一成殿

陸軍大臣 宇垣一成殿



科啓陳者三月二十日帝馬發第五六號ヲ以テ國際ヨリム

ピク馬術競技選手選出ニ關シ御願申上候ニ就テ當方

豫選期日ハ諸種ノ都合ヨリ左記白次ニ變更仕候間御報

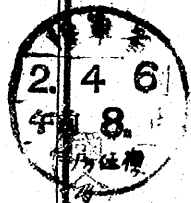
申上候 尚二月一日帝馬發第一七號ヲ以テ御願申置候

委員外ニ豫選ノ為ニ審査委員數名御指定相煩シ

度此段御願申上候 敬具

五月二十日 綜合馬術(持久力ヲ除ク)純馬術、大障礙

同二十日 持久力審査



軍事第七〇號



審査本  
協会の註  
モト認  
研公中



1105

後、中、小、大、各、部、に、出、向、し、テ、之、ノ、必、要、ノ、事、ヲ、  
考、察、シ、テ、之、ヲ、研、究、申、上、ル、ニ、由、リ、部、内、人、選、考、法、及、部、  
内、手、選、考、法、ニ、關、シ、テ、其、ノ、可、行、性、ヲ、考、察、ス、ル、ニ、由、リ、  
之、ノ、結、果、ヲ、以、テ、各、部、長、官、ニ、對、シ、テ、申、上、ス、ル、事、ト、ス、  
ル、ニ、由、リ、此、ノ、事、ヲ、以、テ、各、部、長、官、ニ、對、シ、テ、申、上、ス、ル、  
事、ト、ス、ル、ニ、由、リ、  
西政課

審査委員差出ニ因ニテハ  
協会の請願ニ復シ差支ナキ  
モノト認メ目下人選ニ就キ  
研公中ナリ  
西政課

壹 第一久 號其四

五十六番

2. 3. 23  
午後 時  
馬政課

馬政課第四號

陸軍省  
2. 3. 23  
午後 時  
馬政課

陸軍省  
2. 3. 23  
受 23

昭和三年三月十日

陸軍大臣 宇垣一成 殿

社団法人帝國馬匹協會 會頭伯爵松平頼重



料啓陳者昭和三年七月和蘭ニ於テ施行セラルヘキ國際  
リムピックノ競技ニ本邦ヨリ馬術競技選手三名派遣致度希  
望ヲ以テ目下夫々準備中ニ御座候ニ就テ今般別冊豫選  
要領ニヨリ來ル四月十日及同十三日千葉縣習志野陸軍騎  
兵學校及其ノ附近ニ於テ民間選手ノ豫選可致候間  
御多務中乍恐縮軍部ヨリモ適當ノ選手御選出相煩  
シ度此段御願申上候 敬具  
追テ豫選要領百貳拾部來ル二十三日中ニ御送付可申候

社団法人帝國馬匹協會

2011

本  
孫  
下  
句

陸軍省  
2322  
受 23

2011

本  
下 旬  
延 期  
セ ール  
豫 選 競 技 都 合 依 月

1108

昭和二年三月

國際「オリムピツク」馬術競技  
日本代表選手豫選要領

社團  
法人

帝國馬匹協會

國際「オリムピック」馬術競技選手豫選要領

總 則 目 次

第一、綜合馬術競技審査要領……………三

    其一、通 則……………五

    其二、第一次調教程度審査……………六

        (一) 要 則……………六

        (二) 馬場運動實施要領……………七

    其三、第二次持久力審査……………七

    其四、第三次障礙飛越能力審査……………七

    其五、全部ニ對スル採點上ノ特種條件……………七

第二、純馬術競技審査要領……………七

    其一、通 則……………七

    其二、馬術運動實施要領……………七

第三、

其三、探點要領……………	二五
大障礙飛越審査要領……………	二五
其一、通則……………	二五
其二、障礙ノ一例……………	二六

二

# 國際「オリムピック」馬術競技日本代表選手豫選要領

## 總 則

### 一、目的

昭和三年夏期和蘭「アムステルダム」ニ於テ開催セラルヘキ第九回「萬國」オリムピック「馬術競技」參加ノ爲メ其資格ヲ審査豫選スルニ在リ

二、參加者ノ資格ハ馬術ヲ職業トセザル者タルヘシ

三、參加者ノ馬匹ハ制限ヲ設ケヌ又一人ノ騎乗頭數ニ關シテハ各競技細部ノ規定ニヨル

四、審査ノ項目ヲ分テテ左ノ三トシ「オリムピック」本競技ニ準據シ實施スルモノトス

第一、綜合馬術競技

第二、純馬術競技

第三、大障礙飛越競技

其各項目細部ニ關シテハ別ニ示ス所ニヨル

五、審査ノ期日ハ昭和二年四月十一日豫選競技科目（持久力審査ヲ除ク）全部ヲ同四月十三日綜合馬術競技中持久力審査ヲ習志野陸軍騎兵學校及其附近ニ於テ行フ

三

六、參加ヲ希望スル者ハ昭和二年四月五日迄ニ東京市芝區日蔭町一丁目一番地帝國馬

匹協會ヘ左ノ件ヲ具備シ申込ムモノトス

一、參加者ノ氏名

二、參加者ノ所屬乘馬團體

三、參加者ノ住所

四、參加スル競技ノ種類

五、馬匹ノ名

六、馬匹ノ毛色、年齢、性

七、馬匹ノ産地及血統(父母明瞭ナルモノハ之ヲ記ス)

八、馬匹ノ所有主

注意一馬毎ニ一葉ヲ用フヘシ

七、參加者ノ服装、馬装ニ就テハ各競技細部規定ニヨル

八、參加者ノ馬匹ハ四月七日ヨリ陸軍騎兵學校々厩ニ繋留ヲ依托スルヲ得

依托希望者ハ馬匹到着時日ノ豫定及日々馬匹ニ飼與スヘキ糧秣ノ品種及數量ノ一

日分ヲ記入シ到着ノ二日前迄陸軍騎兵學校ニ申込ムヲ要ス

但馬飼料ハ自辨トス



- 九、馬匹附添人ハ各自ニ於テ傭入ル、モノトス
- 十、參加ニ要スル人馬一切ノ費用ハ自辨トス
- 十一、馬匹ノ損傷ニ關シテハ帝國馬匹協會及陸軍騎兵學校ハ其責ニ任セス
- 十二、審査ハ帝國馬匹協會々頭ノ委任スル委員ニ據リ行フ
- 十三、參加者ハ審査ノ決定ニ對シ不服ヲ唱フルヲ得ス
- 十四、各競技審査ノ際其實施ノ順序ハ抽籤ニヨル
- 十五、參加申込者ハ審査實施要領ニ就キテ委員ト打合セノ爲メ綜合競技出場ノ者ハ四月十一日午後一時其他ノ者ハ四月八日午後一時半習志野陸軍騎兵學校内社団法人帝國馬匹協會出張所ニ集合スヘキモノトス
- 十六、本規定ノ變更ハ委員協議ノ後委員長ノ判決ニヨリナスコトアリ  
但一種審査開始後ハ之ヲ終ル迄變更セサルモノトス

### 第一、綜合技術競技審査要領

#### 其一、通 則

- 一、參加者ハ一人一馬ニ限リ同馬ニヨリ全競技ニ從フモノトス  
但申込ニ方リテハ豫備馬一ヲ加ヘ申込ムヲ得

二、綜合馬術競技ハ左ノ三種ニ就キ審査ス

一、第一次調教程度ノ審査

二、第二次持久力ノ審査

三、第三次障礙飛越能力ノ審査

三、參加者ハ受檢ノ爲メ運動ヲ發起シタル後ハ審査委員長ノ許可アルニアラサレハ中止ハ審査ヲ拒ムヲ得ス

審査委員長ハ人馬ノ故障ニヨリ中止ノ已ムナキモノニ對スル判決權ヲ審査委員ニ委任シアリ

四、參加者ハ持久力審査及障礙飛越能力審査受檢直後審査委員長、委員ノ馬検査ヲ受クヘキモノトス

五、服裝ハ現役將校ニアリテハ略裝トシ紳士ニアリテハ乘馬服ヲ着用スヘキモノトス

### 其二、第一次調教程度審査

#### (一) 要 則

一、該審査ハ馬体ノ柔軟ノ程度及騎手ノ扶助ニ從順ノ程度ヲ檢スルヲ目的トス

- 二、運動ハ別ニ示ス所ニヨルヘク誤リタルモノ制限時間内ニ終ラサルモノハ棄權トス
- 三、審査委員ハ所要ニヨリ特ニ運動ノ順序ヲ變更スルコトアルヘシ
- 四、受檢者ハ敬禮ヲ終リテ後十分以内ニ所定ノ運動ヲ完了スヘシ
- 五、馬場ノ形狀及ヒ各種運動ノ發起、終了ノ點ヲ定ムルコト附圖第一ノ如シ
- 六、運動要領次ノ如シ

(二) 馬場運動實施要領

- 一、出入口ヨリ審査席ニ向ヒ任意ノ步度ニテ入場ス
- 二、中央縱蹄跡上G點ニテ審査席ニ面シ停止シ敬禮ス
- 三、常歩ノ運動

- (一) 鞭ヲ長ク緩メタル儘分解、右手前蹄跡ニ入ル
- (二) A點ヨリ馬ヲ收縮セシメツ、中央縱蹄跡線上ニ回轉直行進ス
- (三) D點ヨリB點ヘ、B點ヨリG點ヘ「腰ヲ内ヘ」ニシツ、往復手前變換ヲナス
- (四) G點ニテ停止、馬ヲ真直ニ駐立セシメ不動
- (五) 常歩ニ發進、右手前ニ入ル
- (六) F點ニテ半卷(半徑三米)
- (七) M點ニテ半卷、右手前ニテ行進

四、速歩運動

- (八) F 點ヨリ輕速歩ニ移リM 點迄續行ス(以下速歩運動トナル)
- 馬場一週半上ニ於テ伸暢速歩ト短縮速歩ノ轉移ヲ行フモノニシテ即チ
- (一) M 點ヨリF 點迄尋常速歩
- (二) F 點ヨリH 點迄伸暢速歩(輕速歩ヲ採ルヘシ)
- (三) H 點ヨリB 點迄短縮速歩(前軀起揚ヲ求ムルモノトス)
- (四) B 點ヨリA 點迄尋常速歩
- (五) A ニ到ラントスルトキ中央縱蹄跡線へ回轉シ次テD 點ヨリE 點へE 點ヨリG 點へ腰ヲ内ヘニシツ、手前變換ヲ行フ
- (六) G 點ニテ停、止不動
- (七) 常歩ニテ前進ヲ起シ右手前ニ入り次ニ速歩トナル而テB 點ヨリ右駢歩ニ出發ス(以下駢歩ノ運動トナル)

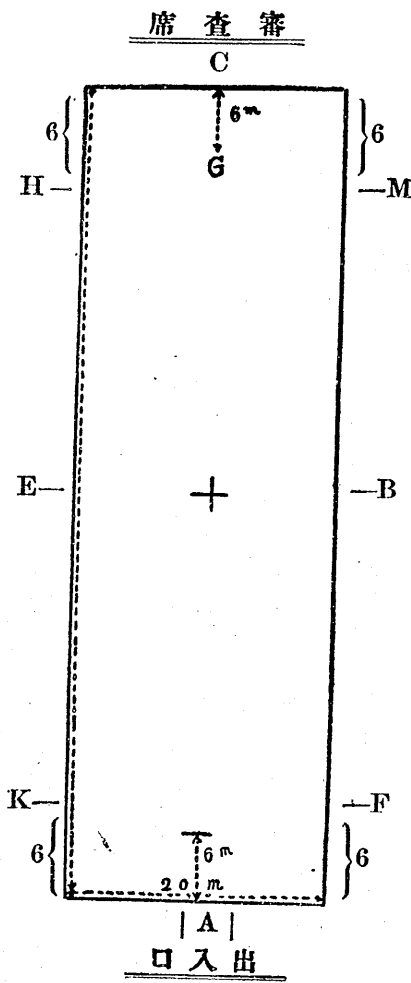
五、駢歩ノ運動

- (一) A 點ヨリ中央縱蹄跡線上へ回轉ス
- (二) 同線上D 點ヨリ右へ卷乘(半徑三米)ヲナシ同卷乘終ラハ速歩トナリ同線上中央點ニ達シタルトキ左駢歩ニ出發ス

- (三) 同線上G點ヨリ左へ卷乘(半徑三米)終リテ左手前蹄跡ニ入ル
- (四) H點ニテ常歩
- (五) E點ニ於テ左駢歩ニ出發
- (六) A點ニ到リ停止、次テ左駢歩ニ出發
- (七) B點ニ到リ停止、次テ四歩後退、次テ左駢歩ニ出發
- (八) M點ヨリ半卷、左駢歩ノ儘トス
- (九) B點ニ於テ常歩トナル
- (一〇) F點ニテ常歩ヨリ右駢歩ニ出發
- (一一) K點ニ到リ停止、次テ右駢歩ニ出發
- (一二) H點ニ到リ停止、次テ四歩後退次テ右駢歩ニ出發
- (一三) M點ヨリ駢歩ヲ伸暢シA點ニ到ル
- (一四) A點ヨリ歩度ヲ短縮シH點ニ到ル
- (一五) H點ヨリ再ヒ歩度ヲ伸暢シF點ニ到ル
- (一六) F點ヨリ再ヒ歩度ヲ短縮シH點ニ到ル
- (一七) H點ニテ半卷、右駢歩ノ儘トス
- (一八) E點ニ到リ常歩トナル
- (一九) K點ヨリ駢歩ニ出發

六、(三)A 點ヨリ審査席ニ面シ駈歩ノ儘ニテ回轉  
中央縱跡線上中央點ニテ停止、不動、次テ鞞ヲ長ク緩ム、敬禮ス

(終リ) (退場任意歩度)



其三 採點要領附表第一ノ如シ  
 附圖第一、綜合馬術競技中第一次調教競技用馬場

## 其三、第二次持久力審査

一、軍馬又ハ野外用馬トシテ持久力ノ程度ヲ檢シ併テ騎手ノ生地ニ於ケル乘御、誘導法ヲ檢スルヲ目的トス

二、當審査ハ總距離約三十六籽ヲ左ノ順序ノ如ク分割騎乗セシムルモノニシテ路上、小徑、障礙飛越場及生地ノ障礙ヲ有スル不齊地ヲ二時間三分二十六秒ニテ通過セシム

- 一、路上行進 約七籽 速度一分間二四〇米
  - 二、障礙飛越場ノ飛越 約四籽、速度一分間五〇〇米飛越回数十二個
  - 三、路上行進 約十五籽 速度 二四〇米
  - 四、不齊地騎乗 約八 籽 速度 四五〇米
  - 五、平坦地行進 約二 籽隨意歩度速度 三三〇米 以上
- 三、以上ノ所要時間ヲ計算スレハ次ノ如シ
- (一)ト(二) 路上行進 一時間三十一分四十秒
  - (二) 四籽障飛越場 八分
  - (三) 八籽ノ不齊地騎乗 十七分四十六秒
  - (四) 二籽隨意歩度行進 六分



- 四、採點上五秒ノ遲著毎ニ半點ヲ減シ障礙飛越場ノ通過ノ際早著セハ五秒毎ニ二十分ノ一點ヲ増加ス又不齊地騎乘ニ於テ早著セハ五秒毎ニ半點ヲ増加ス此二早著ノ場合ハ増加點數ノ制限十點迄トス
- 五、不齊地騎乘及障礙飛越場通過ノ際騎手落馬セハ十點ヲ減シ馬匹ノ顛例ニヨル騎手ノ落馬ハ五點ヲ減ス、又障礙、不齊地上ノ自然障礙等ニテ停止、接近ヲ拒絶シ又ハ避ケタル時ハ第一回目三點ヲ減シ同障礙ニ對シ第二回目再ヒスルトキハ六點ヲ減シ三回ナルトキハ棄權ニシテ本審査參加資格ヲ失フ
- 六、本審査ニ於ケル通路及速度ハ共ニ遵守スヘキモノニシテ障礙飛越場ノ障礙ハ生籬三段横木、横木ト生籬、「バンケット」壕等ニシテ高一米一〇幅三米五〇ヲ最大限トナス
- 七、不齊地騎乘ノ通過路及障礙飛越場ノ經路ハ審査ニ先タチ現場ニテ指示スヘク其集合日次及時刻ハ參加申入者ト委員トノ打合セノ日ニ確示ス。
- 其四、第三次障礙飛越能力審査
- 一、本審査ハ多大ナル勞作ノ後軍馬トシテ最モ緊要ナル馬ノ柔軟性、肺力、筋力及悍威ノ餘力ヲ審査スルヲ目的トス
- 二、障礙ノ數ハ十二個ニシテ大ナル厚サニアラサル障礙ヲ用ヒ袖ヲ附ス其種類ハ一米

一〇以上一米一五ニシテ飛越ノ爲メノ速度ハ一分間三七五米以内タルヘシ  
三、減點要領次ノ如シ

- 1. 制限時間ヨリ遅著スルコト二秒毎ニ半點ヲ減ス
  - 2. 騎手ノ落馬 十點減
  - 3. 馬ノ顛倒及騎手ノ落馬 五點減
  - 4. 停止、接近拒絶、忌避 一回 三點減
  - 5. 右 二回目ナルトキ 六點減
  - 6. 右 三回目ナルトキ 棄權
  - 7. 障礙ヲ墜スモノ(前肢ニヨル) 四點減  
(壕ニ肢ヲ墜スモノ)(後肢ニヨル) 二點減
  - 8. 經路ヲ違フモノ 二點減
- 四、障礙ノ袖、(同目的ノ裝飾樹木モ同シ)ヲ倒スモノハ忌違ト見做ス從テ(4)(5)(6)ニ準シ減點ス
- 五、此時騎手ハ障礙ノ直前ヨリ飛越ヲ再行スベキモノトス  
二段飛越三段飛越等ニ方リテハ一個毎ニ探點ス、又其二段目、三段目等ノモノニ對シ停止、拒絶、忌避等ヲナストキハ其動作ヲナセル障礙前ヨリ再行スヘク既に飛越セル障礙ヲ再ヒ飛越セシメテ復行スルヲ得サルモノトス

一四

六、審査場ヨリ奔逸セルモノハ棄權トス

其五、全部ニ對スル採點上ノ特種條件

一、各次審査上ノ滿點ヲ二十點トス而テ其要求ノ難易ヨリ之ニ係數ヲ設クルコト次ノ如シ

第一次調教程度審査

十五倍

第二次特久力審査

三十五倍

A. 不齊地騎乘

B. 障碍飛越場ノ飛越

C. 路上行進

十五倍

第三次障碍飛越能力審査

二、各次審査ニ方リテハ採點ノ便宜上左ノ如ク點數ヲ増加シ後其得點ヲ括弧内ノ如ク除算シ第一次ノ係數ヲ乘算シ眞得點トス

第一次調教程度審査

(十五分)

第二次持久力審査

三百點

A. 不齊地騎乘

二百點

(十分)

B. 障礙飛越場ノ飛越

二百點

(十分)

C. 路上行進

二百點

(十分)

第三次障礙飛越能力審査

二百點

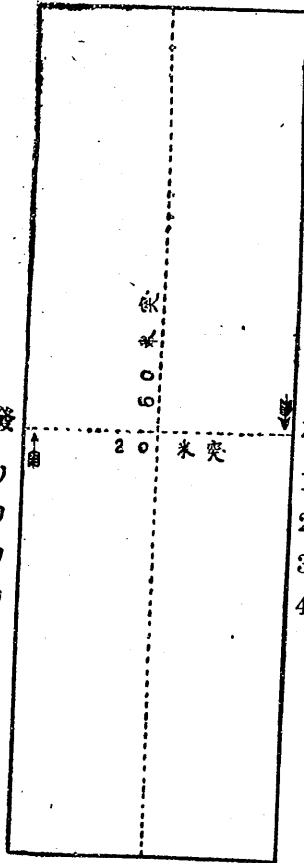
(十分)

第二、純馬術競技審査要領

其 一、通 則

- 一、一人ノ參加申込頭數ハ制限セス
- 二、騎手ハ各個ニ運動ヲ行フモノニシテ別ニ示ス實施要領ニヨルヘシ
- 三、審査委員ハ運動ノ順序ヲ變更スル權利ヲ有スルモノトス
- 四、受檢者ハ敬禮後十二分以内ニ運動ヲ完了スヘシ完了シ得サルモノハ棄權トス
- 五、馬場ノ形狀附圖ノ如ク縱六〇米横二〇米ニシテ中央點ハ兩蹄跡側ニ標示ス各種運動ハ本文及圖示スル所ニ從ヒ嚴守實施スヘキモノナリ
- 六、馬動ハ埒馬場ヲ用ユルモ場合ニヨリ覆馬場ニ於テ實施スルコトアリ
- 七、同點者アルトキハ審査委員ハ一二運動ヲ課シ之ヲ檢定ス
- 八、本規定ニ合マレサル高等馬術ノ諸運動例ヘハバ「ツサアジユ」「ピアツフエ」「スベン歩法」等ハ實演スヘカラス

審査席



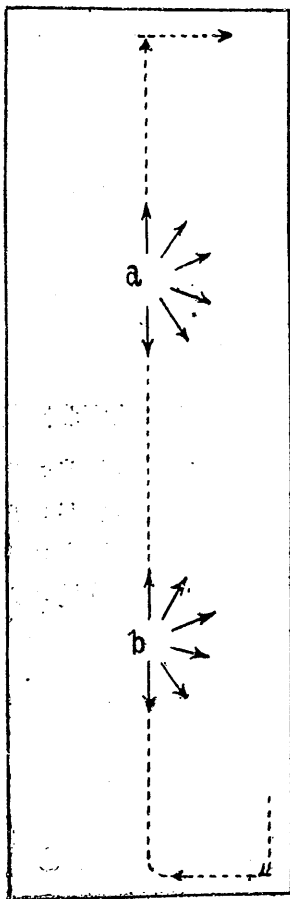
- 左駈歩出發
1. 速歩ヨリ
  2. 常歩ヨリ
  3. 駐立ヨリ
  4. 後退ヨリ

- 右駈歩出發
1. 速歩ヨリ
  2. 常歩ヨリ
  3. 駐立ヨリ
  4. 後退ヨリ

一七

九、實施要領次ノ如シ  
 其二 馬場運動實施要領  
 一、出入口ヨリ審査席ニ向ヒ駈歩ニテ入場シ審査席ニ面シ停止不動敬禮ス(附圖第二圖)  
 第二圖 純馬術競技馬場ノ圖

審 査 席



第二、常歩運動

- (1) 自由ナル常歩ニテ分解、輕ハ長ク緩ム右手前蹄跡ニ入ル
- (2) 審査席ノ反對側蹄跡中央ヨリ回轉、審査席ニ對シ行進、同時馬ヲ收縮ス
- (3) 中央縱蹄跡上ノ中央点ヲ數歩過キタル後右へ後肢旋回、(第三圖 a)引續キ數歩前進シ左へ後肢旋回(第三圖 b)次テ短縮速歩ニ發進右手前ニ入ル

第三圖 中央縱蹄跡線上ノ後肢旋回

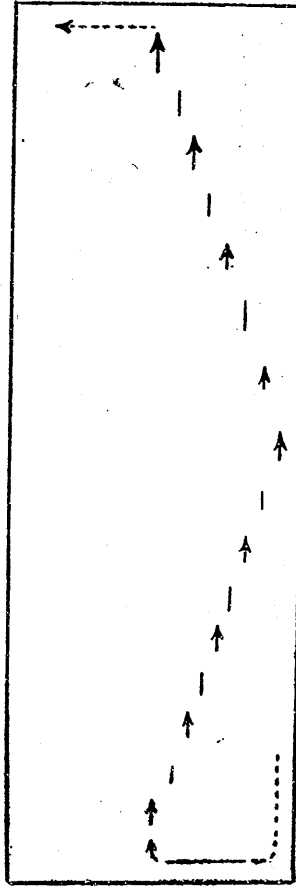
三、速歩ノ運動

- (1) 馬場一週半上ニ於テ速歩ノ伸縮ヲ行フモノニシテ十分ニ收縮セル短縮速歩ヨ

審 査 席

(2) リ伸暢速歩ヘノ迅速ナル移行及其反對ヲ實施ス  
審査席ニ對シ横跡跡中央ヨリ回轉シ次テ右横歩ニ移リ縦跡跡ノ中央頂點トス  
ル往復手前變換ヲ行ヒ反對横跡跡ノ中央到ル(第四圖)

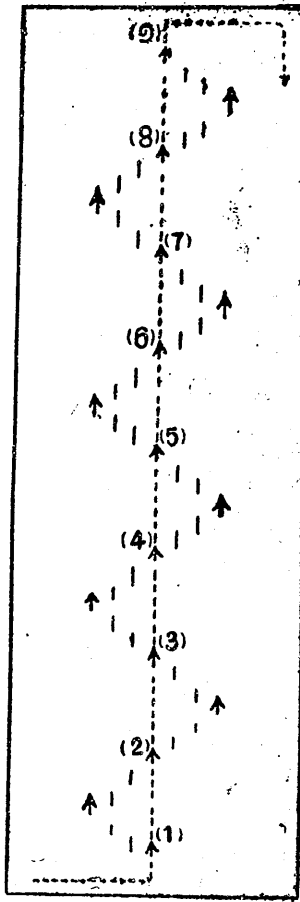
第四圖 速歩間横歩ヲ以テスル往復手前變換



(3) 左手前ニ入り一方側縦跡跡上ニ於テ輕速歩ヲ執ル  
(4) 再ヒ審査席ニ對シ横跡跡ノ中央ヨリ回轉シ横歩ヲ以テスル八段山形乗ヲ行フ  
(此時騎手ハ中央縦跡跡上ニ九回位置スルコト、ナル)(第五圖)

第五圖 速歩間横歩ヲ以テスル八段山形乗

審査席



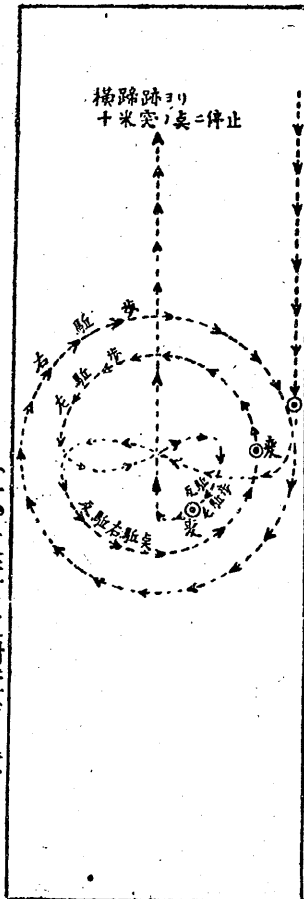
(5) 終ツテ右手前ニ入り横蹄跡上ニ停止、不動  
 (6) 短縮速歩ニ出發、(此時步調ハ努メテ高揚、彈發アリ收縮十分ナルヘシ)  
 四、駟歩ノ運動

駟歩運動ハ皆特ニ壁(縦來ノ蹄跡)ヨリ二步内方ニ蹄跡ヲ作リタル上ニテ實施スルモノトス

(1) 速歩、常歩、駐立及後退ヨリ駟歩ニ發進ヲナス而テ其手前ハ交錯發進スヘキモノトス(例ヘハ最初左手前)駟歩ニ速歩ヨリ出發セハ次ノ常歩ヨリノ發進



席 査 審

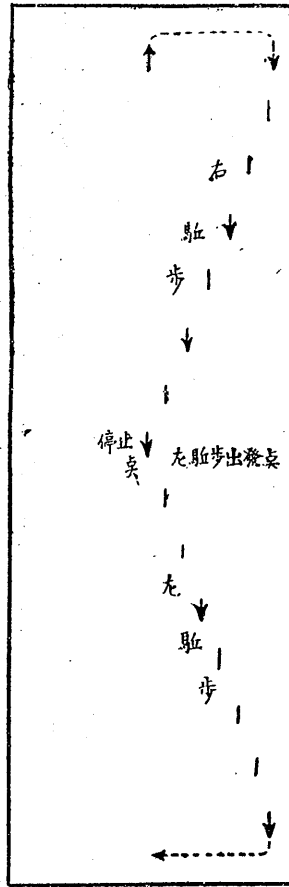


註  
一、反駈ハ反對駈歩ノ意  
二、變ハ踏歩變換点

(2) ハ右駈歩次ノ駐立ヨリハ左駈歩ノ如シ  
馬場ノ中央ニ右午前右駈歩ノ大輪乗ヲナス、一回輪線ノ行進ヲ終ラハ輪乗ノ  
手前變フー此時反對駈歩トナルー踏歩ヲ變換シ左駈歩トナルー輪乗ノ手前ヲ  
變フー反對駈歩トナルー次テ踏歩ヲ變換ス(第六圖)

第六圖 駈歩間輪乗上ノ諸運動

審 査 席

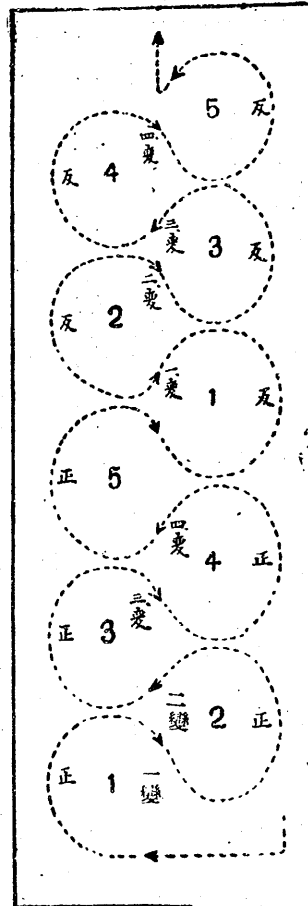


- (3) 審査席ニ向ヒ回轉シ中央縱蹄跡上ヲ行進横蹄跡ヨリ約十米ノ點ニ到ラハ停止不動、次テ六歩後退右手前駈歩ニ發進、右手前ニ入ル
  - (4) 次テ右横歩ヲナシツ、往復手前變換、其頂點ニ到ラハ停止、不動、更ニ左駈歩ニ出發、左横歩ヲナシツ、往復手前變換ノ殘部ヲ行進シ、反對駈歩トナリ蹄跡ニ入り直ニ其儘ニテ隅角通過ヲ行フ(第七圖)
- 第七圖 駈歩間横歩ヲ以テスル往復手前變換

三二

- (5) 横蹄跡上ノ中央ニテ踏歩ヲ變換ス
- (6) 蛇乘ニ在リテハ正駈歩ノ場合其踏歩變換ハ浪形ノ中央線上ノ點ニテ行フヘク

審査席



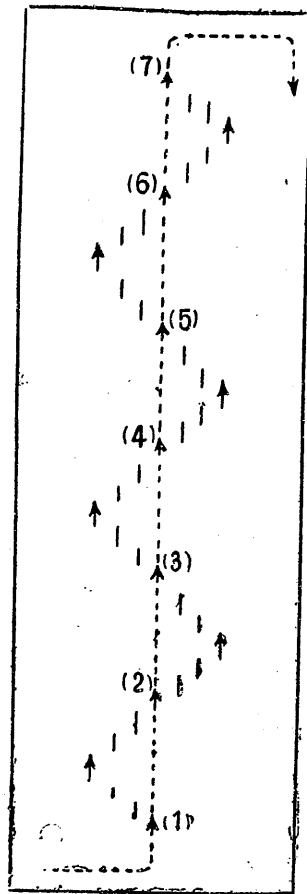
第八圖 駢步間蛇乘

(第八圖) 反對駢步ヲ以テスル蛇乗ノ際ハ其踏歩變換ハ各浪形上ニテ行フモノトス

(7) 終ラハ蹄跡ニ入ル其手前ハ任意トス

註  
 一、正ハ正駢步  
 二、反ハ反對駢步  
 三、三變ハ變ハ駢步變換ノ  
 指定回次ナリ

審査席



第九圖 駢歩間横歩ヲ以テスル六段山形乗

(8)

一方縦蹄跡上ニテ駢歩伸暢シ、次ノ横蹄跡上ニテ駢歩ヲ短縮ス、次テ他方縦蹄跡ノ四分ノ三丈ケ駢歩ヲ伸暢シタル後停止、六歩後退ス、續イテ再ヒ伸暢駢歩ニ出發シ次ノ縦蹄跡ノ四分ノ三ノ點迄續行ス、次テ短縮ノ駢歩ニ移リ審査席ニ對シテ中央縦蹄跡線上ニ入り此線ヲ中心トシ左右六完歩毎ノ横歩六段山形乗ヲ行ヒ各頂點ニ於テ踏歩變換ヲナス但最初最終ノ二斜線ノミ三完歩トス(第九圖)

二四

(9) 右手前ニテ蹄跡ニ入り縦蹄跡上ヨリ馬場ノ中央ヘ回轉、不動、六歩後退次テ左駢歩ニ出發、左手前蹄跡ニ入ル

(10) 縦蹄跡ニ於テ四歩毎ニ二歩毎、二歩毎及毎歩ノ駢歩踏歩變換ヲ左ノ如ク實施ス

(a) 一方縦蹄跡ニテ四歩毎ノ踏歩變換 四回

(b) 次ノ縦蹄跡ニテ三歩毎ノ踏歩變換 六回

(c) 次ノ縦蹄跡ニテ二歩毎ノ踏歩變換 八回

(d) 次ノ縦蹄跡ニニテ歩毎ノ踏歩變換 十六回

(11) 審査席ニ面シ中央縦蹄跡線上ニ回轉、常歩ニ移リ鞭ヲ緩メ頭ヲ延ハサシメツ、中央點ニ停止、敬禮。

(終リ) (退場任意歩度)

其三、採點要領附表第二ノ如シ

### 第三、大障碍飛越審査要領

其一、通 則

一、一人参加申込頭數ハ制限セス

二、障碍ノ數ハ約十六個トシ其高サ一米二五ヨリ一米六〇ニ至リ幅ハ壕ノ三米ヲ最大トス

三、飛越ノ爲メノ速度ハ一分四〇〇米ト定メ測秒ス、但速度ノ速キモ得點ニ加算スルコトナク之ニ反シ遲著一秒毎ニ四分ノ一點(〇、二五)ヲ減ス

四、減點要領

綜合競技ノ障碍減點要領ニ準スル外次ノ規定ニヨル複障碍ニ對シ缺點ヲ犯シタルトキハ重キ缺點ノミヲ採リ減點ス

其二、障碍ノ種類及配置

障碍ノ種類ハ概不附表第三ノ如シ其配置ト豫選當時之ヲ示シ其種類亦臨時變更スルコトアルヘシ

綜合馬術競技中第一次調教競技採點表

審査委員

記名

運順 動序	運 動 の 種 目	規 準 點	得 點	所見ノ摘要
1	隨意歩度ニテスル入場、G點ニ於ケル停止、敬禮	3		
2	鞭ヲ長クシ分解、右手前蹄跡ニ入ル	4		
3	A點ヨリ收縮シツツ行フ回轉及行進	6		
4	腰ヲ内ヘ ヲナシツツ往復手前變換	D點ヨリB點迄	8	
		B點ヨリG點迄	8	
5	G點ニ於ケル停止、眞直ナル不動	4		
6	發進(常歩)、右手前ニ入ル	2		
7	F點ニ於ケル半卷(半徑三米)	5		
8	M點ニ於ケル半卷(半徑三米)	5		
9	受験馬ノ常歩 歩法、歩様、歩度、歩調	5		
10	F點ヨリ輕速歩ニ移ル	6		
	M點ヨリF點迄ノ尋常速歩	6		
	F點ヨリH點迄ノ伸暢速歩(輕速歩ヲ採ルモノトス)	12		
	H點ヨリB點迄ノ短縮速歩(馬ハ前軀起揚ヲナスヘシ)	12		
	B點ヨリA點迄ノ尋常速歩	6		
11	中央縱蹄跡ヘノ回轉及行進		4	
		D點ヨリE點迄	12	
		E點ヨリG點迄	12	
12	G點ニテ停止、不動、	4+4		
13	常歩ニ發進、右手前行進	3		
14	速歩ニ移行	4		
15	受験馬ノ速歩 歩法、歩様、歩度、歩調	5		
16	B點ヨリ速歩ヨリスル右駢歩ノ出發	5		
17	A點ヨリ中央縱蹄跡ヘ回轉行進	2		
18	D點ニ於ケル(同線上ノ)右ヘ卷乘(半徑三米)	5		
19	同卷乘終リテ速歩ニ移リ同線上中央點ニ達シタルトキ左駢歩ニ出發ス	4+4		
20	G點ニ於ケル(同線上ノ)左ヘ卷乘、左手前蹄跡ニ入ル	5		
21	H點ニテ駢歩ヨリ常歩ニ移ル	4		
22	E點ニテ常歩ヨリ左駢歩ニ發ス	6		
23	A點ニ到リ停止、次テ駐立ヨリスル左駢歩ノ出發	5+6		
24	B點ニ到リ停止、次テ四歩後退、次テ左駢歩ノ出發	5+8+6		
25	M點ヨリ半卷 左駢歩ノ儘	5		
26	B點ニテ常歩	3		
27	F點ニテ常歩ヨリ右駢歩ニ出發	6		
28	K點ニ到リ停止、次テ駐立ヨリスル右駢歩ノ出發	5+6		
29	H點ニ到リ停止、次テ四歩後退、次テ右駢歩ノ出發	5+8+6		
30	M點ヨリ駢歩ヲ伸暢シ A點ニ到ル	4		
31	A點ヨリ歩度ヲ短縮シH點ニ到ル	4		
32	H點ヨリ再ヒ歩度ヲ伸暢シ F點ニ到ル	4		
33	F點ヨリ再ヒ歩度ヲ短縮シH點ニ到ル	4		
34	H點ニテ半卷 右駢歩ノ儘	5		
35	E點ニ到リ常歩	3		
36	K點ニテ駢歩ニ出發	6		
37	A點ヨリ駢歩ノ儘ニテ中央線上ヘ回轉行進 審査席ニ面ス	2		
38	中央縱蹄跡線上中央點ニ停止、不動、鞭ヲ長ク緩ム、敬禮	4		
39	受験馬ノ駢歩ノ歩法、歩様、歩度、歩調	5		
40	態度、姿勢、騎座、御法	10		
合 計 點		300		

純調教競技採點表

審査委員

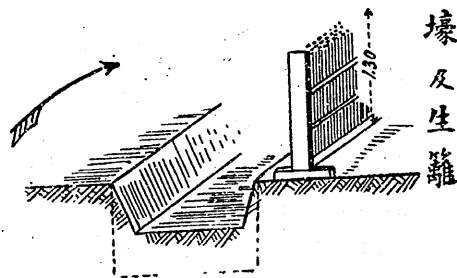
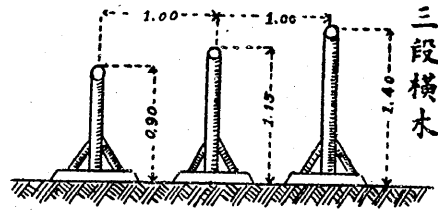
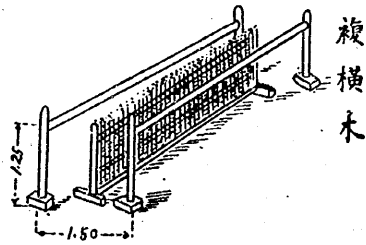
附表第二

選動序	運動ノ種目	規準點	得點	所見ノ摘要
1	駢步入場、審査席ニ面シ停止、不動、敬禮	4		
2	自由ナル常歩	5		
3	回轉行進ト其收縮常歩	6		
4	後肢旋回	右へ	5	
		左へ	5	
5	受験馬ノ常歩ノ歩法、歩様、歩度、步調	5		
6	短縮速歩(收縮、彈發性、步調良好ナルヘシ)	5		
7	速歩ノ伸暢及短縮	5+5		
8	二蹄跡ヲ以テスル往復手前變換	10		
9	縦蹄跡上ノ輕速歩	5		
10	横歩ヲ以テスル山形乘(八段)	12		
11	停止、不動、短縮速歩	5+5		
12	受験馬ノ速歩ノ歩法、歩様、歩度、步調	5		
内側蹄跡上	13 速歩ヨリ駢歩ヘ發進	4+4		
	14 常歩ヨリ駢歩	4+4		
	15 駐立ヨリ駢歩	5+5		
	16 後退ヨリ駢歩	7+7		
17	兩手前輪乘變換、反對駢歩、踏歩變換	5+5+5+5		
18	停止、後退、右駢歩ノ發進	10		
19	往復手前變換、頂點ニ於ケル停止	10		
20	蛇乘、正駢歩四回轉、反對駢歩ニテ四回轉	10+15		
21	駢歩ノ伸暢及短縮、停止、後退、伸暢駢歩	10		
22	横歩ヲ以テスル三完歩及六完歩ノ山形乘(六段)	18		
23	停止、不動、後退、駢歩ノ出發	7		
24	受験馬ノ駢歩ノ歩法、歩様、歩度、步調	5		
内側蹄跡上	25 四歩毎ノ駢歩踏歩變換 四回	10		
	26 三歩毎ノ駢歩踏歩變換 六回	12		
	27 二歩毎ノ駢歩踏歩變換 八回	16		
	28 歩毎ノ駢歩踏歩變換 十六回	20		
29	敬禮、姿勢、態度、騎座、御法	10		
合計點		300		

1136

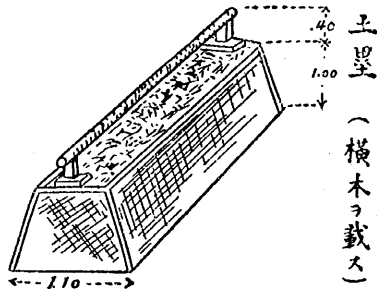


1137

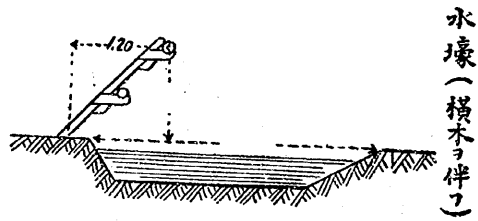
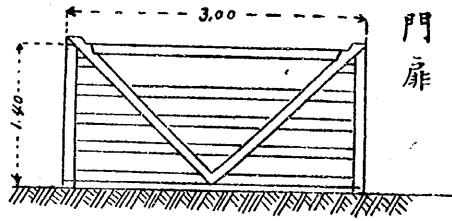


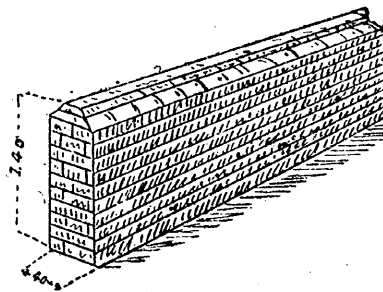
附表第三 其一

1138



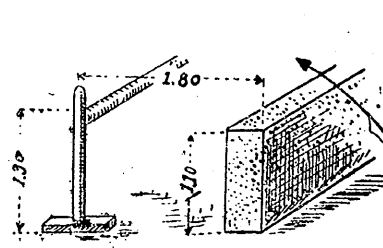
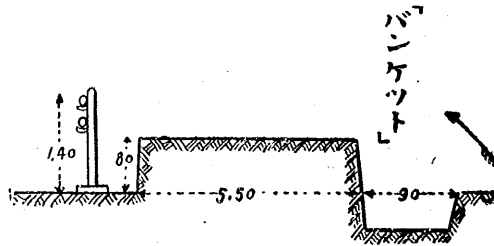
附表第三 其二





土壁又ハ煉瓦壁

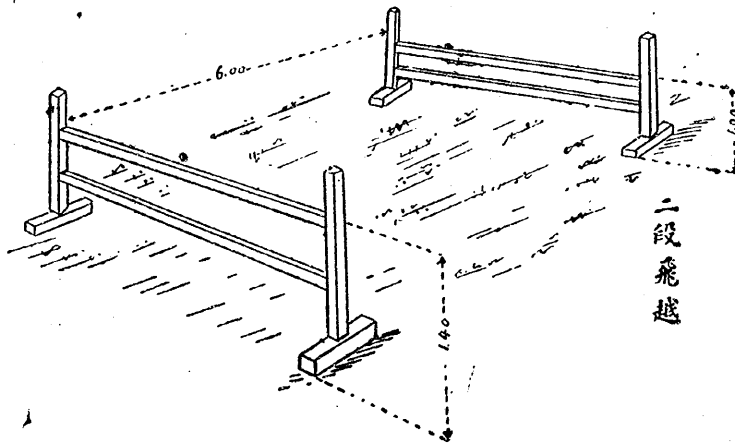
附表第三 其三



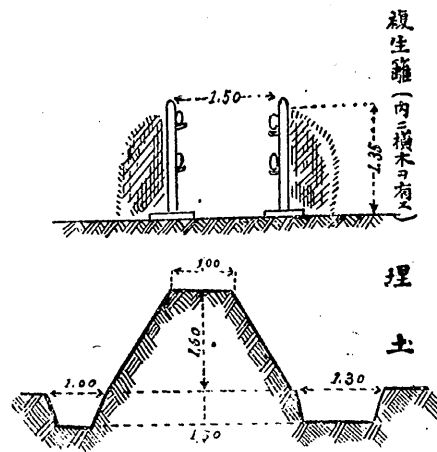
生籬又ハ煉瓦下横木

1140

附表第三 其四



二段飛越



親生籬 (内三横木有之)

埋土

臺一六九

四一第

2 2 25  
4 前 9. 1  
馬場体設

馬場体設

2 2 25  
4 前 9. 1  
馬場体設

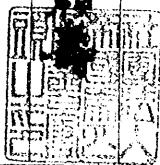
筆事第七。第

昭和三年國際「カリム」馬術競技代表選手派遣ノ  
追加請願ノ件

昭和三年二月二十四日

陸軍大臣宇垣一成殿

陸軍大臣宇垣一成殿



科啓 益々御健勝奉賀候陳者本年一月三十日帝馬發  
第一五號ヲ以テ御願申置候國際「カリム」馬術競技ニ  
選手派遣ニ關シ今更別紙寫ノ通り文部大臣へ追加請願  
被候ニ就テハ國務御多用中忍縮ニ存候へ共何卒其ノ實  
現ニ付キ特ニ御配慮御盡カシ煩シ度此段御願申上候

敬具

社團 帝國馬匹協會

# 寫

國際「オリンピック」馬術競技ニ日本代表選手派遣ノ爲メ

派遣費補助ニ就キ追加請願書

昭和三年七月和蘭ニ於テ開催セラルヘキ國際「オリンピック」馬術競技ニ  
日本代表選手派遣費度本年一月二十六日派遣費國庫御補助ノ  
儀請願致置候就テハ該競技ニ出場セムヘキ馬匹（口百令ヲ附ス）  
ハ船舶輸送ノ經驗ニ鑑ミ本年十月中旬渡歐セシ先地ニ於テ約七月  
間體力ノ恢復ヲ圖リ然ル後競技ニ出場セムルノ必要有之候ニ就キ該馬  
匹ノ監督トシテ選手一名ヲ同行セシノ專ラ其ノ調教管理ニ任セシメ傍ラ  
競技ノ諸準備ニ鞅掌為致度他ノ三名ノ選手ハ去年四月上旬内地  
出帆渡歐セシ先地到着後該ノ出場馬ノ調教ヲカタルノ必要有之  
候條ニ裏ニ請願シタル派遣費概算書ハ別冊派遣費調書ノ  
通り必要有之其ノ内金壹万圓ハ社團法人帝國競馬協會ヨリ

既ニ本年度ニ於テ派遣費補助相受ケ候間別冊派遣費ニ對シ  
左記ノ年度ニ於テ國庫補助ノ儀御取斗ニ煩シ目的ヲ遂行セシ  
メラレント切望ノ至リニ御座候茲ニ別冊派遣費調書相添ヘ此  
段追加請願候也

昭和二年度

金壹万七仟圓也

昭和三年度

金叁万叁仟圓也

昭和三年二月二十一日

社團法人帝國馬匹協會

會頭 石野 松平 賴壽

文部大臣 岡田 良平 殿

昭和三年七月於和蘭のアムステルダムに市開催  
國際オリンピック馬術競技  
日本代表選手派遣員調書



昭和三年度國際「カリムピット」馬術競技選手派遣費

總額 金六万七千五百貳拾貳圓貳拾錢也

右支出区分昭和三年度 金貳万七千貳百叁拾四圓貳拾錢也  
昭和三年度 金四万〇貳百八拾八圓也

内譯

其一、出場馬（往路）

昭和三年七月中旬内地出帆スルモニ  
ニテ先般選手一口百人ヲ附ス

派遣人数	選手	馬匹	口舟人	海上輸送		歐洲到着後、鉄道輸送並滞在日數
				出港	到着	
三	一	四	三	橫濱	馬	馬匹休養滞馬匹滞在
				早瀬	馬	馬匹休養滞馬匹滞在
				昭和二年 十月十五日	馬	馬匹休養滞馬匹滞在
				昭和二年 十月十四日	馬	馬匹休養滞馬匹滞在
				六十日	馬	馬匹休養滞馬匹滞在
				塞	馬	馬匹休養滞馬匹滞在
				里	馬	馬匹休養滞馬匹滞在
				ム	馬	馬匹休養滞馬匹滞在
				八月十五日	馬	馬匹休養滞馬匹滞在

備考、競技ハ昭和三年七月下旬ヨリ八月中旬ニ於テ施行セラルトス

口舟人三名中一名八住路限、農林省購入種馬輸送為末朝也者、帰路ヲ使復ス

計	口舟人		馬匹		選手		人馬		
	内地	外地	内地	外地	内地	外地	内地	外地	
金 参 万 九 千 八 百 六 拾 七 円 貳 拾 銭 (支 區 分 昭 和 三 年 度 二 六 二 三 四 円 二 〇 銭 ) (昭 和 三 年 度 一 六 六 二 七 円 )	三 五 〇 円	九 〇 円	五 五 〇 円	四 〇 〇 円	七 〇 〇 円	一 三 五 円	一 〇 〇 〇 円		
	一 七 〇 銭	九 〇 銭	一 〇 銭	九 五 〇 銭	一 八 〇 銭	一 三 五 銭	一 〇 〇 〇 銭		
		六 六 〇 銭		九 五 〇 銭		一 〇 〇 〇 銭			
	一 五 〇 銭				一 八 〇 銭				
	二 五 〇 銭	一 八 六 〇 銭			六 〇 銭	二 五 六 四 銭			
	四 五 〇 銭	三 三 三 〇 銭		一 六 五 〇 銭	八 〇 銭	四 七 一 四 銭			
	一 〇 三 〇 銭	五 四 八 〇 銭		三 五 五 〇 銭	一 七 六 〇 銭	九 一 一 三 銭			
	昭 和 三 年 度 三 〇 六 〇 銭	昭 和 三 年 度 一 〇 六 八 六 円	昭 和 三 年 度 五 七 五 四 円	昭 和 三 年 度 四 二 六 〇 円	昭 和 三 年 度 七 〇 〇 銭	昭 和 三 年 度 三 六 一 三 円	昭 和 三 年 度 五 五 〇 〇 円		
	昭 和 三 年 度 三 〇 六 〇 銭	昭 和 三 年 度 一 〇 六 八 六 円	昭 和 三 年 度 五 七 五 四 円	昭 和 三 年 度 四 二 六 〇 円	昭 和 三 年 度 七 〇 〇 銭	昭 和 三 年 度 三 六 一 三 円	昭 和 三 年 度 五 五 〇 〇 円		
									合 計

備考 一、競技開始約七ヶ月前ニ渡歐馬耳塞着ノ必要ハ、林園ニ於テ後來外國購

入輸送後栄養体力恢復ノ實驗ニ基キタルモノニシテ、競技出場馬ノ体力

恢復ヲ圖ルニアリ、又同時選手名ヲ先行セラルルハ、必、競馬ノ管理調

教ヲ專任スルモトス

計	選手	派遣者
	二	數
	三五〇円	支度料
	二七〇円	汽車賃
	二〇〇〇円	船賃
	一七〇二円	日當
	一九三五円	宿泊料
	六、二四七円	名額
一三、四九四円	合計	
金 港 万 貳 千 四 百 九 拾 四 圓 〇 (支出区分昭和三年度金額)		

選手	派遣者
二	數
京 東	発 出
里 巴	着 到
一 四 三 昭 日 月 年 和	日 時 出 発
日 五 十 月 五	日 時 到 着
一 月	滞 在
里 巴	発 出
ムダリスムア	着 到
日 六 十 月 六	日 時 出 発
二 月	滞 在
ムダリスムア	発 出
京 東	着 到
旬 中 月 八	日 時 出 発
旬 下 月 九	日 時 到 着
全 由	往 復 天 二 印 度 洋
	摘 要

其ノ二 馬ト同行セサル選手(往復)

馬正		選手		人馬
四		一		數
内地	外地	内地	外地	區分
五	五			馬糧費
一〇	四〇	一〇	八〇	汽車賃
二〇	一〇〇		二〇〇	船賃
		一〇		車賃
		六	八八	日當
			一四	宿泊料
一五	二〇	九	三〇	入(二頭)額
	八二〇		三三〇	合計
六〇		九六		

馬正	選手	人馬	派遣
二	四	一	數
△	△	△	△
△	△	△	△
日一月八	日一月八	日一月八	日一月八
日六月八	日六月八	日六月八	日六月八
△	△	△	△
濱	横	着	到
旬中月八	旬中月八	日特	出發
旬下月十	旬下月十	日特	到着
半月々二	半月々二	日特	輸送
一海上輸送、時日八概算ニヨル 二出帆港ヲアシトウフオトセルハ 日本郵船會社寄港地ニテ 最寄ノ港灣ナハナリ 三、口月人ハ外人ナリモ解備ニヨリニ名ニ城ス			
摘要			

其ノ三 出場馬 (復路)

其ノ一ニヨルモノニシテ備入外人口月人ヲ城ス

計	口舟人	
	内地	外地
金 壹万叁千百六拾七圓也 (支出区分昭和三年度全額)		
	一四七圓	五五圓
		八〇圓
	一四五圓	
	二四〇圓	三五二圓
		八四圓
	五七〇圓	一三九一圓
	一一四〇圓	六五八二圓

其ノ四 選手旅費並出場馬運賃以外ノ費用

計	種目	
	金額	種目
金 貳 千 圓 (支出区分昭和三年度一、〇〇〇圓 昭和三年度一、〇〇〇圓)	三〇〇圓	通信費
	二〇〇圓	練習用具費
	二〇〇圓	練習場使用費
	三〇〇圓	厩舎借入使用費
	五〇〇圓	馬糞費
	五〇〇圓	豫備費
	二、〇〇〇圓	合計

其面ノ費用半額ハ昭和三年度ニ於テ出場馬ノ先行渡歐兵ニ必要ノモノトス  
備考、本經費算出ノ基礎ハ選手、口舟人ノ官民何レヨリ選ラセ

現行陸軍旅員規則ヨリ討算セリ

1911



陸軍省  
陸軍大臣宇垣一成殿

1152



昭和  
木正

年

月

日

東京市芝區日蔭町壹丁目壹番地

社團  
法人

帝國馬匹協會

電話銀座(57)二五一五番



1153



昭和四年

八月十日

日程

第 一 一 號

昭和二年一月二十四日

陸軍省  
2 1 25  
午前 9 時  
宿房住復

軍省  
2 1 25  
午後 時  
課

長官印

社 團 帝 國 馬 車 協 會  
會 頭 伯 爵 松 平 頼 壽



陸軍大臣宇垣一成殿

第一回定時總會ニ係宿御孤遺相成度件申請

本協會第一回定時總會ヲ明治神宮外苑以日本青年館會  
館ニ於テ來ル一月二十七日ヨリ三日間毎日午前十時ヨリ開催左  
記日程ニ依リ別紙議案等ニ付會議可致候間貴者ヨ  
リ御係ノ方御孤遺被成下度及申請候也

社 團 帝 國 馬 車 協 會

第一日(二月二十七日)

午前十時

一會務報告

一會議

一大臣閣下訓示

(午後一時三十分)

一來賓演說

一會議

第二日(二月二十八日)

一會議 (委員會, 豫定)

第三日(二月二十九日)

一會議

(午後一時)

一講演

一會議

法人帝國學會

一會計報告  
一役員選舉

終

社團帝國馬工協會



帝令第 三七號

陸軍部第一六六號 共三

三月四日

昭和二年二月二十日

社団法人帝國馬匹協會

會頭 伯爵松平頼壽



陸軍大臣宇垣一成殿

第一回定時總會決議ニ依リ建議ノ件

本年一月本協會第一回定時總會ニ於テ左記ノ事項ニ付  
審議可決シ而シテ之ヲ建議スヘキコトヲ決議致候仍テ  
説明ヲ附シ建議候也

記

- 一 昭和三年、オリムピック競技ニ  
本邦ヨリ馬術選手派遣ノ件

軍事部第七〇番

馬政第四〇號



輒迄各地ニ乘馬熱頓ニ勃興シ其ノ技亦著シク進歩發達  
 セリ就中軍隊馬術ニ至リテハ其ノ最モ優秀ナルモノア  
 リテ列強諸國ノ馬術家ニ比シ敢テ遜色ナク寧口頭角ヲ  
 露ハス者アルハ本邦馬術界ノ爲洵ニ慶賀スヘキ現象ナ  
 リ本協會ハ昭和三年(西曆一九二八年)七月和蘭アムステ  
 ルダム市ニ於テ開催セラルヘキ國際<sup>ハ</sup>オリムピツク馬術  
 競技ニ本邦代表選手數名ヲ銓衡シ彼地ニ汎遣參加セシ  
 メ列強諸國ノ馬術選手ト技倆ヲ競ハシムルハ將來我國  
 ニ於ケル馬術ノ進歩向上ヲ促進シ國防上極メテ意義ア  
 ルモノト信ス仍テ文部大臣ニ對シ之カ汎遣費ノ國庫補  
 助ヲ申請セリ本協會ノ目的達成ニ關シテハ特ニ深甚ナ  
 ル援助アラムコトヲ望ム

二 軍馬購買價格増加ノ件

軍馬購買價格ノ増加ニ就テハ産馬畧多年ノ希望ニシテ  
 曩年若干ノ遞増ヲ見タルモ薄利ナル馬産當業者ニ在リ  
 テハ未タ之ヲ以テ満足スルモノニアラス今日尙時價ニ  
 達セサルモノニ奉公ノ赤誠ニ依リ應諾スルモノ尠シト  
 セス然リト雖斯ノ如キハ苟モ生業ヲ營ム者ノ永ク堪工  
 得ルモノニ非ルヘシ仍テ更ニ軍馬購買價格ヲ相當増加  
 アラムコトヲ望ム

皇曆第一五號  
昭和三年九月一日

軍部第一〇號

馬政課  
2 2 2  
分 時  
馬政課

馬政第四號

昭和三年度國際馬術競技選手派遣ニ関シテ御願

昭和三年九月二十日  
社団法人帝國馬術協會頭前松平頼壽

陸軍大臣宇垣一成殿

拜啓益々御隆昌奉賀候陳者豫テ御配慮ニ預リ居候昭和  
三年七月和蘭「阿姆斯特ダム」市ニ於テ開催セラルルキ國際「カリムヒック」馬  
術競技ニ本邦代表選手並馬匹出場セシメ度本協會ニ於テ著  
々準備致居今般別紙請願書ヲ文部大臣宛提出仕候ニ就テ  
ハ今後其目的ノ達成如何ハ一政府當局ノ同情アル御援助ヨリモ  
ト存候間國務御多忙中恐縮ニ存候ヘトモ何卒其ノ實現ニ就キ御  
盡力ヲ煩シ度此段御願申上候先右不取敢御願迄  
敬具

1911  
馬術協會  
應分後  
手後  
應分後  
手後  
馬術協會  
敬具





2 1 2  
2 1 2

1951

選手派遣ニ就テ、軍部ニ於テモ其主旨ニ賛シ  
應分、援助ヲ為ス可トス。現ニ本件ノ細部ニ就  
テハ從來既ニハ協議ヲ受ケ適当ニ之ヲ指導シ  
居ルヲ  
ニ委員囑託ニ關シハ、詮衡委員ノ人選尙未定ナ  
ルハ故、協會ニ回答スルハ、尙分見合セ度意見

三月二十日

軍政課

寫  
請  
願  
書

國際「カリム」馬術競技日本代表選手以連貫  
補助請願書

馬術ハ古來我國ニ於テ武技トシ最モ重要視セシ所ニテ其ノ  
獎勵ハ体育六勿論國防上最モ緊要ナリ 近時民間ニ於テ此  
技ノ獎勵ハ逐年乘馬ニ親ム者ヲ増加シ今や乘馬團體數  
全國ヲ通シ約二百ニ達シ年々各地ニ於テ開催セラルル乘馬大會  
ニ於テ視ルニ其ノ技著シク進步發達セリ就中軍隊馬術ニ至リテ  
ハ其ノ技最モ優秀ナル者アリテ列強諸國ノ馬術家ニ比シ敢遜  
色ナク寧ロ頭角ヲ現ハス者アルニ至リレハ本邦馬術界ノ爲メ洵  
ニ敬加賞スヘキ現象ト謂フヘシ而シテ此等優秀ナル者ヲ列強  
諸國ノ馬術選手ト技倆ヲ競ハシムルハ將來我國ニ於ケル馬術ノ  
進步向上ヲ益々促進セシムル所以ニシテ國防上極メテ意義アル

トト信ス政府ニ於テモ之レカ選手ノ派遣ニ就テハ深甚ノ御後援  
アラムコトヲ切望ス

従来國際「カリムピック」競技ニ本邦ヨリ各種競技ノ選手ヲ  
遣セラレリシモ馬術選手ノ派遣ヲ見サルハ頗ル遺憾トセシ所ナ  
リ。昨年四月名古屋ニ於テ開催セラル第三回全國乗馬大會ニ  
於テ次回國際「カリムピック」競技ヨリハ馬術選手ノ派遣ヲ期ス  
ル決議ヲシテ商業社團法人日本乗馬協會ニ於テ銳意之レカ  
準備ヲナレリシ所。過般本協會ノ創立ト共ニ日本乗馬協會  
モ解散スルコトナリ本協會代テ國際乗馬會ニ加盟シ國  
際的馬事ニ關係スルコトト相成候ニ付來ル昭和三年（一九一八  
年）イ育和蘭「アマスル」市ニ於テ開催セラルキ國際カ  
リムピック「馬術競技」代表選手數名ヲ派遣シ十分其技倆  
ヲ發揮シ國威ノ發揚ニ努メタリ目下夫々準備中ニ御座候

就テハ御承知ノ通り本競技ハ他ノ競技ト異ナリ各國共ニ馬匹  
 及口弁人ヲ同行シ又競技出場馬ノ調教準備ニ相當ノ時日  
 ヲ要スル為メ比較的ノ多額ノ經費ヲ要スル次第ナリ本邦ヨ  
 リノ選手ノ派遣數モ此際三名ニ止メ他ノ役員等ヲ省略シ努  
 テ費用ノ軽減ヲ圖リ以テ真ニ代表選手トシテ我カ國威ヲ  
 十分發揚スルニ足ルハキ者ヲ派遣スルニ計畫ナルニ而カモ其ノ經  
 費ハ別表ニ示ス如ク當協會ノ負擔トシテハ過重ニシテ政府  
 ノ御補助ヲ得ルニ非サレハ其ノ實行困難ニ御座候何卒斯道  
 御獎勵為メ國費御多端ノ折柄恐縮ニ存候ヘトモ別表  
 ノ派遣費ニ對シ金五万圓ノ國庫御補助賜リ度然ルニ  
 ハ爾餘ノ經費ハ民間家馬家ノ特志寄附ヨリ外凡テ  
 本協會ニ於テ負擔シ其ノ實行ヲ期シ度存候  
 爰ニ御省ノ特別ナル御詮議ニヨリ本請願自的ヲ達成セシム

ラレントト切ニ奉烟願候

別紙派遣費概算書相添へ此段及請願候

昭和二年一月二十六日

社團 帝國馬匹協會 會頭  
法人

伯爵 松平頼壽

文部大臣 岡田良平 殿

國際「カリムビ」馬術競技選手派遣費

總額 金五万六千五百圓也

内譯

通信費 雜費	馬	舟人	選手	區分數	滞在費		合計
					日當一人當	宿泊料一人當	
	四	二	三				
		五〇〇圓	七〇〇圓		法中諸國往復 送金		
	三〇〇〇圓	二〇〇〇圓	三〇〇〇圓				
	六〇〇圓	一八〇〇圓	二〇〇〇圓				
		三六〇〇圓	二四〇〇圓				
	三六〇〇圓	七九〇〇圓	八一〇〇圓				
	一四、四〇〇圓	一五、八〇〇圓	二四、三〇〇圓				
二〇〇〇圓							

備考 一本表選手、舟人ハ官民何レヨリ選テ現行陸軍

旅費規則ニヨリ算出セリ

- 一、選手ハ滞在、往復共各三月、馬ハ各六月トス
- 二、本派遣員以外 準備費トシテ金五、〇〇〇圓
- 三、ハ社團法人帝國馬正協會ニ於テ負擔ス

實錄第一七號

一六六

2.2.2  
午前9時  
官務往復

昭和三年二月一日

陸軍大臣宇垣一成殿

陸軍大臣宇垣一成殿



科啓陳者豫ニ御配慮ヲ煩ニ居候昭和三年度國際  
カリムピツシ馬術競技選手派遣ニ就キ選手、銓衡其  
他御指導ヲ仰ク為メ御省御配下左記、方々ニ頭書、  
委員御依頼致度軍務御多用中下恐縮御許可被  
成下度此段御願由上候敬具

左記

賛助員

同

陸軍次官 畑英太、即閣下

軍務局長 阿部信行閣下



同	銚衛委員	連務局長殿	市瀬源助殿
同	銚衛委員	連務局長殿	植田謙吉閣下
同	銚衛委員	同 本部附	益田真一殿
同	銚衛委員	騎兵監部附	好一閣下
同	銚衛委員	陸軍騎兵學校長	吉岡豊輔殿
同	銚衛委員	教官	木林 壽閣下
同	銚衛委員	教官	游佐幸平殿

1170



麴町區永田町

陸軍省

陸軍大臣宇垣一成殿

親展

1211



社団法人帝國馬匹協會  
會頭 白鬍松平 賴壽

二年  
三月三日  
其ニシテ

帝國發第二九四號

昭和五年三月十四日

社團法人帝國馬匹協會  
會 頭 伯 爵 松 平 頼 壽

陸軍大臣 宇 垣 一 成 殿

第九回「オリムピック」馬術競技參加狀況報告

諸啓益々御清祥奉賀候

開者第九回「オリムピック」馬術競技參加ニ關スル一般ノ狀況ハ義ニ不取  
敢報告致候屬細部ニ關シ別冊ノ如ク印刷ノ上及報告候  
敬 具

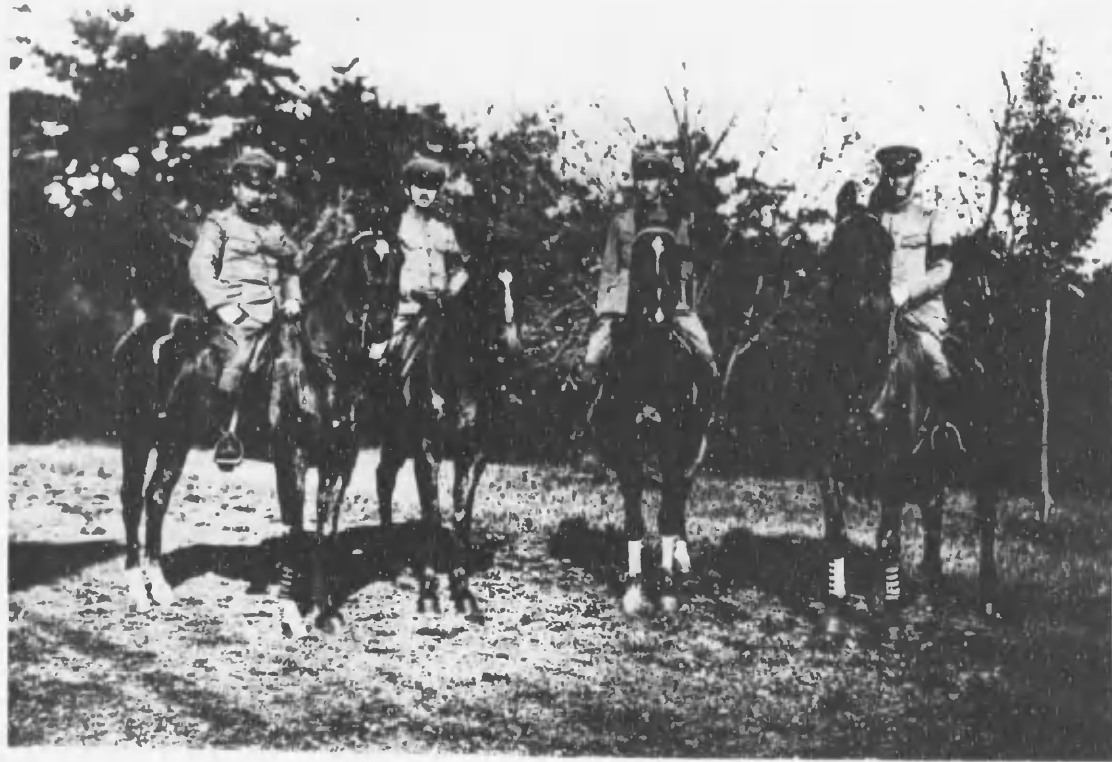


社團 帝國馬匹協會

第九回國際「オリムピック」馬術競技報告書

第九回國際「オリムピック」馬術競技報告書

我國の派遣人馬



吉田大尉 岡田少佐 城戸少佐 遊佐中佐

1175

1176



遊佐中佐

派遣選手(其一)



岡田少佐



(其二) 手 選 遣 派



佐 少 戸 城



尉 大 田 吉

(一其) 馬 遣 派

黒鹿毛 八歳 内洋 青森産 駒 體高五、〇七



(川東佐中佐郎) 説 家

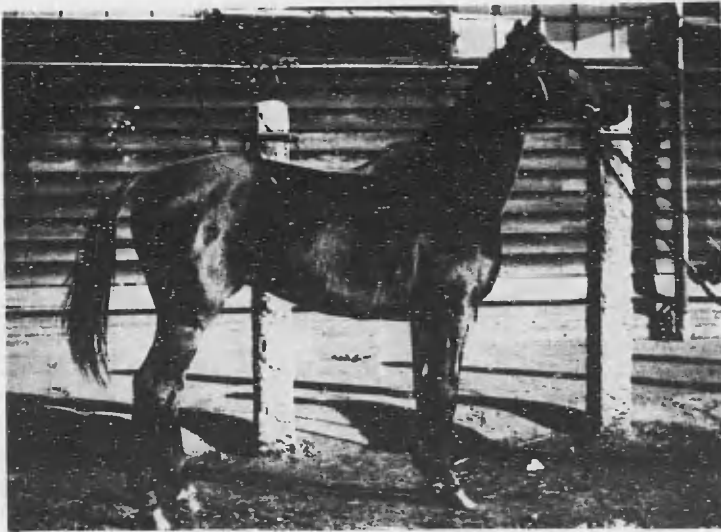
黒鹿毛 八歳 内洋 奥羽牧場産 牝 體高五、二〇



(川東佐中佐郎) 説 家

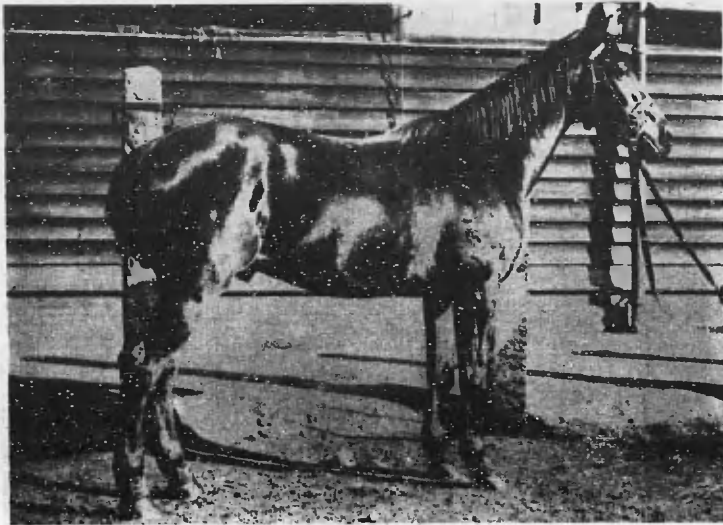
(二共) 馬 遣 派

鹿毛 十二歳 サラ 淡州産 駒 體高五、二五



(川 乘 佐 少 戸 城) 號 軍 久

鹿毛 十二歳 サラ 淡州産 駒 體高五、三三



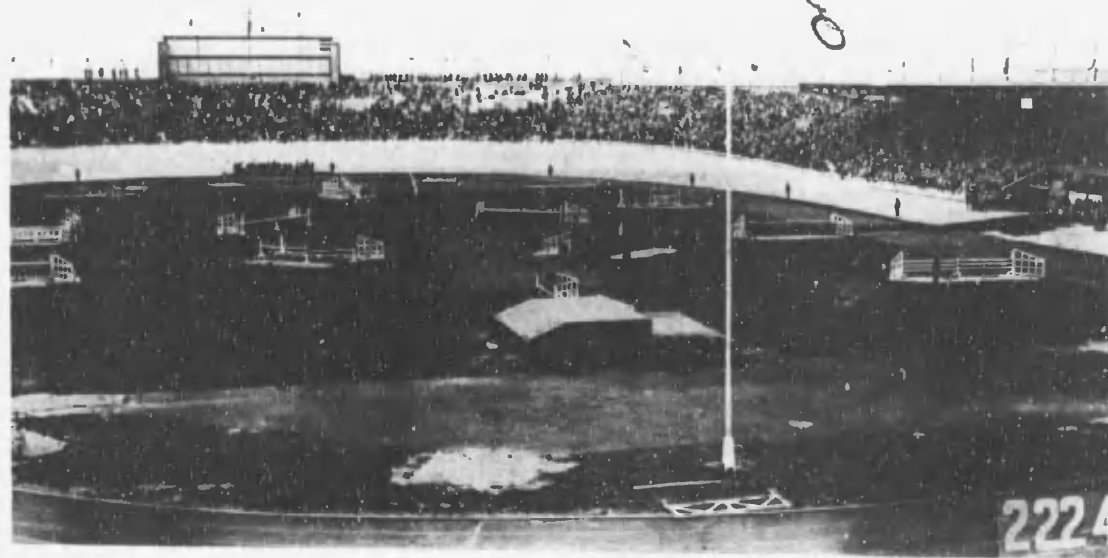
(川 乘 關 大 田 吉) 號 山 久

純馬術及綜合競技の馬場



1180

大障害及総合競技の障害飛越場



1181

出場選手  
(其一)

純馬術競技に出場前の  
遊佐中佐



純馬術競技実施中の遊佐中佐



純馬術競技出場前の岡田少佐



(二共) 手 選 場 出



佐少戸城の前場出技競合綜



尉大田吉の前場出技競碍障



滞歐中の派遣人馬（其一）  
巴里郊外サンゼルマンに  
於ける練習の歸途



サンゼルマンに於ける  
厩舎



サンゼルマンに於ける  
先着人馬



(二共) 馬人遣派の中歐滞



(氏田牧は左上馬) 行-るけ於に園公ユニ-ロフ・ド・アボ里巴

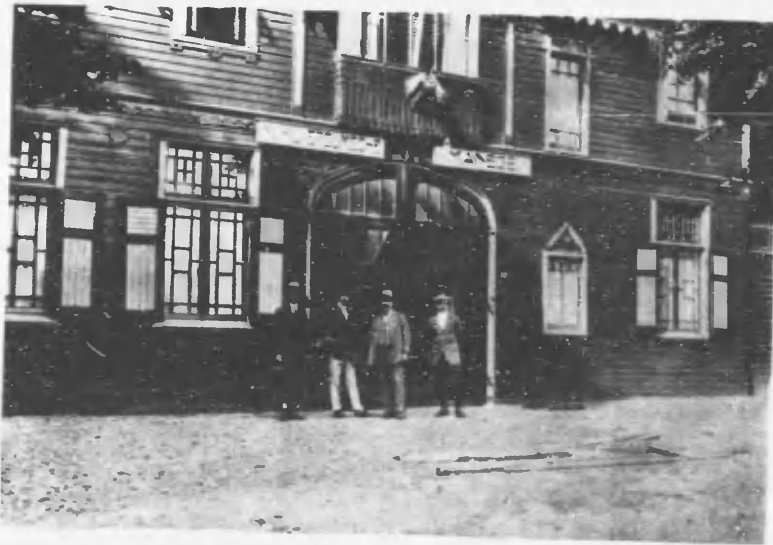


(行-爵男彦佐) 團投應るけ於にムスルエグルヒ

(三共) 馬人遣派の中歐滞



手選るけ於に場兵練ムスルエグルト

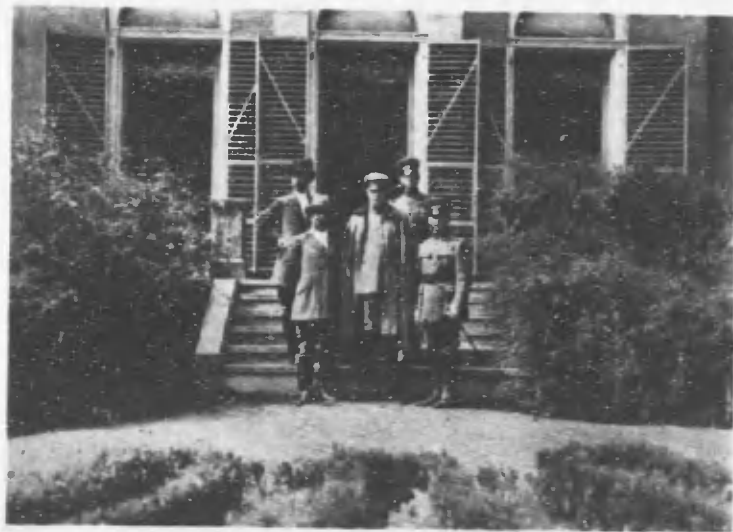


手選るけ於に前場馬覆ブラク馬乗ムスルエグルト

(四共) 馬人遣派の中歐滞



舍宿の手廻るけにムスルエヴルヒ



手廻るけにムスルエヴルヒ



オリムピック馬術競技  
優勝者  
1、純馬術（獨逸）  
フォン・ランゲン  
馬 ドラウフゲンゲル號  
（獨逸産）



2、綜合馬術（和蘭）  
モルタンダス中尉  
馬 マルクロア號（佛國産）  
3、大障礙越超技  
（チエツコスロヴァキヤ）  
ゲンテユラ大尉  
馬 エリオット號（洪國産）

第九回國際「オリムピック」馬術競技報告書

目次

序	.....	卷頭	一
帝國馬匹協會報告	.....		一
一、參加準備	.....		一
二、派遣人馬ノ選定	.....		一
三、人馬ノ輸送	.....		三
四、競技參加ノ狀況	.....		五
五、經理	.....		六
六、將來ニ關スル意見	.....		六
派遣選手ノ報告	.....		九
緒言	.....		九

第一章 競 技

其一、競技ノ種類及一般通則

其二、綜合馬術競技ノ狀況

其三、純馬術競技ノ狀況

其四、大障礙競技ノ狀況

其五、參加人馬ノ狀況

其六、本邦選手ノ敗因

第二章 競技出場準備作業

第三章 馬ノ輸送

第四章 各國ノ準備並ニ應接ノ狀況

第五章 結 論

二

一〇

一〇

一三

一三

一四

一六

一六

一六

一六

一七

一七

## 序 辭

國際的體育競技は平時に於ける國民の體力及氣力の比較試験であつて、之に依り各民族の完全なる肉體の發達を圖り堅實なる精神を涵養すると共に、併せて各國民の友誼を深くし親善を促進するものである。特に馬術は武技の一つであつて、且つ馬の能力と最も密接なる關係を有するが故に、騎手の優劣を比較すると同時に有力なる馬の國際的能力試験となり、其の國軍の編成に於ける要素たる人馬の能力及馬産の状態を如實に觀察し得る絶好の機會である

抑も「オリムピック」競技は西曆二千七百有餘年前の希臘に於ける「オリムピア」祭に其の基源を發し、爾後千有餘年に亘る極めて古き歴史を有するのであるが、其の後久しく中絶して近世に至り、今より三十餘年前に其の復興を見たのである、而して其の復興後の「オリムピック」競技は初めて純然たる國際競技となつたものであつて、今回にて第九回を數ふるに至つた。又馬術が此の國際「オリムピック」競技と合して行はれたのは、一九一二年瑞典「ストックホルム」市に開かれた第五回「オリムピック」競技のときを以て嚆矢とする、従つて馬術競技としては今回が事實第四回に相當するものである

日本帝國が始めて「オリムピック」競技に参加したのは一九一二年の第六回であつて、爾後毎回之に参加したが我馬術競技は其の當時未だ其の機運に到達し得なかつた事は甚だ遺憾であつた。然るに大正十五年四月十八日名古屋市に開催せられた第三回全國乘馬大會に於ける決議に基き、帝國馬匹協會が主催者となり、關係

各官省並團體の熱心なる後援に依り、茲に我國の人馬が初めて國際場裡に輸贏を争ふこととなつた事は、本邦馬事界の爲め洵に慶賀に堪へぬ處である。又我國が遠く極東より人馬を輸送して、本競技に参加した事は、歐洲各國の馬事界より大なる驚異の眼を以て觀られた様である

和蘭に於ける第九回の競技にて、我馬術選手の成績は充分なるを得なかつた、其の原因は素より種々あらむも、要するに諸準備が足らぬ爲め克く人馬固有の能力を發揮し得なかつたことに歸着する様である。昭和三年帝國馬匹協會が、第十回國際「オリムピック」馬術競技參加準備委員會を組織し、直に準備に着手せると及引續き日本國際馬術協會が創立せられた所以も、實に此の苦き經驗に基く結果である。今般派遣選手から參加に關する報告書を受けたるに依り、曩に帝國馬匹協會より其筋へ提出した報告と共に之を收録して本冊子と爲し、一は以て帝國馬匹協會報告の補遺たらしめ、一は以て將來の參考資料として關係同好の士に願ふこととした

昭和五年一月

社団法人 帝國馬匹協會

社団法人 日本乘馬協會

財団法人 日本國際馬術協會



第九回國際「オリムピック」馬術競技ニ關スル帝國馬匹協會報告

一、參加準備

大正十五年四月十八日名古屋市ニ開催セラレタル第三回全國乘馬大會ニ於テ昭和三年和蘭ニ於ケル「オリムピック」競技ニハ我國馬術選手ノ派遣ヲ期スヘキコトヲ決議セラレタリ、而シテ帝國馬匹協會ハ右決議ニ基キ昭和二年一月十八日農林、文部、陸軍、內務、宮内各省ノ官吏、馬政委員、主要乘馬團體ノ幹部及協會ノ役員等ヨリナル約五十名ノ實行委員ヲ設ケ派遣要領ヲ審議決定シ、爾後各委員ノ熱心ナル努力ト關係官省及帝國競馬協會等ノ多大ナル援助トニ依リ遂ニ昭和三年八月和蘭「アムステルダム」市ニ於ケル第九回「オリムピック」馬術競技ニ日本選手ノ參加ヲ見ルニ至レリ

二、派遣人馬ノ選定

派遣選手ハ最初軍部民間ヲ通シ廣ク全國ヨリ選出スル計畫ナリシモ我國トシテハ未タ全ク經驗ナキ爲メ民間ニハ適當ナル者ナク結局左記陸軍將校ノミ豫選競技ニ出場セリ

陸軍騎兵學校教官	騎兵中佐	遊佐幸平	(純馬術)
同	騎兵少佐	岡田小七	(純馬術)

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
騎兵大尉	騎兵少佐	騎兵少佐	砲兵中尉	騎兵大尉	騎兵少佐	騎兵少佐	砲兵中尉	騎兵大尉	騎兵少佐
城戸俊三	遊佐幸平	岡田小七	奈良太郎	城戸俊三	遊佐幸平	岡田小七	奈良太郎	城戸俊三	遊佐幸平
(純馬術合)	(大障礙)	(大障礙)	(大障礙)	(純馬術)	(大障礙)	(大障礙)	(大障礙)	(純馬術)	(大障礙)

(山本少佐ハ乘馬ノ關係上棄權セリ)

右ノ者ニ對シテハ五月二十二日及五月二十四日ノ兩日陸軍騎兵學校ニ於テ特ニ編成セル陸軍委員ニ依リ概ネ前年ノ「オリムピック」馬術競技ニ準シ純馬術、綜合馬術、大障礙ニ分チ豫選競技ヲ行ヒ五月二十八日陸軍省ヨリ左記ノ如ク選手ヲ決定セル旨通牒ニ接ス

純馬術競技	騎兵中佐	遊佐幸平
同	騎兵少佐	岡田小七
綜合馬術競技	同	城戸俊三

大障碍飛越競技 同 大尉 吉田重友  
 其後馬匹協會ト關係官省及團體等ト種々折衝ノ結果十一月二十六日遂ニ派遣人馬ヲ左記ノ如ク確定シ十二月十一日官  
 民約四百名日本青年會館ニ會合シ選手ノ爲送別會ヲ開キ行ヲ壯ニセリ

國際「オリムピック」馬術競技選手並牽連馬名簿

出場區分	選手名		馬名	所屬	年齢	毛色	性	種類	血統	馬產地
	官氏	氏名								
純馬術	騎兵中佐	遊佐 幸平	魁	牧田清之助	七	黒鹿	驕	内洋	父サラ、ランカツター 内洋サツドルホース	野村牧場
純馬術	騎兵少佐	岡田 少七	涿秋	馬匹協會	七	黒鹿	牝	内洋	父アノ、アンジュ 母第一涿鹿ノ一	奥羽牧場
綜合	騎兵少佐	城戸 俊三	久軍	騎兵學校	一一	鹿	驕	濠サラ	父不詳	濠洲
大障碍	騎兵大尉	吉田 重友	久山	騎兵學校	一一	鹿	驕	濠サラ	父ザアスター 母不詳	濠洲

備考 一、選手ノ所屬ハ陸軍騎兵學校トス 二、口付人トシテ左記ノ者ヲ採用ス

豫備陸軍騎兵特務曹長

坂本貞雄

豫備陸軍騎兵特務曹長

清野忠造

三、人馬ノ輸送

右ノ人馬ノ内口付人三名（口付人ハ前記二名ノ外農林省輸入馬ノ爲メ傭入セル歸國外人一名ヲ加フ）馬匹四頭ハ城戸

少佐監督ノ下ニ、昭和二年十二月十八日横濱ニテ郵船會社白山丸ニ乗船十九日出帆、昭和三年一月二十八日佛國馬耳塞ニ上陸シ同地ニ滞在スルコト四十三日、此ノ間專ラ馬匹ニ對スル氣候風土ノ馴化並體力ノ恢復ニ努メ、更ニ三月十日馬耳塞ヲ去リ佛國巴里近郊「サンジエルマン、アン、レエ」ニ於テ引キ續キ馬匹ノ體力恢復並準備作業ニ從事セリ。其他ノ選手ハ昭和三年三月十五日東京ヲ出發シ西伯利經由ニテ四月七日巴里ニ到着シ、茲ニ於テ初メテ各馬ハ各々其選手ニヨリ鍛練セラル、コトトナレリ。斯クシテ選手及馬匹ハ共ニ七月十日「オリムピック」開催地タル和蘭「ヒルヴェルスム」ニ移リ八月八日ヨリ競技ニ參加セリ

競技終了後選手ハ九月一日巴里出發、西伯利ヲ經由シテ九月二十二日東京ニ歸着ス、但シ口付人二名及競技出場馬匹四頭並陸軍省及個人ニテ購入セル輸入馬六頭ハ岡田少佐監督ノ下ニ共ニ八月三十一日執賀丸ニテ「ロツテルダム」出帆十一月九日横濱ニ歸着セリ

本輸送ニ於テ人ノ衛生状態ハ佳良ニシテ志氣旺盛ナリ、馬ノ状態モ往路ニ於テ魁（日射病）及久山（肺充血）ノ罹病アリタルモ監督選手及口付人等ノ熱心ナル看護ト適當ナル手當トニ依リ何レモ恢復シ參加ニ支障ナキヲ得タリ。又歸路航海ニ於テ「シンガポール」ヨリ高雄ヲ經テ上海ニ至ル間ハ風波甚クシク之カ爲メ上甲板ノ厩舎ハ屢々破壊セラレ、ニ至リ監督選手、口付人及船員等ノ努力ニ依リ應急修理ヲ加ヘ保護ニ努メタリシモ遂ニ澎湖水道ニ於テ山ノ如キ怒濤ノ爲メ甲板ヲ洗ハレ遂ニ厩舎二個全壞ノ悲境ニ陥リタリ、然レトモ船長カ約五時間航路ヲ反轉シテ烈風環外ニ出ツルノ特別處置ト、船員一同ノ献身の修理事業ト、口付人ノ應急保護トニ係リ馬ノ危難ヲ免レ得タルハ洵ニ感謝ニ堪ヘサル處ナリ

四、競技參加ノ狀況

派遣選手ハ四月七日以來巴里近郊「サンジエルマン、アン、レエ」ニ於テ各々其配當馬ノ調教ヲ開始シ専ラ準備中ナリシカ、遊佐中佐ハ選手ヲシテ競技ニ慣レシムルト馬ノ能力試験トヲ主目的トシ、城戸少佐（アイリシユ、ボーイ號）吉田大尉（久山號）ヲシテ五月十二日ヨリ白耳義「ブラッセル」市、六月二十二日ヨリ倫敦市ニ於ケル國際馬術競技ニ出場セシメタリ。又各選手ハ佛國「ニイス」及巴里ニ於ケル馬術競技、伯林ニ於ケル馬術競技ヲ實視シテ參考トスル所アリタリ

斯クシテ派遣人馬ハ七月十日「オリムピツク」馬術競技開催地タル和蘭「ヒルヴエルスム」ニ移リ、其地ノ風土ニ慣馴スルト共ニ銳意出場ヲ準備セリ。元來我國選手ハ豫備人馬ヲ有セサル爲メ人馬ノ保健ハ特ニ重要問題ナリシモ、馬匹ニ若干ノ休業ヲ要スル故障アリシ外選手ニハ一日ノ罹病モナク、良好ナル健康状態ヲ維持シ以テ派遣人馬悉ク競技ニ參加シ得タルハ最モ幸福トスル處ニシテ其成績ノ概要左ノ如シ

純馬術競技	遊佐中佐（魁號）	二十九名中第二十八位
同	岡田少佐（琢秋號）	二十九名中第二十位
大障礙飛越競技	吉田大尉（久山號）	中途失權
綜合競技	城戸少佐（久軍號）	四十六名中第二十一位

以上ノ如ク成績ハ一般ニ良好ナラス、其原因素ヨリ人馬能力ノ不足ニ在リト雖其因テ來ル處ヲ探究セハ更ニ準備ノ不

十分ニ歸着スルカ如シ、即チ馬匹ハ廣ク全國ヨリ優駿ヲ選擇シ得サリシト、準備日數短少ナリシ爲メ人馬ノ訓練調教ヲ完成スルヲ得サリシノミナラス、選手ハ國際競技ニ對スル經驗ニ乏シク所謂場慣レセサリシ等ニ因リ遂ニ人馬固有ノ能力ヲ發揮シ得サリシハ頗ル遺憾ニ堪ヘサル處ナリ、然レトモ我派遣選手カ初メテ歐米ノ優良人馬ニ伍シ熱烈ナル意氣ト不撓ナル努力トヲ以テ勇敢ニ奮闘シ、我國馬術ノ眞價ヲ列國ニ紹介シ以テ我國威ノ發揚ニ努メタル功績ハ洵ニ大ナルモノアリシト認ム

## 五、經 理

競技參加ノ爲メ要シタル經費ハ六萬壹千八百四拾八圓餘ニシテ、其財源ハ主トシテ文部、陸軍、農林各省ヨリノ政府補助金（三〇、三〇〇圓）及帝國競馬協會ヨリノ助成金（三〇、〇〇〇圓）ニ據ルコトヲ得我國馬事界多年ノ宿望タリシ國際馬術競技參加ノ目的ヲ達シ得タルハ本協會ノ最モ感謝ニ堪ヘサル所ナリ

## 六、將來ニ關スル意見

### 一、派遣人馬數ヲ増加スヘシ

今回ノ派遣人馬數ハ我國トシテ最初ノ企圖ナルト經費不足等ノ爲メ之ヲ著シク制限セリト雖國際競技トシテハ到底之ヲ以テ満足スル能ハス、即チ「オリムピツク」馬術競技ニ於テハ個人競技ノ外團體競技アリテ優勝國ハ此ノ團體ノ成績ニ依リ之ヲ定ムルモノナリ、而シテ團體競技ハ一競技種目ニ對シ指定セル三名ノ選手ヲ必要トスルヲ

以テ豫備人馬ヲ見積リ派遣人馬數ハ左記ノ如クナルヲ要ス

純馬術競技	選手三	馬四	(豫備馬一)
大障碍飛越競技	選手四	馬五	(豫備選手一、豫備馬二)
綜合競技	選手四	馬五	(豫備選手一、豫備馬二)

右ノ外監督一名ヲ要ス又審査官タル要員ヲモ派遣スルヲ可トス

#### 二、民間選手ヲ獎勵スヘシ

今回ノ選手ハ民間ニ適任者ナク遂ニ陸軍現役將校ノミナリシモ、將來ニ於テハ廣ク民間ニモ募リ充分之ヲ訓練シテ派遣スルコトニ努メ以テ斯界ノ發展ヲ圖ルヲ可トス

#### 三、馬匹ハ其所屬ノ如何ヲ問ハス我國ノ優駿ヲ選出スヘシ

今回我派遣馬ノ能力ハ外國ノ夫ニ比シ大ニ遜色アリト雖、若シ夫レ其選定宜シキヲ得之ニ對シ充分ナル期間ヲ與ヘテ合理的ノ馴致開放ヲ加フルニ於テハ騎手ノ訓練ト相俟テ優越ナル成績ヲ舉クルコト敢テ難キニ非ラスト信ス、選手ノ技術素ヨリ必要ナリト雖馬術競技ノ成績ハ其馬ノ能力ニ待ツコト頗ル大ナルモノナレハ將來本邦産馬ノ改良ヲ促スノ好資料ヲ得ル點ヨリ見ルモ其ノ選擇ハ廣ク我國全土ニ亙リ行ヒ且其所屬ノ如何ヲ問ハス優駿ヲ選出スルコト緊要ナリ

#### 四、人馬ノ訓練調教ハ可成速ニ開始スヘシ

人馬ノ訓練調教ニハ大ナル日子ヲ要ス、殊ニ選手ヲ民間ヨリ選出シ又ハ新馬ヲ候補馬トスル場合ニ於テ最モ然リ

トス、故ニ我國ニ於テモ歐米各國ノ例ニ倣ヒ直ニ第十回國際「オリムピック」競技ノ爲メ準備ニ着手スルヲ要ス  
 五、選手及馬匹ハ競技開始前可成早ク開催國ニ派遣スヘシ

今回ノ實驗ニ徴スルニ派遣馬匹ヲシテ輸送ノ疲勞及調教ノ快復ヲ圖ルト共ニ競技開催國ニ於ケル氣候風土ニ馴致セシメ且選手ヲシテ他ノ國際競技ニ參加シ若ハ視察ノ機會ヲ與ヘ以テ諸準備ヲ徹底セシムル爲メニハ少クモ十ヶ月前ニ開催國ニ派遣スルヲ要ス

六、東京附近ニ永久的馬術大競技場ヲ建設スルヲ可トス

近時我國ニ於ケル體育運動ハ大ニ隆盛ヲ極ムルト共ニ各種競技場ノ設備ハ殆ント完全ヲ見ルニ至レルモ獨リ馬術競技場ニ在リテ未タ一ノ施設ナキハ洵ニ遺憾トスル處ナリ、今ヤ民間ノ乘馬熱著シク勃興シ競技場ノ必要ヲ感スルヤ最モ切ニシテ莫ニ全國乘馬大會ニ於テ速ニ其設立ヲ決議シ近ク東京附近ニ其建設ヲ期スルノ議起レルハ誠ニ故アリト謂フヲ得ヘシ、面シテ之ヲ建設ヲ見ルニ於テハ民間ニ於ケル乘馬術ハ更ニ一新機ヲ劃シテ進歩發展ヲ爲シ國民體育ノ獎勵及馬産ノ改良發達ニ顯著ナル効果ヲ表ハスハ勿論、其利用宜シキヲ得ハ各種ノ馬事振興事業ノ遂行ニ裨益スルコト尠カラサルモノト信ズ

七、國際馬術競技ノ爲メニハ官民一致シテ後援ヲ要ス

國際馬術競技ハ國際親善ノ基礎トナルノミナラス、之ニ依リ我國威ヲ宣揚シ且國防ニ至大ノ關係ヲ有スル本邦馬術又馬産ノ狀況ヲ列國ニ紹介スヘキ唯一ノ競技ナリ、而シテ馬術競技ハ一般體育競技ト異リ馬匹ヲ伴フ爲メ經費ヲ要スルコト極メテ大ニシテ且我國現況ニ於テハ關係ヲ有スル官衙數所ニ亙リ交渉ヲ要スル團體亦甚タ多シ、故ニ是等官省及團體克ク和衷協定ヲ行ヒ意思疏通ヲ圖リ以テ協力一致其後援ニ努ムルコト特ニ緊要ナリ



## 第九回國際「オリムピック」馬術競技派遣選手ノ報告

## 緒言

陸軍騎兵中佐	遊佐幸平
陸軍騎兵少佐	岡田小七
陸軍騎兵少佐	城戸俊三
陸軍騎兵大尉	吉田重友

我當局ハ本回馬術競技ニ参加セシムヘキヲ決セラレ小官等ハ本邦ヨリ初メテ出場スヘキ馬術競技選手トシテ派遣ヲ命セラル、小官等ノ光榮何物ニカ比スヘキ、然レトモ省慮之ヲ久ウセハ身圖外ノ重任ヲ負フニ等シク、其勝敗ノ如何ハ國軍ノ名譽ニ懸ルモノ、飄乎トシテ出場スヘキニ非ス、則チ熟慮シ鍛鍊ヲ重ネ縦シ鵬程萬里ニ旅スルモ、縦シ人馬ノ素質ニ劣ル所アルモ人事ヲ竭シテ輸贏ヲ國際場裡ニ決セントシ競技ニ臨ミタリ

本競技ノ一般ヲ觀ルニ参加申込ハ二十一國ナリシモ實際ニ競技ニ参加セルハ二十國百二十一名馬匹亦同數ナリ、而シテ豫備人馬ヲ算フルトキハ實ニ二百ノ人馬カ各々其國ノ代表トシテ和蘭ニ集マレリ  
今参加ノ狀況ヲ表示セハ次ノ如シ

第一章 競技

其一 競技ノ種類及一般通則

競技ハ綜合競技 (Concours complet d'équitation) 純馬術競技 (Concours individuel de dressage) 及ヒ大障礙飛越競技 (Concours de sauts d'obstacles) ノ三種目ニシテ各國ハ各種目毎ニ三名ノ選手タル將校或ハ紳士ヲ以テ參加ヲ申込ムヲ得ルモノニシテ、此三名ニ事故アル場合交代セシムヘキ豫備員ト豫備馬トヲ各種目毎ニ各一ヲ設ケ申込ミ得ルモノトス

國	名	綜合競技	純馬術	大障礙	國	名	綜合競技	純馬術	大障礙
瑞	威典	三	三	三	勃	牙	三	一	一
芬	蘭	一	一	一	瑞	西	三	三	三
波	蘭	三	一	三	伊	太	三	三	三
丁	抹	二	一	一	班	利	三	三	三
和	蘭	三	三	三	牙	牙	三	三	三
獨	逸	三	三	三	日	本	一	一	一
佛	西	三	三	三	合	國	三	三	三
チ	ス	三	三	三	アル	ン	一	一	一
埃	ロ	三	三	三	ゼ	チ	一	一	一
洪	ヴ	三	三	三	計	利	四	二	一
	ツ	三	三	三			六	九	六
	ク	三	三	三			取	消	消
		三	三	三			3) 取	消	消
		三	三	三			1) 取	消	消

参加者ノ服装ハ將校ニ在リテハ通常服トシ紳士ニ在リテハ獵騎服又ハ乘馬服ニ絹帽又ハ獵帽ヲ、其短袴ハ白色ニ限リ、馬背上ノ負擔量ハ馬場運動ノ外ハ鞍共七十五斤以上タルヘク、馬裝ハ馬場運動ニ在リテハ必ス大小勒ヲ裝シ且特異ノ附屬物、脚絆等ヲ附スヘカラスト定ムルモ、馬場運動以外ハ馬裝ト附着物ニハ制限ナシ  
 大障碍飛越競技及綜合競技ノ障碍飛越競技用ノ障碍ノ形状、大小及配置ハ何國ニ對シテモ豫メ示スコトナク當日之ヲ現場ニ於テ示スヘク、綜合競技ノ持久力競技ノ經路ハ前日之ヲ現地ニ當リ公表スルモノトス、競技日程次ノ如シ

月 日	時	課 目	場 所
八月 八 日	午 前	一、綜合競技ノ持久力競技經路ノ現地指示	ヒルヴェルス (Hilversum)
	午 後	二、綜合競技出場馬ノ馬體検査、(第一班)	
		三、綜合競技ノ調教競技	
八月 九 日	午 前	一、綜合競技出場馬ノ馬體検査、(第二、三班)	ヒルヴェルス (Hilversum)
	午 後	二、綜合競技ノ調教競技	
八月 十 日	午 前	一、綜合競技ノ持久力競技	ヒルヴェルス (Hilversum)
	午 後	二、純馬術競技(第一班)	
八月 十 一 日	午 前	一、純馬術競技(第二班)	ヒルヴェルス (Hilversum)
	午 後	二、綜合競技ノ障碍飛越競技	
八月 十 二 日	午 後	一、大障碍飛越競技	アムステルダム

其二 綜合馬術競技ノ狀況

「オリムピック」馬術競技ノ幕ハ本競技ヲ以テ八月八日ニ開カレタリ、參加國十七、選手四十六名ニシテ、本邦選手ハ城戸少佐、久軍號ニテ出場ス

本競技ハ一國參名ノ選手ノ合計得點ニ依リ、一等ヨリ三等迄ノ優勝國ヲ決スルト共ニ、個人得點ノ優劣ニヨリ一等ヨリ三等迄ノ優勝者ヲ定ム、本邦選手ハ一名ナル爲メ前者ノ資格ナク、個人競技ニヨリ序列ヲ決定セラレタリ  
審査委員ハ左ノ五名ニ依リ行ハレ各國委員ハ各々一名ノ補佐官ヲ伴ヘリ

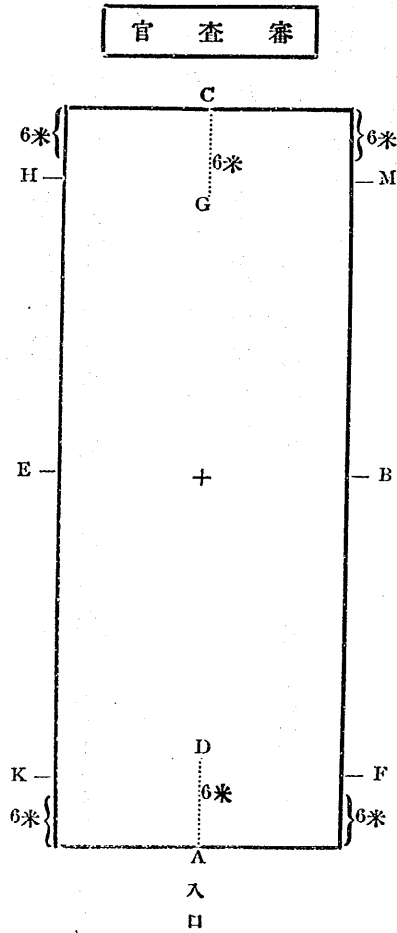
審査長	和 蘭	K. F. Quarles van uford	少 佐
委員	佛 蘭 西	Hautjens	中 佐
	洪 牙 利	von Ujfalussy	少 將
	瑞 威	Harold Hong	大 尉
	瑞 西	G. Foyte	少 將

(イ) 第一次、調教競技

綜合馬術競技ハ先ツ調教競技ヨリ始マル、該競技ハ馬匹ノ柔軟ノ程度及手脚ノ扶助ニ從順ノ景況ヲ審査シ、併せて騎手ノ伎倆ヲ檢スルヲ目的トシ、十一分間ニ所定ノ運動ヲ終了スルモノトス

若シ制限時間内ニ終ラサレハ毎秒二點宛ノ減點ヲ科セラレ  
 本競技ハ「ヒルヴェルスム」(「アムステルダム」ノ東南方汽行五十分ノ別莊地ニシテ、近ク和蘭陸軍騎兵學校所在  
 地タル「アーメルフォルト」ニ接ス)ノ「フットボール」競技場ニテ行ハレ、高サ四〇纏弱ノ白色木柵ヲ以テ區劃セ  
 ル縦六〇米横二〇米ノ馬場ヲ設ケ實施セラレタリ。其馬場ノ運動基準點ハ左ノ如シ

第一圖



規定ノ運動順序次ノ如クニシテ、順序ヲ誤ルモノハ資格ヲ失フ

## 馬場運動實施要領

一四

- 一、入口ヨリ審査官席ニ向ヒ任意ノ歩度ニテ入場
  - 二、中央線上中央ヲ過キG點ニテ審査官ニ向ヒ停止シ、敬禮ス（測時ハ敬禮ノ右手ヲ下ロセシトキヨリ檢測ス）
- 三、常歩ノ運動
- 1、常歩ニテ前進シ韁ヲ緩カニ保持シ右手前ニ入ル
  - 2、A點ヨリ馬ヲ收縮セシメツ、中央線上ニ回轉、直行進ス
  - 3、D點ヨリ點B點へ、B點ヨリG點「腰ヲ内へ」ノ運動ヲナシツ、往復手前變換ヲナス
  - 4、G點ニテ停止、馬ハ眞直ニシテ不動ナルヘシ
  - 5、常歩ニ發進、右手前ニ入ル
  - 6、F點ニテ半卷（半徑三米）
  - 7、M點ニテ半卷、右手前ニテ行進
  - 8、F點ヨリ輕速歩ニ移リM點迄續行ス
- 四、速歩ノ運動
- 馬場一周半上ニ於テ伸暢速歩ト短縮速歩トノ轉移ヲ行フモノニシテ即チ
- 9、M點ヨリF點迄尋常速歩

- 10、F 點ヨリH 點迄伸暢速歩（輕速歩ヲ執ルモノトス）
  - 11、H 點ヨリB 點迄短縮速歩
  - 12、B 點ヨリA 點迄尋常速歩
  - 13、A 點ニ到リラントスルトキ中央線上ニ回轉シ次テD 點ヨリE 點へ、E 點ヨリG 點へ「腰ヲ内へ」ノ運動ヲナシツ  
ツ往復手前變換ヲ行フ
  - 14、G 點ニテ停止、不動
  - 15、常歩ニテ前進ヲ起シ右手前ニ入り、次テ速歩トナル而シテB 點ヨリ右駢歩ニ出發ス
- 五、駢歩ノ運動
- 16、A 點ヨリ中央線上ニ回轉ス
  - 17、同線上D 點ニテ右へ卷乘（半徑三米）ヲナシ同卷乘終ラハ速歩トナリ同線上中央點ニ達スル時左駢歩ニ出發ス
  - 18、同線上G 點ニテ左へ卷乘、終リテ左手前蹄跡ニ入ル
  - 19、H 點ニテ常歩
  - 20、E 點ニテ左駢歩ニ出發
  - 21、A 點ニ到リ停止、次テ左駢歩ニ出發
  - 22、B 點ニ到リ停止、次テ四歩後退、次テ左駢歩ニ出發
  - 23、M 點ヨリ半卷、左駢歩ノ儘トス

- 24、B 點ニテ常歩トナル
- 25、F 點ニテ常歩ヨリ 右駢歩ニ出發
- 26、K 點ニ到リ停止、次テ右駢歩ニ出發
- 27、H 點ニ到リ停止、次テ四歩後退、次テ右駢歩ニ出發
- 28、M 點ヨリ駢歩ヲ伸暢シA 點ニ到ル
- 29、A 點ヨリ歩度ヲ短縮シH 點ニ到ル
- 30、H 點ヨリ再ヒ歩度ヲ伸暢シF 點ニ到ル
- 31、F 點ヨリ再ヒ歩度ヲ短縮シH 點ニ到ル
- 32、H 點ニテ半卷、右駢歩ノ儘トス
- 33、E 點ニ到リ常歩トナル
- 34、K 點ヨリ駢歩ニ出發
- 35、A 點ヨリ審査官席ニ面シ駢歩ノ儘ニテ回轉
- 六、中央ニテ停止、不動、次テ鞭ヲ長ク緩ム 敬禮ス（終リ、退場任意歩度）
- 今五審査委員ノ採點セラレタル成績ヲ見ルニ、次表ノ如ク其審査眼ニ差アルハ已ムヲ得サル所ナラン



獲 順	騎 手	國 名	馬	得 點					合 計	得 點	成 績 列 序
				各 審 査 官 採 點							
				オランダ	フランス	ホンガリヤ	ノールウェー	スイツツル			
1.	Lieut. V. Ankarcona	Schweden	Mascha	169.7	196.3	167.3	191.4	220.2	944.9	188.98	24
2.	Commdt. Sloan Doak	Ver. Staaten	Misty Morn	145.8	165.6	145.7	161.1	187.2	805.4	161.08	34
3.	Capt. J. Trenkwald	Polen	Lwi Pazur	157.6	186.3	195.9	183.5	200.2	923.5	184.70	25
4.	Commdt. S. Kido	Japan	Kyugun	171.3	220.2	204.4	188.6	218.8	1003.3	200.66	17
5.	Commdt. V. Stoitchaff	Bulgarien	Darda	207.4	234.5	242.2	190.5	224.3	1108.9	221.78	9
6.	Capt. Ch. Stoffel	Schweiz	Attila	168.3	172.4	198.4	182.4	200.8	922.3	184.46	26
7.	Lieut. L. L. Rousseaux	Belgien	Swang	147.9	165.1	152.8	159.5	184.8	810.1	162.02	33
8.	Lieut. A. Qvist	Norwegen	Hidalgo	194.3	216.0	227.1	207.9	230.4	1105.7	221.14	10
9.	Capt. T. Lequio	Italien	Uroscki	129.6	141.4	120.7	144.7	157.6	694.0	138.80	40
10.	Capt. J. Seyfried	Tschechoslowak	Ekul	166.6	170.7	214.1	185.3	181.2	917.9	183.58	27
11.	Commdt. H. von Adla	Ungarn	Alvézer	150.8	147.1	166.4	149.1	172.5	785.9	157.18	36
12.	Capt. H. von Essen	Finnland	El Kaid	166.3	169.5	195.6	177.2	194.6	903.2	180.64	28
13.	Lieut. J. P. J. Jensen	Dänemark	Pearl	168.8	165.1	179.3	163.9	199.1	876.2	175.24	30
14.	Lt. A. v/d Voort van Zijp	Holland	Silver Piece	221.4	210.5	243.9	216.3	225.5	1223.0	224.60	5
15.	Lt. P. H. Pernot du Breuil	Frankreich	Titania	173.0	219.1	199.4	184.3	190.2	966.0	193.20	20
16.	Major B. Neumann	Deutschland	Ilja	185.2	218.1	234.9	196.6	207.3	1042.1	208.42	13
17.	Capt. F. Jimerez Alfaro	Spanien	Quart d'heure	175.0	190.5	141.3	184.7	195.5	887.0	177.40	29
18.											
19.	Lieut. N. Kettner	Schweden	Caesar	192.7	191.3	193.1	194.8	216.4	988.3	197.66	19
20.	Commdt. Ch. P. George	Ver. Staaten	Ozella	160.4	140.7	159.6	175.6	162.1	796.4	159.28	35
21.	Capt. M. Antoniewicz	Polen	Maja Mita	134.4	148.3	120.0	171.1	148.7	722.5	144.50	39
22.	Capt. K. Lekarsky	Bulgarien	Gigant	196.6	236.4	247.7	211.7	227.7	1110.1	222.02	7
23.	Commdt. R. de Ribaupierre	Schweiz	Sergent	186.6	215.1	203.8	189.7	216.3	1021.0	204.20	15
24.	Lieut. L. de Jonghe d'Ardoye(Comte)	Belgien	Gigolo	138.8	137.8	97.5	162.7	155.1	691.9	138.38	41
25.	Lieut. B. Ordning	Norwegen	And-Over	179.2	202.8	222.1	201.0	199.3	1004.9	200.98	16
26.	Capt. C. Cerboneschi	Italien	Derna	113.8	102.5	47.6	119.2	112.1	495.2	99.04	43
27.	Capt. J. Charous	Tschechoslowak	Engadin	174.8	206.2	189.7	189.3	202.2	962.2	192.44	21
28.	Capt. K. von Cseh	Ungarn	Bene	187.2	171.4	190.2	199.1	200.6	948.5	189.70	23
29.	Capt. C. H. Gundelach	Dänemark	Beauty	223.6	232.0	238.5	230.8	240.8	1165.7	233.14	4
30.	Lieut. C. Pahud de Mortanges	Holland	Marcroix	244.7	235.9	244.8	221.6	242.1	1189.1	237.82	2
31.	Capt. Denis de Rivogre	Frankreich	Ni tos	183.9	245.4	187.8	180.1	199.4	996.6	199.32	18
32.	Leut. R. Lippert	Deutschland	F'lucht	225.2	258.4	236.3	244.4	248.6	1183.1	236.62	3
33.	Capt. J. Cavanilla Prosper	Spanien	Barrabás	152.7	193.9	119.5	172.1	164.6	772.8	154.56	37
34.											
35.	Capt. S. Colliander	Schweden	King	212.1	209.5	240.8	217.6	224.6	1104.6	220.92	11
36.	Capt. F. Carr	Ver. Staaten	Verdun Belle	140.0	135.5	119.2	157.6	141.3	687.6	137.52	42
37.	Lieut. Col. G. Br. de Rommel	Polen	Doneze	86.8	105.4	50.9	105.4	102.6	451.1	90.22	45
38.	Capt. F. Semoff	Bulgarien	Arsenal	220.0	204.6	219.8	209.3	225.7	1079.4	215.88	12
39.	Lieut. Col. W. Gerber	Schweiz	Chesnut Lily	182.2	212.5	221.3	192.1	222.1	1030.2	206.40	14
40.	Lieut. G. van Derton	Belgien	Remember Erin	58.3	64.0	57.5	86.0	77.5	343.3	66.66	46
41.	Lieut. E. Johansen	Norwegen	Baby	215.5	218.6	242.8	211.5	234.4	1122.8	224.56	6
42.	Capt. G. Valenzano	Italien	Jaddo	135.3	127.0	170.0	153.1	143.2	727.6	145.52	38
43.	Lieut. F. Stateeny	Tschechoslowak	Fezak	176.4	215.3	216.3	183.1	202.7	993.8	189.76	22
44.	Commdt. O. Binder	Ungarn	Jukker	159.4	159.1	176.6	164.5	177.5	837.1	167.42	31
45.	Capt. G. P. de Kruff	Holland	Va-t'en	250.7	259.9	254.1	243.1	248.5	1256.3	251.26	1
46.	Commdt. E. M. Longin-Spindler	Frankreich	Poupée	148.6	183.9	162.8	169.3	167.3	831.9	166.38	32
47.	Hauptm. W. Feyeraabend	Deutschland	Alpenrose	182.4	236.7	255.7	207.2	228.0	1110.0	222.00	8
48.	Capt. A. Somalo-Paricio	Spanien	Royal	99.8	99.4	75.3	103.0	94.7	472.2	94.44	44

第一次 調教競技成績表

## (ロ) 第二次、持久力競技

調教競技ニ續イテ施行セラル、モノニシテ、八月十日午前ニ於テ「ヒルヴェルスム」郊外ニ於テ行ハレタリ

本競技ハ、眞ニ優秀ナル軍馬或ハ野外騎乗用馬タルモノニシテ其鍛鍊、管理ヲ適切ニセハ如何ナル程度ニ能力ヲ發揮スヘキヤヲ檢スルヲ目的トシ、併セテ同時ニ騎手ノ生地障礙飛越及通過ノ巧拙、御法ノ適否ヲ審査ス

該競技ノ總距離ハ三十六杆ニシテ、道路、小徑、路外ノ生地及障礙競馬場ニ於ケル大速度ノ障礙飛越等ヲ含ムモノナリ而シテ其通過地區ヲ分ツコト次ノ如シ

- 1、第一區 一分間二百四十米ノ速度ヲ以テ七杆ノ道路上及小徑ノ行進、最大使用時間二十九分十秒
- 2、第二區 一分間六〇〇米ノ速度ヲ以テ障礙競馬場ノ飛越、距離四杆、使用時間ノ最大限、六分四〇秒
- 3、第三區 一分間二百四十米ノ速度ヲ以テ十五杆ノ路上行進、使用時間一時間三十分以内
- 4、第四區 路外生地騎乗(障礙ヲ含ム)一分間四百五十米ノ速度ヲ以テ八杆ノ行進、使用時間十七分四十六秒以内
- 5、第五區 平地上 一分間三百三十三米ノ速度ノ駈歩ニテ二杆ノ行進、使用時間六分

各區間ニ於ケル所要時間ノ遅速ハ其得點ニ影響スルモノニシテ、第一區、第三區及第五區ノ路上行進ニ在リテハ所定ヨリ速着スルモ増點ヲナサス、遅着ハ十秒ニ付キ一點、五秒ニ付半點減點ノ割合ナリ

第二區、第四區ノ遅着モ同シク十秒ニ付一點、五秒ニ付半點ノ比ニテ減點ス

増點ハ第二區、第四區ノ速着ノミニ爲スモノニシテ其増加得點ノ表ハ次ノ如シ

而シテ本競技ハ通過路ノ難易ニヨリ區毎ニ係數ヲ乘シ得點トスルコトト定メラレ次ノ要領ニヨル

區別	第一區	第二區	第三區	第四區
定時間内ニ通過ノ際ノ得點	二〇	二〇	二〇	二〇
係數	一〇	二五	三五	四五
定時間内ニ通過セル得點ニ係數ヲ乘シタルモノ	二〇〇	五〇〇	七〇〇	九〇〇
最大得點増加ノ場合	二〇〇	二〇點ノ増點アリトスレハ五二〇	四四點ノ増點アリトスレハ七四四	

路外不齊地騎乘		障礙競馬場ノ飛越	
所要時間	得點増加	所要時間	得點増加
17'46"	0	6'40"	0
16'46"	2	6'25"	2
36"	4	6'20"	4
26"	6	6'15"	6
16"	8	6'10"	8
06"	10	6'05"	10
15'56"	12	6'00"	12
46"	14	5'55"	14
36"	16	5'50"	16
26"	18	5'45"	18
16"	20	5'40"	20
06"	22		

以下十秒ヲ減スル毎ニ二點ヲ増ス但シ四十四點以上ヲ増サス

以上ハ増點スルコトナシ20ヲ以テ限リトス

尙障礙競馬場ノ飛越及生地障礙飛越ニ際スル種々ノ缺點ニ付テハ次ノ條件ニヨリ減點セラル

1、馬ノ顛倒及落馬

十點減

2、一回ノ障礙前ノ停止、忌避

二點減

3、二回目ノ右同斷、或ハ同一障礙ニ對シ二回ノ停止、忌避

六點減

4、同一障礙ニ對シ三回ノ停止、忌避

失權

競技出發第一番ハ午前五時ニシテ、騎手及鞍共ノ負擔量ハ七十五疋以上ト定メラレアルヲ以テ城戸少佐ハ九疋ノ鉛敏ノ増附ヲ餘儀ナクセラレタリ、第二番ノ出發ハ五時四分、此ノ如ク四分ヲ間シテ出發セシメラレタルカ、第一區ハ概ネ砂道ノ乘馬道ナリシヲ以テ肢蹄ニ對スル感作極メテ可ナリ

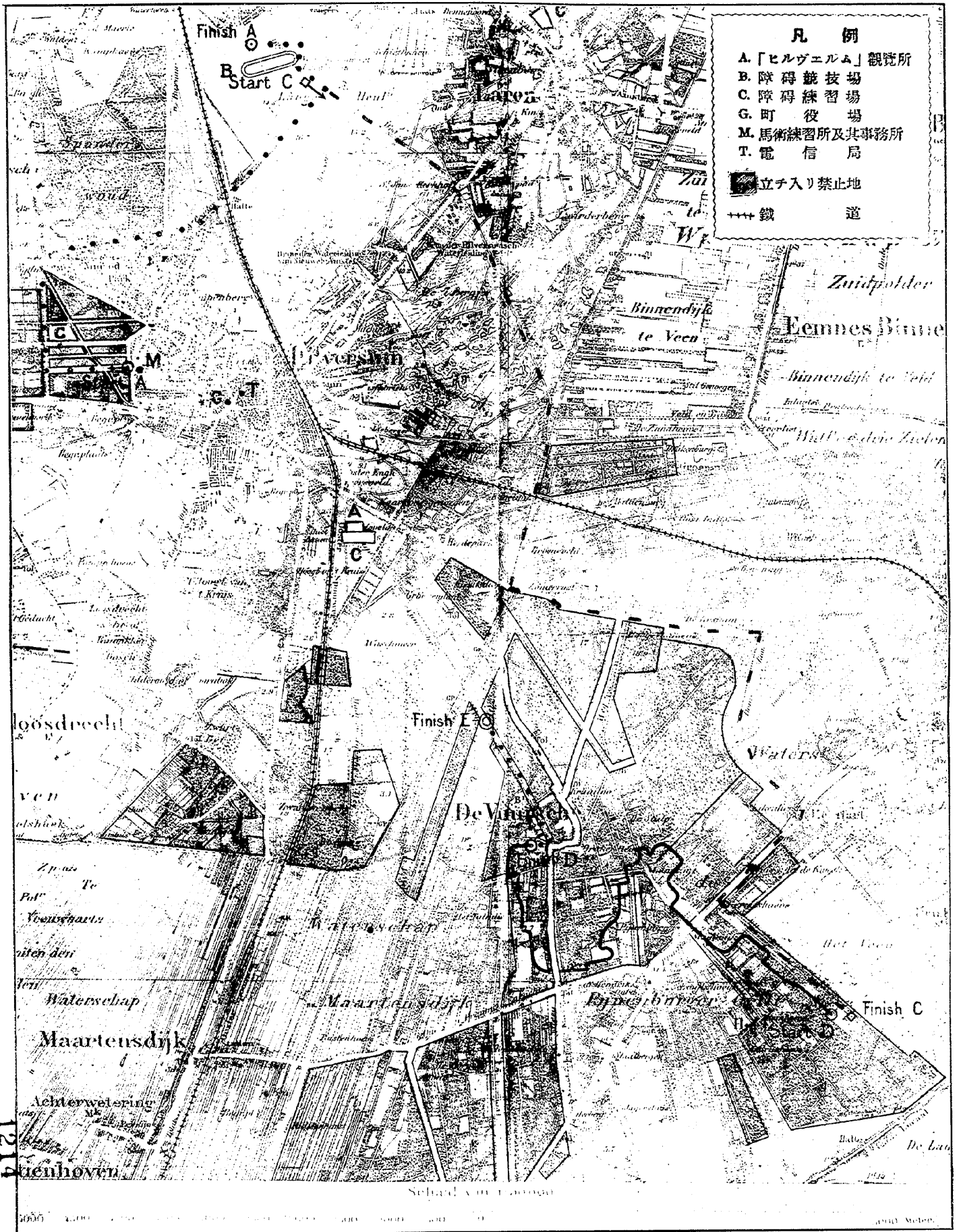
第二區ハ平坦ノ原野ニ、急造ノ固定障礙ヲ一周一哩ノ橢圓馬場上ニ設ケ、其ノ障礙ノ最高ハ一米一五ニシテ個數ハ七個、水壕ハ三米五〇モアリシナラン乎、要スルニ永久設備ノ障礙競馬場ナラサルヲ以テ、地盤凸凹多ク疾速ナル速度ニヨル飛越ト馳驅ニハ不良ナル狀態ナリ、騎手ハ此馬場ヲ二周半シテ四杆ノ距離ヲ終ル

第三區ハ若干ノ起伏アルモ概ネ平坦ナル砂道或ハ舗道ナリ、而シテ第四區ハ主トシテ和蘭特有ノ乳牛放牧場ナルモ若干ノ森林アリ、又行路ニ横ハル障礙ハ乾壕及水壕多ク、其幅三米五〇ニ至リ其深サハ皆相當ノ深度ヲ有シタリ、其他十米内外ノ距離ニ設ケラレタル高さ一米一五ノ垂直障礙ニ數回遭逢シ、單一ナル垂直牧柵亦多數設ケラレタリ、是等ノ障礙ノ數ハ正確ナラサルモ四十ヲ超ユ

今選手ニ交付セラレタル徑路ヲ示セル五萬分一ノ圖ハ次ノ如シ

本競技ハ綜合競技中ノ重要ナル課目ナリ、騎手踴躍センカ馬障碍ヲ飛越セサルヘク、御法巧ミナラサレハ馬障碍ヲ飛越スルニ過失ヲ犯サン、騎手徒ラニ燥急ラハ馬爲メニ肺力ヲ過勞スヘク、冷靜ヲ缺カハ通過ヲ指示セル標旗ヲ見落シテ規定ノ履行ヲナシ得サルヘシ、宜ナル哉本競技ノ成績ニ徵スルニ、四十六ノ参加者中途中失權或ハ自ラ棄權セルモノ十二ヲ算シ、又著シク遲着ノモノアリ、尙競技終了後ニ於ケル馬ノ状態ニシテ出血セルモノ、跛行セルモノ等ヲ生シタル如キ、大ニ鑑ミル所ナカルヘカラス

今其第二次持久力競技ノ成績ヲ見ルニ次表ノ如シ



1214

番 號	騎 手	國 名	路上行進	競馬歩歩	障礙區間	總得點
1.	Lt. V. Ankarerona .....	Schweden .....	200	350	702	1252
2.	Commdt. Sloan Doak .....	Ver. Staaten .....	200	508	702	1410
3.	Capt. J. Trenkwald.....	Polen .....	200	508	542.5	1250
4.	Commdt. S. Kido.....	Japan .....	200	518	714	1432
5.	Commdt. Stoitcheff .....	Bulgarien .....	200	500	-52.5	647
6.	Capt. Stoffel .....	Schweiz .....	200	506	718	1424
7.	Lt. Rousseaux .....	Belgien .....	200	500	710	1410
8.	Lt. Qvist .....	Norwegen .....	200	500	704	1404
9.	Capt. Lequio .....	Italien.....	200	506	失	權
10.	Capt. Seiffried .....	Tschechoslowak チェッコ	200	512	失	權
11.	Commdt. von Adda.....	Ungarn .....	200	510	708	1418
12.	Capt. H. von Essen.....	Finnland .....	200	516	728	1444
13.	Lieut. Jensen.....	Dänemark .....	200	510	700	1410
14.	Lieut. van der Voort van Zijp.....	Holland .....	200	504	700	1404
15.	Lt. Pernot du Breuil .....	Frankreich .....	200	514	732	1446
16.	Mojor Neumann .....	Deutschland .....	200	514	722	1436
17.	Capt. Jimerez Alfaro .....	Spanien .....	200	502	失	權
18.	—	—	—	—	—	—
19.	Lieut. Kettner .....	Schweden .....	200	504	700	1404
20.	Commdt. George .....	Ver. Staaten .....	200	510	失	權
21.	Capt. Antoniowicz .....	Polen .....	200	514	724	1438
22.	Capt. Lekarsky.....	Bulgarien .....	200	510	失	權
23.	Commdt. de Ribeaupierre .....	Schweiz .....	200	512	失	權
24.	Lieut. Comte de Jonghe d'Ardoye..	Belgien .....	200	514	失	權
25.	Lieut. Ordning .....	Norwegen .....	200	500	712	1412
26.	Capt. Cerboreschi.....	Italien.....	200	502	632	1334
27.	Capt. Oharous .....	Tschechoslowak...チェッコ	200	502	710	1412
28.	Capt. von Cseh.....	Ungarn .....	200	510	490	1200
29.	Capt. Gundelach .....	Dänemark .....	200	500	失	權
30.	Lt. Pahud de Mortanges.....	Holland .....	200	514	718	1432
31.	Capt. Denis de Rivoire .....	Frankreich .....	200	512	710	1422
32.	Lt. Lippert .....	Deutschland.....	200	520	706	1426
33.	Capt. Cavanillaz Prosper.....	Spanien .....	200	514	630	1344
34.	—	—	—	—	—	—
35.	Capt. Colliander .....	Schweden .....	200	504	704	1408
36.	Capt. Carr .....	Ver. Staaten .....	200	510	716	1426
37.	Lt. Col. Baron de Rommel .....	Polen .....	200	520	520	1240
38.	Capt. Semoff.....	Bulgarien.....	200	502	=455	247
39.	Lt. Col. Gerber .....	Schweiz .....	200	512	712	1424
40.	Lt. van Derton .....	Belgien .....	200	512	失	權
41.	Lt. Johansen .....	Norwegen .....	200	462.5	708	1370
42.	Lt. Valenzano .....	Italien.....	200	500	716	1416
43.	Lt. Stacey .....	Tschechoslowak チェッコ	200	—	失	權
44.	Commdt. Binder .....	Ungarn .....	200	508	失	權
45.	Capt. de Kruff .....	Holland .....	200	500	716	1416
46.	Commdt. Longuin-Spindler.....	Frankreich .....	200	516	失	權
47.	Hauptm. Feyerabend .....	Deutschland .....	200	514	360	1074
48.	Capt. Somalo paricio .....	Spanien .....	200	500	568	1268

第一表

第二次持久力競技ノ成績表

第二表 第二次持久力競技ノ各地區經過時間表

出發順	騎手	障礙競馬場ノ飛越 四料、分速六百米 (六分四十秒以内)					生地騎乗競走 八料、分速四百五十米 (十七分九十六秒以内)							三十六料ノ總所要時間						
		所要時間			増加點	遅着	ニヨル	減點	障礙點	所要時間			増加點	遅着	ニヨル	減點	障礙點	時	分	秒
		所要時	速シ	遅シ						所要時	速シ	遅シ								
1	Leutenant V. Ankarcrona .....	6'36 <sup>3</sup> / <sub>5</sub>	3 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>	落馬	0	—	6	16'45 <sup>2</sup> / <sub>5</sub>	60 <sup>3</sup> / <sub>5</sub>	—	2	—	0	—	1	52	57 <sup>2</sup> / <sub>5</sub>			
2	Commandant Sloan Doak .....	6'08 <sup>2</sup> / <sub>5</sub>	31 <sup>3</sup> / <sub>5</sub>	—	8	—	0	16'45 <sup>3</sup> / <sub>5</sub>	60 <sup>2</sup> / <sub>5</sub>	—	2	—	0	—	1	52	33			
3	Capitan J. Trenkwald.....	6'05 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>	34 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	—	8	—	0	18'33 <sup>0</sup>	—	47 <sup>0</sup>	—	157 <sup>1</sup> / <sub>2</sub>	0	—	1	50	26 <sup>3</sup> / <sub>5</sub>			
4	Commandant S. Kido .....	5'44 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>	55 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	—	18	—	0	15'43 <sup>3</sup> / <sub>5</sub>	122 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>	—	14	—	0	—	1	43	54 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>			
5	Commandant V. Stoitcheff.....	6'42 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>	—	2 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>	—	0	0	21'22 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	—	216 <sup>3</sup> / <sub>5</sub>	—	752 <sup>1</sup> / <sub>2</sub>	0	—	1	59	48 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>			
6	Capitan Ch. Stoffel .....	6'12 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>	27 <sup>4</sup> / <sub>5</sub>	—	6	—	0	15'24 <sup>4</sup> / <sub>5</sub>	141 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>	—	18	—	0	—	1	49	44 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>			
7	Leutenant L.L. Rousseaux .....	6'29 <sup>2</sup> / <sub>5</sub>	10 <sup>3</sup> / <sub>5</sub>	—	0	—	0	15'59 <sup>0</sup>	107 <sup>0</sup>	—	10	—	0	—	1	50	21 <sup>2</sup> / <sub>5</sub>			
8	Leutenant A. Qvist .....	6'28 <sup>0</sup>	12 <sup>0</sup>	—	0	—	0	16'30 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	75 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	—	4	—	0	—	1	48	10 <sup>2</sup> / <sub>5</sub>			
9	Capitan T. Lequio .....	6'11 <sup>0</sup>	29 <sup>0</sup>	—	6	—	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
10	Capitan J. Seyfried .....	5'59 <sup>4</sup> / <sub>5</sub>	40 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>	—	12	—	0	16'33 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>	72 <sup>4</sup> / <sub>5</sub>	—	4	—	0	—	1	47	22 <sup>3</sup> / <sub>5</sub>			
11	Commandant A. V. Adda .....	6'01 <sup>0</sup>	39 <sup>0</sup>	—	10	—	0	16'13 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	92 <sup>2</sup> / <sub>5</sub>	—	8	—	0	—	1	44	48 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>			
12	Capitan H. von Essen .....	5'46 <sup>2</sup> / <sub>5</sub>	53 <sup>3</sup> / <sub>5</sub>	—	16	—	0	14'27 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	196 <sup>2</sup> / <sub>5</sub>	—	28	—	0	—	1	44	02 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>			
13	Leutenant J. P. J. Jensen .....	6'03 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	36 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>	—	10	—	0	16'56 <sup>0</sup>	50 <sup>0</sup>	—	0	—	0	—	1	44	02 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>			
14	Leut. A. van d. Voortvan Zijp.....	6'18 <sup>0</sup>	22 <sup>0</sup>	—	4	—	0	17'03 <sup>0</sup>	43 <sup>0</sup>	—	0	—	0	—	1	51	07 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>			
15	Leut. P. H. Pernot du Breuil .....	5'50 <sup>2</sup> / <sub>5</sub>	49 <sup>3</sup> / <sub>5</sub>	—	14	—	0	14'14 <sup>0</sup>	212 <sup>0</sup>	—	32	—	0	—	1	46	09 <sup>3</sup> / <sub>5</sub>			
16	Major B. Neumann.....	5'52 <sup>0</sup>	48 <sup>0</sup>	—	14	—	0	15'02 <sup>3</sup> / <sub>5</sub>	163 <sup>2</sup> / <sub>5</sub>	—	22	—	0	—	1	49	13 <sup>3</sup> / <sub>5</sub>			
17	Capitan F. Jimenez Alfaro.....	6'22 <sup>0</sup>	18 <sup>0</sup>	—	2	—	0	16'41 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>	64 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>	—	2	—	4	140	1	44	15			
19	Leutenant N. Kettner .....	6'18 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	21 <sup>3</sup> / <sub>5</sub>	—	4	—	0	16'53 <sup>0</sup>	53 <sup>0</sup>	—	0	—	0	—	1	48	46 <sup>3</sup> / <sub>5</sub>			
20	Command. Ch. P. George.....	6'04 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	35 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>	—	10	—	0	17'06 <sup>2</sup> / <sub>5</sub>	39 <sup>3</sup> / <sub>5</sub>	—	0	—	0	—	1	53	27 <sup>2</sup> / <sub>5</sub>			
21	Capitan M. Antoniewicz.....	5'54 <sup>0</sup>	46 <sup>0</sup>	—	14	—	0	14'49 <sup>0</sup>	177 <sup>0</sup>	—	24	—	0	—	1	48	37 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>			
22	Capitan K. Lekarsky.....	6'04 <sup>0</sup>	36 <sup>0</sup>	—	10	—	0	17'45 <sup>0</sup>	1 <sup>0</sup>	—	0	—	6	210	1	57	12			
23	Comm. R. de Ribeaupierre .....	5'58 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	41 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>	—	12	—	0	18'31 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	—	45 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	—	157 <sup>1</sup> / <sub>2</sub>	0	—	1	51	58 <sup>2</sup> / <sub>5</sub>			
24	Leut. L. de Jonghe d'Ardoye.....	5'51 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>	48 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	—	14	—	0	15'43 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>	122 <sup>4</sup> / <sub>5</sub>	—	14	—	0	—	1	49	56 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>			
25	Leutenant B. Ordning.....	6'25 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	14 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>	—	0	—	0	15'52 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>	113 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	—	12	—	0	—	1	54	03 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>			
26	Capitan E. Cerboneschi .....	6'21 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	18 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>	—	2	—	0	16'44 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>	61 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	—	2	—	2	70	1	53	36 <sup>2</sup> / <sub>5</sub>			
27	Capitan J. Charous .....	6'23 <sup>0</sup>	17 <sup>0</sup>	—	2	—	0	16'00 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>	105 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	—	10	—	0	—	1	48	53 <sup>3</sup> / <sub>5</sub>			
28	Capitan K. V. Cseh .....	6'02 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>	37 <sup>4</sup> / <sub>5</sub>	—	10	—	0	16'47 <sup>0</sup>	59 <sup>0</sup>	—	0	—	6	210	1	54	42 <sup>3</sup> / <sub>5</sub>			
29	Capitan C. J. Gundelach .....	6'42 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>	—	2 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>	—	0	0	17'59 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	—	13 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>	—	35	0	—	1	54	09 <sup>3</sup> / <sub>5</sub>			
30	Leut. C. Pahud de Mortanges .....	5'50 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	49 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	—	14	—	0	15'20 <sup>0</sup>	146 <sup>0</sup>	—	18	—	0	—	1	50	0 <sup>2</sup> / <sub>5</sub>			
31	Capt. F. Denis de Rivoire.....	5'55 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	44 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	—	12	—	0	15'58 <sup>2</sup> / <sub>5</sub>	107 <sup>2</sup> / <sub>5</sub>	—	10	—	0	—	1	52	38 <sup>2</sup> / <sub>5</sub>			
32	Leutenant R. Lipfert .....	5'37 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>	62 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	—	20	—	0	16'16 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>	89 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	—	6	—	0	—	1	50	35 <sup>3</sup> / <sub>5</sub>			
33	Capt. J. Cavanillaz Prosper .....	5'51 <sup>0</sup>	49 <sup>0</sup>	—	14	—	0	16'52 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	53 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	—	0	—	2	70	1	47	40			
35	Capitan S. Colliander .....	6'17 <sup>0</sup>	23 <sup>0</sup>	—	4	—	0	16'34 <sup>2</sup> / <sub>5</sub>	71 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>	—	4	—	0	—	1	49	03 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>			
36	Capitan T. Carr .....	6'03 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	36 <sup>3</sup> / <sub>5</sub>	—	10	—	0	13'32 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	133 <sup>3</sup> / <sub>5</sub>	—	16	—	0	—	1	57	08			
37	Oberstl. Baron de Rommel .....	5'20 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>	79 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	—	20	—	0	14'25 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	200 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>	—	30	—	6	210	1	52	57 <sup>2</sup> / <sub>5</sub>			
38	Capitan F. Semoff .....	6'25 <sup>0</sup>	15 <sup>0</sup>	—	2	—	0	21'18 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	—	212 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>	—	735	12	420	1	58	53 <sup>2</sup> / <sub>5</sub>			
39	Leutenant Col. W. Gerber .....	5'56 <sup>0</sup>	44 <sup>0</sup>	—	12	—	0	15'51 <sup>3</sup> / <sub>5</sub>	114 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	—	12	—	0	—	1	50	56			
40	Leutenant G. van Derton .....	5'55 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	44 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>	—	12	—	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
41	Leutenant E. Johansen.....	6'58 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	—	18 <sup>3</sup> / <sub>5</sub>	—	37 <sup>1</sup> / <sub>2</sub>	0	16'10 <sup>2</sup> / <sub>5</sub>	95 <sup>3</sup> / <sub>5</sub>	—	8	—	0	—	1	45	11			
42	Leutenant G. Valenzano .....	6'32 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	7 <sup>2</sup> / <sub>5</sub>	—	0	—	0	15'32 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	133 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	—	16	—	0	—	1	50	30 <sup>2</sup> / <sub>5</sub>			
43	Leutenant F. Stacey.....	7'46 <sup>0</sup>	—	66 <sup>0</sup>	—	162 <sup>1</sup> / <sub>2</sub>	失權	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
44	Commandant O. Birder .....	6'08 <sup>0</sup>	32 <sup>0</sup>	—	8	—	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
45	Capitan G. P. de Kruijff .....	6'30 <sup>2</sup> / <sub>5</sub>	9 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	—	0	—	0	15'35 <sup>2</sup> / <sub>5</sub>	130 <sup>3</sup> / <sub>5</sub>	—	16	—	0	—	1	44	46 <sup>3</sup> / <sub>5</sub>			
46	Comm. E. Longin-Sindler .....	5'49 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	50 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>	—	16	—	0	16'02 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	103 <sup>1</sup> / <sub>5</sub>	—	10	—	—	—	1	46	31			
47	Hauptmann W. Feyerabend .....	5'52 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	47 <sup>2</sup> / <sub>5</sub>	—	14	—	0	16'00 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	105 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	—	10	—	10	350	1	52	30 <sup>2</sup> / <sub>5</sub>			
48	Capitan A. Somalo-Paricio .....	6'33 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	6 <sup>0</sup> / <sub>5</sub>	—	0	—	0	16'16 <sup>0</sup>	90 <sup>0</sup>	—	8	—	4	140	1	48	45			

註 (1) 一障礙拒避ニ據リ失權ス (2) 一障礙ヲ飛越メス通過セシニ因リ失權ス (3) 方向指示ノ標旗外ヲ通過セシニヨリ失權ス  
(4) 障礙指示標旗外ヲ飛越通過セシニ因リ失權ス (5) 馬ノ繋ヲ控折シ中止ス



今第一次、第二次競技ノ上五分ノ一ノ成績ヲ見ルニ次ノ如ク、即チ第三次競技成績如何カ榮冠ヲ得ルト否トニ分レシムルモノナリ

第一次、第二次、合計成績

序列	國名	馬名	騎手	得點
一	和蘭	Marcroix	De Mortanges	1669.82
二	和蘭	Va'ten	De Kruijff	1667.06
三	獨逸	Flucht	Lipfert	1662.62
四	獨逸	Ija	Neumann	1644.42
五	佛國	Tihna	De Breuil	1639.20
六	日本	久軍	城戸	1632.66
七	芬蘭	El Kad	von Essen	1620.64
八	波蘭	Maja Mira	Antoniewicz	1582.50
九	合衆國	Verdun Belle	Carr	1563.00

(ハ) 第三次 障碍飛越競技

本競技ハ八月十一日持久力競技ノ翌日「アムステルダム」陸上競技場ニ於テ觀衆三萬七千ノ盛會裡ニ施行セラレタリ本競技ハ大ナル勞役ニ服セル翌日ニ於テ尙馬匹ノ柔軟ノ度、所要ノ精力如何ヲ檢シ眞ニ優秀ナル軍馬又ハ野外騎乗用馬タルニ適スルヤ否ヤヲ查驗セントスルヲ目的トス

之方爲メ大ナル障碍ヲ用ヒス、最高一米一五、幅ハ水壕ニテ三米五〇ト制限シ、箇數ハ約十二個ト定マレリ  
 執ルヘキ 駢歩ノ速度ハ一分間三百七十五米以上ニシテ、速着ハ増點セサルモ遲着ハ二秒ニ付半點減トシ、障碍過失ノ  
 減點ハ次ノ規定ニ依ル

○ 減點規定

- |                        |     |
|------------------------|-----|
| 1、落馬(馬ノ顛倒セサルトキ)        | 十點減 |
| 2、同一障碍又ハ全般ヲ通シ三回ノ拒止、忌避  | 失權  |
| 3、三度障碍間ニ於テ馬力抵抗シテ向ハサルトキ | 失權  |
| 4、馬ノ顛倒ト落馬              | 六點減 |
| 5、同一障碍又ハ全般ヲ通シ二回目ノ忌避、駐止 | 六點減 |
| 6、二度障碍間ニ於テ抵抗シ前進ヲ肯セサルトキ | 六點減 |
| 7、前肢ニ依リ障碍ヲ墜セシモノ        | 四點減 |
| 8、水壕ニ前肢ヲツケタルモノ         | 四點減 |
| 9、一回ノ忌避、駐止             | 二點減 |
| 10、一回ノ障碍間ニ於テ抵抗シテ向ハサルモノ | 二點減 |
| 11、後肢ニヨル障碍ノ落下          | 二點減 |
| 12、後肢ヲ水壕ニツケタルモノ        | 二點減 |

## 13、經路ノ誤リ

## 二點減

右ノ外障礙ノ袖垣、旗等ヲ轉覆セルモノハ忌避セルモノト見做シ再行スヘキモノトシテ其障礙ノミヲ飛越セシム、馬若シ躊躇シツ、又ハ足ヲ滑ラシタル爲メ等ニヨリ其胸ニテ障礙ヲ落下セシメタルモノモ右ニ準ス

二重或ハ三重(二段或ハ三段)ノ飛越ニ在リテハ其各障礙ノ個々ヲ一個ト見做シテ探點ス、若シ二ツ目或ハ三ツ目ノ障礙ニテ忌避、駐止等ヲ爲セル場合ハ其中間ヨリ再行スヘキモノトス

複障礙(例ハハ竝行横木、壕ト他ノ障礙トノ組ミ合セノ如キモノ)ニ對シ前後肢ニヨル過失ヲ別々ニ犯セル場合ハ、其重キ減點ノ方ノ過失ノミト見做シテ探點ス(例之竝行横木ニ於テ一方ノ横木ヲ後肢ニテ、他方横木ヲ前肢ニテ落セシ場合ハ、之ヲ單ニ前肢ニヨル過失ト見做ス)

馬若シ競技場外ニ奔逸セル場合ハ失權トス

其他探點上ニ關シ疑問生セシ場合ハ國際馬術聯盟カ認容セル佛國聯盟部ノ規定ヲ準用スルモノトス(減點規定終リ)當日即チ綜合馬術競技第三次競技日ハ、午前七時ヨリ「ヒルヴェルスム」停車場廣場ニ於テ、第三次競技参加能否ノ檢査ヲ施行セラレタリ

審査官ハ調教競技開始前ノモノト同人ニシテ跛蹄ニ何等ノ保護加療ノ品ヲ附スルコトナク裸馬ニテ檢査場ニ牽出サシメ、次ノ如キモノハ第三次競技参加不可能タルコトヲ宣ス

1、馬匹過勞ト確認セラル、モノ

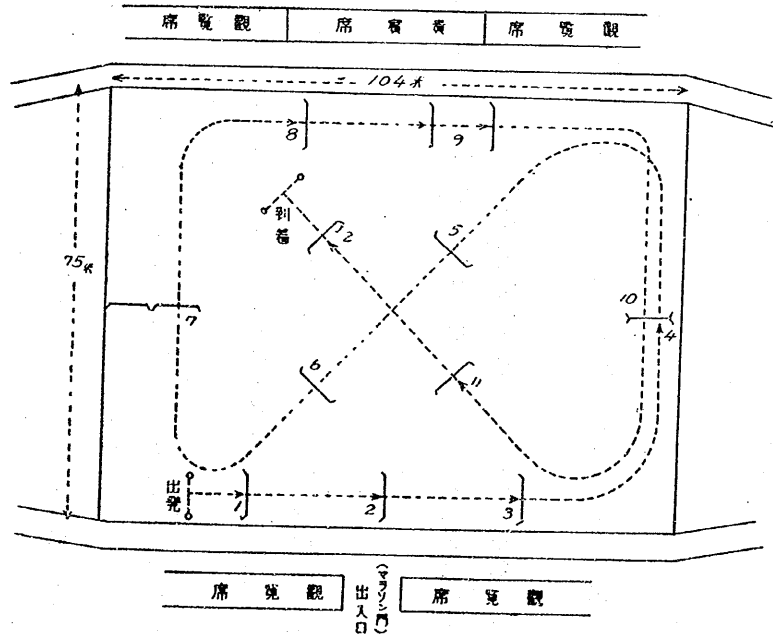
2、馬匹ノ跛行著シク競技ニ堪ヘサルモノ

據是六名ノ失權者ヲ生シ、本審査ニ合格セル二十八名ノ騎手ト馬匹トハ、検査後直ニ特別列車ニ依リ「アムステルダム」陸上競技場ニ近キ停車場へ輸送セラレ、著後天幕ヲ以テ急造セラレタル競技場側ノ厩ニ入ル

本競技ハ十一日午後二時ヨリ開始セラレタルモ、障碍ハ當日初メテ参加者ニ示サレ而カモ其時刻ハ午前十一時ヨリ午後一時ノ間ト限定セラレタリ

参加者ハ規定ノ順序ニ依リ一名宛馬匹負擔量(七十五疋最小限)計量後入場シ先ツ臨場遊ハサレタル和蘭國皇太后陛下ニ對シ敬禮ノ後出發點ニ到リ障碍飛越ニ移ル

全距離五百六十米、速度分速三百七十五米、使用最大限時間一分三十秒ニシテ遲着ハ減點セラル、今其經路ヲ示セハ下圖ノ如シ



障得ノ形状ハ概ネ後述ノ大障得飛越用ノモノニ似テ、其形態、要求ヲ低下セルモノト見ルヘシ、但シ跳上跳下障得ハ用ヒス  
該障得ハ幅ヲ有スルモノ尠カラサルモ高サ大ナラサル關係上飛越ハ敢テ困難ナラス、從テ次ノ成績ノ如ク無缺點ノモ  
ノ多シ

障得競技成績表

騎手 番 號	國 籍	減 點		得 點  (滿點三〇〇)
		過 失	乘ノ 係數 十五 ナル モ	
2	米	0	0	300
3	波	-6	-90	210
4	日	-8	-120	180
6	瑞西	-6	-90	210
7	白	0	0	300
8	諸	-2	-30	270
11	洪	-2	-30	270
12	芬	0	0	300
13	丁	0	0	300
14	和	0	0	300
15	佛	-28.5	-427.5	-127.5
16	獨	0	0	300
19	瑞典	0	0	300
21	波	-4	-60	240
25	諸	0	0	300
26	伊	0	0	300
27	チエフコ	-4	-60	240
30	和	0	0	300
31	佛	-6	-90	210
32	獨	-6	-90	210
33	西	-6	-90	210
35	瑞典	-4	-60	240
36	米	-6	-90	210
37	波	-2	-30	270
39	瑞西	-4	-60	240
41	諸	-12	-180	120
42	伊	0	0	300
45	和	0	0	300

(ニ) 結 末 成 績

以上三次競技ニ於ケル得點ノ合計ハ即チ各騎手ノ成績ナリ、又最後迄競技ヲ行ヒタル各國代表三名アルモノハ其合計

點ノ多キモノノ順ニヨリ優勝國ヲ決定セラレタリ

- 優勝國 和 蘭 五八六五點六八
- 二 等 諸 威 五三六九、六四
- 三 等 波 蘭 五〇六七、九二

個人ノ成績ハ

- 壹 等 オリムピツク優勝者 和蘭選手 モルタンゲス中尉
- 二 等 同 クルイフ大尉
- 三 等 獨逸選手 ノエマン少佐

ノ順ニシテ一般成績次表ノ如シ

發 順	勝 手	國 名	馬	得 點	順 位
30.	Lieut. C. F. Pahud de Mortanges	Holland.....和	Marcroix	1969.82	1
35.	Cpt. G. P. de Krayffjr	Holland.....和	Va-t'en	1967.26	2
16.	Major B. Neumann	Deutschland.....獨	Ilja	1934.42	3
14.	Lieut. A. v. d. Vort van Ziep	Holland.....和	Silver Piece	1928.60	4
12.	Capt. H. von Essen	Finnland.....芬	El Kaid	1924.64	5
25.	Lieut. B. Ordning	Norwegen.....諾	And Over	1912.98	6
19.	Lieut. N. Kettner	Schweden.....瑞典	Caesar	1901.66	7
8.	Lieut. A. Qvist	Norwegen.....諾	Hidalgo	1895.14	8
13.	Lieut. J. P. J. Jensen	Danemark.....丁	Pearl	1885.24	9
32.	Lieut. R. Lippert	Deutschland.....獨	Flucht	1872.62	10
7.	Lieut. L. L. Rousseaux	Belgien.....白	Swang	1872.02	11
35.	Capt. S. Colliander	Schweden.....瑞典	King	1868.92	12
39.	Lieut. Col. W. Gerber	Schweiz.....瑞西	Chesnut Lily	1868.40	13
42.	Lieut. G. Valenzano	Italien.....伊	Jaddo	1861.52	14
11.	Comm. A. von Adda	Ungarn.....匈	Alvézer	1845.18	15
27.	Capt. J. Charou	Tschechoslowチエツコ	Eugadin	1844.44	16
2.	Comm. Sloan Doak	Verein. Staaten.....米	Misty Morn	1841.68	17
31.	Capt. E. L. C. Denis de Rivyre	Frankreich.....佛	Nistos	1831.32	18
21.	Cpt. M. Antoniewicz	Polen.....波	Maja Mita	1822.50	19
6.	Capt. Ch. Stoffel	Schweiz.....瑞西	Attila	1818.46	20
4.	Comm. J. Kido	Japan.....日	Kyugun	1812.67	21
36.	Capt. T. Carr	Verein. Staaten.....米	Verdun Belle	1773.52	22
26.	Capt. E. Carboneschi	Italien.....伊	Derna	1733.04	23
38.	Capt. J. Cayánillar Prosper	Spanien.....西	Barrabas	1708.56	24
3.	Capt. J. Trenkwald	Polen.....波	Lwi Pazur	1645.20	25
37.	Lieut. Col. G. Baron de Rommel	Polen.....波	Donese	1600.22	26
41.	Lieut. E. Johanson	Norwegen.....諾	Baby	1561.52	27
15.	Lieut. P. H. Perrot de Breui	Frankreich.....佛	Titanja	1511.60	28

綜合馬術競技各選手最終決定順位表

其三 純馬術競技ノ狀況

純馬術競技ハ八月十日午後一時半ヨリ「ヒルヴェルスム」ニ於ケル綜合競技ノ調教競技場ニ於テ、先ツ第一班ヨリ開始セラレ、翌十一日午前八時ヨリ第二班ノ審査ヲ行ハレタリ

第一日ハ和蘭國皇太后陛下臨御臺覽遊ハサレタリ本競技參加國ハ十二ヶ國二十九名ニシテ、匈牙利ハ既ニ申込ミ準備シアリシニ拘ラス競技前日參加申込ヲ取消セリ、本邦ヨリハ遊佐中佐魁號ヲ以テ、岡田少佐濑秋號ヲ以テ出場ス本競技モ亦一國參名ノ選手ヲ最大限トシ各個ノ成績序列ヲ定ムル外、三名ノ合計得點ニヨリ一等ヨリ參等迄ノ優勝國序列ヲ定ム

審査委員ハ左ノ五名ニシテ各國委員ハ各々補佐官一名ヲ伴フ

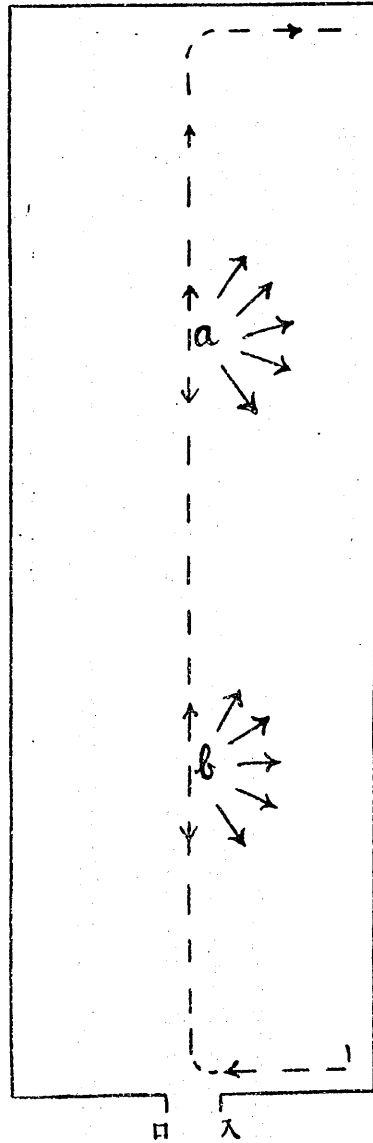
審査長	和蘭	van Reigersberg Versluis	中佐
委員	獨逸	von Holzing Berstett	將軍
	白	de Trannoy	少佐
	佛	Wattel	中佐
	瑞典	Nils Bonde	伯爵

本競技ハ特種歩調ヲ檢セスト雖モ、馬場馬術馬トシテ其調教ハ完全ニ、步樣ハ其短縮ト伸暢トニ論ナク彈發ト輕快性トヲ有セサルヘカラス、各運動ト步度ハ次ニ掲クル所ノ如ク複雑ニ配合セラレアリ、從テ騎手ハ完全ニ馬ヲ支配シアラサレハ所定ノ如ク運動ノ實行不可能ナリ、宜ナル哉參加國ノ勤ナキ之ヲ以テ馬術國ノ如何ヲトスルニ足ルヘク又競技ノ容易ナラサルヲ窺ヒ得ヘシ

競技ハ十三分時内ニ終了スヘク其ノ檢測ハ敬禮ノ舉手終リタルトキヨリ始ム、若シ此時間以上ヲ要セシ場合ハ每秒二



審 査 席



(第一圖)

點ヲ減ス馬場ノ形狀縱六〇米、横二〇米ニシテ綜合競技ノ調教競技馬場ナリ、即チ露天ニシテ馬場ヲ區劃スルニ高サ約四十柵ノ柵ヲ用ヒタリ

(イ) 實施ノ運動

審査官席ニ向ヒ駈歩ニテ入場シ、審査席ニ面シ約十米前ニ停止、不動、敬禮ス  
一、常歩ノ運動

1、收縮セサル姿勢ヲ以テ鞭ヲ樂ニシ、常歩ニテ前進ヲ起シテ右手前ニ入ル

2、審査席ノ反對短方蹄跡中央ヨリ右へ回轉、審査席ニ對シ行進、同時ニ收縮ス

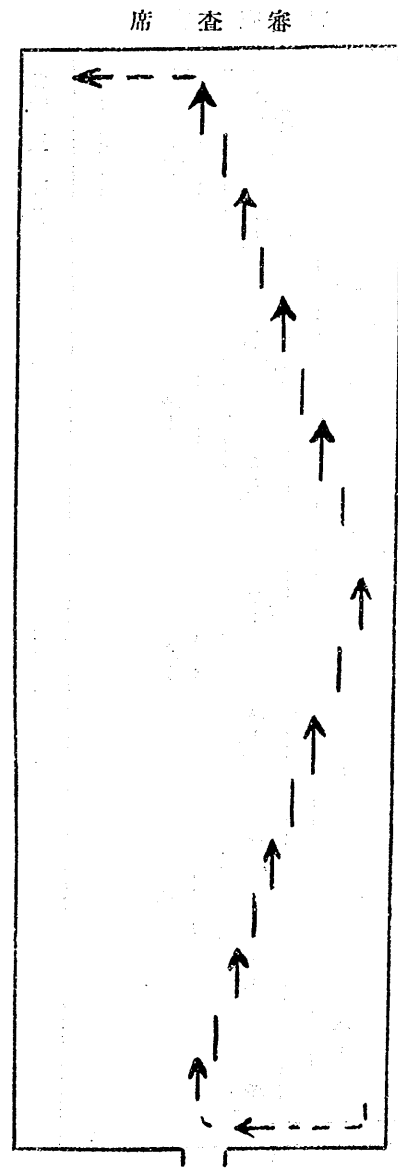
3、中央縦線上ノ中央點ヲ數歩過キタル後「右へ後肢旋回」(第一圖a)引續キ數歩前進シ「左へ後肢旋回」(第一圖b)次テ短縮速歩ニ發進シ右手前蹄跡ニ入ル

二、速歩ノ運動

1、馬場一周半ヲ速歩ノ伸暢ヲ行フモノニシテ、十分ニ收縮セル短縮速歩ヨリ伸暢速歩ヘ明瞭ニ移行スヘク又其反對ニ實施スヘシ（伸暢速歩ハ輕速歩トス）

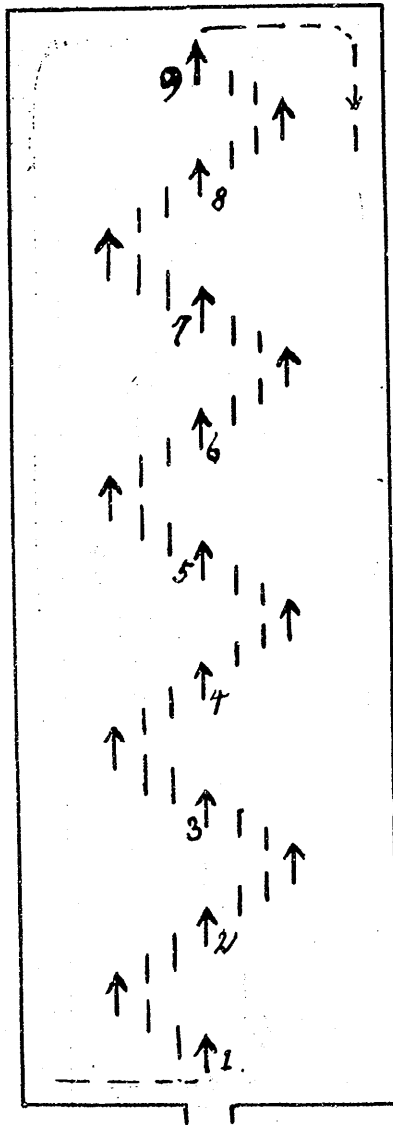
2、審査席ニ對シ短方蹄跡中央ヨリ回轉直ニ右横歩、縦ノ中央ヨリ左横歩、左手前トナル（第一圖）

（第二圖）



3、左手前ニ入レハ、一方縦蹄跡上ハ輕速歩ニテ前進スヘシ

審 査 席



(第三圖)

4、再ヒ審査席ニ對シ横跡ノ中央ヨリ回轉シ、横歩ヲ以テスル八段山形乗ヲ行フ  
 此時第一斜線、最後斜線ハ三步行進 他ハ六歩ノ横歩ト定ム (第三圖)

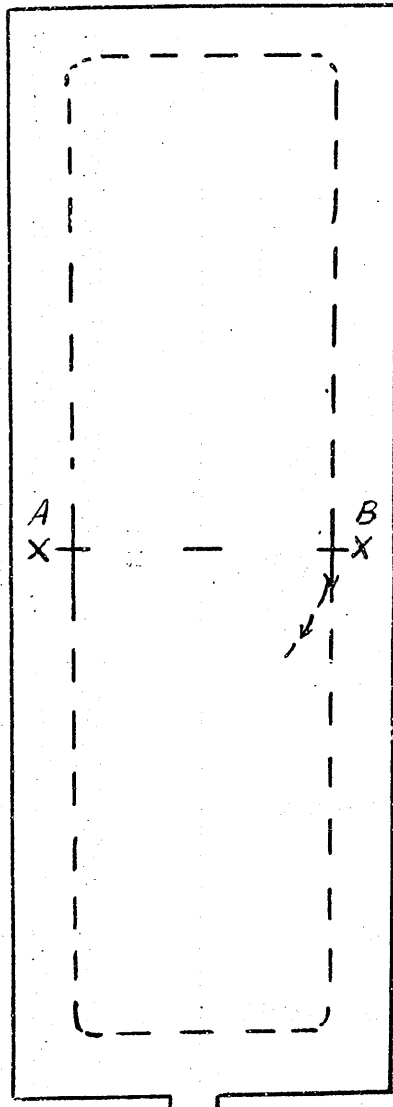
三五

5、終ツテ右手前ニ入り横跡ノ入口タル中央ニテ停止、不動、

6、短縮速歩ニ出發ス

三、駈歩ノ運動

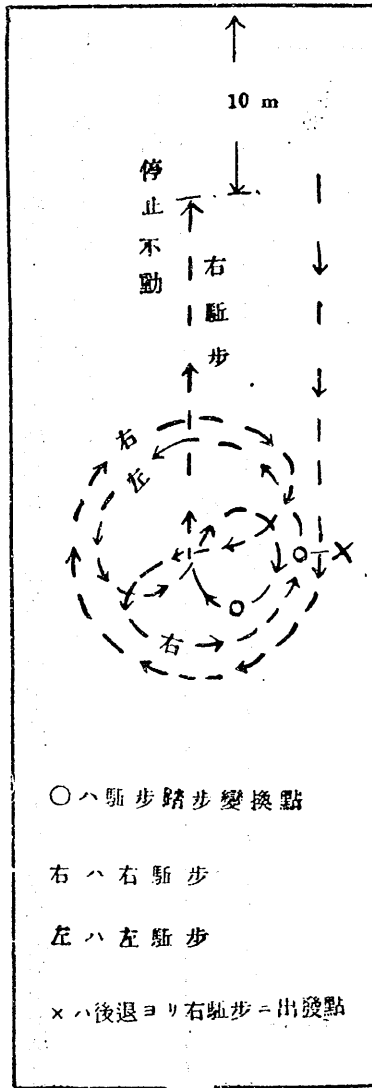
審 査 席



(第四圖)

- 1、駢歩運動ハ從來ノ蹄跡ヨリニ米内方ヲ行進シテ行フ
- 2、先ツ第四圖ニ示ス出發點Aヨリ左駢歩ニ出發ス、而シテ最初短縮速歩ヨリトス、Bニ至ル前短縮速歩トナリB點ヨリ右駢歩、次テA點ニ至ル前常歩トナリ、Aヨリ左駢歩、Bニ至ル前常歩トナリ、Bヨリ右駢歩、次テA點ニテ停止、左駢歩、Bニテ停止、右駢歩、Aニテ停止、後退シ左駢歩、Bニテ停止、後退シ右駢歩ニ出發シ直ニ右手前輪乘ニ入ル (馬場ノ中央ニ)

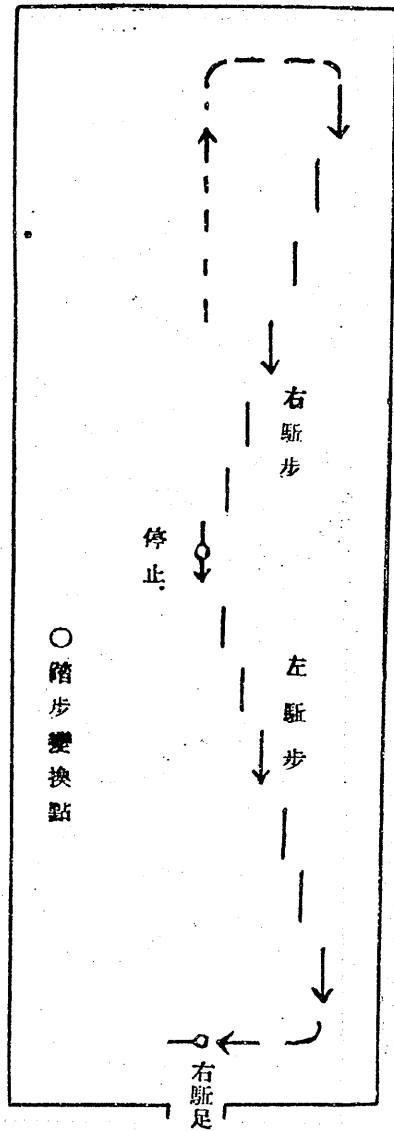
審 査 席



- 3、一回輪乗ヲ右駢歩ニテ行進終ラハ、輪乗ノ手前ヲ變フ——此時反對駢歩トナリ右駢歩ノ儘トス——○點ニテ左駢歩ニ變換、半部行進後輪乗ノ手前ヲ變ヘ、暫ク反對駢歩ニテ行進シ次テ○點ニテ右駢歩トナリ、右ヘ回轉ス
- 4、審査席前約十米ノ點ニテ停止、不動、次テ六歩後退、右駢歩ニ發進シ右手前ニ入ル(第五圖ノ如シ、但シ圖ハ左、右手前及踏歩變換點ヲ示ス爲メ殊更ニ輪線ヲ並行シアルモ實施ハ同一輪線上ニテ爲スモノトス)

(第五圖)

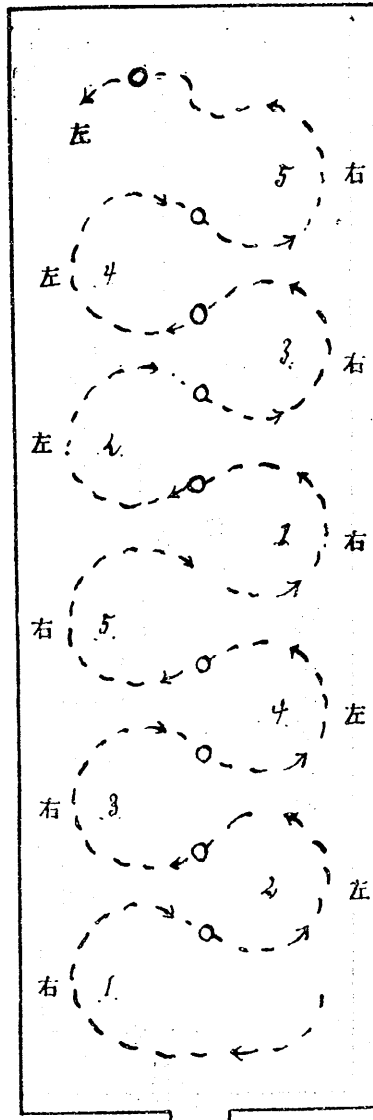
審 査 席



(第六圖)

5、第一隅角通過ト共ニ往復手前變換、其頂點タル馬場ノ中央ニテ停止、不動、更ニ左駢步ニ出發、左橫步ヲ爲シ  
 ツ、往復手前變換ノ殘部ヲ行進シ、其進入スル隅角ハ反對駢步ニテ回轉シ橫蹄跡ノ中央入口ノ側ニテ右駢步ニ  
 變換ス (第六圖)

審 査 席



(第七圖)

踏歩變換ハ浪形中央線上ノ○點ニテナスヘキモノトス (第七圖)

(圖中右、左ハ駈歩ノ手前ヲ示ス)

6、蛇乘ニ入ル

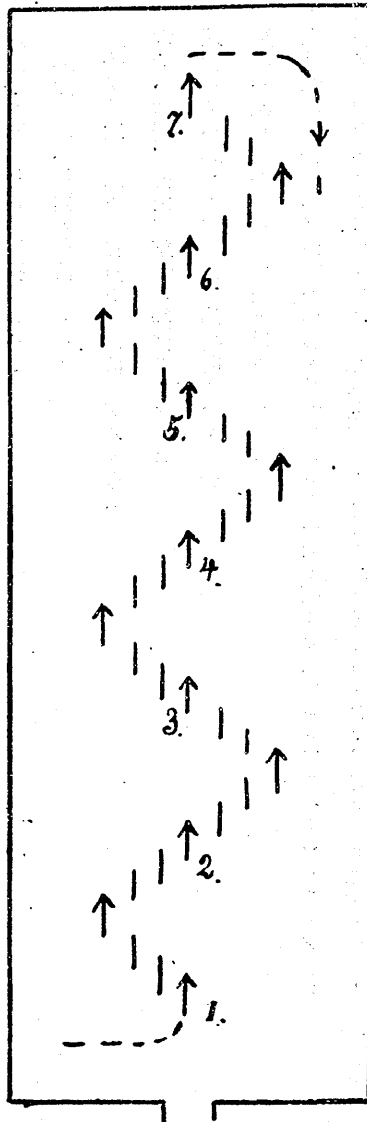
7、最後ノ浪形ハ圖ノ如ク右駈歩ニシテ其儘左手前ニ入り横蹄跡ノ四分ノ一ノ○點ニテ左駈歩ニ變換ス

8、縦蹄跡ニテ步度ヲ伸暢シ、横蹄跡ニテ短縮駈歩、次ノ縦蹄跡ハ四分ノ三ノ長サ丈ケ步度ヲ伸暢シ停止ス、次テ後退スルコト六步、直ニ伸暢駈歩ニ移リ、次ノ縦蹄跡ノ四分ノ三ノ點迄續行シテ短縮駈歩トナル

9、横蹄跡中央ヨリ回轉、六段山形乘ヲ頂點ニテ踏歩ヲ變換シツ、横歩ニテ實施ス、此時第一及最終斜線ハ三歩ナルモ他ハ六步ト定ム (第八圖)

審 査 席

(第八圖)



- 10、山形乗終リテ右手前蹄跡ニ入り、縦蹄跡ノ中央ヨリ右へ回轉、停止、不動
- 11、六歩後退シ左駈歩ニ出發、左手前ニ入ル
- 12、縦蹄跡上ニテ四歩毎、三歩毎、二歩毎及每歩ノ駈歩踏歩變換ヲ左ノ如ク實施ス
  - (a)、一方縦蹄跡上ニテ 四歩毎ノ踏歩變換 四回
  - (b)、次ノ縦蹄跡上ニテ 三歩毎ノ踏歩變換 六回
  - (c)、次ノ縦蹄跡上ニテ 二歩毎ノ踏歩變換 八回
  - (d)、次ノ縦蹄跡上ニテ 每歩ノ踏歩變換 十六回



13、審査席ニ面シ回転、常歩ニ移リ韁ヲ緩メ頭ヲ伸ハサシメツ、中央點ニ停止、敬禮（終リ）

(ロ) 審査上ノ著眼

運動ハ前述ノ如シト雖モ審査上如何ナル著眼ニヨリ採點セラレタルカハ、次ノ審査官ニ頒テ一般著意事項ヲ觀察セサルヘカラス

一、調教最終ノ目的ニ鑑ミ、馬匹ノ運歩活潑、運動快速ニシテ絶對ニ騎手ニ從順ヲ表スルヲ要ス  
是等ハ次ノ如ク眼ニ映スヘシ

- 1、運歩ハ自由ニシテ凝縮ナラス
- 2、運動ハ整齊、輕快且明確ナルヘシ
- 3、運動間馬體ハ絶對ニ眞直ナルヘシ
- 4、騎手ノ扶助ニ對シテ注意シ且沈靜シアルヲ要ス
- 5、常歩ハ整調、自由、踏歩ニ餘裕アルヲ要ス
- 6、速歩ハ自然的ニシテ自由、節次明カナルヘシ
- 7、駈歩ハ流暢、整齊ニシテ衝ニ重ルヘカラス

以上ノ動作ニ於テ馬ノ後肢ハ活潑ナラサルコト又ハ引キ摺ルカ如キコトアルヘカラサルモノトス

騎手ノ扶助操作ノ要求ニヨリテ、馬ハ其馬體ノ各部ヲシテ反射的ニ活潑、敏速ニ運動スヘキモノナリ

二、馬ハ何等ノ癖リナク騎手ノ操作ニ對シ其準備セル所ヲ竭シ、彈發アル關節ヲ以テ躊躇逡巡スルコトナク靜肅ニシ

テ確實ナル運動ヲ現ハサ、ルヘカラス

- 三、停止ニ方リテハ動搖スルコトナク、最モ靜カニ踏込マレタル後肢ノ狀況ヲ表ハスヲ要ス
- 四、運動ニ方リテハ韁ニ輕ク依倚シ、平衡ハ十分ニ確保セラレ、歩度ニ應ジ收縮セラル、ヲ要ス
- 五、横歩ハ常ニ前進氣勢ノ狀態ニ在ルヘク、駈歩ノ踏歩變換ニ在リテハ一飛躍ヲ以テスヘク停止ノ氣味アルヘカラス
- 六、運動間馬ハ其頭ヨリ後肢迄眞直ナルヘク、若シ輪線等ノ彎曲線上行進ノ場合ハ馬體ノ屈撓ハ之ニ一致シアルコト必要ナリ、横歩ノ際ハ極メテ僅カニ屈撓シアルヘク、其行進方向ヲ見ルヲ度トスヘシ
- 七、總テ馬ハ騎手ノ操作ヲ爲ス以前ニ運動ノ變化ヲ現ハスヘカラス
- 八、騎手ハ輕ク腰ヲ落シテ垂直ニ騎坐シ、其上體ハ堅ク反ルコトナク自由ニシテ眞直ナルヘク、脚ハ靜カニ馬體ニ附着スヘシ

此外馬術用語ハ其解釋區々トナルヘキヲ恐レ、聯盟ニテ會議ノ結果次ノ如ク發表セリ。是等モ審査上及參加者ノ心得ヘキ件ナリトス

一、『自由ナル常歩』トハ 逍遙騎乘ノ常歩又ハ收縮ヲ要求セサル常歩ニシテ、馬ハ濶大ニ歩ミ、頸ハ高カラス又過度ニ低カラス、韁ハ單ニ方向ヲ與フルニ必要ナル以外ハ努メテ長ク保持スルモノトス

二、『屈撓』トハ 頭及頸ノ爲ス角度ヲ閉縮スルノ謂ニシテ、之ニヨリ前軀ハ良好ナル運動ヲ確實ニ實施シ得ルモノナリ而シテ眞ノ屈撓ハ單ニ頭ヲ垂直線ニ近ツカシムルヲ以テ足レリトセス、必ス下顎ノ柔軟ヲ伴フヘキモノトス  
此場合ニ於テ頸ハ高起シ耳ハ最高位ニ位置スルニ至ルモノナリ、然ラサル場合ニ於テハ馬ハ韁後ニ來レルモノト

云フヘキモノナリ

四三

三、『馬ノ收縮』トハ、馬カ股ノ屈撓ヲナシ飛節ヲ體重下ニ踏込ミタルトキ收縮シアルノ特性ヲ示セルモノトス、而シテ此踏込ノ度合タルヤ、一ニ運動種類ノ本質ニ關係スルカ故ニ、觀ル者ハ股ノ屈撓及其低下ヲ伴ヒタル後肢ノ踏込ノ程度ニヨリ之ヲ判定シ得ヘシ

四、『收縮常歩』トハ、馬カ收縮セル姿勢ヲ以テ行進シ、歩度ハ自由常歩ヨリ歩幅狭ク、速度ヲ緩ナラシムルモノトス  
五、『收縮速歩』トハ、馬カ收縮セル姿勢ヲ以テ行進シ、其歩度ハ尋常速歩或ハ伸暢速歩ヨリ歩幅ヲ狭クシ、速度ヲ緩ナラツメ且後肢ハ前肢ノ蹄跡ニ極メテ近ク踏着スルモノトス

收縮ノ要求程度ハ初級馬術ト高級馬術トニヨリ差異アリ、細カキ運動ヲ爲ス場合ニハ最モ調子ヲ強カラシムヘシ此際騎手ハ輕速歩ヲ採ラサルモノトス

六、『伸暢速歩』トハ、歩幅ヲ潤ク速度ヲ大ニシ、馬體ヲ伸展シテ速歩ノ步調ヲ亂サ、ルヲ度トシ前進力ノ旺盛ト速度ノ迅速ヲ示スヘキモノトス、此時後肢ハ前肢ノ蹄跡ノ遠ク前方ニ踏著スヘク、項ハ拳ニ抵抗ヲ感セサル如ク輕ク角度ヲ開キ延ハサシムヘシ

伸暢速歩ニ在リテハ常ニ輕速歩ヲ採ルヘク、其速度ハ一分間二百六十米以上ヲ行進スルヲ要ス

七、『前軀起揚』トハ、旺盛ナル推進ヲ爲シタル裡ニ頭ノ屈撓ヲ求ムルニ在リ

八、『横歩ノ際ニ於ケル馬ノ態勢』三種ノ歩度ニ於テ直行進ヲナストキハ、頸ニ與ヘタル姿勢ノ如何ニ關セス馬體ハ眞直ナルヘキニ反シ、横歩ニ於テハ馬ハ良ク行進方向ヲ注視シ、其態勢ハ優美且外方肩ハ遅レサル如ク移行スルヲ要ス

然レトモ馬ノ爲ス屈擡度ハ韁ノ効驗後驅ノ運動ヲ妨害セサル爲メ必要ノ最少限度ニ止ムルヲ要ス（註、後驅ハ前驅ヨリ先行セシメサルノ意）横歩ニ於テハ馬體ヲ眞直ニシ其頭ノミ項ノ附根ヨリ極メテ僅カニ行進方向ニ屈クヘク此時耳ハ左右同高ナラシムヘシ

九、『收縮シタル駢歩』尋常駢歩ヨリ歩幅ハ短縮シ、歩様ハ一層彈發的ニシテ姿勢ハ收縮スヘキモノトス、伸暢駢歩以外ノ駢歩作業ニ在リテハ總テ短縮駢歩ヲ以テ實施スヘク其收縮ノ程度ハ運動ノ要求程度高キニ從ヒ一層大ナルヘシ

十、『伸暢駢歩』馬場ノ廣サノ許ス範圍ニ於テ完歩ノ歩幅ヲ増大セシムヘシ、此時馬ノ頸ハ引張ラサル程度ニテ之ヲ伸展スヘク、頭ハ拳ニ重ルコトナク輕ク垂直線ヨリ前方ニ伸スモノトス

十一、『駢歩ノ踏歩變換』馬ハ駢歩ノ歩法ヲ亂スコトナク、常ニ前進シツ、前後肢同時ニ且空間飛躍ニヨリ踏歩ヲ變換スヘキモノトス此時、馬ハ眞直ニシテ口向輕快ナルヲ要ス

(ハ) 成績

以上ノ課目ノ審査成績ハ次表ノ如クニシテ團體ノ優勝ハ次ノ順位ナリ

優勝國	獨逸	六六九、七二
二等	瑞典	六五〇、八六
三等	和蘭	六四二、九六
以下團體ヲナセルモノノ等級ヲアケレハ		
四等	佛國	六四一、九〇

五等	チエツコ、スロヅアキヤ	六三七、九四
六等	暎國	六〇〇、五〇
七等	瑞西	五六九、〇八
八等	白耳義	四九九、七〇
今個人ノ優勝者ヲ見ルニ		
オリムピツク優勝者	獨逸	フオン、ランゲン男爵
二等	佛蘭西	マリオン少佐
三等	瑞典	オルソン氏

純馬術競技成績表次ノ如シ

發 順	騎 手	國 名	馬	評 點					總 計	得 點	順 位
				各 審 査 官 ノ 評 點							
				オランダ	ドイツ	ベルギー	フランス	スウェーデン			
1.	Major E. Fthr. von Lotzbick	Deutschland	獨 Caracalla	189.7	239.8	207.0	201.0	202.7	1040.2	208.04	XI
2.	C. Bonde	Schweden	瑞 Ingo	185.1	201.8	188.1	169.8	227.1	971.9	194.38	XIX
3.	Commdt. V. Stoitcheff	Bulgarien	勃 Pan	219.5	205.5	218.9	163.6	196.3	1003.8	200.76	XVIII
4.	Lieut. G. Delrue	Belgien	白 Dreybuss	185.8	143.4	175.4	132.5	143.6	730.7	146.14	XXIX
5.	Gen. A. V. Pongracz de Szent-Miklos	Oesterreich	奥 Turridu	208.7	240.2	198.0	187.3	187.2	1021.4	204.38	XIII
6.	Commdt. P. Kempner	Ungarn	匈 Csintalan	—	—	—	—	—	—	—	—
7.	Lieut. W. Stuber	Schweiz	瑞 Ulhard	181.0	185.2	198.0	151.1	160.3	875.6	175.12	XXV
8.	Capt. H. M. A. Fog	Danemark	丁 Mistingvette	199.0	216.4	213.2	173.7	203.1	1010.4	202.08	XVI
9.	Col. K. Yusa	Japan	日 Sak'gake	153.9	203.0	168.6	145.5	158.8	834.8	166.96	XXVIII
10.	Commdt. J. H. van Reede	Hollaud	和 Hans	237.0	243.0	224.7	187.6	211.2	2103.5	220.70	VIII
11.	Commdt. Marion	Frankreich	佛 Lionas	210.4	253.6	245.9	236.1	204.0	1155.0	231.00	II
12.	Commdt. J. Hanf	Tschechoslov	チエツコ Elegant	202.7	211.7	223.9	191.6	179.0	1008.6	201.70	XVII
13.	Capt. Michelet	Norwegen	諾 Benue	173.6	177.0	189.4	160.9	153.0	853.9	170.78	XXVI
14.	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
15.	Rittm. H. Linckenbach	Deutschland	獨 Gimpel	218.4	250.7	216.1	213.2	222.9	1121.3	224.26	VI
16.	Capt. J. Lundblad	Schweden	瑞 Blackmar	228.1	237.5	225.7	206.7	235.2	1133.5	226.70	IV
17.	Capt. H. Laame	Belgien	白 Belga	171.8	174.9	176.4	153.3	162.1	838.5	167.70	XXVII
18.	Commdt. W. Jaich	Oesterreich	奥 Garf	201.6	232.5	206.3	170.5	210.0	1020.8	204.16	XIV
19.	—	Ungarn	匈 —	—	—	—	—	—	—	—	—
20.	Lieut. O. Frank	Schweiz	瑞 Solon	188.1	189.4	208.1	187.5	180.0	953.1	190.62	XXII
21.	Capt. K. Okada	Japan	日 Takushu	191.7	212.9	208.0	178.6	184.5	968.5	193.70	XX
22.	Capt. P. M. R. Versteegh	Holland	和 His Excellencell	225.8	214.8	225.4	206.4	211.6	1082.2	216.44	IX
23.	Capt. R. Wallon	Frankreich	佛 Cloughbank	207.7	219.5	240.3	261.4	191.5	1120.4	224.08	VII
24.	Capt. Theel	Tschechoslov	チエツコ Loki	227.9	223.2	240.0	224.8	207.9	1129.8	225.96	V
25.	—	Chile	智 —	—	—	—	—	—	—	—	—
26.	C. F. Freiherr von Langen	Deutschland	獨 Draufgänger	224.7	282.5	237.5	211.0	213.4	1187.1	237.42	I
27.	Ragnac Olson	Schweden	瑞 Günstling	212.3	259.6	225.1	203.2	248.7	1148.9	229.78	III
28.	Capt. O. Lints	Belgien	白 Rira-t-elle	184.7	184.7	222.6	171.5	165.6	926.3	185.86	XXIV
29.	Lieut. Col. G. Grachegg	Oesterreich	奥 Danjel	200.5	210.4	204.8	176.4	167.7	959.8	191.96	XXI
30.	—	Ungarn	匈 —	—	—	—	—	—	—	—	—
31.	Commdt. A. Mercier	Schweiz	瑞 Queen Mary	194.2	222.7	219.6	293.8	186.4	1016.7	203.34	XV
32.	Capt. G. W. Lo Heux	Holland	和 Valerine	245.3	204.9	209.0	182.4	187.5	1029.1	205.82	XII
33.	Lieut. Col. P. Danloux	Frankreich	佛 Rempart	227.0	225.2	252.7	267.2	193.4	1165.5	187.10	XXIII
34.	Capt. O. Schönige	Tschechoslov	チエツコ Ez	220.4	233.2	223.4	190.9	183.5	1051.4	210.28	X
35.	—	Chile	智 —	—	—	—	—	—	—	—	—

純馬術競技成績表

## (二) 純馬術競技ニ關スル觀察

全參加者ノ景況ヲ觀ルニ所定ノ運動課目ヲ審査著眼要項ノ如ク實施スル者多シト雖モ必シモ完全ナル調教ヲ經タリト思ハレサル選手無キニアラス、即チ馬ノ沈靜ヲ缺ケルカ如キ、步調ノ整齊ナラサルモノアルカ如キ、規定ノ運動ヲ指定ノ點ニテ行ハサルカ如キ、横歩ノ步數ヲ嚴守セサルカ如キ、或ハ馬體ノ眞直ナラスシテ斜向行進スルモノアルカ如キ是ナリ

然レトモ茲ニ留意スヘキハ歐羅巴馬術界ノ馬術ヲ解スルノ士ハ馬力窮屈ナル態勢ト步樣彈發ナキヲ嫌忌スルコト甚シキニ在リ、從テ本競技ニ選ハルヘキ馬ハ雷ニ規定ノ運動ヲ確實ニ行フノミニテハ十全ナラス馬カ所謂端麗ノ感ヲ有ツモノナラサルヘカラス、馬ハ須ラク長線馬ノ感ナカルヘカラス、之等ノ馬匹ニシテ初メテ流暢ナル運動ノ移行ヲ期シ得ヘシ

實ニ參加馬ノ大部カ英純血、アングロアラブ種、其他純血量多キモノナリシハ故アリト謂フヘキ乎

審査官ノ眼識ハ著シキ差ナキカ如シト雖モ和蘭審査官カ自國選手ヲ一位トセシ Valerie 號ハ獨逸二十位、白耳義十七位、佛國十七位、瑞典十六位トセラレアルカ如キ、瑞典審査官カ自國馬 *Ugo* ヲ三位トセルニ和蘭二十三位、獨逸二十二位、白耳義廿六位、佛國廿三位トセラレアルカ如キ、各國ニテ怪疑ノ念ヲ抱カシメタル事實アルハ、之ヲロニスルヲ潔トセサルモ遺憾ノ點ナシトセス、宣テリ競技後ノ會議ニ於テ審査官ハ自國選手ノ採點ヲナスヘカラストノ案ノ出テシカ如キ味フヘシ

## 其四 大障礙競技ノ狀況

四八

本競技ハ「オリムピック」馬術競技ノ最終ヲ飾ルモノニシテ亦、全「オリムピック」競技ノ最終競技ナリトス、八月十二日午後二時「アムステルダム」ノ「オリムピック」スタット」ニ於テ實施セラル、參加國十六、選手四十六名ニシテ其ノ馬匹ハ午前七時三十分「ヒルヴェルス」驛ニ集合シ、八時五十分發ノ臨時列車ニヨリ「アムステルダム」ニ輸送セラレタリ

障礙ハ當日選手ニ示スモノニシテ午前十一時ヨリ午後一時ノ間ニ於テ競技場ニテ初メテ之ヲ見ルコトヲ得タリ、本邦ヨリハ、吉田大尉、久山號ニテ出場シ城戸少佐ハ佛國ニテ購買セル「アイリッシュボーイ」號ニテ參加ヲ申込ミアリシモ約二週間前既内ニ於テ左後肢球節轉疾ノ不慮ニ遭ヒ當日迄快癒スルニ至ラス、出場ヲ中止ス

本競技參加選手數並ニ優勝ニ關スル規定ハ他ノ競技ニ準ス

審査長

和 蘭

Van Hoboken van Hoedekenskerke

伊 太 利

Analfi 大 佐

波 蘭

Anders 大 佐

「チエツコ」

Eninger 大 佐

西 班 牙

不 詳



ノ五名ナリ

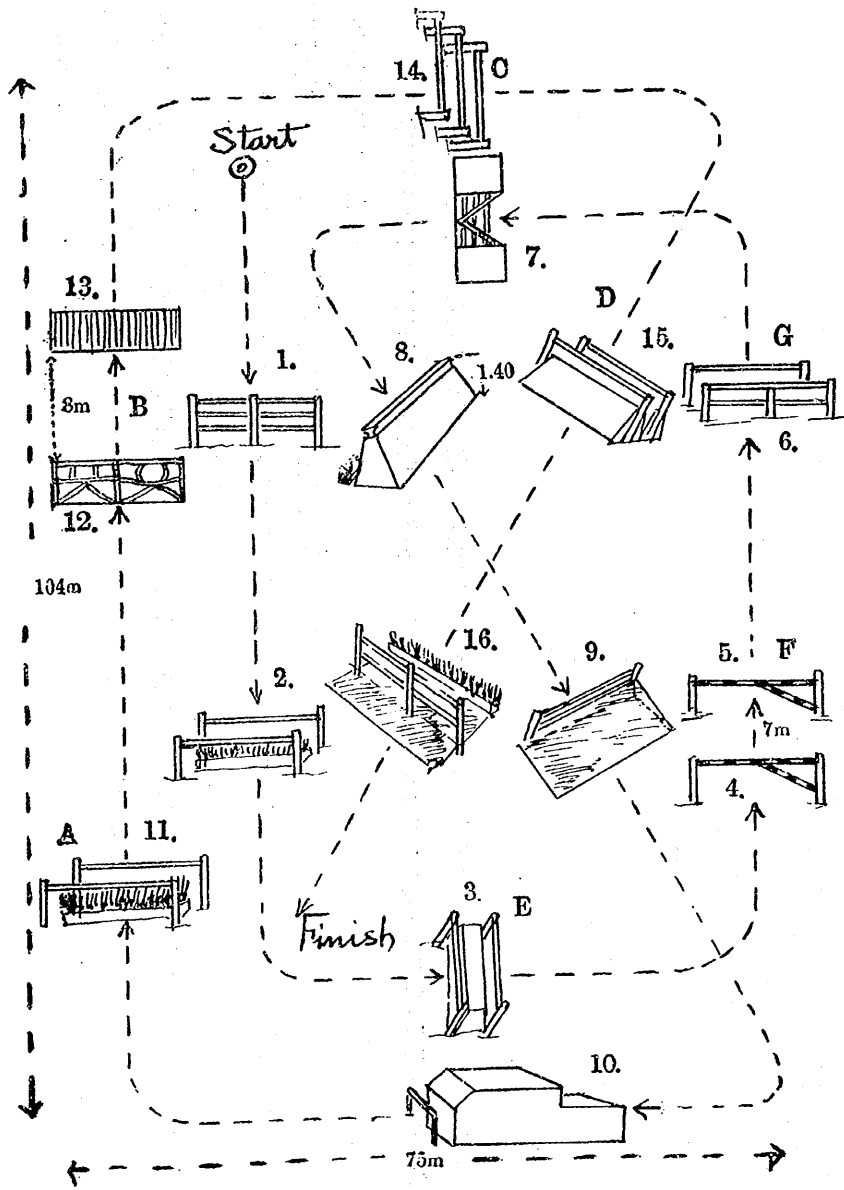
騎手ハ馬具共七十五疋以上ノ負擔量ナルヲ要ス、爲メニ吉田大尉ハ六疋ノ鉛飯ヲ附帶セリ  
此日和蘭國女皇、皇太后ノ兩陛下行啓臨御アラセラレ、觀衆四萬、觀覽席殆ント立錐ノ地ナシ

(イ) 障碍飛越経路及形状

障碍ノ経路、總距離、七百二十米ニシテ分速四百米ヲ以テ通過スルヲ要シ、一分四十八秒ハ其所要時間ナリ  
減點要領ハ全ク綜合馬術競技ノ第三次障碍飛越競技採點要領ニ等シ

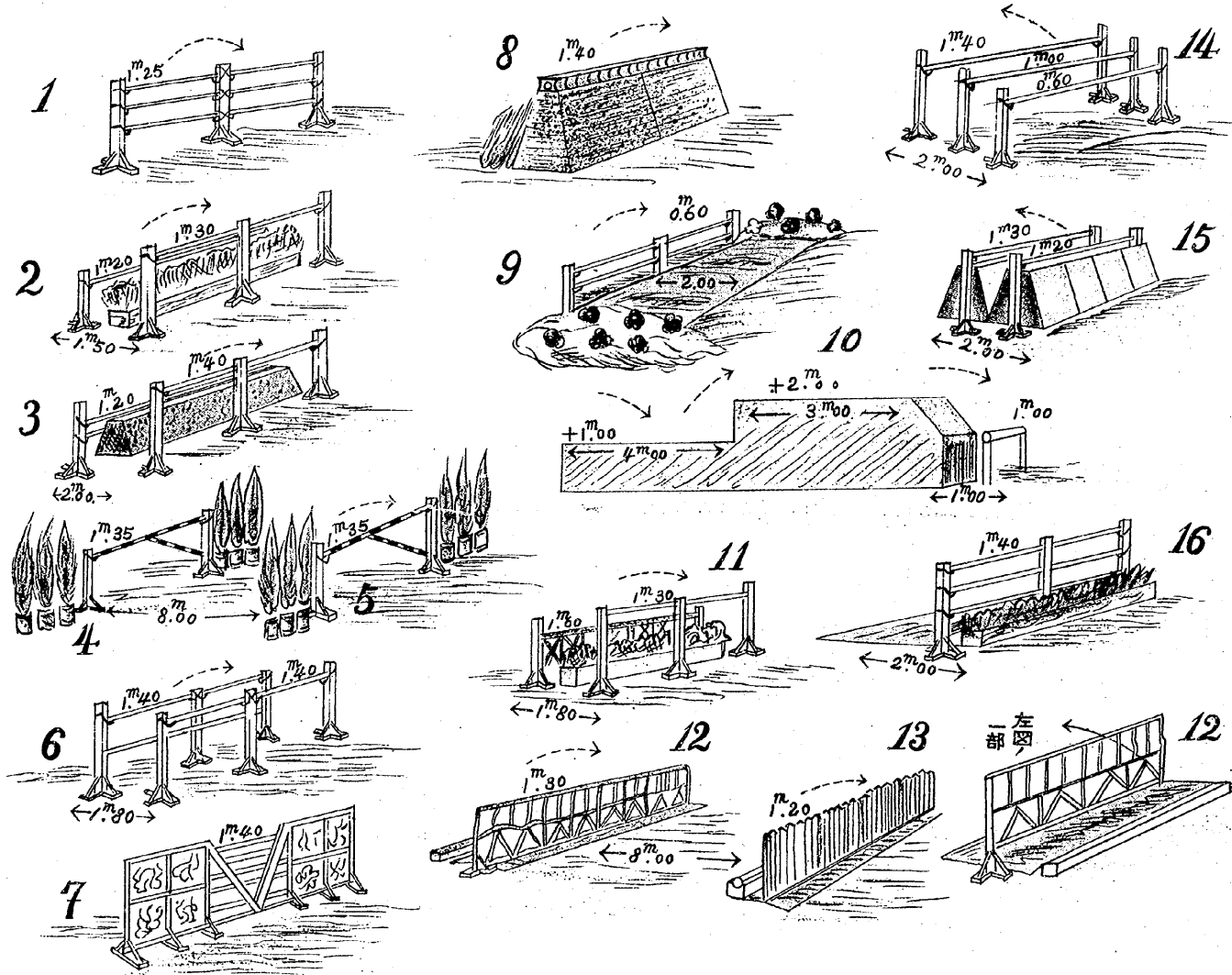
今経路ヲ圖示セハ次ノ如シ

(障碍個數十六個ナルモ同點タル無欠點者七名生シタルヲ以テ其優勝者ヲ定ムル爲メ再競技ノ際飛越セン障碍ハ  
A—Gノ九個、第三回ニ三名ニテ最後ノ決勝ヲ争ヒタルハF、Gノ障碍ナリ)



五〇

障門ノ断面概テ次ノ如シ



(ロ) 大障碍飛越競技ニ關スル觀察

各國選手ノ馬匹ハ其優秀馬中ノ代表カ選ハレアル關係上、飛越能力偉大又馴致良好ニシテ感嘆スヘキモノ多シ。前圖ノ如ク障碍ノ配置カ垂直障碍ニ次クニ幅アル障碍設置セラル、カ如キ等飛越上ノ技巧ト歩度ノ調節緊要ナル外障碍ノ大ナル故ヲ以テ飛越能力ノ卓越ナルヲ要スル所ナリ

然レトモ障碍飛越ハ一ノ際物ニシテ偶發的ノ過失生セサルニ非ス、即チ自他共ニ名馬ト許セルモノカ今回障碍ヲ拒避セルカ如キ、頻次ノ缺點ヲモ惹起セルヲ見ル、前日實ニ能ク飛越セルモノモ或ハ常ニ得意トシテ飛越セル障碍モ今日之ニ觸レ又ハ飛越前日ニ劣ルノ狀ヲ呈スルハ尋常事トス、障碍飛越ニ参加スル又難イ哉  
然ルニ一般ノ成績ヲ觀ルニ概シテ良好ニシテ何等ノ缺點ナキモノ左ノ七名ヲ出セリ

波	Mylord	號	Gzowski	中	尉
伊	Capinea	號	Forquet	大	佐
西	Zapataso	號	Navarro Morena	大	尉
瑞典	Gerold	號	Hansen	中	尉
チエツク	Eliot	號	Ventura	大	尉
瑞西	Pepita	號	Kuhn	少	佐
佛	Papillon	號	Bertan	中	尉

茲ニ於テカ決勝ノ爲メ經路圖ニ示セル如キ九個ノ障碍ノ高サヲ十糎高メ且巾ヲ廣クシ再行シタリ其結果ハ波、伊、西、

典ノ四頭ハ僅カノ欠點ヲ犯シテ優勝圈裡ヨリ除外サレ、殘リノ無欠點ニテ第二回目ヲ飛越セル瑞西、佛、チエツコノ三選手ハ更ニ障礙參個ヲ高メ高サ一米六〇ノ垂直鐵道踏切ト並行横木モ亦高サヲ一米六〇トシ其幅ヲ一米六〇トシ飛越セシメ遂ニ月桂冠ハ「チエツコ、スロヴァキヤ」ノ「ヴェンチュラ」大尉ノ手ニ歸ス  
個人ノ優勝者ハ

- |            |              |          |       |
|------------|--------------|----------|-------|
| 「オリムピック」優勝 | 「チエツコスロヴァキヤ」 | ヴェンチュラ大尉 | エリオ號  |
| 二等賞        | 佛蘭西          | ベルトラン中尉  | パビヨン號 |
| 三等賞        | 瑞西           | クーン少佐    | ペビータ號 |

ト決ス

而シテ參名ノ合計點ニヨル優勝國ハ次ノ如クナレリ

- |     |     |
|-----|-----|
| 優勝國 | 西班牙 |
| 二等  | 波蘭  |
| 三等  | 瑞典  |

今團體（三名）ノ成績ヲ一表トシテ見ルニ左ノ如シ

本競技個人ノ成績ハ次表ノ通りトス

七等	四等			三等	二等	優勝	序列	總欠點
獨逸	葡萄牙	佛國	伊太利	瑞典	波蘭	西班牙	國名	總欠點
一四	一二	一二	一二	一〇	八	四		
十三等	十二等			十一等	九等	八等	序列	總欠點
白耳義	洪牙利	アルゼンチン	諾威	和蘭	米國	瑞西	國名	總欠點
六四	六四	五八	三四	二六	二二	一八		

發 順	選 手 名 及 國 名	馬	タ イ ム 分 秒	過 タ ム 失 イ	過 飛 失 越	順 位
1.	Lieut. B. Ording .....	諸 Fram	1 30	0	16	36
2.	Capt. Margues de los Trujillos .....	西 Zalamero	1 33	0	2	10
3.	Capt. F. Lequis .....	伊 Trebecco	1 48	0	6	24
4.	Capt. P. de Muralt .....	瑞西 Notas	1 48	0	16	37
5.	Capt. A. Kanya .....	匈 Golya	1 33	0	20	39
6.	Lieut. Coleubrande .....	和 Gaga	1 46	0	8	29
7.	Comm. C. Björnstjerna .....	瑞典 Kornett	1 30	0	2	9
8.	Lieut. R. Pop'er .....	チェッコ Denk	—	—	失 權	—
9.	Capt. G. Mesmackers .....	白 As de Pique	1 57	0	14	35
10.	Pol. Hptm. H. Krueger .....	獨 Donauwelle	1 33	0	2	11
11.	Capt. J. Mousinho d'Albuquerque .....	葡 Hebraico	1 42	0	4	19
12.	A. R. Anatoli .....	アルゼンチン Turlion	1 45	0	20	40
13.	Comm. S. Kido .....	日 Irish Boy	—	—	出走セマ	—
14.	Lieut. P. A. Clave .....	佛 Le Trouvère	1 33	0	8	26
15.	Comm. H. Chamberlin .....	米 Nigra	1 34	0	4	17
16.	Lieut. G. Gzowski .....	波 Mylord	1 33	0	0-2	4
17.	—	—	—	—	—	—
18.	M. A. F. Klaveness .....	諸 Barrabas	1 35	0	12	32
19.	Capt. J. Novarro Morenes .....	西 Zapataso	1 36	0	0-2	5
20.	Col. K. Forquet .....	伊 Capineca	1 32	0	0-失 權	—
21.	Lieut. A. Gemtæus .....	瑞西 Lucetti	1 27	0	2	8
22.	Capt. K. von Cseh .....	匈 Beni	1 56	0	30	43
23.	Capt. C. K. Labouchere .....	和 Copain	1 44	0	10	30
24.	Lieut. C. Hansen .....	瑞典 Gerold	1 39	0	0-4	6
25.	Capt. F. Ventura .....	チェッコ Eliot	1 34	0	0-0-0	1
26.	Lieut. J. Misonne .....	白 Keepsake	2 4	4	12	38
27.	Lieut. R. Sahla .....	獨 Correggio	1 15	0	4	14
28.	Lieut. H. Sousa Martins .....	葡 Avro	1 31	0	4	16
29.	A. del Villar .....	亞 Talan Talan	1 49	¼	12	34
30.	Capt. S. Yoshida .....	日 Kyuzan	—	失	權	—
31.	Lieut. de Foulongue .....	佛 France	1 34	0	4	18
32.	Capt. A. W. Roffe .....	米 Fairfax	2 44	4	8	33
33.	Lieut. K. Szosland .....	波 Alli	1 40	0	2	13
34.	Capt. K. Gysler .....	諸 Sans Peur	1 38	0	6	21
35.	—	—	—	—	—	—
36.	Capt. J. Garcia Fernandez .....	西 Revistade	1 37	0	2	12
37.	Capt. A. Bettoni .....	伊 Aladino	1 38	0	6	22
38.	Comm. Ch. Kuhn .....	瑞西 Pepita	1 38	0	0-0-4	3
39.	Comm. Malanotti .....	匈 Ibolja	1 28	0	12	31
40.	Capt. G. P. de Kruyff .....	和 Preten	1 41	0	8	27
41.	Lieut. E. Hallberg .....	瑞典 Loke	1 31	0	8	25
42.	Lieut. J. Rabas .....	チェッコ Deghestan	2 14	6½	16	41
43.	Capt. B. de Brabandère .....	白 Mib America	2 29	10¼	24	44
44.	C. F. Freiherrv. Largen .....	獨 Falkner	1 42	0	8	23
45.	Lieut. L. Ivens Fezzar .....	葡 Visconti	1 26	0	4	15
46.	V. Fernandez Vazan .....	亞 Silencio	1 27	0	26	42
47.	Lieut. U. L. M. J. Bertran .....	佛 Papillon	1 21	0	0-0-2	2
48.	Capt. F. Carr .....	米 Miss America	1 38	0	6	23
49.	Capt. M. Antoniewicz .....	波 Readglet	1 31	0	6	20

大障 碍 飛 越 競 技 個 人 成 績 表

本競技ニ於ケル吉田大尉ノ成績ヲ見ルニ其乘馬久山號ハ前後肢各一回ノ欠點ノミニテ一般ニ流暢ニ飛越シ來リシカ、第十障礙「バンケツト」ニ跳上リノ際、馬蹠ツキ顛倒シ、騎手爲メニ馬背ヨリ去レリ、而シテ直ニ乘馬再行シタルモ、其再行方法規定ニ反セリトシ、失權トナリシハ遺憾ノ極ナリキ、蓋シ「バンケツト」ハ第一段跳上リ、第二段跳上リ、第三段跳下リノ三重ヨリ成ルモノト見做サレアリ、吉田大尉ハ第一段跳上リテ後ノ欠點ナリシ故其位置ヨリ第二段ヲ跳上ルヲ至當トスルニ、一旦跳下リ第一段ヨリ再行セルヲ以テ規定ニ反ストセラレタルナリ

### 其五 參加人馬ノ狀況

#### (イ) 選手監督及選手

各國ハ選手監督トシテ競技ニ參加セサル有力者ヲ設クルモノ多ク、然ラサルモノハ古參選手選手監督ノ任ニ當レリ、而シテ監督ハ概ネ國際競技ノ際各國ニ出張セルモノニシテ、爲メニ交渉上面識ノモノ多シ

又同監督ハ競技前ノ訓練指導ニ從事スルモノ多ク、從テ其指示極メテ嚴確ニシテ且豫備選手ヲ有スル關係上、競技出場決定ノ如キハ直前之ヲ指示シ、申込ノ如キモ「オリムピツク」競技規定ニ明示シアルニ拘ラス、大約ノ申込ヲナシテ決定ノモノハ競技兩三日前ニ申告スル狀況ナリ、故ニ選手トシテ出場シ得サルコトトナリタル者モヨク之ニ服從シ不平ノ色ナシ

該監督以外各國ハ競技前ヨリ騎兵科有力將校「オリムピツク」馬術競技準備委員等來集シ激勵ヲ爲シアリタリ、獨逸ハ騎兵監「カイザー」少將ヲ、瑞典亦騎兵學校長ト騎兵監ヲ、米國ハ「シヨート」少將（特ニ在佛大使館附武官補佐官ヲ



補助官タラシムヲ、獨逸ハ「オリムピツク」馬術競技委員幹部ヲ、佛國ハ選手監督トシテ國際競技選手教育主任「エヌキヤン」中佐及「ソームニール」馬術科長ヲ、伊太利ハ選手監督以外ニ「トルヂクイント」騎兵學校々長「スタリタ」大佐ヲ派遣セリ。選手ハ若干ノ退職將校三名ノ紳士ト「アルゼンチン」選手三名ノ職掌不明ノ外百十名ノ選手ハ現役將校ナリ而シテ「オリムピツク」規定ニ地方馬術練習所ノ教師、報酬ヲ得テ調教ニ従事スル者等ノ所謂職業的騎手ノ参加ヲ許ササルカ故ニ、純然タル紳士及現役軍人ニヨリ成立テリ

選手中ニハ既ニ前回、前々回等ニ於テ「オリムピツク」競技ニ参加セルモノ尠カラス、即チ

白耳義	九名中	前回出場セルモノ	四名
勃牙利	三名中	三回目ナルモノ	一名
佛國	九名中	前回出場	二名
和蘭	八名中	前回出場	四名
伊太利	八名中	三回目	一名
埃國	三名中	前回出場	一名
波蘭	六名中	三回目	一名
葡萄牙	三名中	前回出場	二名
瑞典	九名中	二回出場	二名

瑞 西	九名中	前回出場	四名
西班牙	六名中	前回出場	一名
チェック	九名中	前回出場	五名
合衆國	五名中	三回出場	一名
		二回出場	二名

右ノ如キ景況ニ在リ、是等選手ハ各自國內ニ於ケル多クノ競技會ニ出場スル外、各國ニ於テ行ハルル國際馬術競技ニ出場シツツアルモノ多シ

騎手ノ年齢ハ區々ナリ、最年長者ハ埃國選手退職騎兵將官「ボングラツ」將軍ノ七十六歳ナルヘク最年少ハ三十才前後ナラン、綜合競技出場者ハ一般ニ年齒壯ナルモノ多キモ、波蘭「ロシメル」大佐ハ既ニ一九一二年「ストックホルム」ノ「オリムピツク」出場者ニシテ、米國「スロイン、ドーク」少佐ハ一九二〇年「アントワープ」ノ「オリムピツク」ニ少佐ニテ出場シアリ、佛ノ「スピンドラア」少佐ノ如キモ五十才ヲ越セルナランカ、純馬術競技參加者ハ白耳義選手ニ若キ者アル外、一般ニ年功者ノ感アリ、大障礙競技選手亦悉ク馬術競技戰場ノ古強者多シ之ヲ要スルニ選手ハ調教ノ經驗ニ富ミ馬術ニ熟達シ競技ニ慣レ沈著思慮周密ナルモノナリト判斷セラレタリ今數回出場ノ選手ヲ掲クレハ次ノ如シ

各國選擇ノ迹ハ其資質ノ優秀ナルニ見得タリ而シテ百二十一頭ノ馬匹ノ產地及種類ハ區々ナリト雖モ、英國産特ニ愛

(ロ) 馬 匹

白 耳 義

Lieutenant R. Delruc.  
 Capitaine Misonne.  
 " Mesmaekers.  
 " Brabandère.

勃 牙 利

Commandant Stoitcheff.  
 Lieutenant Lekarsky.

佛 國

Lieut. Clavé.  
 Capt. Wallon.

和 蘭

Commandant van Reede.  
 Capt. Kruijff.  
 " Mortanges.  
 " van der Voort van Zyp.

伊 太 利

Capt. Lequio.

埃 國

General v. Pongracz.

波 蘭

Colonel Rommel.

葡 萄 牙

Capt. d' Albuquerque.  
 Lieut. de Sousa Martina.

瑞 典

Capt. de Bonde.  
 Lieut. Ankarerona.

瑞 西

Capt. Stoffel.  
 " Mercier.

Comd. de Ribeaupière.  
 Lieut. Gemuseus.

西 班 牙

Capt. Navarro Morenes.

チェツコ、スロヴキア

Commdt. Hanf.

Capt. Thiel.

" Charous.

Lieut. Popler.

" Rabas.

合 衆 國

Major Deak

Capt. Carr

Major Chamberlin.

蘭産馬多ク、又各國産ト雖モ英純血或ハ其血量多キモノ多數見受ケラレタリ  
而シテ前回或ハ今次ヲ以テ第三回目ニ出場セル馬ヲモ見ラレタリ、今之ヲ掲クレハ次ノ如シ

大障 碍 飛 越 競 技 馬

伊 國 Trebecco 一九二〇年 壹 等 一九二四年 二 等 一九二八年 廿四等

佛 國 Le Trouvère 一九二四年 三十三等 一九二八年 二十四等

瑞 西 Lucetti 一九二四年 壹 等 一九二八年 八 等

白 國 As-de-Pique 一九二四年 十八等 一九二八年 三十五等

純馬術競技馬

瑞 西 Ulhard 一九二四年 七等次席 一九二八年 廿五等

同 Queen Mary 一九二四年 二十等 一九二八年 十五等

勃 國 Pa 一九二四年 十七等 一九二八年 十八等

綜合競技用馬

和 蘭 Silver Piece 一九二四年 壹 等 一九二八年 四 等

茲ニ參加馬ノ産地又ハ種類ヲ一表トシテ見ルニ左ノ如シ

參加馬匹產地、種類表

種類又ハ產地	綜合	純馬術	大障礙	小計	種類又ハ產地	綜合	純馬術	大障礙	小計
アルゼンチン産	1	1	3	3	埃國	1	3	2	8
英國産(半血)	3	1	1	3	東魯西馬産	1	1	1	3
英純血(英國産、各國産)	4	4	1	9	日本産	1	2	1	4
アングロ、アラブ	1	2	2	5	伊國産	1	1	1	3
多量英純血ヲ有スルモノ	3	3	1	7	諾威産	1	1	2	4
佛國産(半血)	4	2	1	7	リビツツア種産	1	1	1	3
獨逸産(半血)	4	4	5	13	波蘭半血産	2	1	1	4
ハノヅア馬	2	1	1	4	瑞典半血産	1	1	1	3
トラケーネン	1	1	1	3	チエツコ、スロヅキア産	2	1	3	6
勃利産	3	1	1	5	米國産(英純血ニ近シ)	3	3	3	9
漆洲馬産	1	1	1	3	計	4	2	4	10
愛蘭土産	8	6	1	15		6	9	6	21

是等ノ馬匹ノ多クハ歩様輕快、諧調良好特ニ純馬術競技用馬ニハ端麗ノモノ多ク、大障礙競技用馬ニハ筋骨逞シク飛越力卓越シアルヲ見、綜合競技用馬ニハ速力ヲ出スニ適セルモノ多シ

其六 本邦選手ノ敗因

最善ノ努力ヲ爲シタルニ拘ラス、小官等カ慘タル敗北ノ結果ヲ見タルハ全ク慚愧ノ至ニ堪ヘサル所ナリ、今其敗因ヲ

極メンニ人馬ノ能力不十分ナルニ盡ク、騎手ハ競技ニ慣レアラス、從テ競技其モノノ各種條件ニ對シテ電光的ニ感スル所ナク、不意ノ事故ニ對シテ冷靜ヲ缺クコト屢々ナリ、馬匹ハ如何セン優秀ナラスシテ他國ノモノニ比肩スルヲ得ス、參加馬カ「オリムピック」競技場裡ニ在リシトキ、如何ニモ歩様ノ流暢ナラサルコト、筋骨ノ發育十分ナラサルコト等ヲ痛切ニ感シタリシハ小官等ノ胸底ニ深刻ニ銘セル所ナリ

出場時ニ於ケル馬匹ノ狀態ハ、綜合競技ノ久軍號ハ突球ニシテ常歩濶大ナラス速歩ニ於ケル後肢ノ踏込不十分ナリキ、純馬術競技ノ魁號ハ常歩速歩ニ於テ彈發アル歩様ヲ取ラス、駢歩ノ出發ニ於テ前軀ノ舉揚太シク後軀ノ彈發劣リ又踏歩變換ハ歩毎ニ於テ完全ナラス、深秋號ハ常歩速歩ノ步調濶大ヲ欠キ伸暢速歩ニ於テ頭頸ノ姿勢不良、駢歩運動ニ於テ歩毎踏歩變換ハ完全ナラス、大障礙飛越競技ノ久山號ハ飛越馴致良好ナルモ筋肉ノ容積不足爲メニ飛躍力ニ於テ足ラサル所アリタリ

## 第二章 競技出場準備作業

參加馬匹ハ昭和二年十二月十八日橫濱乘船、翌年一月二十八日佛國馬耳塞ニ上陸シ同地ニ滞在スルコト四十三日、氣候比較的溫暖ナル關係上外國ノ風土ニ慣ル、ニ都合ヨク、同地競馬俱樂部ノ許可ヲ得テ、主トシテ競馬場ニ於テ純馬術馬ハ道達騎乗ト筋肺鍛鍊ヲ、綜合競技用馬ハ肺力訓練ヲ、大障礙馬ハ筋肺双方ノ鍛鍊ニ從事セリ

三月十日馬耳塞ヲ去リテ佛國巴里近郊「サンジェルマン、アン、レエ」ニ移ル、同地ニハ無數ノ乘馬道ヲ有スル大森林アリ又佛國障礙競馬協會附屬ノ一大「トレーニング」場ヲ有シ、共ニ肺力鍛鍊ニ絶好ノ場所トス、且同地ハ龍騎兵第十六聯

隊ノ衛戍地ニシテ、佛國陸軍省ノ認可ト、同聯隊長ノ許可ヲ得テ營内覆馬場ノ使用、練兵場障得ノ使用、練兵場ニ於テ乘馬スルコトヲ允許セラレタルヲ以テ準備作業ニハ之ニ越シタル場所ヲ發見シ得サリシト信スル所ナリ

先發セン城戸騎兵少佐ハ是等ノ處置ヲ爲シ、長航海ニヨル馬匹ノ榮養及體力ノ快復ト、鍛鍊トヲナシツ、後發選手ヲ待チアリシカ遊佐中佐、岡田少佐、吉田大尉ハ四月七日到着シ初メテ各馬其主ニヨリ鍛鍊セラル、コトトナレリ

遊佐中佐ハ競技ニ慣レシムルト馬ノ能力試験トヲ主目的トシ、城戸少佐（アイリッシュ、ボーイ號）吉田大尉（久山號）ヲシテ五月、白耳義「ブラツセル」市、六月倫敦ノ國際馬術競技會ニ出場セシメタリ

又各選手ハ佛國「ニイス」市ニ於ケル國際馬術競技會及巴里ニ於ケル佛國中央馬術競技、伯林ニ於ケル春季大馬術競技會等ヲ實視シ參考トスル所アリタリ

斯クテ七月十日「オリムピツク」馬術競技地タル「ヒルツエルスム」ニ移リ、和蘭ノ風土ニ慣馴スルト共ニ銳意出場ノ準備ニ專念ス

出場迄ハ騎手ニ一日ノ罹病ダニ無ク、馬匹ニ若干ノ休業ヲ要スル故障アリシ外、極メテ良好ナル健康状態ヲ維持シ得タリシハ最モ幸福トセン所ナリ

鍛鍊間ニ於ケル馬ノ飼量ハ十分ニ與ヘ、人參及穀ヲ混シ一週一回ノ割合ニテ亞麻仁ヲ投與ス、又飛越及伸暢歩度ヲ取リシ後ハ「ブードル、アルモリケーン」(酸性白土)ヲ用ヒ常時乘馬後溫浴ヲ實施セリ

厩房ハ廣キモノヲ用ヒ寢藥ハ敷詰トシ、牧草ヲ十分ニ投與ス、馬耳塞滯在間及和蘭ニ在リシ日ハ共ニ切燕麦程或ハ切牧草ヲ與ヘタリ

初メ馬ヲ輸送スルニ方リ最モ懸念シタリシハ、長航海後ノ體力回復ノ如何ニ在リタリ、而シテ歐洲着後六ヶ月間ノ餘裕アリシモ着後ノ一ヶ月ハ筋肉ノ弛緩ヲ回復セシムルニ足ラス從テ未ダ過激ナル要求ヲ爲スコトヲ得ス漸ク二ヶ月ノ終ニ於テ榮養ノ回復ヲ見、漸次要求ヲ高メ得ルノ状態トナレルヲ認メクリ

本回ニ於ケル滯歐六ヶ月ノ日子ハ人馬共ニ大ナル疾病ナカリシヲ以テ右ノ如キ好果ヲ得タリシモ異境遠ク離ル、馬匹ニ對スル風土化ハ此日子ヲ減少スルハ最モ不利ナルコトナルヲ知ラサルヘカラス

在佛間馬耳塞ニ於テハ馬耳塞友田領事、巴里ニ於テハ安達大使以下館員及大使館附武官武田少將、補佐官諫山大尉等又和蘭ニ於テ廣田公使以下館員並ニ竹中氏等ノ甚大ナル援助ニ依リ、各方面ノ交渉斡旋ニ努力セラレ爲メニ一行ノ行動ニ些細ノ滯滞ヲ來タササリシハ深ク銘謝スル所ナリ

### 第三章 馬ノ輸送

往路ニ於ケル馬ノ輸送ハ、日本郵船會社及白山丸船長奥野氏ノ好意ニヨリ、客船白山丸ニ積込ムヲ得タリ、從テ航海日數比較的少ナク、横濱積込昭和二年十二月十八日、出港十九日、航海四十一日ニシテ昭和三年一月二十八日佛國馬耳塞ニ到着シ、歸路ハ和蘭「ロツテルダム」ヨリ積込ミ横濱ニ歸着セリ、今往路ニ於ケル輸送狀況ヲ述フレハ次ノ如シ

馬房ハ農林省輸入馬ニ用ヒシモノノ保管轉換ヲ受ケ多少加修シテ用フ

馬房ノ高サ入口二米四〇、奥二米一〇、幅一米八〇、奥行二米五〇ニシテ大馬ト雖モ收容ニ餘裕アリ



ルモノノ二千二百四十封度、穀二千封度及食鹽十封度ナリ、此外應急藥品ト食欲増進ノ諸劑ハ在横濱「アブカー」氏ノ寄贈セルモノヲ携行シ、附添人ハ清野、坂本兩特務曹長ノ外農林省輸入馬附添人英人「ウード」氏ノ三名トス  
航海間ノ給飼ハ朝夕ノ二回、朝ハ午前六時十分、午後ハ午後三時十分ニシテ左ノ量ヲ二分シ飼與セリ

六五

燕 麥	六〇〇匁
切 麥 稈	九〇〇匁
穀	一貫廿匁
鹽	八 匁
牧 草	一貫匁
人 參	若 干

但魁ニハ一月十三日以降燕麥百匁増飼ス

水ハ午前九時及午後三時ノ二回ニ與フルノミナリシモ、新嘉坡ヨリハ氣溫著シク上昇セル關係ヨリ、午前九時飼槽ニ滿水シ午後三時迄放置喫水セシメタリ

馬ノ手入ハ朝夕二回之ヲ行ヒ、馬房ハ常ニ清潔ナラシメ又香港出港後ハ直射日光ニ對シ馬房ニ廂ノ如ク約一米前方ニ出シアル日覆ヲ作ル、此結果極メテ良好ナルヲ見タルモ、作業力ノ關係上魁ノ馬房ノミハ一日其作製遅レタル爲メ、同馬ハ日射病ノ如キ症狀トナリ心痛シタリシモ、約一週日ニシテ平常ノ状態ニ回復セリ

久山ハ「ナポリ」入港前日ヨリ、發熱アリ體温四十度ヲ超シ食慾皆無、蹄ニ非常ナル熱ヲ有シ重態トナリタルモ、其原因ト認ムヘキ特異ノ事項ヲ發見シ得サリレハ管理者ノ恐懼スル所ナリ、馬耳塞入港迄五日何等採食セス、如何ナル轉歸ヲ見ルナランカト危惧シアリシモ、上陸後獸醫ノ診察ニヨリ肺充血ノ症アリトシ加療後三週ニシテ漸ク回復シ得タルハ出發前ノ鍛練可ナリシコトト天祐トニヨルモノト信ス

本輸送間ニ於テ如上ノ疾病ノ外、其他ノ馬ハ極メテ健康ニシテ之レハ經驗アル英人「ウード」氏ノ取扱適切ナリシニ因ル所多キモ亦我附添兩特務曹長ノ献身の勞作ノ賜ト云ハサルヲ得ス、輸送後ニ於ケル馬ノ體力、榮養ノ回復ノ如キ迅速ニシテ、後發選手到着時既ニ満肉ナリシカ如キハ其功績賞讃ニ値スヘシ

馬ハ航海永キニ從ヒ、馬房ニ伏臥スル如クナリシハ、疲勞ノ減殺上極メテ可ナリシモノノ如シ  
歸路ハ概ネ右要領ニ準シタルモ貨物船ナリシ爲メ航海日數六十五日ニ及ヒ、且途中數回ノ難航日アリテ馬爲メニ大洋ニ放擲セラレントスル怒濤狂瀾ヲ犯シタル等往路ニ比シ著シク不利ナリシヲ覺ユ

今米國ノ輸送狀況ヲ聞クニ、馬房ハ九呎四方(二米七六)ニシテ荒天動搖大ナルトキハ馬房ヲ仕切ルヘキ構造トナシアリテ船中ニ圓馬場様ノモノニ個ヲ設ケ日々運動ヲ課セリト謂フ而シテ米國選手團ハ「オリムピツク」選手ノ爲メ、汽船一艘(ブレジデント、ルースベルト號)ヲ仕立テ來リ且其馬糧ノ如キハ滯在中ハ勿論米本國へ歸着ノ分迄積載セリ又白耳義馬術選手一行カ渡米セントキノ狀ヲ聞クニ、獨逸船ヲ用ヒ船中牽運動ヲナシタリト、然レトモ佛國選手ハ同國貨物船ヲ用ヒタル關係上渡米ノ節ハ運動ヲナサス我等ノ輸送ニ似タル方法ヲ採レリト云フ、馬ノ輸送ニハ米國ノ採レ

ル方法ハ策ノ得タルト謂フヘキ乎

六七

## 第四章 各國ノ準備並ニ應援ノ狀況

「オリムピック」競技ノ效果ニ就テハ敢テ喋々ヲ要セサル處ナリ、從テ各國共ニ之カ準備ニ十分努力シアルヲ認ム今其概略ヲ述ヘン

### (イ) 佛 國

#### 一、陸軍當局ノ處置

- 1、陸軍騎兵學校ニ國際馬術競技指導監督將校トシテ「エヌキヤン」中佐ヲ任命シ、五六名ノ少壯將校ヲ教育シ各地ノ競技及各國ノ國際競技ニ出場セシメ同中佐モ亦出張シ、選手ヲ監督指導シアリ
- 2、國際競技出場者ヲ騎兵學校ニ集メ豫選ス  
「オリムピック」出場者中特ニ召集ヲ要セサルモノノ外ハ、之ニ對シ教育指導ヲ行フ（特ニ召集ヲ要セサルモノトハ周知ノ騎手トス）
- 3、各地馬術競技會中純馬術競技及綜合馬術競技ニハ、騎兵科出身將官ヲ委員長トシ騎兵學校馬術科長、砲兵學校馬術科長ヲ委員トシテ派遣シ豫選ノ着意ヲ以テ採點觀察セシム
- 4、定員外ニ騎兵學校附トシテ國際馬術競技出場選手三四名ヲ置キ練習セシム、是等將校ノ原隊ハ學校所在地ヨリ數十分ノ「アンジエー」市ニ在ル輕騎兵第七聯隊ニ所屬セシム
- 5、學校ニハ國際馬術競技用豫備馬ヲ置キ、學生教育用以外トシ管理ス

## 二、佛國馬事協會ノ事業

該協會ハ巴里ニ中央大競技會ヲ開催シ、純馬術競技及大障礙飛越競技ヲ行フ、前者ハ一ノ豫選ニシテ後者ハ能力アル馬匹ト良騎手ヲ選フ一手段トセリ

該協會ノ行フ地方競技會ハ「ポルドー」「ナント」「ヴィシユイ」「ブローニユ、シユール、メエル」及「ドービー」ルニ開催シ「ポルドー」及「ナント」ニハ純馬術競技アリ、地方豫選ニモ比スヘキカ、然レトモ大ナル期待ハ之等ニ有セサルカ如シ

障礙競技ハ巴里ニ準スルモ、茲ニ見ルヘキハ「ヴィシユイ」市ニ於ケル綜合競技トス、同競技ハ一年一回行フモノニシテ乘馬生産上ノ能力検査トシテ重要視セラレアリ、而シテ該競技ハ協會之ヲ行フモ實ハ佛國陸軍省ノ主宰ト見ルヲ憚ラス、「オリムピツク」參加希望ノ爲メニハ、一九二六年既ニ若齡馬ニ對スル要求輕減ノ告示ヲ出シ其保護ニ努メアリ、一九二八年ノ出場馬中「オリムピツク」參加馬ニハ第二次持久力競技ノ野外生地競走ヲ除キ其他ノ一般競技者ニハ綜合競技ノ要求通り實施セリ

## 三、豫選馬及騎手

純馬術競技ノ「ワロン」大尉ハ騎兵學校馬術教官ニシテ、技術ハ衆人ノ認ムル所其馬匹ハ馬術科長ノ乗用馬ナリ、「マリオン」少佐ハ陸軍大學校馬術科長ナリ

大障礙飛越ノ馬ハ悉ク各競技會ニ參加シ常ニ好成绩ヲ收メアリシ馬匹ニシテ騎手亦然リ  
綜合競技用馬ハ「ヴィシユイ」ニ於ケル能力成績ト「ソームニール」騎兵學校ニ於ケル平時ノ成績ニヨリ定メラレタルモノノ如シ

## 四、騎手ノ派遣關係

六九

馬術競技選手モ「オリムピック」佛國委員ヨリ派遣セラレタル形トナリ居レリ從テ其費用亦然リ

佛國政府ハ豫算ノ緊縮ヲ計ル關係上、一九二七年「オリムピック」參加拒避ヲ聲明シタリシモ、民間ハ之ヲ聽クコトナク、某新聞社ハ其大部ノ費用ヲ負擔スルヲ第一聲トシ寄附金等ニヨリ派遣ヲ見タリ

## (ロ) 米 國

米國ハ一九二四年巴里ノ「オリムピック」後直ニ次回ノ準備トシテ陸軍省内ニ準備委員會ヲ設ケ、其馬匹ハ父母ノ系統明瞭ニシテ共ニ能力卓越セルモノノ仔ヲ選擇シ、主トシテ騎兵學校ニ於テ訓練セリ

派遣選手團ニハ獸醫一ヲ含マシメタルハ最モ良好ナル方案ナリ、同國選手中「カール」大尉ハ城戸少佐ト「ソームユール」ニ同學セル舊知ノ間ナリシヲ以テ、我カ「アイリッシュボーイ」號ノ負傷ヲ聞クヤ其獸醫差遣ノ好意ヲ寄セラレタリキ

米國選手團ノ和蘭ニ於ケル練習ハ秩序的ニシテ寧ロ極端ナル拘子定規ニ依ラントセルヲ見ル、即チ障礙ノ高サ、幅、間隔、距離等ヲ極メテ僅カナル差マテ規定スルノ狀況ノ如シ

騎手ハ悉ク眞面目ニ作業ニ從事シ、馬ノ跛蹄ノ保護ノ如キハ自ラ之ヲ爲スノ狀態ナリ

然レトモ馬ヲ練習場ニ運フニ共携行セル馬輸送用自動車ヲ用フルカ如キ、從卒ヲ自由ニ使用シ得ルカ如キ等各國選手羨望ノ的ナリキ

「オリムピック」參加者ノ何者モ、悉ク米國選手ノ馬匹ノ驥良ナルヲ稱ヘサルハナク、其行届ケル管理ニ驚嘆セサルモ

ノナシ又派遣費ハ其大部ヲ寄附金ニ依レリト謂フ

(ハ) 瑞西、伊太利、勃牙利、瑞典

是等ノ國ハ各々其國ニ於テ豫選ヲ行ヒ、特ニ瑞西ハ「ルツエルン」市ニ於テ「オリムピツク」ノ要求ト同様ノ競技ヲ行ヒ、各國選手亦之ニ參加セル狀況ナリ

然レトモ同競技ニ於テ伊太利ハ常ニ大障礙飛越ノ榮冠ヲ獲タリシカ本舞臺ニ來リテ、而カモ同競技後ニ句ヲ經サルニ、其成績勝レサリシハ即チ競技カ其日ノ出來榮ナルモノアルヲ痛感セシムルモノナリ、又勃牙利ノ純馬術馬「パン」號ノ如キモ優秀ナル成績ヲ同競技ニ於テ擧ケシニ拘ラス「オリムピツク」ニテハ第十八位タルニ甘セサルヘカラサル狀況ナリ

伊太利ハ年々ニ於ケル陸軍大臣主宰ノ綜合競技ニ於テ參加馬ヲ豫選シ、瑞典ハ一九二八年「マルメオ」(Malmö)ニテ競技會ヲ行ヒ豫選セリ

(ニ) 獨逸

獨逸ハ戰後「オリムピツク」ニ參加スルハ本回ヲ以テ初トス、然レハ其意氣込熱誠ヲ極メ敬服ニ値スルモノアリ、即チ獨逸馬事協會(Der Reichsverband für Zucht und Prüfung deutschen Warmblutes 獨逸乘馬ノ生産、競技獎勵協會トモ謂フヘキ乎)主トナリ宣傳大ニ努メ、一九二六年ニハ「オリムピツク」馬術競技委員ヲ設ケ、一方騎手養成ニハ「ハノヅア」騎兵學校ニ其科ヲ設クル等處置適切ナルモノアリ

一、獨逸國防省ノ處置

「ハノヅア」騎兵學校ニ「オリムピツク」準備教育主任教官ヲ置キ、十二名ノ將校ニ對シ教育ト馬ノ調教ヲナサシム

## 二、獨逸馬事協會ノ事業

七一

- 1、伯林ニ於ケル春秋二期ノ大競技會ニ於テ「オリムピツク」豫選ノ著意ヲ以テ其競技ヲ行フ
- 2、オリムピツク派遣者及準備ニ對スル宣傳ヲ爲ス
- 3、「オリムピツク」馬術競技委員

委員ハ協會主トナリ編成セラレタルカ、良馬ノ購入、獨逸選手ノ他國競技會派遣、馬匹及騎手ノ能力増進ノ爲メ普ク寄附金ヲ募集セリ

右寄附金ニヨリ實行運動ハ著々實施セラレ成果ヲ揚ケシハ明瞭ナル事實ナリ

此寄附金ノ表ヲ見ルニ五馬克ノ少額ヨリ千馬克ニ及ヒ其額種々ニ互リ各方面ノ應援熾ナリシハ察スルニ難カラス

(ホ) 波 蘭

波蘭ハ既ニ一九二四年「オリムピツク」競技ニ於テ其力量ヲ世界ニ示シタリシカ、毎年佛國、白耳義等ノ競技會ニ選手ヲ派遣シ準備ヲ重ネ、特ニ同國騎兵學校ニハ國際準備科ヲ設ケ努力シツ、アリ

## 第五章 結 論

本回參加ノ結果ハ不成績ナリシト雖モ、準備ニ最善ノ努力ヲ拂ハ、各國ニ伍シテ輸贏ヲ争フニ十分ノ自信アリ、「オリムピツク」競技カ單ナル競技ニ非スシテ、中外ニ國力ヲ示スノ好機會ナルヲ知ラハ、將來一層有力ナル選手ノ派遣ヲ爲シ以テ國威ノ發揚ニ資スルコト肝要ナルヲ覺ユ

今準備ノ要項及將來ノ意見ヲ述ヘ本報告ヲ終ラントス

- 一、準備委員會ヲ設ケ參加準備業務ヲ統制スルコト
- 二、陸軍騎兵學校ニ選手養成班ヲ設ケ、專念調教ト教育ニ當ラシムルコト
- 三、陸軍當局、農林當局、文部當局及民間準備委員ハ和衷協力シ意志ノ疏通ヲ圖ルコト
- 四、馬ノ準備及騎手養成ハ別個トシ騎手ノ決定ト馬ノ配當トハ委員關係者ニ一任スルコト
- 五、努メテ競技會ヲ利用シ騎手ヲシテ競技ニ慣レシムルコト
- 六、綜合競技出場者及大障礙競技出場者ニハ競馬場障礙ノ大速度ニ於ケル飛越ト其鍛練法ヲ教育スルコト
- 七、選手タル者ノ體力、氣力ヲ旺盛ナラシムルコト
- 八、選手監督ヲ設ケ其命令ニハ絕對ニ服從セシムルコト
- 九、爲シ得レハ競技ニ最モ經驗アル獸醫ヲ伴フコト

(完)



昭和五年三月十日印刷  
昭和五年三月十五日發行

(非賣品)

東京市麴町區内山下町一ノ一東洋ビル

財團法人

日本國際馬術協會

東京市京橋區銀座西二ノ五

印刷者 森利

印刷所 森彩雲堂